

道東自動車道
占冠地区下部工工事

シム川橋（上り線）
下部工設計図

令和 7 年 3 月

東日本高速道路株式会社
北海道支社 帯広工事事務所

目 次

1. 数量総括表	1	18. A 1 橋台場所打ち杭配筋図	80
2. 全体一般図（その 1 ～ 5）	2 ～ 6	19. A 2 橋台場所打ち杭配筋図（その 1 ～ 2）	81 ～ 82
3. 下部工座標図	7	20. A 1 橋台裏込め工詳細図	83
4. A 1 橋台構造図（その 1 ～ 2）	8 ～ 9	21. A 2 橋台裏込め工詳細図	84
5. A 1 橋台配筋図（その 1 ～ 16）	10 ～ 25	22. A 1 橋台土留め工計画図（その 1 ～ 4）	85 ～ 88
6. P 1 橋脚構造一般図	26	23. P 1 橋脚土留め工計画図	89
7. P 1 橋脚配筋図（その 1 ～ 6）	27 ～ 32	24. P 2 橋脚土留め工計画図	90
8. P 2 橋脚構造一般図	33	25. P 3 橋脚土留め工計画図	91
9. P 2 橋脚配筋図（その 1 ～ 6）	34 ～ 39	26. P 4 橋脚土留め工計画図	92
10. P 3 橋脚構造一般図	40	27. P 5 橋脚土留め工計画図	93
11. P 3 橋脚配筋図（その 1 ～ 6）	41 ～ 46	28. A 2 橋台土留め工計画図（その 1 ～ 4）	94 ～ 97
12. P 4 橋脚構造一般図	47	29. はく落防止対策工詳細図	98
13. P 4 橋脚配筋図（その 1 ～ 6）	48 ～ 53		
14. P 5 橋脚構造一般図	54		
15. P 5 橋脚配筋図（その 1 ～ 6）	55 ～ 60		
16. A 2 橋台構造図（その 1 ～ 2）	61 ～ 62		
17. A 2 橋台配筋図（その 1 ～ 17）	63 ～ 79		

シム川橋（上り線）数量総括表

下部工施工

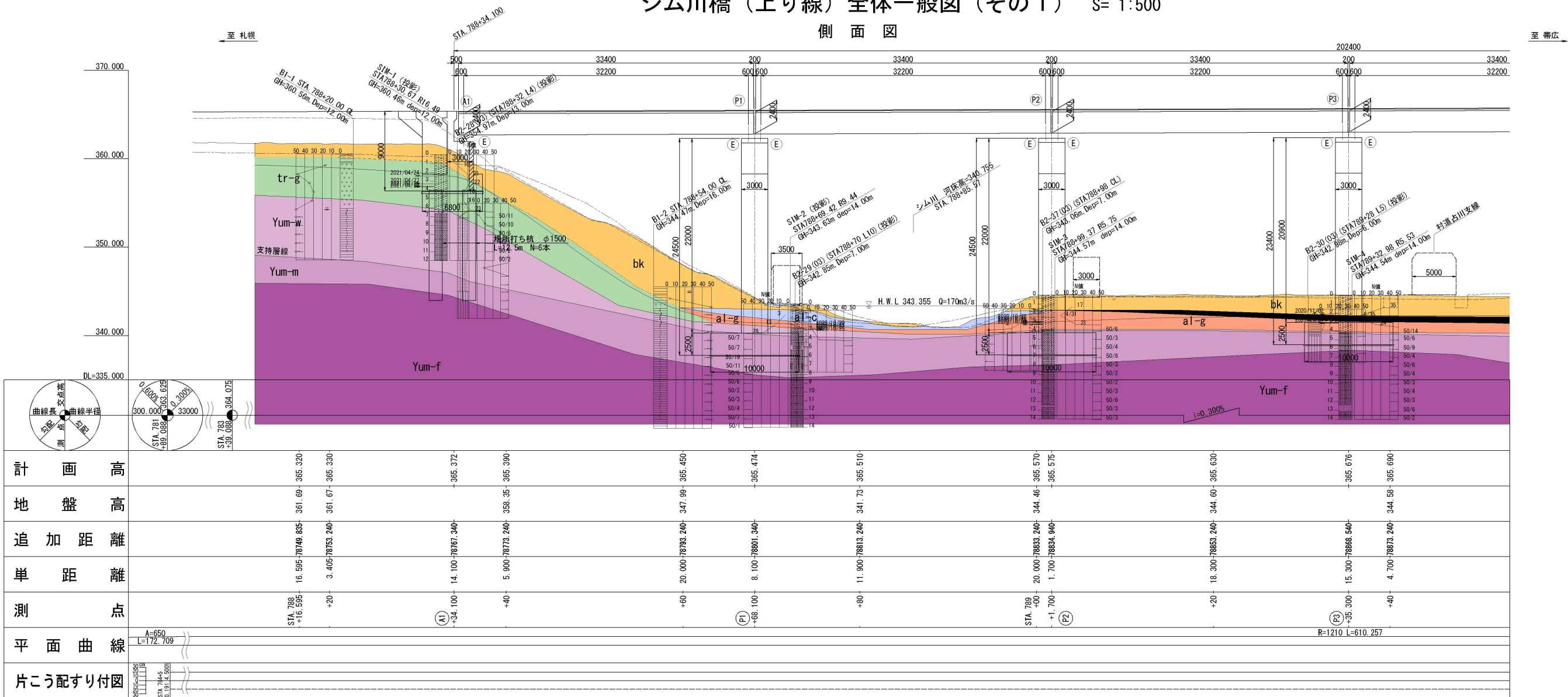
項 目	種 別		単位	シム川橋								摘 要	
				A 1 橋台	P 1 橋脚	P 2 橋脚	P 3 橋脚	P 4 橋脚	P 5 橋脚	A 2 橋台	合 計		
客土掘削	土砂 A 1		m3	103. 1	1,651. 0	847. 5	737. 7	729. 3	1,662. 9	38. 1	5,769. 6		
構造物掘削	特殊部	土砂	m3	895. 9	1,514. 0	680. 4	800. 3	891. 9	1,780. 5	1,014. 8	7,577. 8		
		軟岩	m3	－	469. 4	504. 5	254. 1	132. 6	195. 7	－	1,556. 3		
基礎材	B 1		m3	13. 3	－	－	－	－	－	20. 4	33. 7	再生碎石	
構造物裏込め工	裏込め工 A 1		m3	58. 6	－	－	－	－	－	19. 8	78. 4		
地下排水工	Du-P φ 0. 15-0. 50-0. 50		m	9. 8	－	－	－	－	－	9. 8	19. 6	※率計上	
基礎杭	場所打ちコンクリート杭	機械掘削、φ1500	m	75. 0	－	－	－	－	－	－	75. 0		
		機械掘削、φ1500（A）	m	－	－	－	－	－	－	166. 5	166. 5	σ ck=30N/mm2（呼び強度40N/mm2） 主筋SD490	
コンクリート	A 1－3		m3	181. 5	419. 6	419. 6	399. 8	401. 6	401. 6	153. 8	2,377. 5	躯体 σ ck=30N/mm2	
	B 2－1		m3	138. 5	250. 0	250. 0	250. 0	225. 6	225. 6	－	1,339. 7	σ ck=24N/mm2 フーチング	
	B 2－1（A）		m3	－	－	－	－	－	－	338. 6	338. 6	σ ck=30N/mm2 フーチング	
	D 1－1		m3	6. 8	10. 4	10. 4	10. 4	9. 4	9. 4	10. 3	67. 1	σ ck=18N/mm2 均しコンク リート	
型わく	C		m2	361. 5	514. 2	514. 2	494. 4	491. 2	491. 2	421. 3	3,288. 0		
	D		m2	4. 1	4. 1	4. 1	4. 1	3. 9	3. 9	4. 7	28. 9		
鉄 筋	躯体	A	D13	t	0. 021	－	－	－	－	－	0. 021	0. 042	SD345（重ね継手）
			D16～D25	t	6. 079	11. 736	10. 634	10. 468	10. 339	11. 443	8. 960	69. 659	
			D29～D32	t	2. 292	1. 778	4. 028	4. 279	3. 840	1. 590	9. 252	27. 059	
			D35	t	3. 150	－	－	－	－	－	1. 028	4. 178	
			D38	t	－	6. 518	6. 518	6. 518	6. 034	6. 034	－	31. 622	
			D51	t	1. 401	－	－	－	－	－	1. 401	2. 802	
			小計	t	12. 943	20. 032	21. 180	21. 265	20. 213	19. 067	20. 662	135. 362	
		A（E）	D13	t	0. 325	－	－	－	－	－	0. 394	0. 719	SD345（重ね継手） エポキシ樹脂鉄筋
			D16～D25	t	4. 489	－	－	－	－	－	4. 369	8. 858	
			D29～D32	t	1. 088	－	－	－	－	－	－	1. 088	
			小計	t	5. 902	－	－	－	－	－	4. 763	10. 665	
		B	D16～D25	t	－	－	－	－	－	－	－	－	SD345（機械継手）
			D29～D32	t	－	2. 438〔34〕	2. 438〔34〕	2. 438〔34〕	2. 353〔34〕	2. 353〔34〕	－	12. 020〔170〕	
			D35	t	－	－	－	－	－	－	－	－	
			D38	t	－	8. 058〔64〕	8. 058〔64〕	8. 058〔64〕	7. 290〔60〕	7. 290〔60〕	－	38. 754〔312〕	
			D51	t	－	－	－	－	－	－	－	－	
			小計	t	－	10. 496〔98〕	10. 496〔98〕	10. 496〔98〕	9. 643〔94〕	9. 643〔94〕	－	50. 774〔482〕	
		C	D16～D25	t	0. 177〔62〕	11. 023〔1,990〕	11. 041〔1,994〕	10. 497〔1,888〕	10. 411〔1,886〕	10. 393〔1,882〕	4. 429〔381〕	57. 971〔10,083〕	SD345（機械式鉄筋定着）
			小計	t	0. 177〔62〕	11. 023〔1,990〕	11. 041〔1,994〕	10. 497〔1,888〕	10. 411〔1,886〕	10. 393〔1,882〕	4. 429〔381〕	57. 971〔10,083〕	
		C（E）	D16～D25	t	1. 125〔277〕	－	－	－	－	－	0. 861〔259〕	1. 986〔536〕	SD345（重ね継手） エポキシ樹脂鉄筋
			小計	t	1. 125〔277〕	－	－	－	－	－	0. 861〔259〕	1. 986〔536〕	
		B（H）	D29～D32	t	－	－	－	－	－	－	－	－	SD490（機械継手）
			D51	t	－	57. 631〔296〕	57. 631〔296〕	55. 062〔204〕	55. 300〔204〕	55. 300〔204〕	－	280. 924〔1204〕	
			小計	t	－	57. 631〔296〕	57. 631〔296〕	55. 062〔204〕	55. 300〔204〕	55. 300〔204〕	－	280. 924〔1204〕	
	場所打ち杭	A	D16～D25	t	0. 660	－	－	－	－	－	4. 770	5. 430	SD345（重ね継手）
			小計	t	0. 660	－	－	－	－	－	4. 770	5. 430	
		Y	D13	t	0. 150	－	－	－	－	－	0. 243	0. 393	
			D16～D25	t	5. 418	－	－	－	－	－	30. 087	35. 505	
			D29～D32	t	10. 164	－	－	－	－	－	－	10. 164	
			D35	t	－	－	－	－	－	－	－	－	
			小計	t	15. 732	－	－	－	－	－	30. 330	46. 062	
		Y（H）	D35	t	－	－	－	－	－	－	78. 390	78. 390	SD490（重ね継手）
			小計	t	－	－	－	－	－	－	78. 390	78. 390	
		A		m2	－	158. 1	134. 7	－	－	－	－	292. 8	

はく落防止対策工	A		m2	－	158. 1	134. 7	－	－	－	－	292. 8	
----------	---	--	----	---	--------	--------	---	---	---	---	--------	--

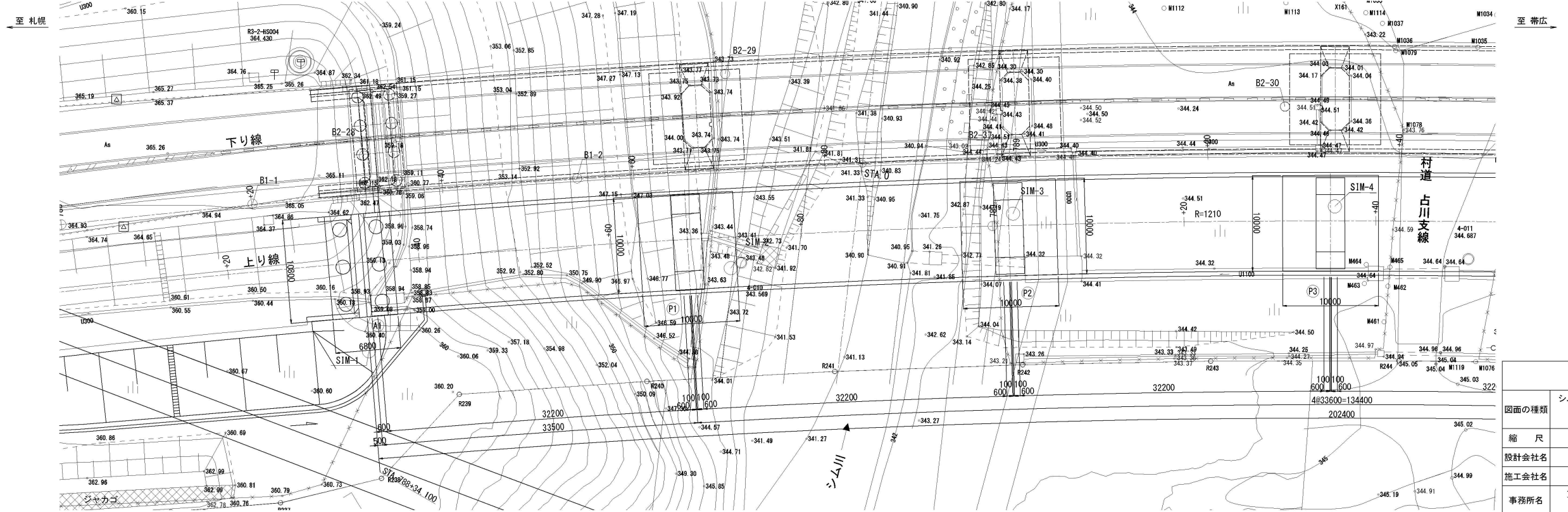
注1)〔 〕内は鉄筋の機械継手箇所数を示す。
注2)（ ）内は機械式鉄筋定着工法箇所数を示す。

道東自動車道 占冠地区下部工工事			
図面の種類	シム川橋（上り線） 数量総括表		
	縮 尺	図 示	図面番号
設計会社名	株式会社 日本構造橋梁研究所		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 北海道支社 帯広工事事務所		

側面図

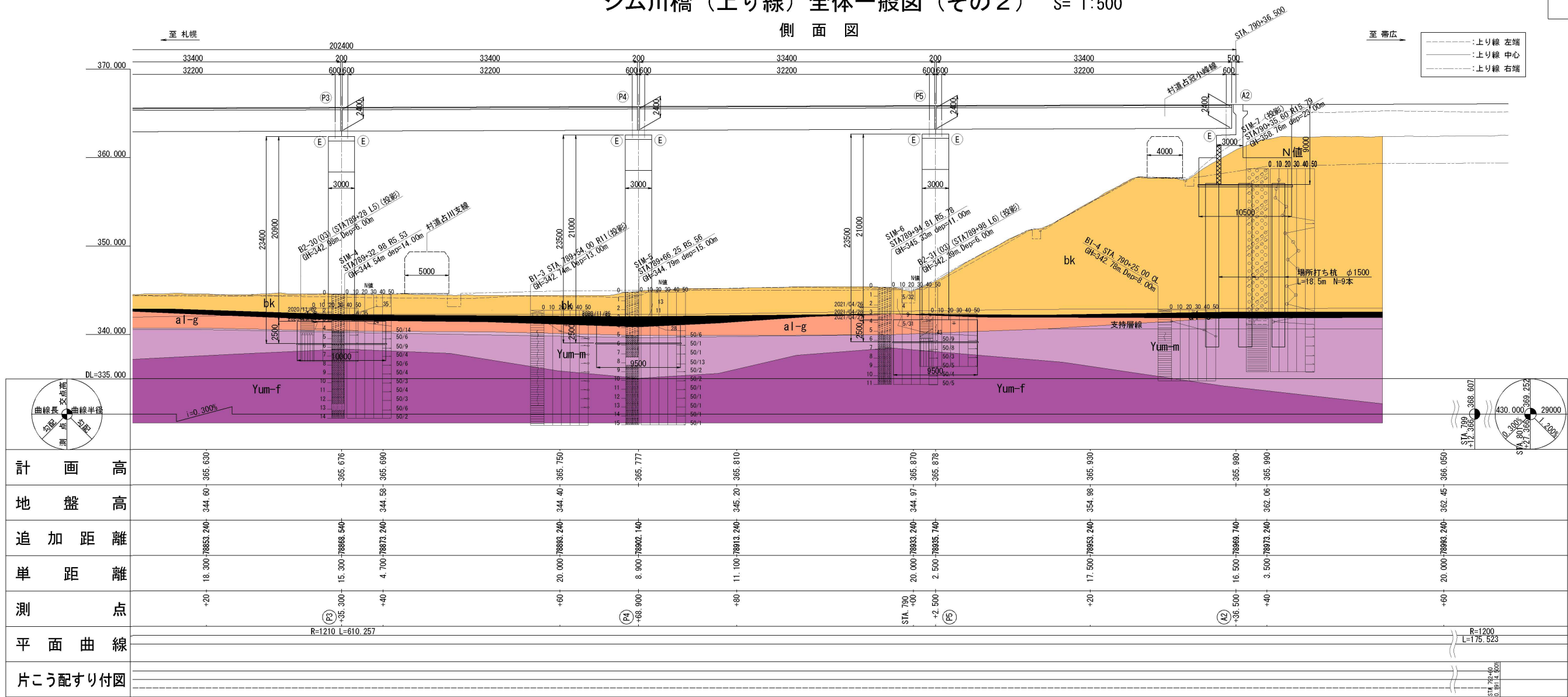


平面図

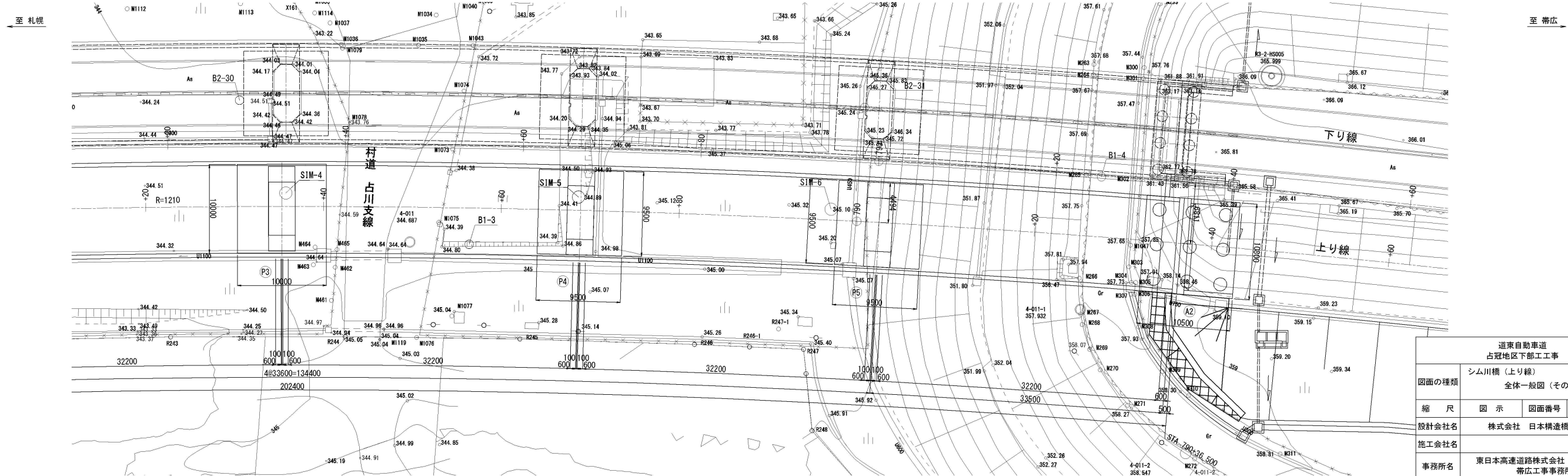


シム川橋（上り線）全体一般図（その2） S= 1:500

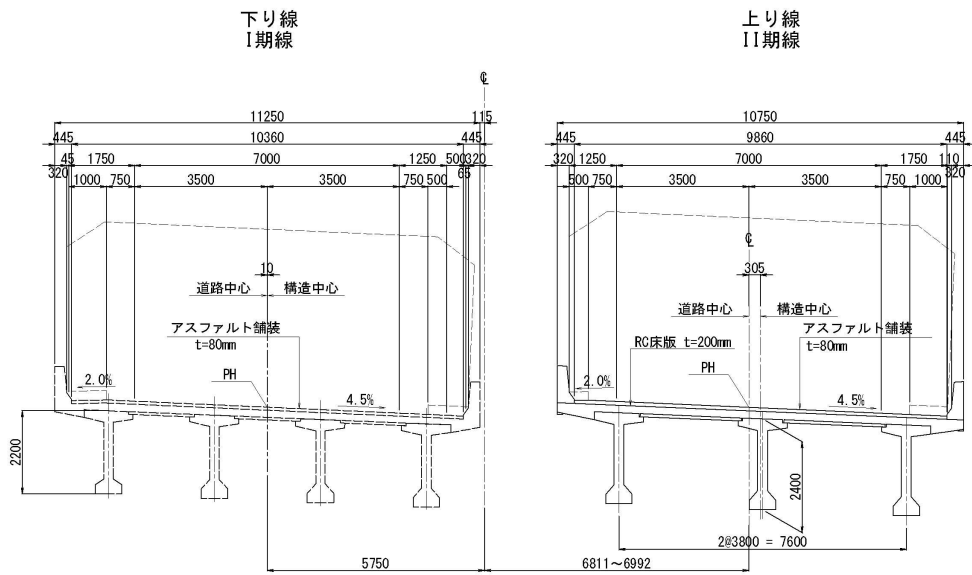
側面図



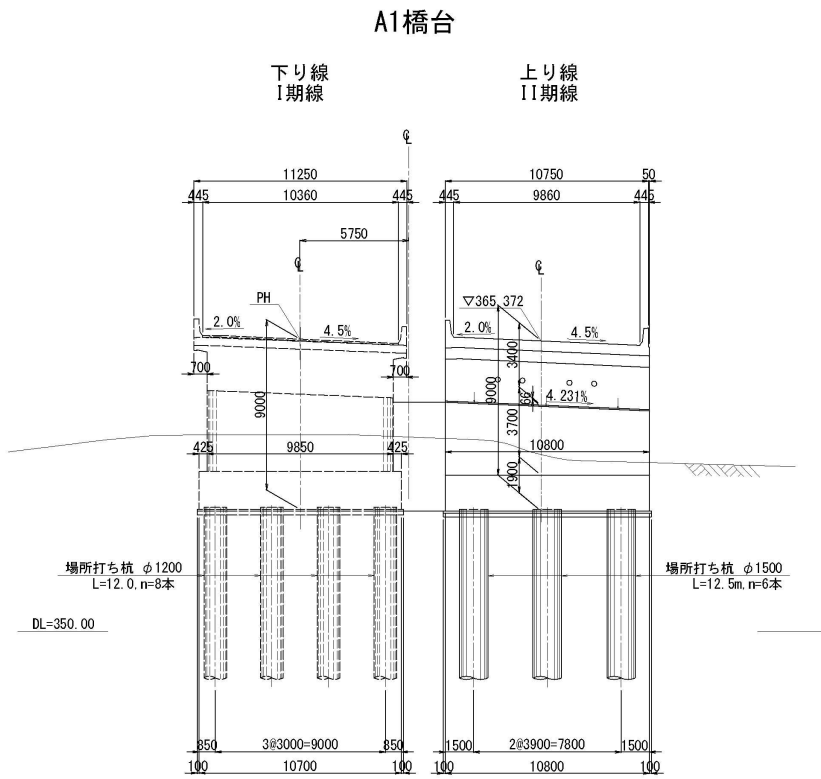
平面図



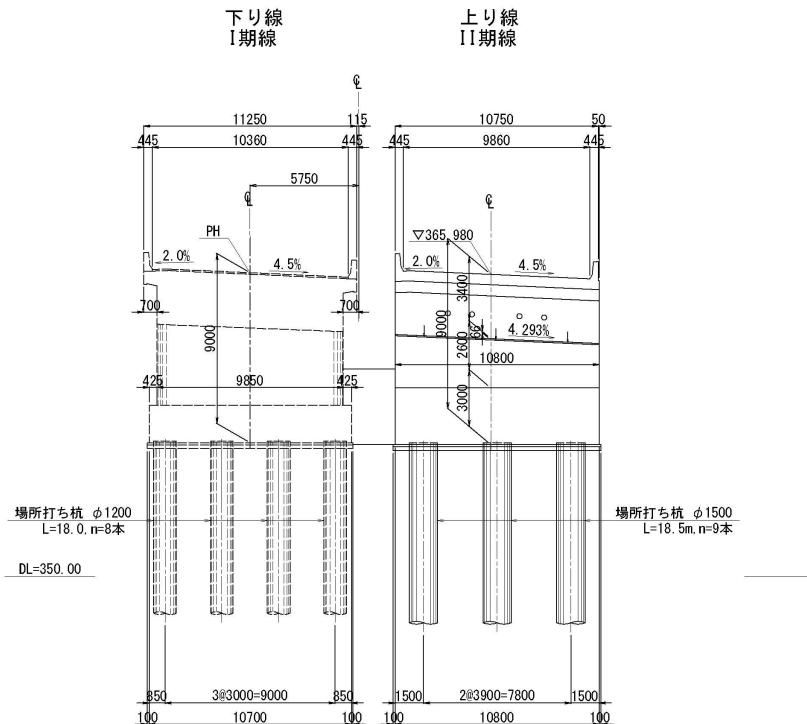
上部工標準断面図 S=1/200



下部工正面図 S=1/400



A2橋台

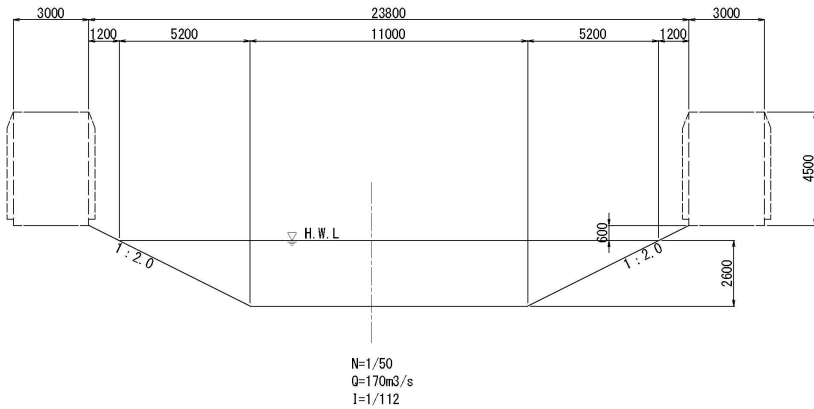


設計条件

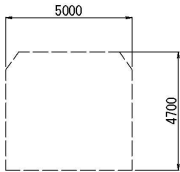
橋長	202.400 m	桁長	6@33.400 m
道路規格	第1種 2級 B規格 設計速度 V =100 km/h		
活荷重	B活荷重		
支間割	6@32.200m		
有効幅員	9.860 m		
斜角	A1 90° 00' 00" A2 90° 00' 00"		
平面線形	R= 1210 m		
横断勾配	4.500%		
縦断勾配	0.300%		
設計水平震度	Ⅱ種地盤 kh = Cz・kho = 0.85 × 0.25 = 0.21		
構造形式	上部構造 : PC6径間連結合成桁		
	下部構造 : 逆T式橋台 (A1, A2橋台), 柱式橋脚 (P1~P5橋脚)		
	基礎構造 : A1, A2橋台 オールケーシング工法場所打ち杭φ1500 P1~P5橋脚 直接基礎		
支持層	A1, A2橋台 : 上部蝦夷層群 (Yum-m) N値 372		
支承構造	免震支承 (免震構造)		
架設工法	架設桁架設工法		
材 料	上 部 工	コンクリート	σck= 50 N/mm2 (主桁, PC板)
			σck= 36 N/mm2 (横桁)
			σck= 30 N/mm2 (床版, 壁高欄)
	P C 鋼 材	鉄 筋	SWPR7BN 12S15.2 (縦締めケーブル) (EGF鋼材)
			SWPR19L 1S28.6 (横締めケーブル) (プレート鋼材)
	下 部 工 基 礎 工	コンクリート	σck= 30 N/mm2 [躯体]
			σck= 24 N/mm2 [床版]
適用方書		鉄 筋	SD345, SD490 (普通鉄筋, エポキシ樹脂塗装鉄筋)

交差条件 S=1/300

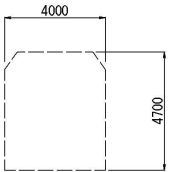
一級河川 シム川



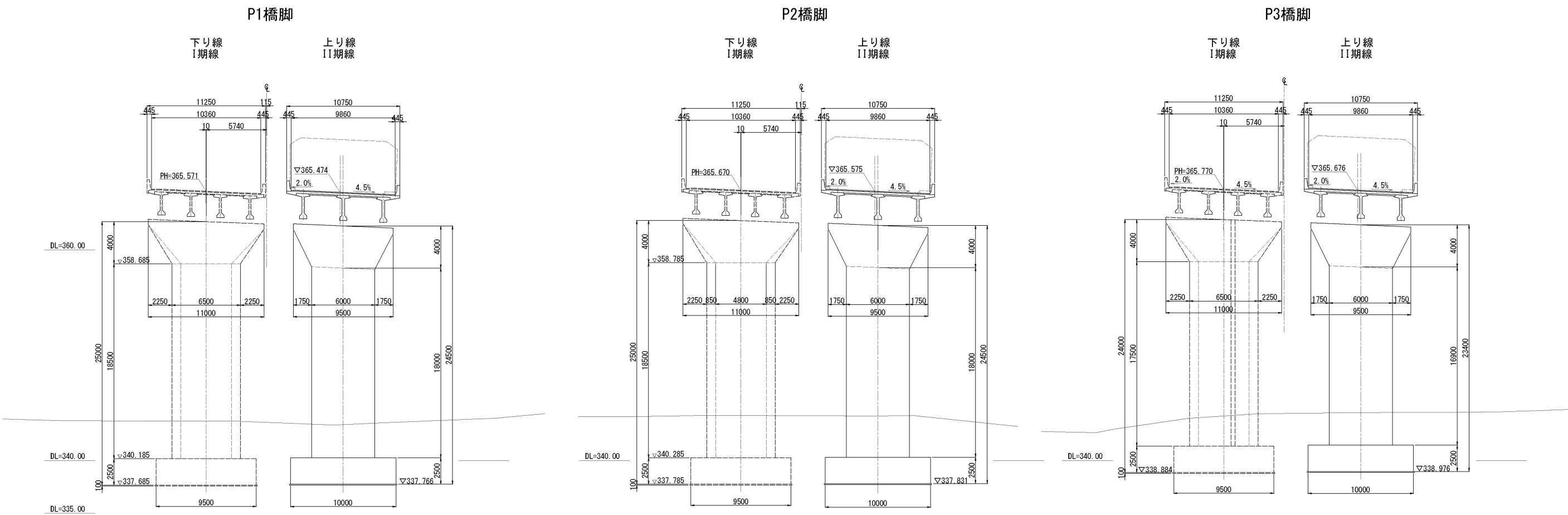
村道占川支線



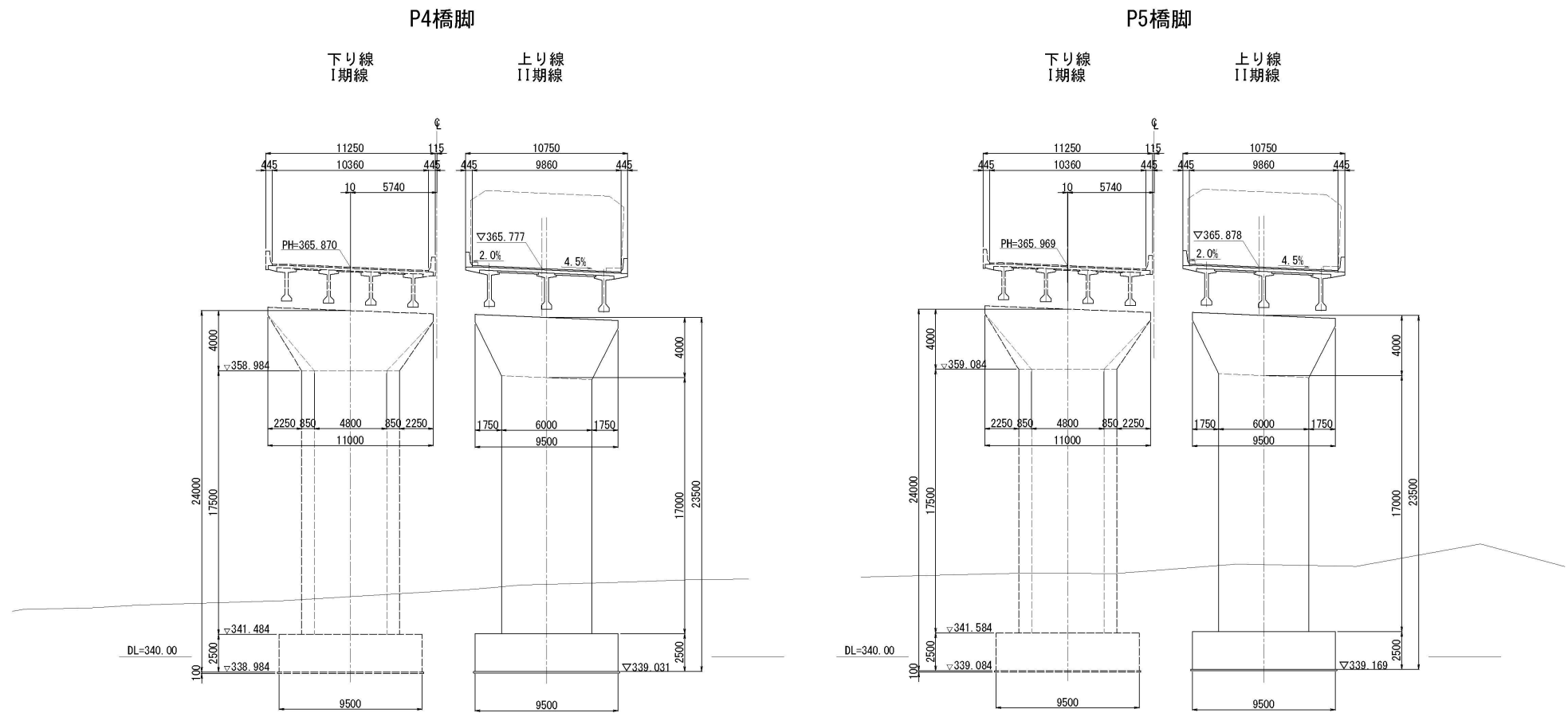
村道占冠小峰線



道東自動車道 占冠地区下部工工事			
図面の種類	シム川橋（上り線） 全体一般図（その3）		
縮 尺	図 示	図面番号	-
設計会社名	株式会社 日本構造橋梁研究所		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 北海道支社 帯広工事事務所		



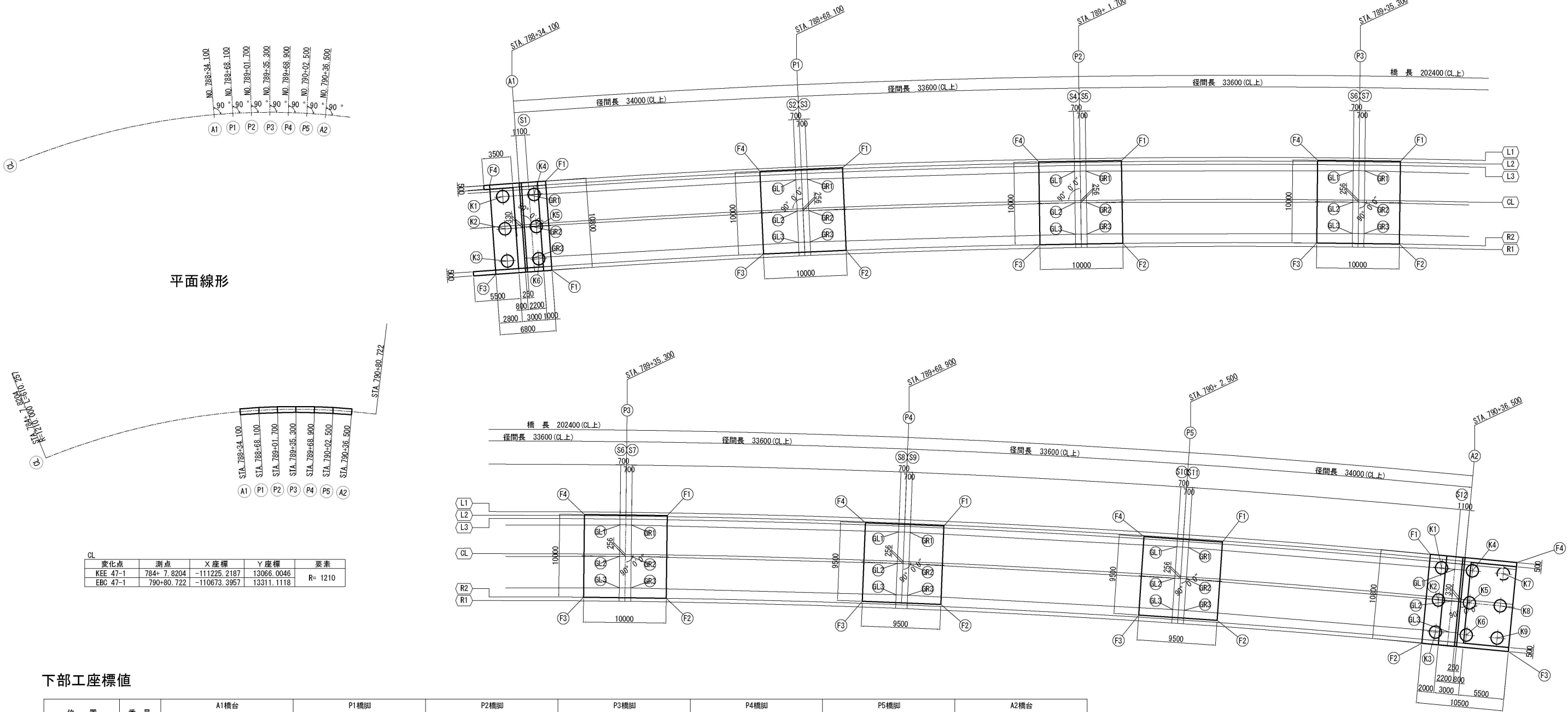
道東自動車道 占冠地区下部工工事			
図面の種類	シム川橋（上り線） 全体一般図（その４）		
縮尺	図示	図面番号	-
設計会社名	株式会社 日本構造橋梁研究所		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 北海道支社 帯広工事事務所		



道東自動車道 占冠地区下部工工事			
図面の種類	シム川橋（上り線） 全体一般図（その5）		
縮 尺	図 示	図面番号	-
設計会社名	株式会社 日本構造橋梁研究所		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 北海道支社 帯広工事事務所		

アバット・ピア設定方法

平面図

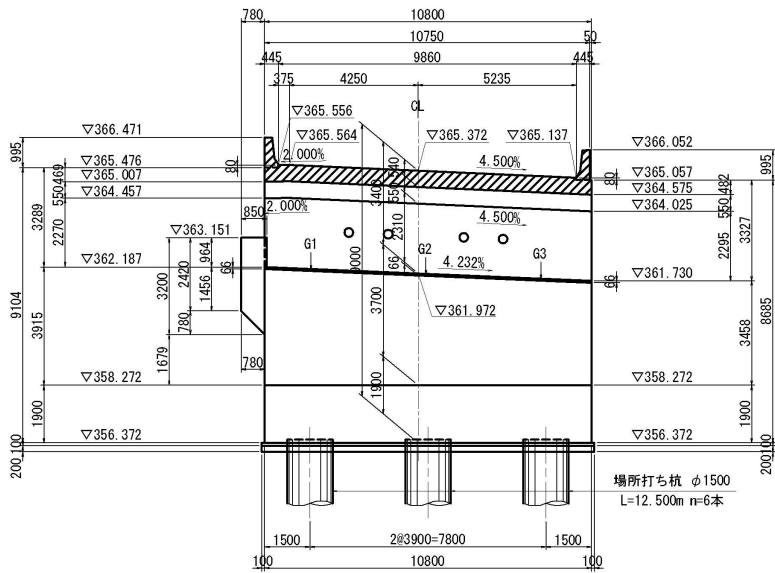


下部工座標値

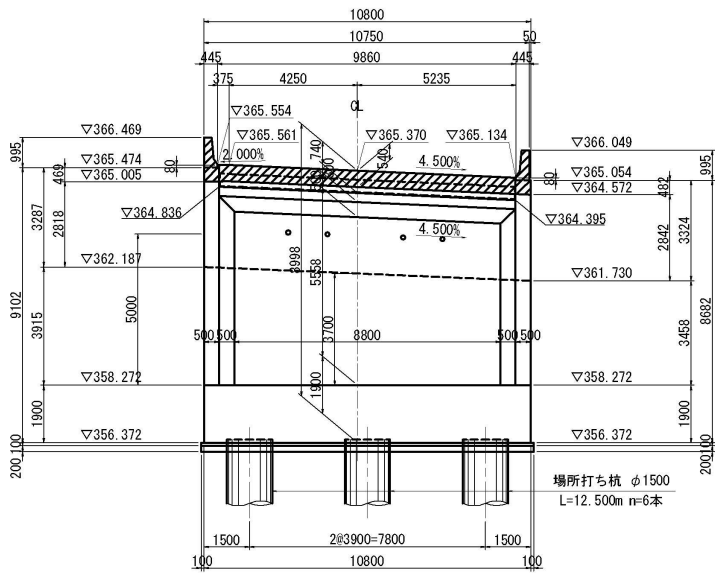
位置	番号	A1橋台		P1橋脚		P2橋脚		P3橋脚		P4橋脚		P5橋脚		A2橋台	
		X	Y	X	Y	X	Y	X	Y	X	Y	X	Y	X	Y
道路中心	CL	-110890.8986	13178.6168	-110850.7481	13194.3289	-110821.3976	13210.6823	-110792.5124	13227.8444	-110764.1149	13245.8018	-110736.2270	13264.5408	-110708.5476	13284.2836
	GL	-	-	-110849.6824	13190.8772	-110820.2364	13207.2615	-110791.2567	13224.4571	-110762.7656	13242.4507	-110734.7851	13261.2284	-110707.3390	13280.7808
	GL2	-	-	-110851.4858	13194.2224	-110822.1320	13210.5553	-110793.2431	13227.6970	-110764.8412	13245.6342	-110736.9483	13264.3530	-110709.5891	13283.8435
	GL3	-	-	-110853.2893	13197.5676	-110824.0277	13213.8491	-110795.2294	13230.9369	-110766.9168	13248.8177	-110739.1115	13267.4777	-110711.8392	13286.9062
	GR1	-110878.3252	13175.9508	-110848.4501	13191.5414	-110819.0231	13207.9597	-110790.0633	13225.1887	-110761.5930	13243.2152	-110733.6342	13262.0253	-	-
支承位置	GR2	-110880.0340	13179.3453	-110850.2536	13194.8866	-110820.9188	13211.2535	-110792.0497	13228.4287	-110763.6685	13246.3987	-110735.7974	13265.1499	-	-
	GR3	-110881.7427	13182.7399	-110852.0571	13198.2318	-110822.8144	13214.5474	-110794.0360	13231.6686	-110765.7441	13249.5822	-110737.9605	13268.2746	-	-
	F1	-110875.7607	13175.5270	-110844.0957	13192.5258	-110814.6977	13209.0647	-110785.7702	13226.4134	-110757.6815	13244.6314	-110729.7635	13263.5495	-110708.9306	13277.7110
	F2	-110880.6167	13185.1737	-110848.8412	13201.3281	-110819.6857	13217.7318	-110790.9970	13234.9387	-110762.8699	13252.5895	-110735.1709	13271.3604	-110715.3249	13286.4146
	F3	-110886.6906	13182.1162	-110857.6435	13196.5826	-110828.3529	13212.7437	-110799.5223	13229.7119	-110770.8280	13247.4011	-110742.9818	13265.9530	-110706.8631	13292.6313
底版	F4	-110881.8345	13172.4695	-110852.8980	13187.7803	-110823.3648	13204.0766	-110794.2955	13221.1866	-110765.6396	13239.4430	-110737.5745	13258.1421	-110700.4688	13283.9278
	K1	-110881.1692	13174.4838	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-110708.6098	13279.8080
	K2	-110882.9227	13177.9673	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-110710.9189	13282.9509
	K3	-110884.6763	13181.4508	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-110713.2280	13286.0939
	K4	-110877.7750	13176.1924	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-110705.5878	13282.0282
杭	K5	-110879.5285	13179.6759	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-110707.8968	13285.1712
	K6	-110881.2821	13183.1594	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-110710.2059	13288.3141
	K7	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-110702.5657	13284.2485
	K8	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-110704.8748	13287.3915
	K9	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-110707.1838	13290.5344

道東自動車道 占冠地区下部工工事			
図面の種類	シム川橋（上り線） 下部工座標図		
	縮尺	図示	図面番号
設計会社名	株式会社 日本構造橋梁研究所		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 北海道支社 帯広工事事務所		

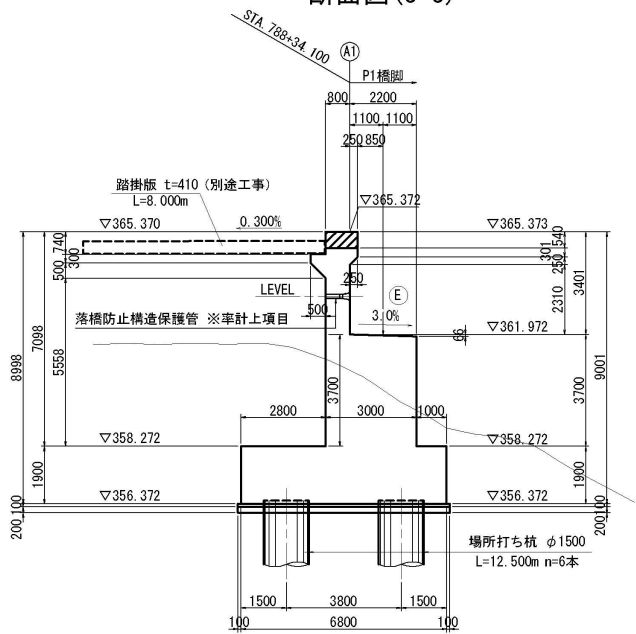
正面図(1-1)



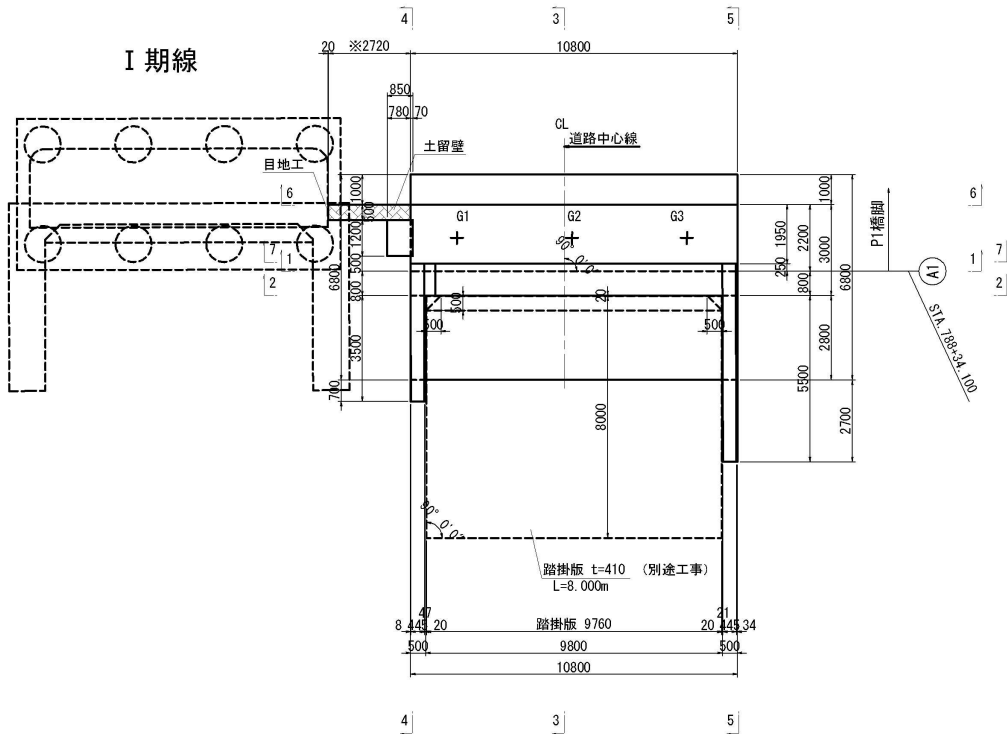
背面図(2-2)



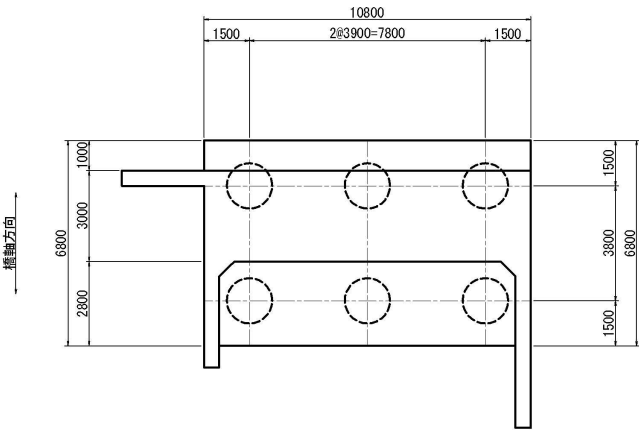
断面図(3-3)



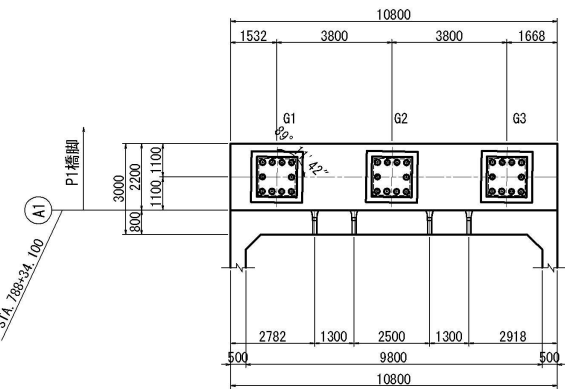
平面図




杭配置図



支承配置図



注)  : 上部工施工

数量表

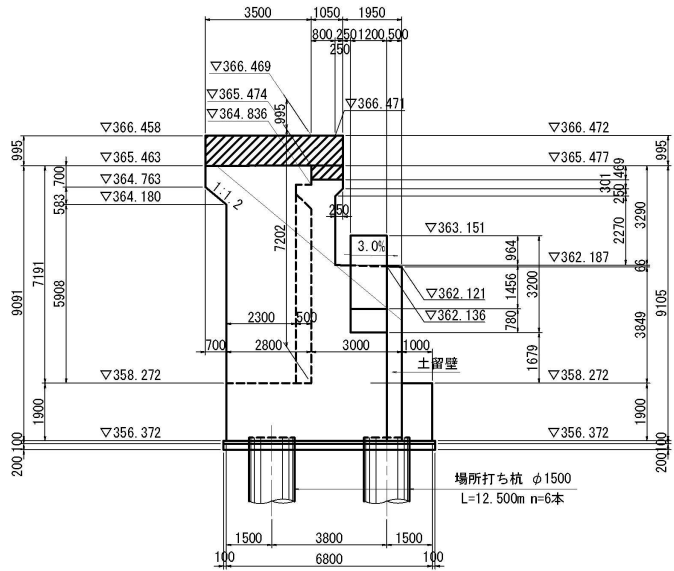
項目	規格・寸法	単位	数量	摘要
構造物掘削	特殊部 A 1	m3	895.9	土砂

材料表

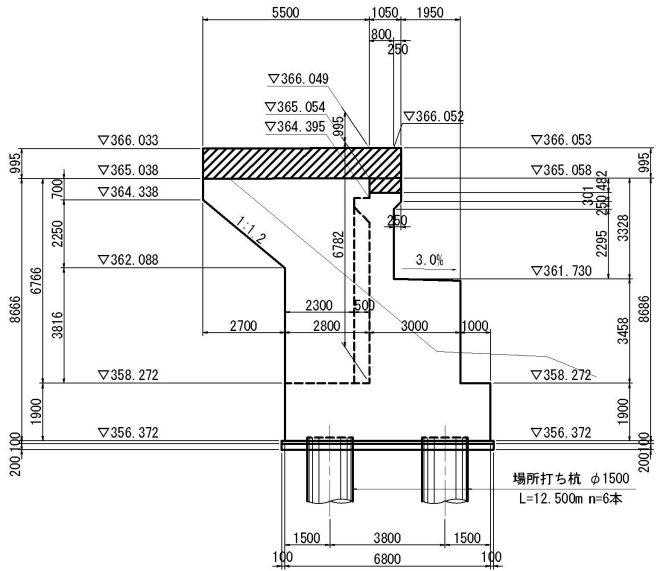
	コンクリート	鉄筋
躯体・ウイング	$\sigma_{ck}=30\text{N/mm}^2$	SD345
フーチング	$\sigma_{ck}=24\text{N/mm}^2$	SD345
場所打ち杭	$\sigma_{ck}=24\text{N/mm}^2$ (呼び強度30N/mm ²)	SD345

道東自動車道 占冠地区下部工工事			
図面の種類	シム川橋（上り線） A 1 橋台構造図（その 1）		
縮尺	図示	図面番号	-
設計会社名	株式会社 日本構造橋梁研究所		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 北海道支社 帯広工事事務所		

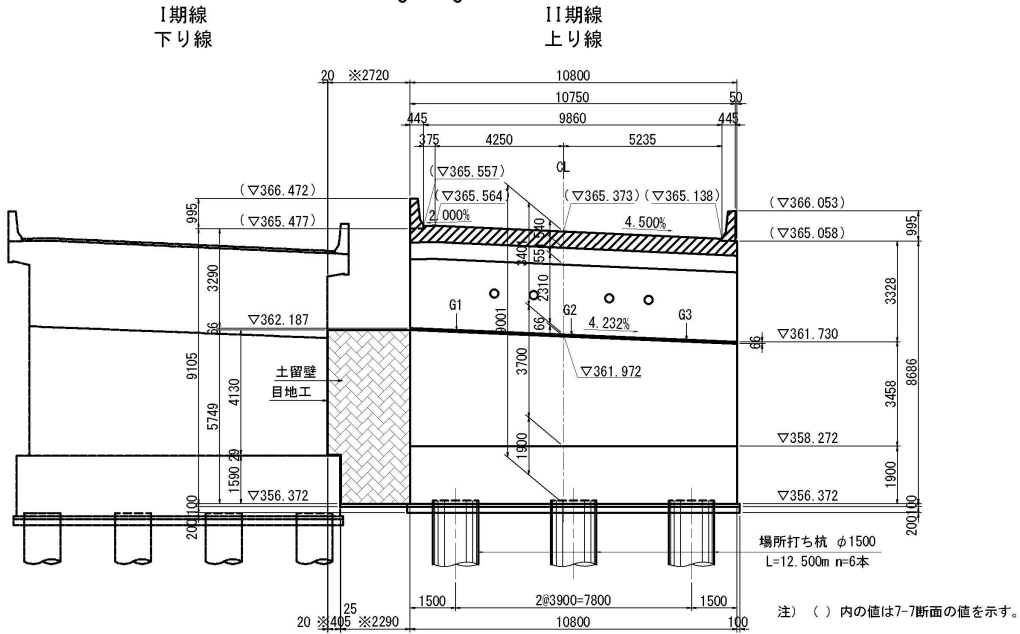
4 - 4



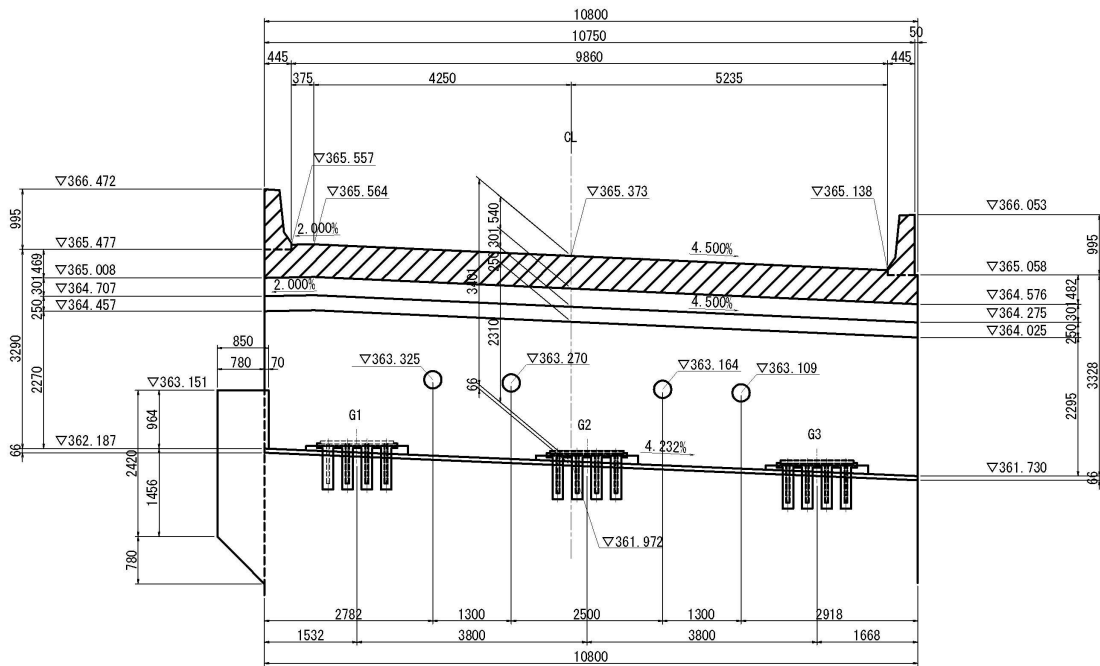
5 - 5



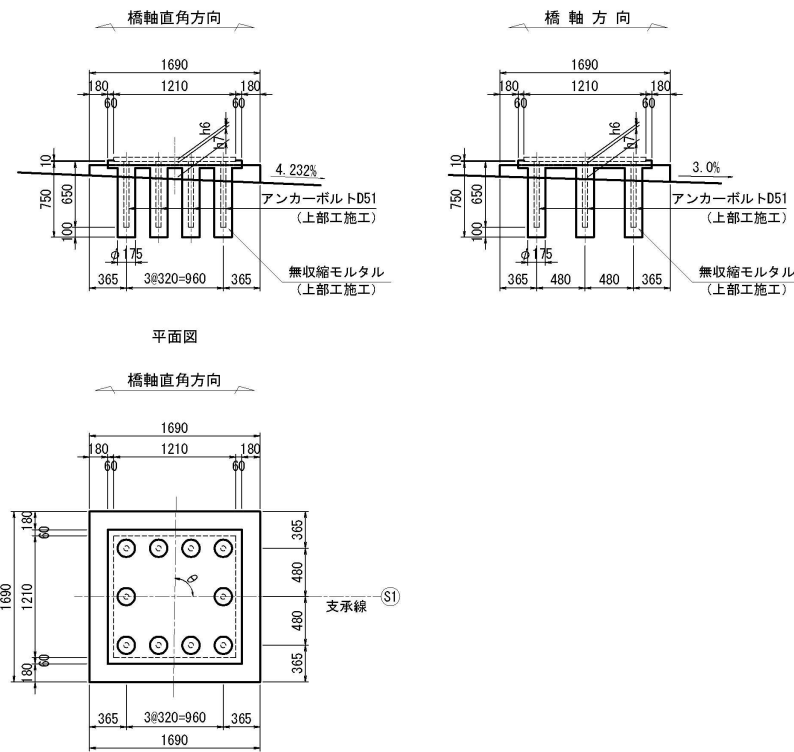
6 - 6



パラペット前面図(7-7) S=1:125
(伸縮装置受台先端)



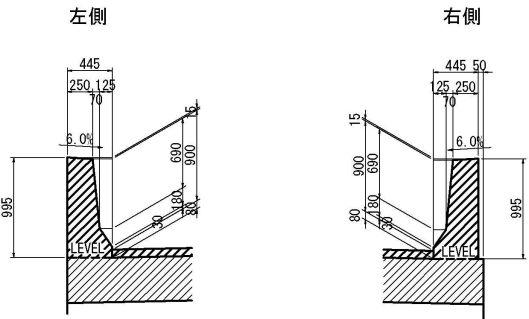
支承詳細図 S=1:75



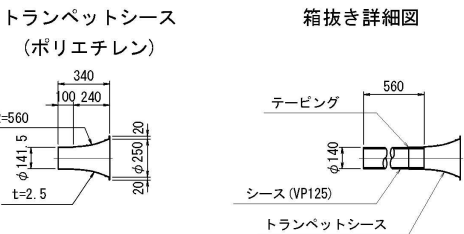
数量表

項目	規格・寸法	単位	数量	摘要
目地工		m2	2.4	土留め壁

壁高欄詳細図 S=1:75



落橋防止構造保護管（上部工施工）
S=1:50



※トランペットシーはコンクリート打設前にセットする。

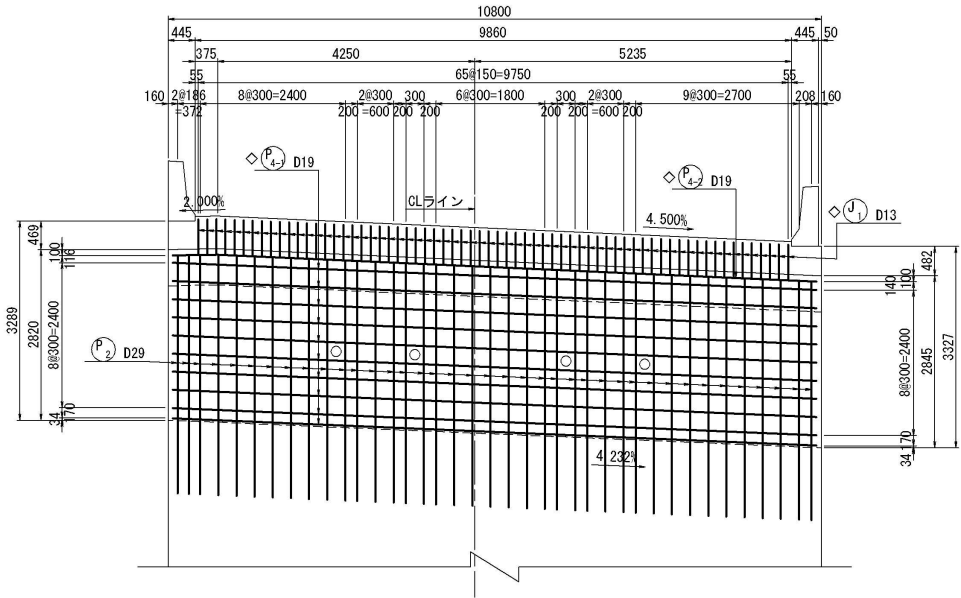
構造高表

		S1 (A1 支承横断ライン)			
		G1	G2	G3	PH
計画高	PH1	365.535	365.364	365.193	365.376
舗装厚	h1	0.108	0.098	0.087	
床版厚	h2	0.200	0.200	0.200	
桁高	h3	2.400	2.400	2.400	
レアー厚	h4	0.040	0.040	0.040	
支承高	h5	0.525	0.525	0.525	
小計	Σh1	3.273	3.263	3.252	
モルタル天端高	PH2	362.262	362.101	361.941	
モルタル厚	h6	0.033	0.033	0.033	
台座コンクリート	h7	0.140	0.140	0.140	
下部工天端高	PH3	362.089	361.928	361.768	361.939
支承セット方向	θ	89° 11' 42"			

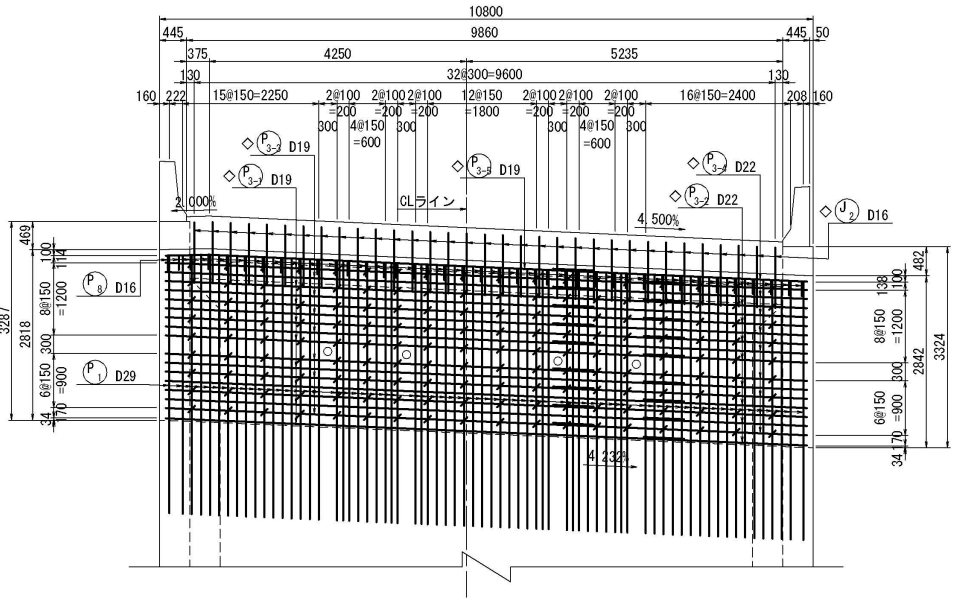
注) 斜線 : 上部工施工

道東自動車道 占冠地区下部工工事			
図面の種類	シム川橋（上り線） A 1 橋台構造図（その2）		
縮尺	図示	図面番号	-
設計会社名	株式会社 日本橋造橋梁研究所		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 北海道支社 帯広工事事務所		

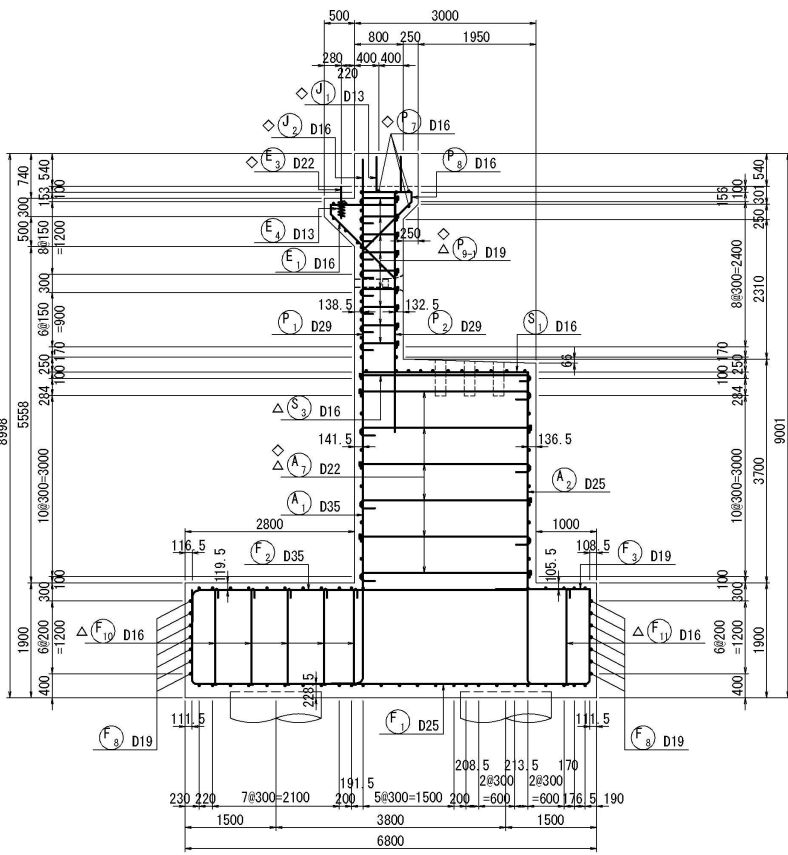
パラペット正面図
2 - 2



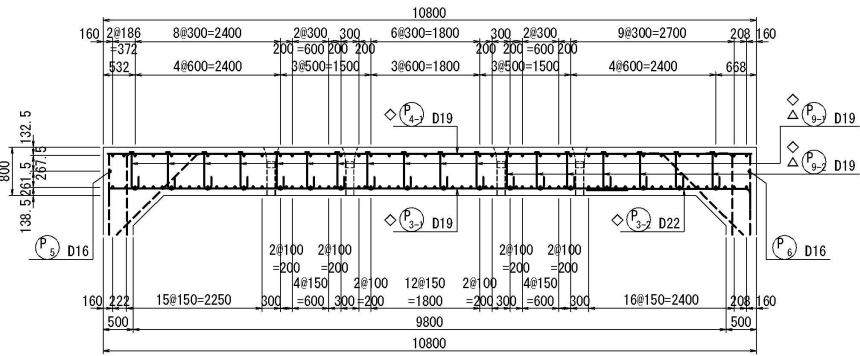
パラペット背面図
3 - 3



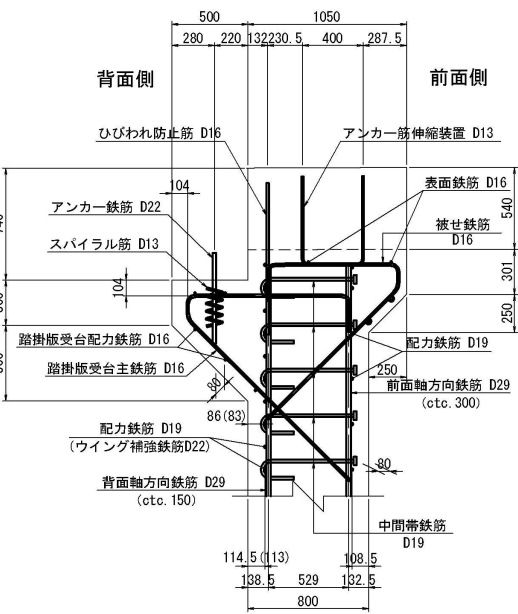
側面図
1 - 1



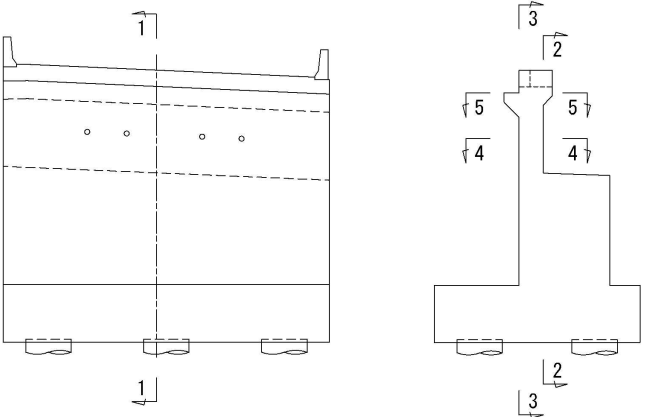
パラペット平面図
4 - 4



パラペットかぶり詳細図 S=1 : 50



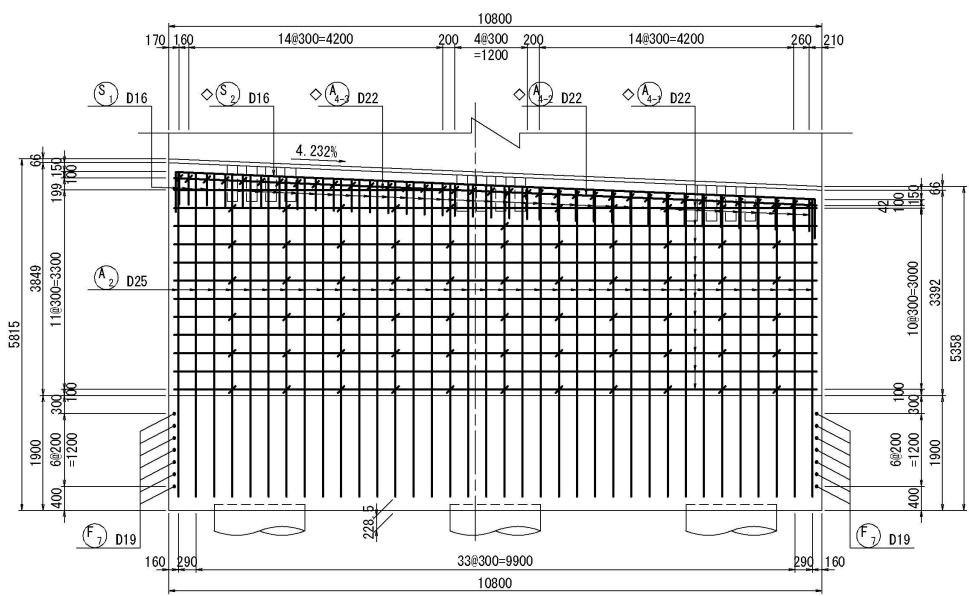
位置図



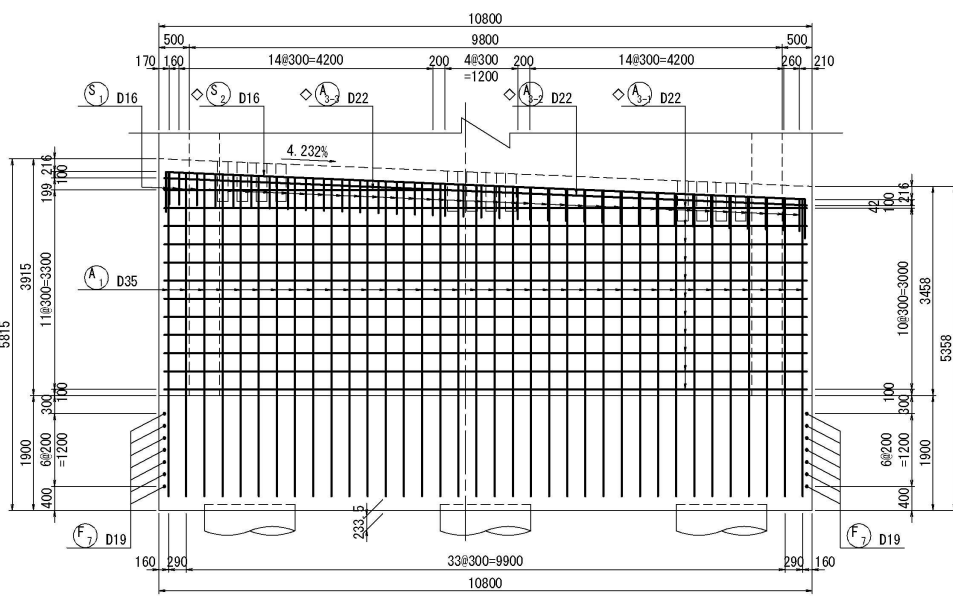
注1) △印表記は機械式鉄筋定着工法を示すものであり、下記の基準等を満足すること。
1. 道路橋示方書-同解説 (H29. 11 日本道路協会)
2. 機械式鉄筋定着工法の配筋設計ガイドライン (H28. 7 機械式定着工法技術検討委員会)
なお、定着体の設置方向は、施工条件に応じて定着体と半円形フックの設置方向を変更してもよい。
注2) 機械式定着鉄筋は、被拘束鉄筋に接触するように配置すること。
機械式定着鉄筋は、主鉄筋に可能な限り近づけること。
注3) T印は機械式鉄筋定着工法の定着体を表す。
注4) ◇鉄筋は防錆処理鉄筋を表す。
注5) ○鉄筋は上部工施工鉄筋を表す。
注6) 鉄筋長は切り上げの10mm丸めとする。

道東自動車道 占冠地区下部工工事			
図面の種類	シム川橋（上り線） A 1 橋台配筋図（その 1）		
縮 尺	図 示	図面番号	-
設計会社名	株式会社 日本橋造橋梁研究所		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 北海道支社 帯広工事事務所		

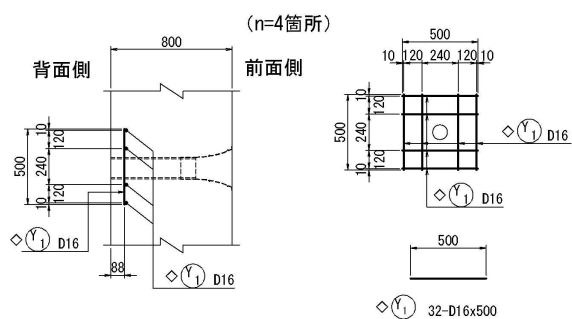
縦壁正面図
1 - 1



縦壁背面図
2 - 2

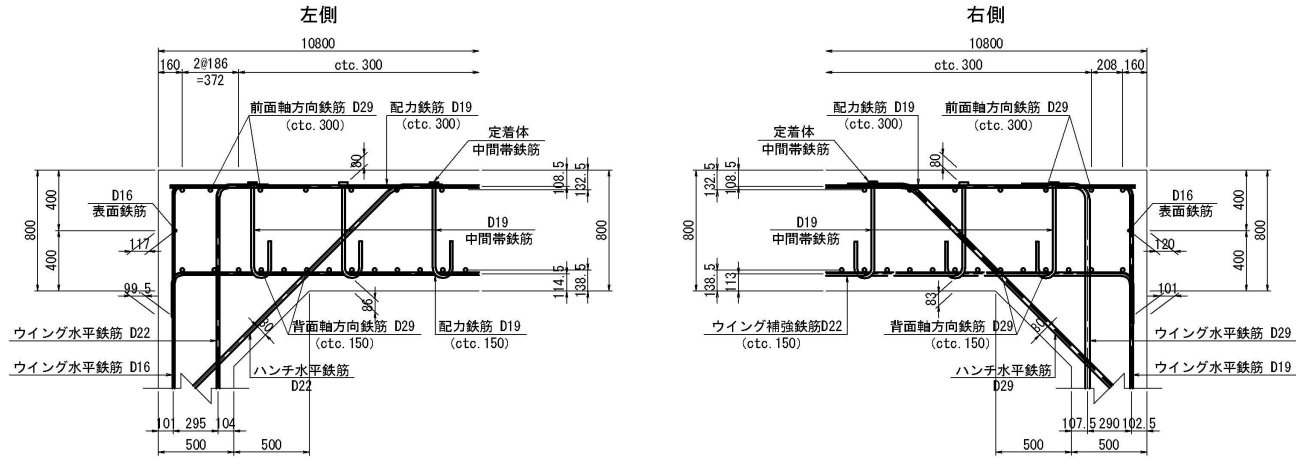


落橋防止構造用心鉄筋 S=1:50

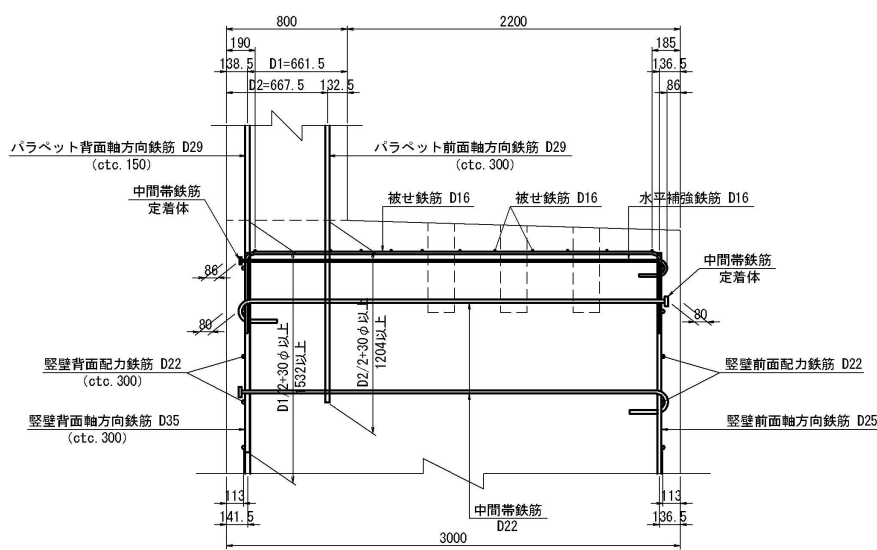


注) 用心鉄筋はコンクリート打設前にセットする。

パラペット端部かぶり詳細図 S=1:50



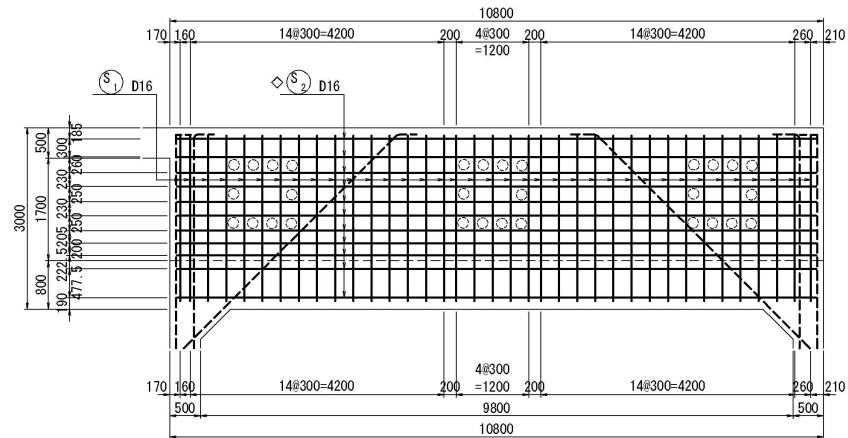
橋座かぶり詳細図 S=1:50



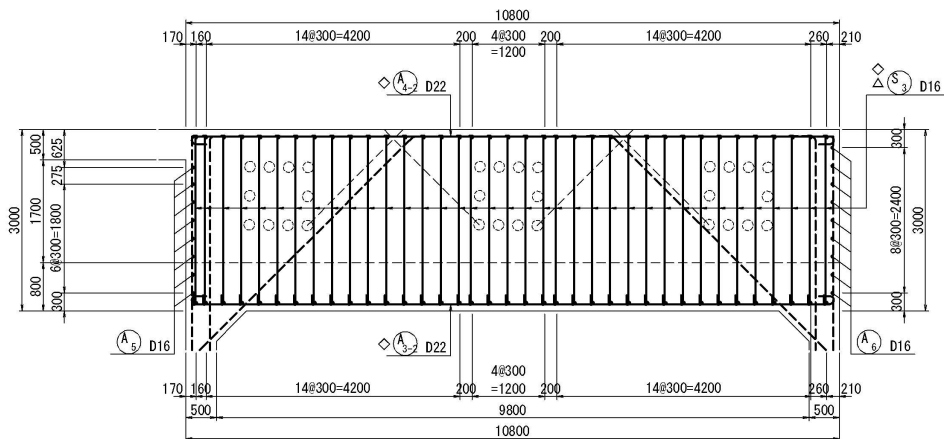
- 注1) △印表記は機械式鉄筋定着工法を示すものであり、下記の基準等を満足すること。
1. 道路橋示方書-同解説 (H29. 11 日本道路協会)
 2. 機械式鉄筋定着工法の配筋設計ガイドライン (H28. 7 機械式定着工法技術検討委員会)
- なお、定着体の設置方向は、施工条件に応じて定着体と半円形フックの設置方向を変更してもよい。
- 注2) 機械式定着鉄筋は、被拘束鉄筋に接触するように配置すること。機械式定着鉄筋は、主鉄筋に可能な限り近づけること。
- 注3) T印は機械式鉄筋定着工法の定着体を表す。
- 注4) ◇鉄筋は防錆処理鉄筋を表す。
- 注5) ○鉄筋は上部工施工鉄筋を表す。
- 注6) 鉄筋長は切り上げの10mm丸めとする。

道東自動車道 占冠地区下部工工事			
図面の種類	シム川橋（上り線） A 1 橋台配筋図（その2）		
縮 尺	図 示	図面番号	-
設計会社名	株式会社 日本構造橋梁研究所		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 北海道支社 帯広工事事務所		

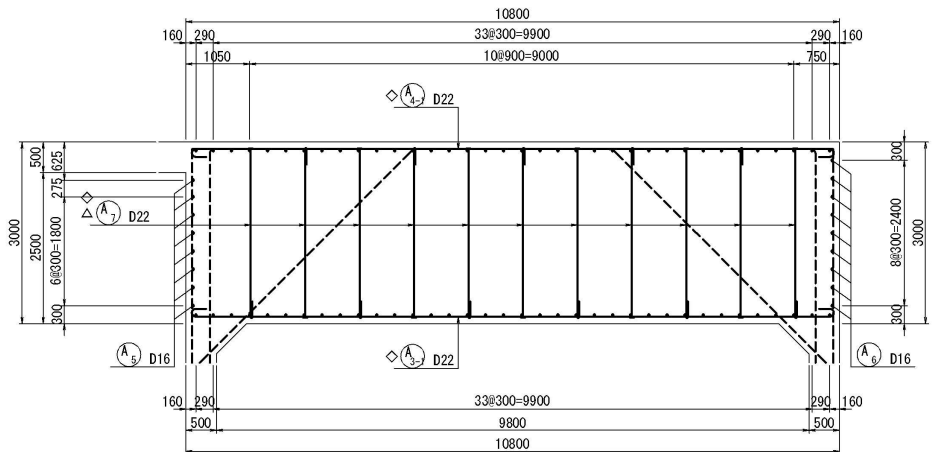
橋座平面図
1 - 1



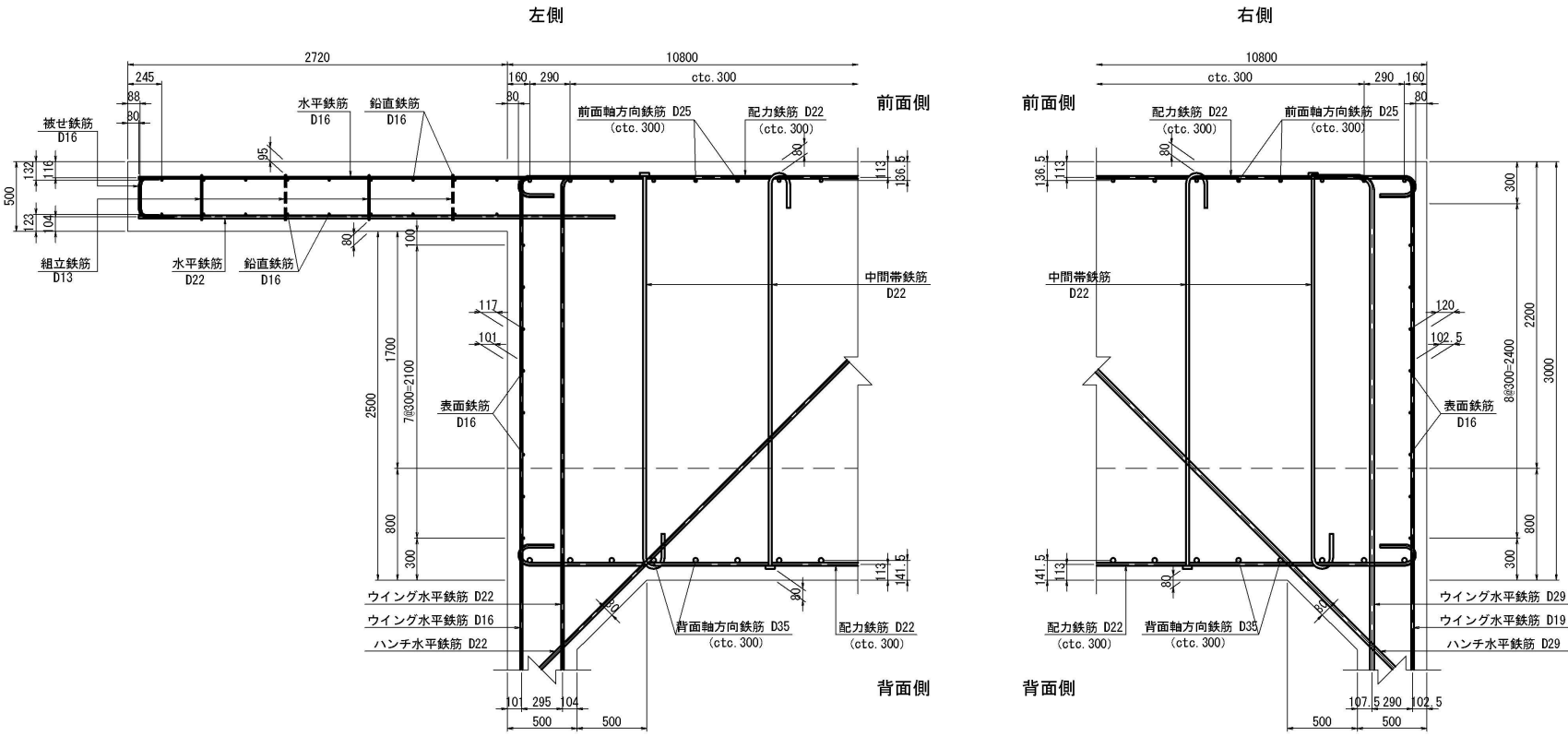
水平補強筋平面図
2 - 2



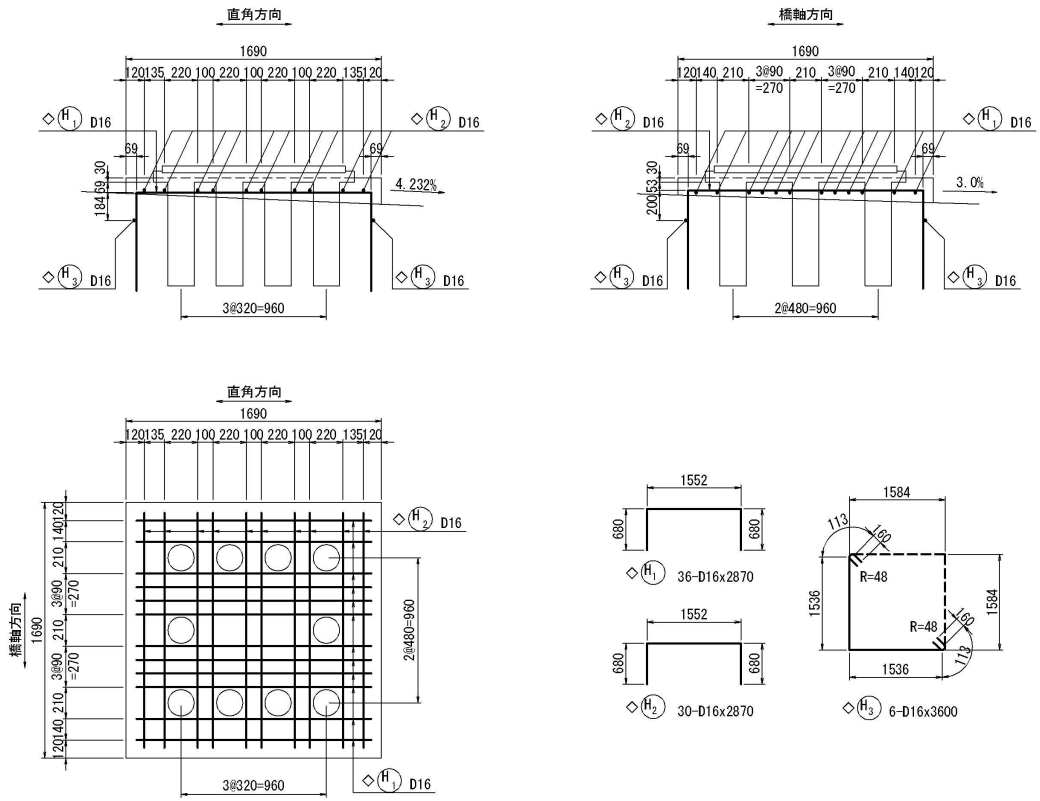
縦壁平面図
3 - 3



縦壁端部かぶり詳細図 S=1:50

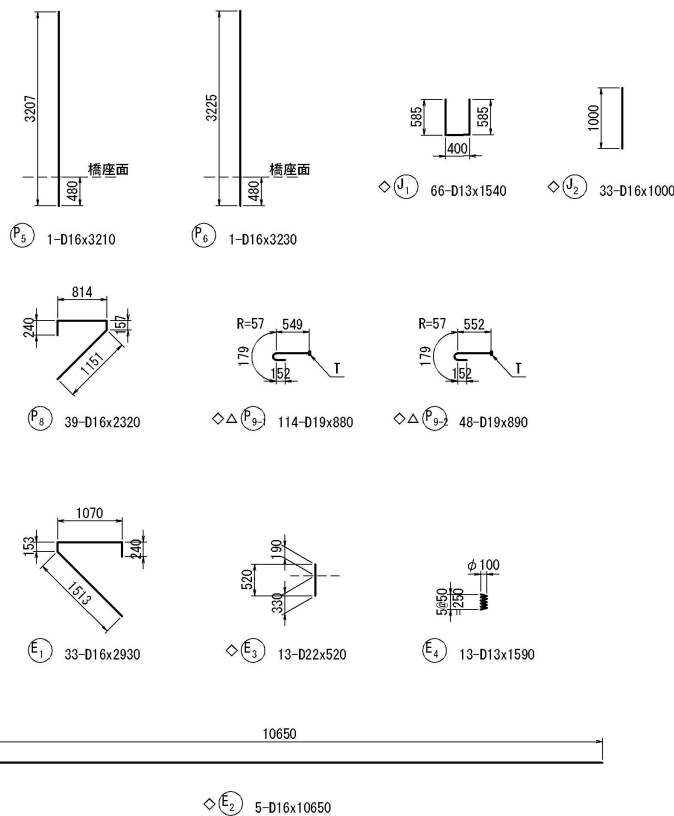
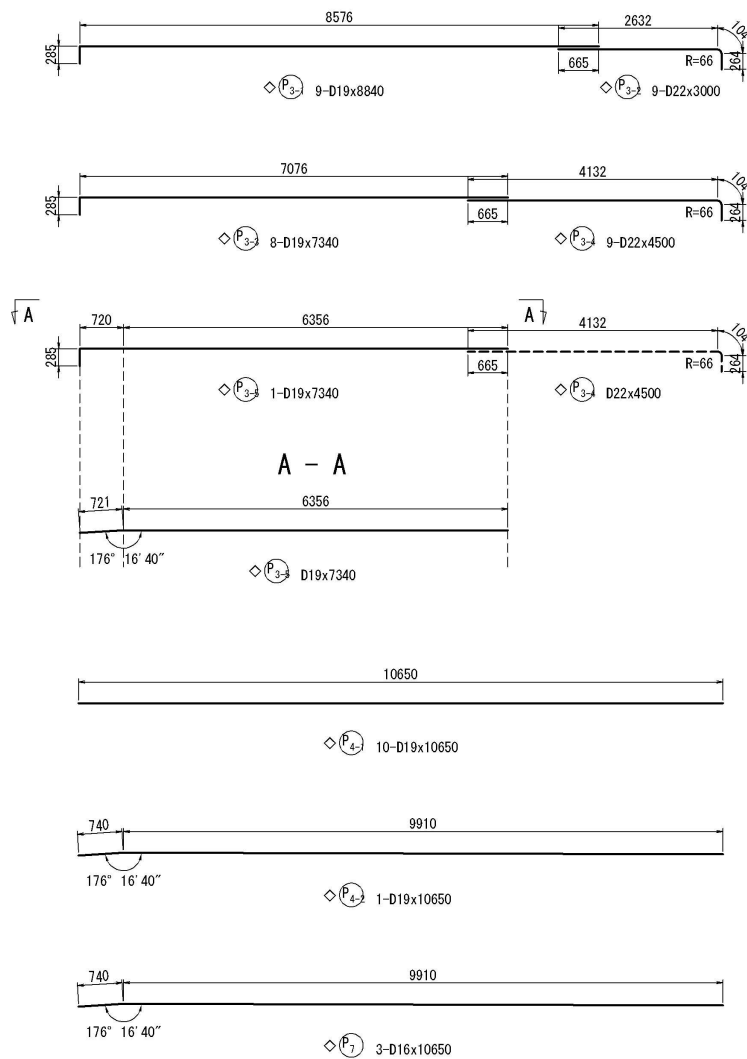


支承補強鉄筋 S=1:50
(n=3箇所)

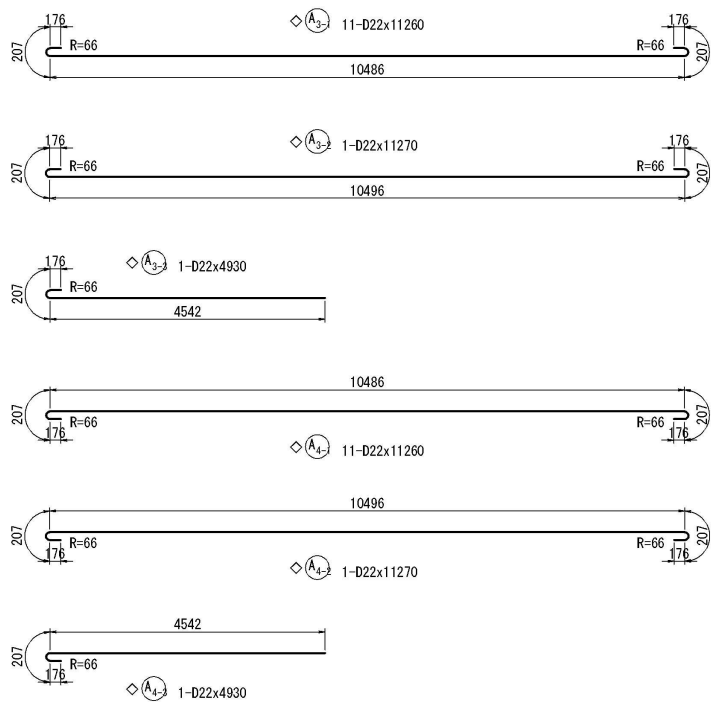


注1) △印表記は機械式鉄筋定着工法を示すものであり、下記の基準等を満足すること。
1. 道路橋示方書-同解説 (H29. 11 日本道路協会)
2. 機械式鉄筋定着工法の配筋設計ガイドライン (H28. 7 機械式定着工法技術検討委員会)
なお、定着体の設置方向は、施工条件に応じて定着体と半円形フックの設置方向を変更してもよい。
注2) 機械式定着鉄筋は、被拘束鉄筋に接触するように配置すること。機械式定着鉄筋は、主鉄筋に可能な限り近づけること。
注3) T印は機械式鉄筋定着工法の定着体を表す。
注4) ◇鉄筋は防錆処理鉄筋を表す。
注5) ○鉄筋は上部工施工鉄筋を表す。
注6) 鉄筋長は切り上げの10mm丸めとする。

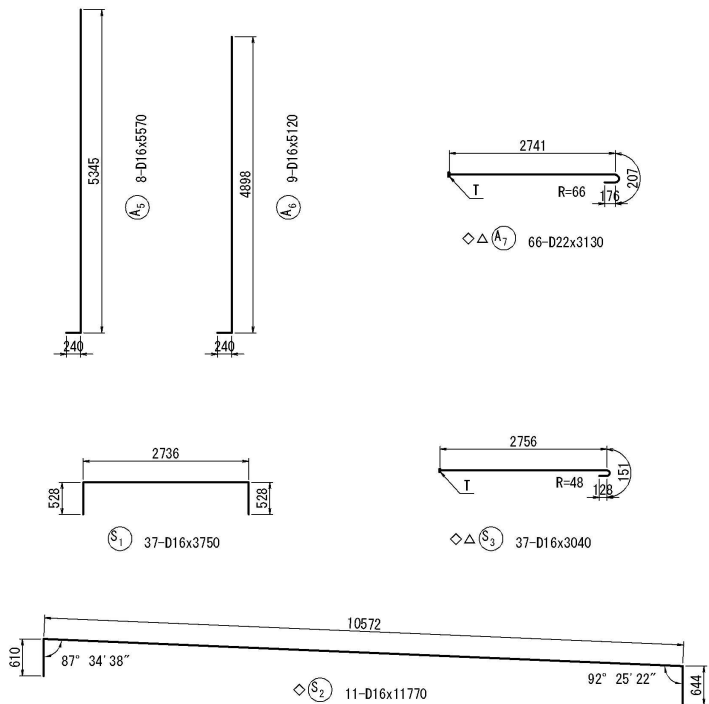
道東自動車道 占冠地区下部工工事			
図面の種類	シム川橋（上り線） A 1 橋台配筋図（その3）		
縮 尺	図 示	図面番号	-
設計会社名	株式会社 日本構造橋梁研究所		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 北海道支社 帯広工事事務所		



記号	径	本数	a	L	記号	径	本数	a	L
1	D29	1	4260	4260	37	D29	1	4288	4290
2	D29	1	4274	4270	38	D29	1	4288	4290
3	D29	1	4283	4280	39	D29	1	4287	4290
4	D29	1	4293	4290	40	D29	1	4287	4290
5	D29	1	4301	4300	41	D29	1	4287	4290
6	D29	1	4301	4300	42	D29	1	4286	4290
7	D29	1	4300	4300	43	D29	1	4286	4290
8	D29	1	4300	4300	44	D29	1	4285	4290
9	D29	1	4299	4300	45	D29	1	4285	4290
10	D29	1	4299	4300	46	D29	1	4285	4290
11	D29	1	4299	4300	47	D29	1	4284	4280
12	D29	1	4298	4300	48	D29	1	4284	4280
13	D29	1	4298	4300	49	D29	1	4284	4280
14	D29	1	4297	4300	50	D29	1	4283	4280
15	D29	1	4297	4300	51	D29	1	4283	4280
16	D29	1	4297	4300	52	D29	1	4283	4280
17	D29	1	4296	4300	53	D29	1	4282	4280
18	D29	1	4295	4300	54	D29	1	4281	4280
19	D29	1	4295	4300	55	D29	1	4281	4280
20	D29	1	4295	4300	56	D29	1	4281	4280
21	D29	1	4295	4300	57	D29	1	4280	4280
22	D29	1	4294	4290	58	D29	1	4280	4280
23	D29	1	4294	4290	59	D29	1	4279	4280
24	D29	1	4293	4290	60	D29	1	4279	4280
25	D29	1	4293	4290	61	D29	1	4279	4280
26	D29	1	4293	4290	62	D29	1	4278	4280
27	D29	1	4292	4290	63	D29	1	4278	4280
28	D29	1	4292	4290	64	D29	1	4277	4280
29	D29	1	4291	4290	65	D29	1	4277	4280
30	D29	1	4291	4290	66	D29	1	4277	4280
31	D29	1	4291	4290	67	D29	1	4276	4280
32	D29	1	4290	4290	68	D29	1	4276	4280
33	D29	1	4290	4290	69	D29	1	4275	4280
34	D29	1	4289	4290	70	D29	1	4275	4280
35	D29	1	4289	4290	平均長		70		4288
36	D29	1	4289	4290					

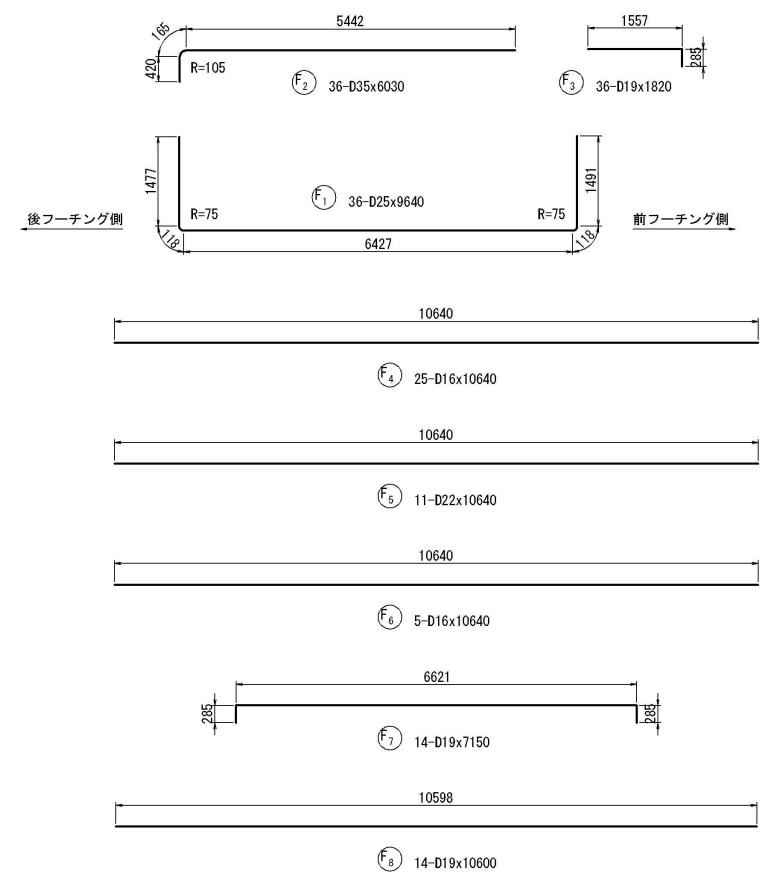
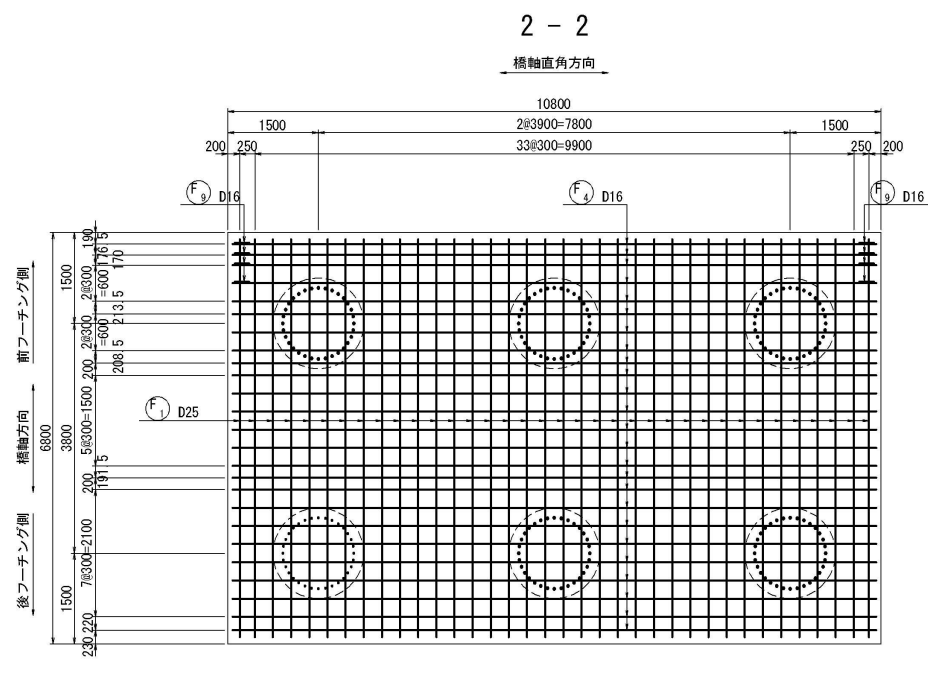
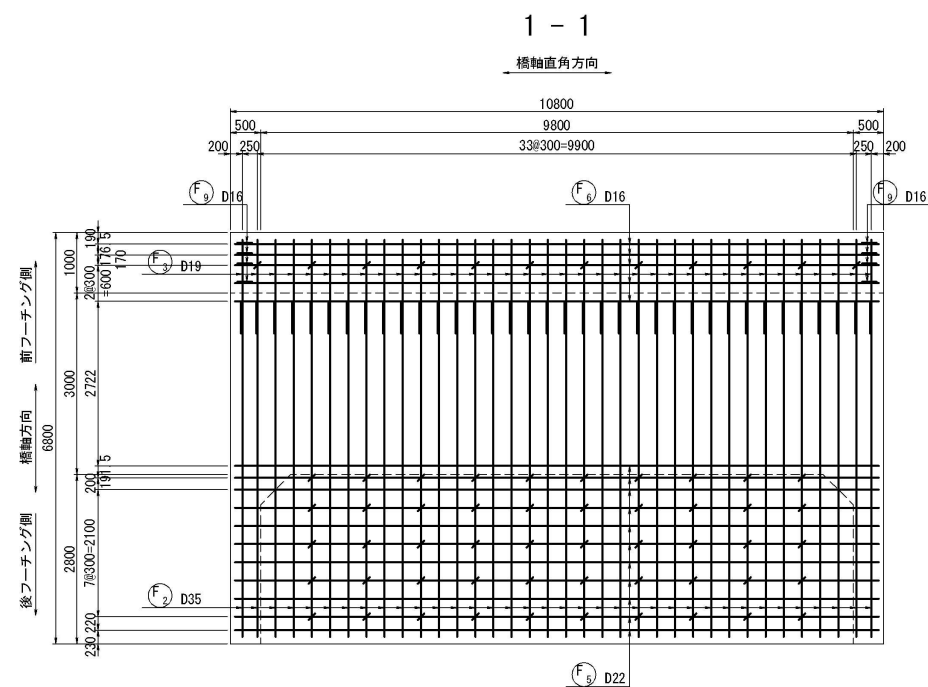


記号	径	本数	a	L
1	D29	1	3934	3930
2	D29	1	3945	3950
3	D29	1	3957	3960
4	D29	1	3975	3980
5	D29	1	3974	3970
6	D29	1	3973	3970
7	D29	1	3972	3970
8	D29	1	3971	3970
9	D29	1	3971	3970
10	D29	1	3970	3970
11	D29	1	3969	3970
12	D29	1	3969	3970
13	D29	1	3968	3970
14	D29	1	3967	3970
15	D29	1	3966	3970
16	D29	1	3966	3970
17	D29	1	3965	3970
18	D29	1	3964	3960
19	D29	1	3963	3960
20	D29	1	3963	3960
21	D29	1	3962	3960
22	D29	1	3961	3960
23	D29	1	3960	3960
24	D29	1	3960	3960
25	D29	1	3959	3960
26	D29	1	3958	3960
27	D29	1	3957	3960
28	D29	1	3957	3960
29	D29	1	3956	3960
30	D29	1	3955	3960
31	D29	1	3955	3960
32	D29	1	3954	3950
33	D29	1	3953	3950
34	D29	1	3952	3950
35	D29	1	3951	3950
36	D29	1	3951	3950
37	D29	1	3950	3950
38	D29	1	3949	3950
39	D29	1	3948	3950
平均長		39		3961

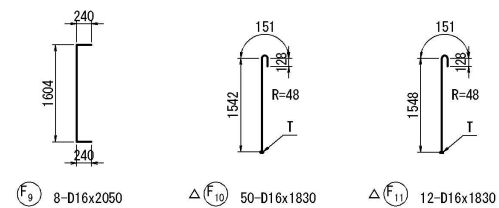
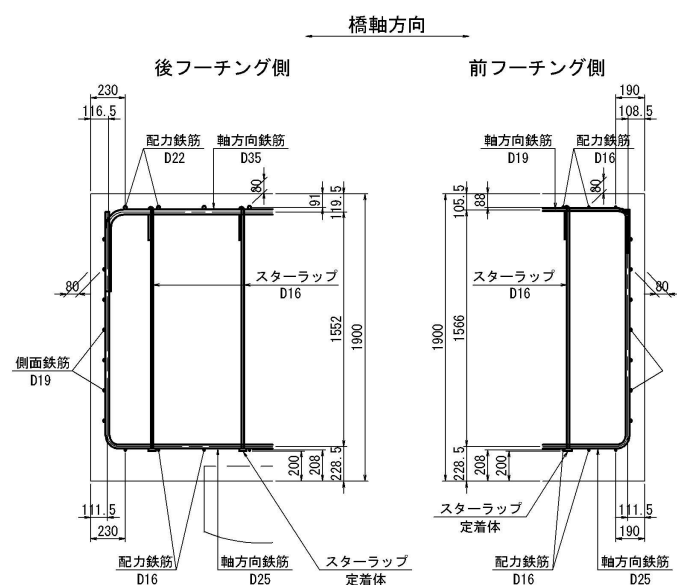
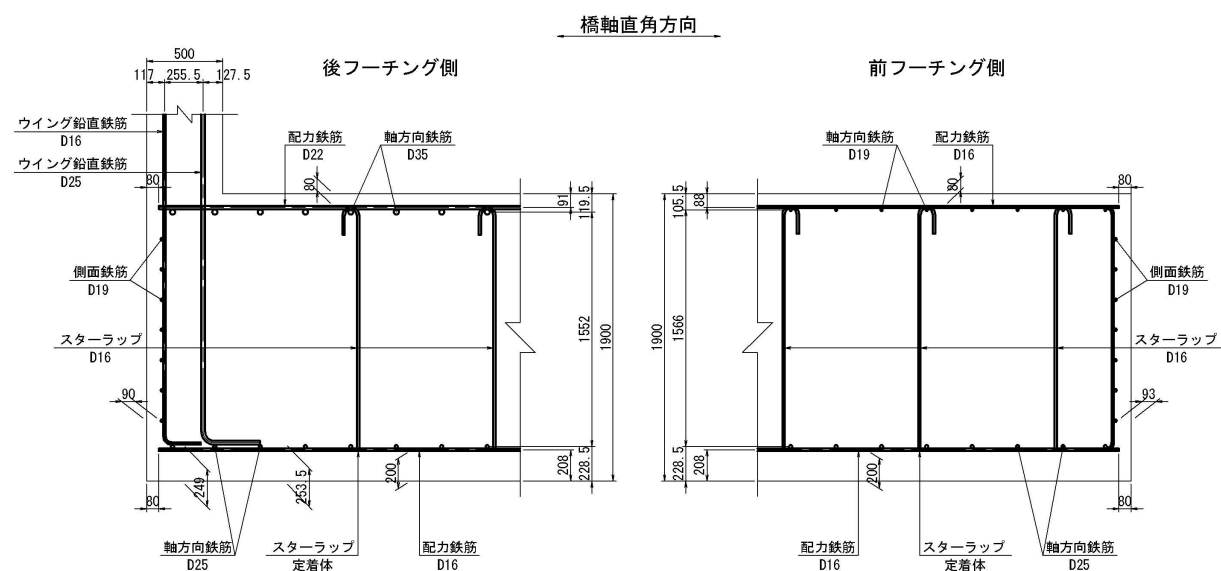


- 注1) △印表記は機械式鉄筋定着工法を示すものであり、下記の基準等を満足すること。
1. 道路橋示方書-同解説 (H29. 11 日本道路協会)
 2. 機械式鉄筋定着工法の配筋設計ガイドライン (H28. 7 機械式定着工法技術検討委員会)
- なお、定着体の設置方向は、施工条件に応じて定着体と半円形フックの設置方向を変更してもよい。
- 注2) 機械式定着鉄筋は、被拘束鉄筋に接触するように配置すること。機械式定着鉄筋は、主鉄筋に可能な限り近づけること。
- 注3) T印は機械式鉄筋定着工法の定着体を表す。
- 注4) ◇鉄筋は防錆処理鉄筋を表す。
- 注5) ○鉄筋は上部工施工鉄筋を表す。
- 注6) 鉄筋長は切り上げの10mm丸めとする。

道東自動車道 占冠地区下部工工事			
図面の種類	シム川橋（上り線） A 1 橋台配筋図（その 4）		
縮 尺	図 示	図面番号	-
設計会社名	株式会社 日本橋造橋梁研究所		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 北海道支社 帯広工事事務所		

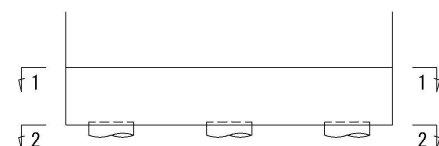


フーチングかぶり詳細図 S=1 : 50

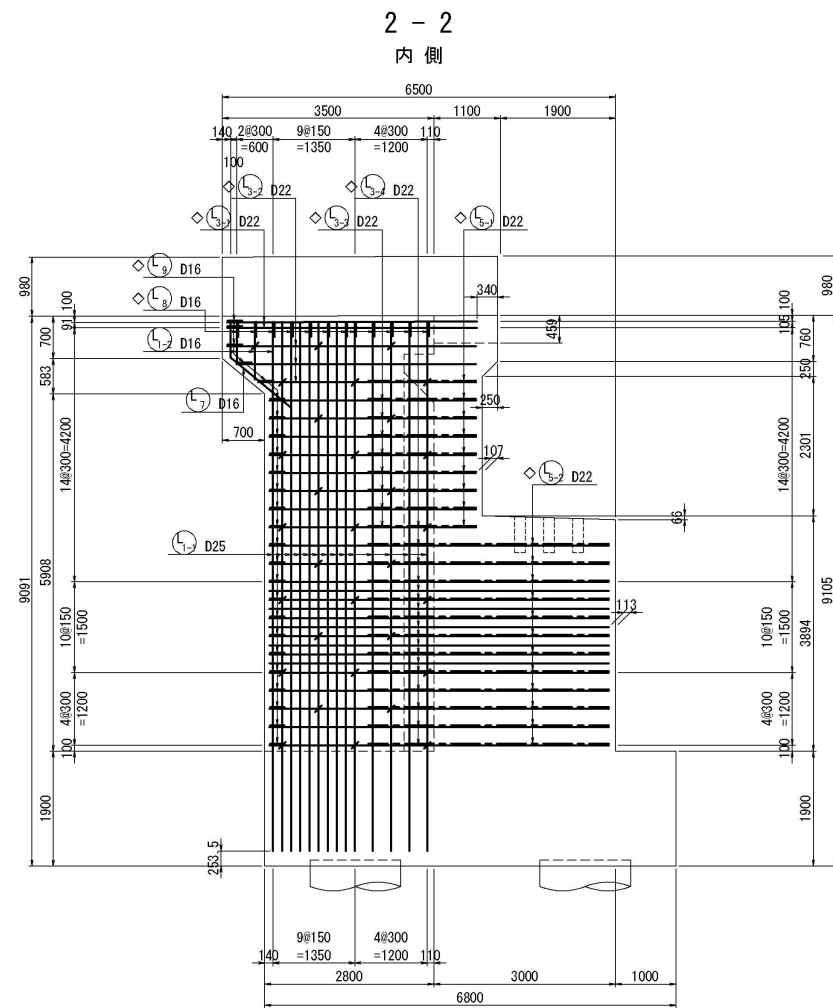
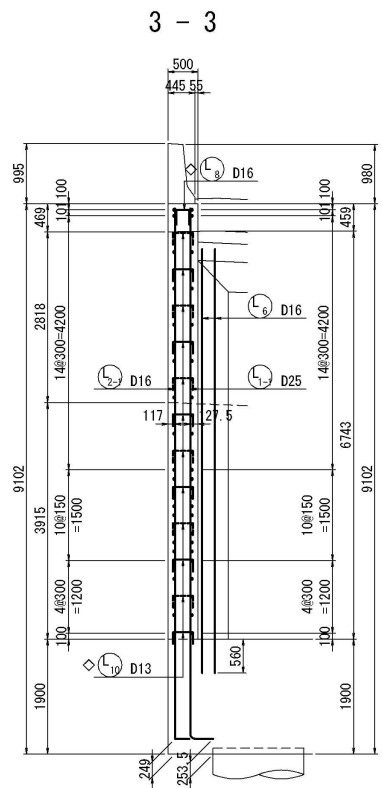
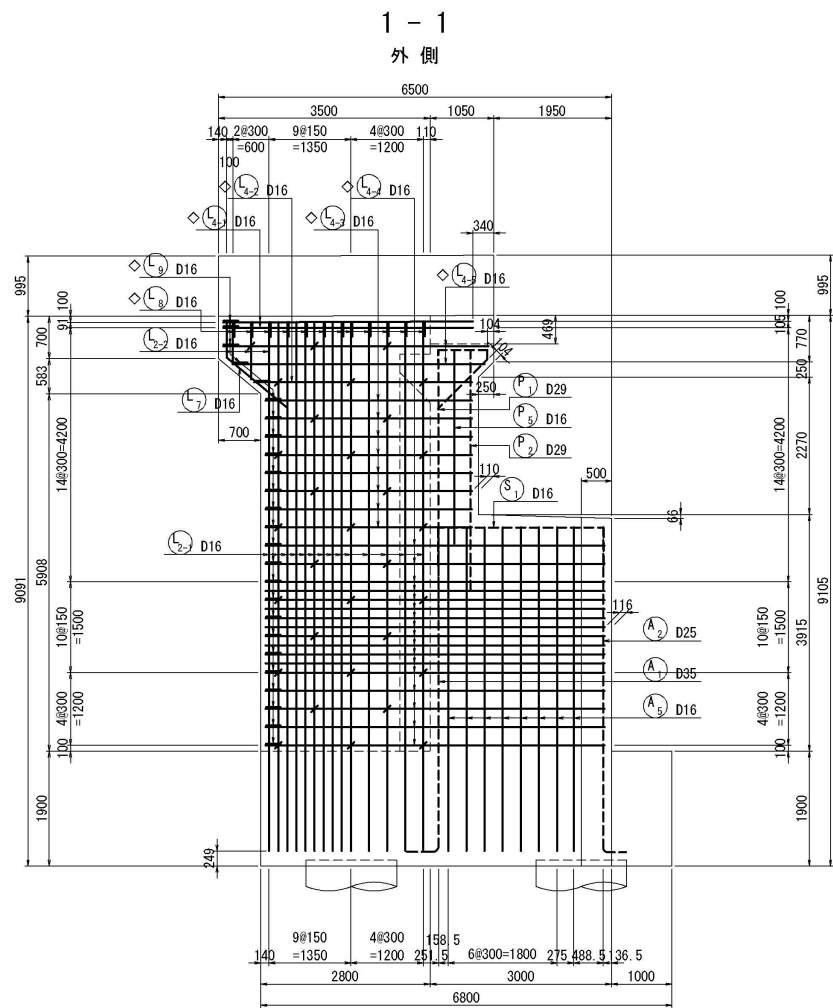


- 注1) △印表記は機械式鉄筋定着工法を示すものであり、下記の基準等を満足すること。
1. 道路橋示方書-同解説 (H29. 11 日本道路協会)
2. 機械式鉄筋定着工法の配筋設計ガイドライン (H28. 7 機械式定着工法技術検討委員会)
- なお、定着体の設置方向は、施工条件に応じて定着体と半円形フックの設置方向を変更してもよい。
- 注2) 機械式定着鉄筋は、被拘束鉄筋に接触するように配置すること。機械式定着鉄筋は、主鉄筋に可能な限り近づけること。
- 注3) T印は機械式鉄筋定着工法の定着体を表す。
- 注4) ◇鉄筋は防錆処理鉄筋を表す。
- 注5) ○鉄筋は上部工施工鉄筋を表す。
- 注6) 鉄筋長は切り上げの10mm丸めとする。

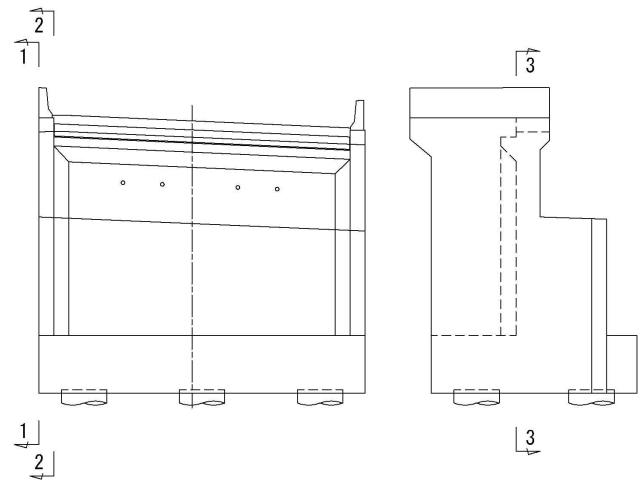
位置図



道東自動車道 占冠地区下部工工事			
図面の種類	シム川橋（上り線） A 1 橋台配筋図（その5）		
縮 尺	図 示	図面番号	-
設計会社名	株式会社 日本橋樑梁研究所		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 北海道支社 帯広工事事務所		

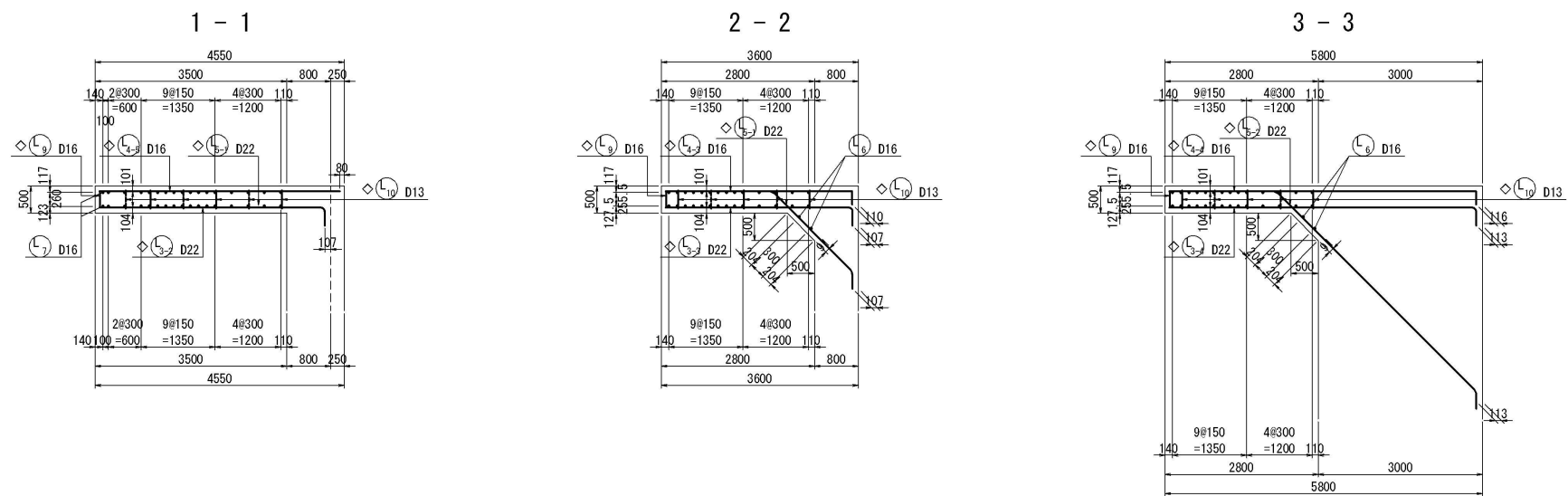


位置図



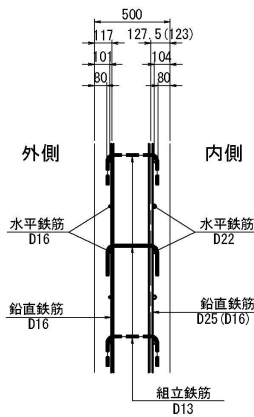
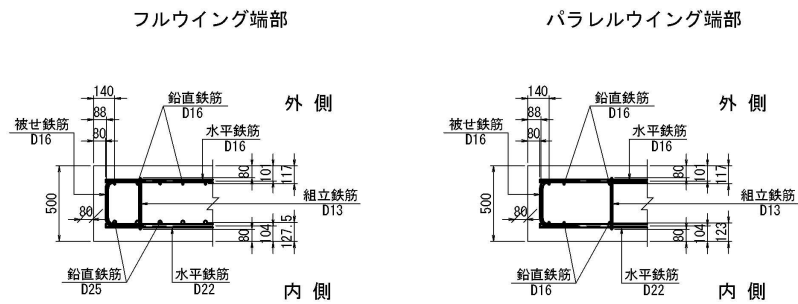
- 注1) △印表記は機械式鉄筋定着工法を示すものであり、下記の基準等を満足すること。
1. 道路橋示方書-同解説 (H29. 11 日本道路協会)
 2. 機械式鉄筋定着工法の配筋設計ガイドライン (H28. 7 機械式定着工法技術検討委員会)
- なお、定着体の設置方向は、施工条件に応じて定着体と半円形フックの設置方向を変更してもよい。
- 注2) 機械式定着鉄筋は、被拘束鉄筋に接触するように配置すること。機械式定着鉄筋は、主鉄筋に可能な限り近づけること。
- 注3) T印は機械式鉄筋定着工法の定着体を表す。
- 注4) ◇鉄筋は防錆処理鉄筋を表す。
- 注5) ○鉄筋は上部土工施工鉄筋を表す。
- 注6) 鉄筋長は切り上げの10mm丸めとする。

道東自動車道 占冠地区下部工工事			
図面の種類	シム川橋（上り線） A 1 橋台配筋図（その6）		
縮 尺	図 示	図面番号	-
設計会社名	株式会社 日本構造橋梁研究所		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 北海道支社 帯広工事事務所		

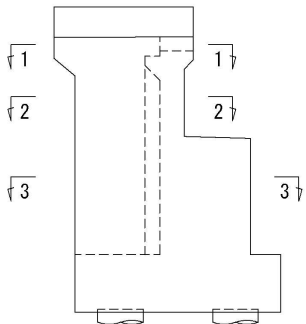


左側ウイング端部かぶり詳細図 S=1 : 50

左側ウイングかぶり詳細図 S=1 : 50

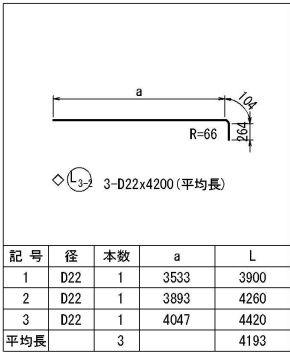
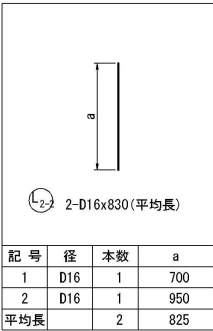
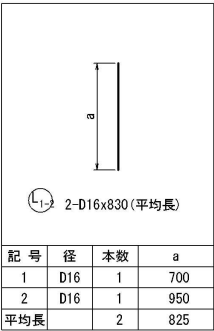
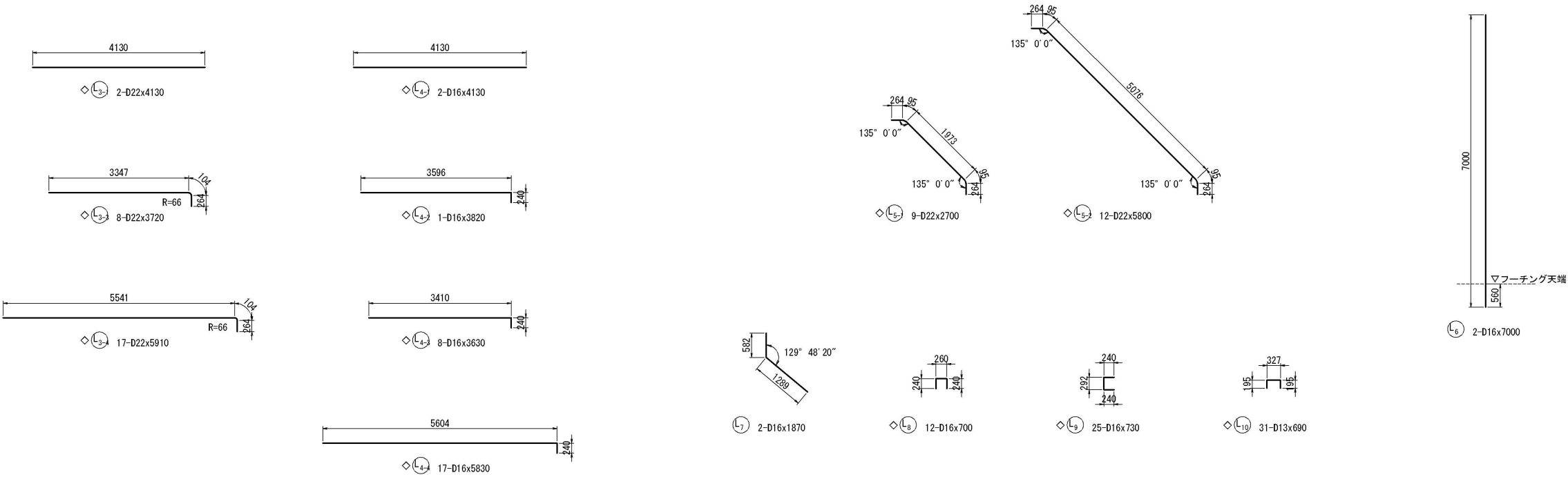


位置図



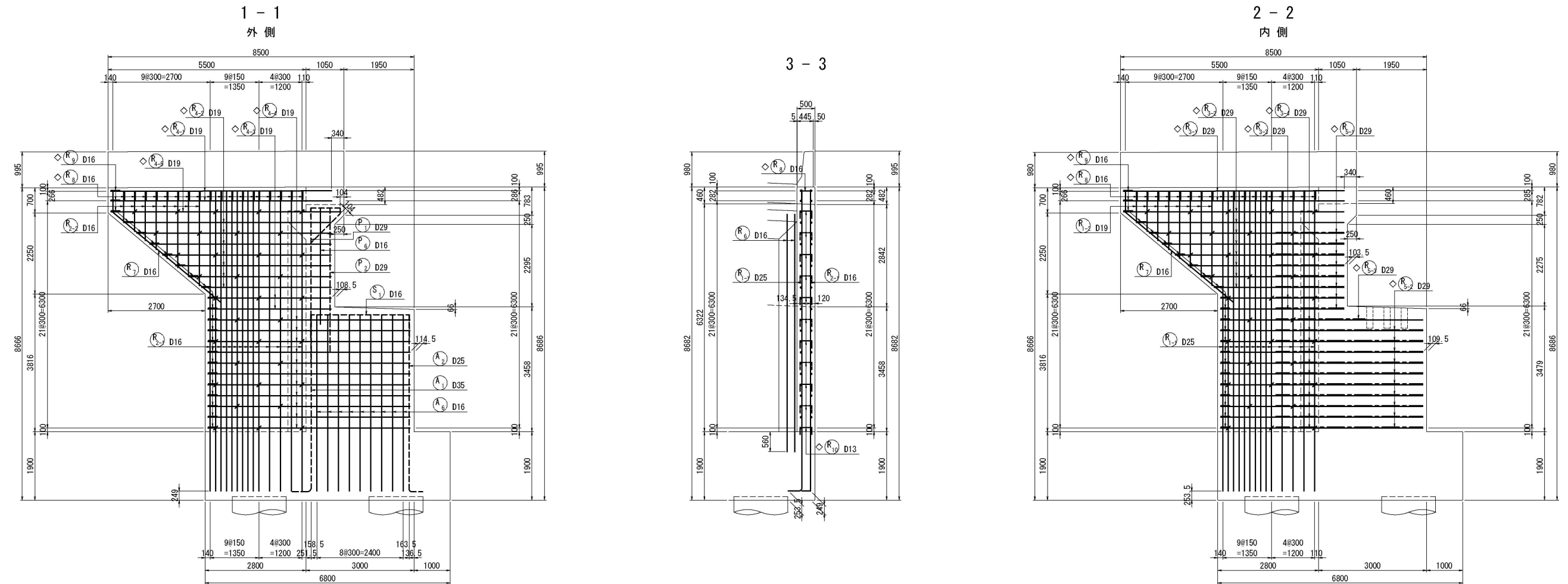
注1) △印表記は機械式鉄筋定着工法を示すものであり、下記の基準等を満足すること。
1. 道路橋示方書-同解説 (H29. 11 日本道路協会)
2. 機械式鉄筋定着工法の配筋設計ガイドライン (H28. 7 機械式定着工法技術検討委員会)
なお、定着体の設置方向は、施工条件に応じて定着体と半円形フックの設置方向を変更してもよい。
注2) 機械式定着鉄筋は、被拘束鉄筋に接触するように配置すること。
機械式定着鉄筋は、主鉄筋に可能な限り近づけること。
注3) T印は機械式鉄筋定着工法の定着体を表す。
注4) ◇鉄筋は防錆処理鉄筋を表す。
注5) ○鉄筋は上部工施工鉄筋を表す。
注6) 鉄筋長は切り上げの10mm丸めとする。

道東自動車道 占冠地区下部工工事			
図面の種類	シム川橋（上り線） A 1 橋台配筋図（その 7）		
縮 尺	図 示	図面番号	-
設計会社名	株式会社 日本構造橋梁研究所		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 北海道支社 帯広工事事務所		

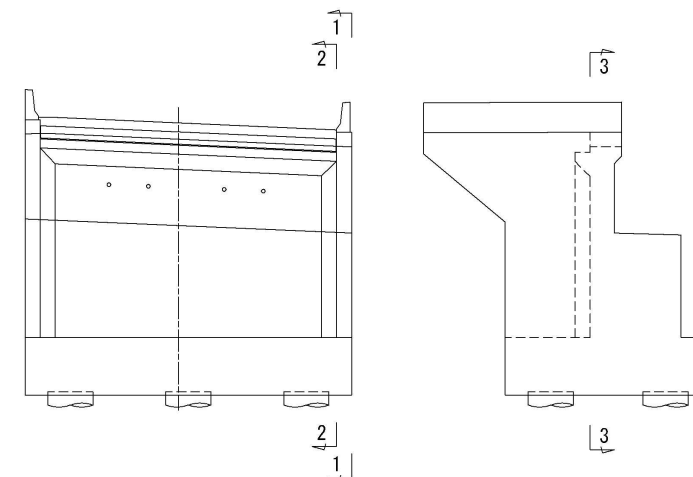


注1) △印表記は機械式鉄筋定着工法を示すものであり、下記の基準等を満足すること。
1. 道路橋示方書-同解説 (H29. 11 日本道路協会)
2. 機械式鉄筋定着工法の配筋設計ガイドライン (H28. 7 機械式定着工法技術検討委員会)
なお、定着体の設置方向は、施工条件に応じて定着体と半円形フックの設置方向を変更してもよい。
注2) 機械式定着鉄筋は、被拘束鉄筋に接触するように配置すること。
機械式定着鉄筋は、主鉄筋に可能な限り近づけること。
注3) T印は機械式鉄筋定着工法の定着体を表す。
注4) ◇鉄筋は防錆処理鉄筋を表す。
注5) ○鉄筋は上部工施工鉄筋を表す。
注6) 鉄筋長は切り上げの10mm丸めとする。

道東自動車道 占冠地区下部工工事			
図面の種類	シム川橋（上り線） A 1 橋台配筋図（その 8）		
縮 尺	図 示	図面番号	-
設計会社名	株式会社 日本構造橋梁研究所		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 北海道支社 帯広工事事務所		



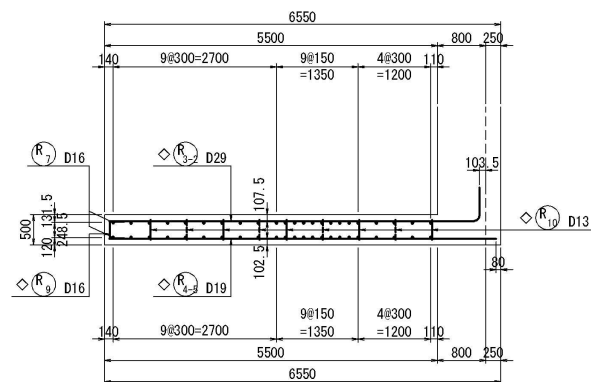
位置図



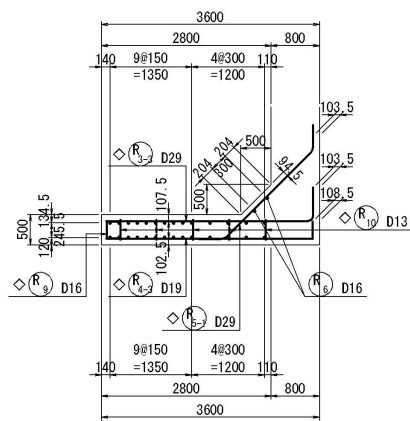
- 注1) △印表記は機械式鉄筋定着工法を示すものであり、下記の基準等を満足すること。
下記模範方等・同解説(H29.11 日本道路協会)
- 注2) 機械式鉄筋定着工法の配筋設計ガイドライン(H28.7 機械式定着工法技術検討委員会)
なお、定着体の設置方向は、施工条件に応じて定着体と半円形フックの設置方向を変更してもよい。
- 注3) 機械式鉄筋は、被拘束鉄筋に接触するように配置すること。
機械式定着鉄筋は、主鉄筋に可能限り近づけること。
- 注3) T印は機械式鉄筋定着工法の定着体を表す。
- 注4) ◇鉄筋は防錆処理鉄筋を表す。
- 注5) ○鉄筋は上部工施工鉄筋を表す。
- 注6) 鉄筋長は切り上げの10mm丸めとする。

道東自動車道 占冠地区下部工工事			
図面の種類	シム川橋（上り線） A1橋台設筋図（その9）		
縮 尺	図 示	図面番号	-
設計会社名	株式会社 日本橋構造梁研究所		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 北海道支社 帯広工事事務所		

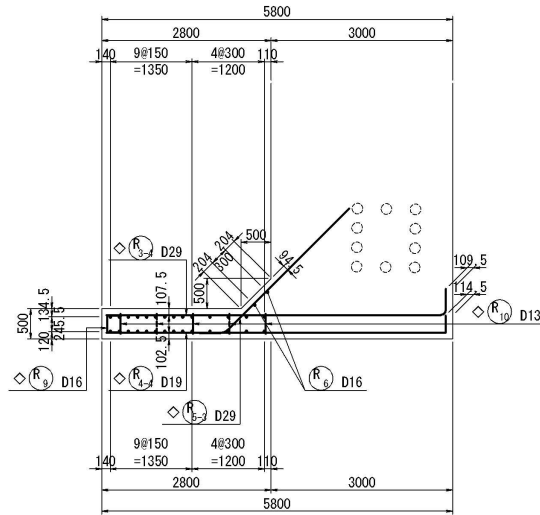
1 - 1



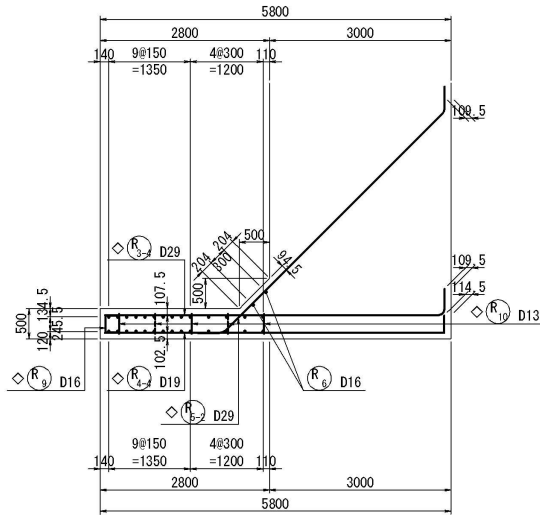
2 - 2



3 - 3



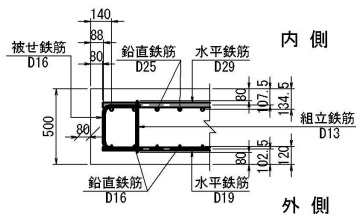
4 - 4



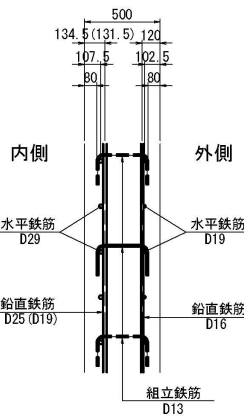
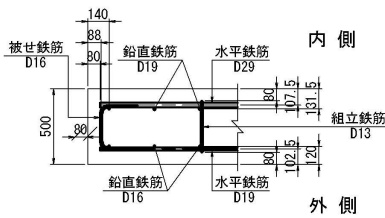
右側ウイング端部かぶり詳細図 S=1 : 50

右側ウイングかぶり詳細図 S=1 : 50

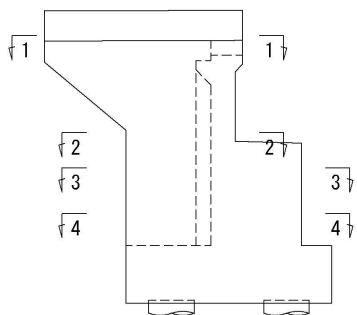
フルウイング端部



パラレルウイング端部

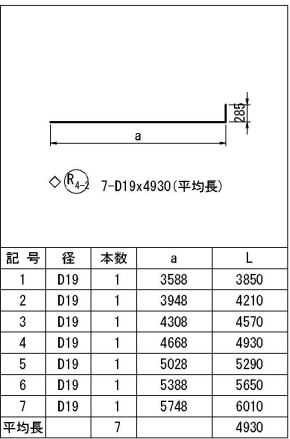
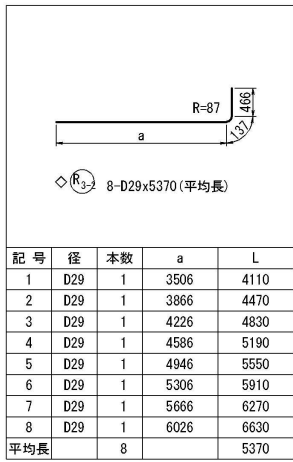
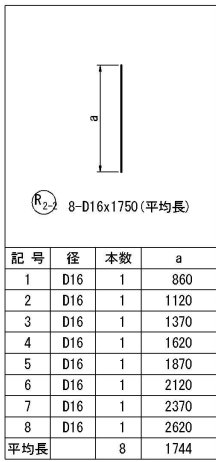
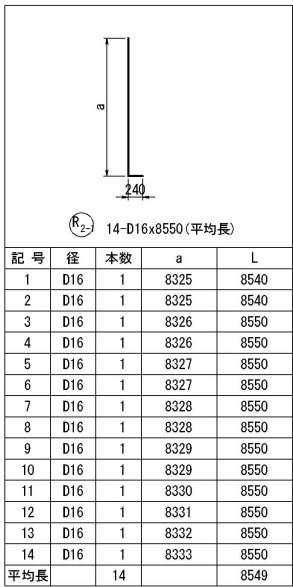
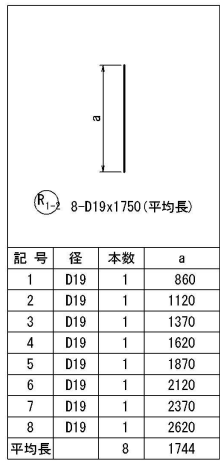
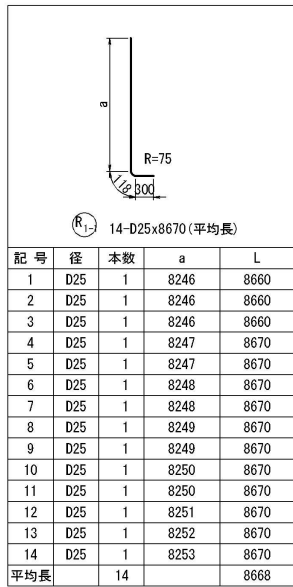
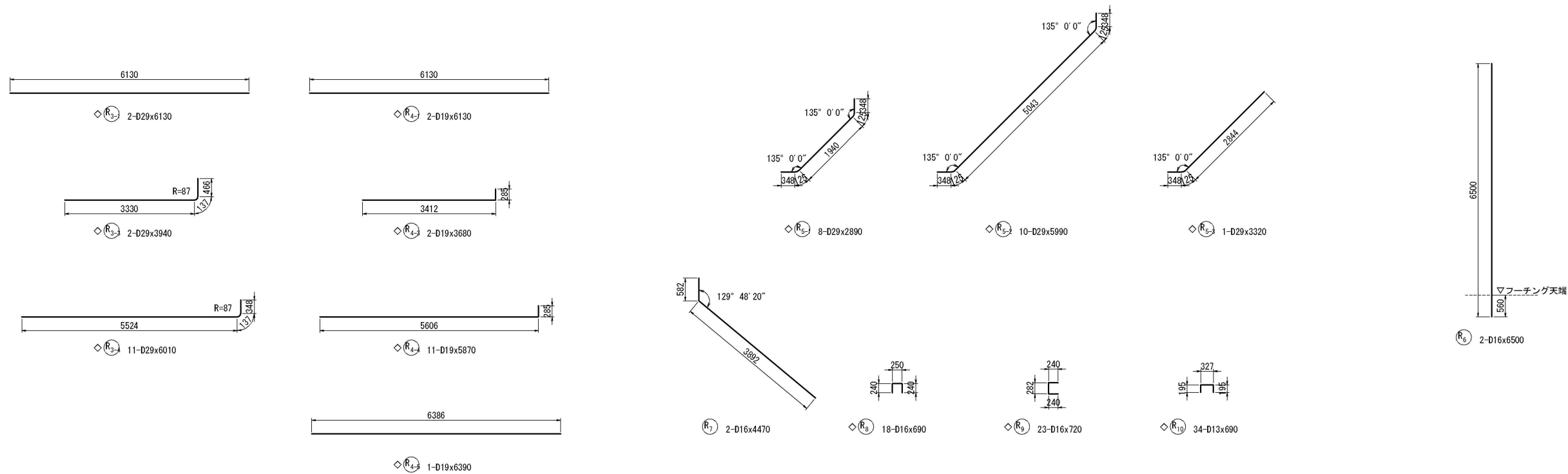


位置図



注1) △印表記は機械式鉄筋定着工法を示すものであり、下記の基準等を満足すること。
1. 道路橋示方書-同解説 (H29. 11 日本道路協会)
2. 機械式鉄筋定着工法の配筋設計ガイドライン (H28. 7 機械式定着工法技術検討委員会)
なお、定着体の設置方向は、施工条件に応じて定着体と半円形フックの設置方向を変更してもよい。
注2) 機械式定着鉄筋は、被拘束鉄筋に接触するように配置すること。
機械式定着鉄筋は、主鉄筋に可能な限り近づけること。
注3) T印は機械式鉄筋定着工法の定着体を表す。
注4) ◇鉄筋は防錆処理鉄筋を表す。
注5) ○鉄筋は上部工施工鉄筋を表す。
注6) 鉄筋長は切り上げの10mm丸めとする。

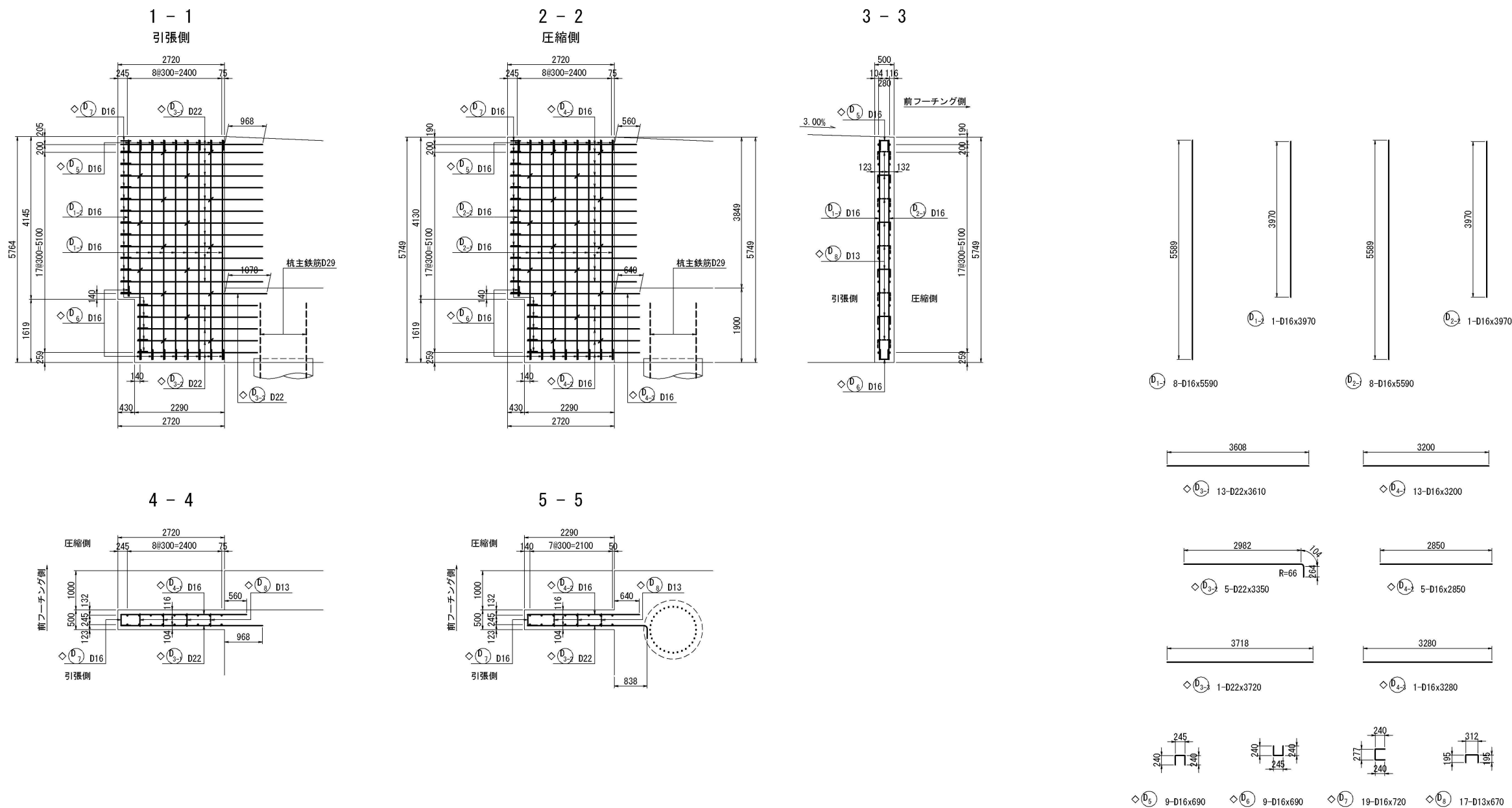
道東自動車道 占冠地区下部工工事			
図面の種類	シム川橋（上り線） A 1 橋台配筋図（その 1 0）		
縮 尺	図 示	図面番号	-
設計会社名	株式会社 日本橋造橋梁研究所		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 北海道支社 帯広工事事務所		



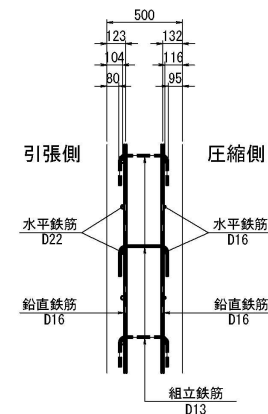
注1) △印表記は機械式鉄筋定着工法を示すものであり、下記の基準等を満足すること。
1. 道路橋示方書-同解説 (H29. 11 日本道路協会)
2. 機械式鉄筋定着工法の配筋設計ガイドライン (H28. 7 機械式定着工法技術検討委員会)
なお、定着体の設置方向は、施工条件に応じて定着体と半円形フックの設置方向を変更してもよい。
注2) 機械式定着鉄筋は、被拘束鉄筋に接触するように配置すること。
機械式定着鉄筋は、主鉄筋に可能な限り近づけること。
注3) T印は機械式鉄筋定着工法の定着体を表す。
注4) ◇鉄筋は防錆処理鉄筋を表す。
注5) ○鉄筋は上部工施工鉄筋を表す。
注6) 鉄筋長は切り上げの10mm丸めとする。

道東自動車道 占冠地区下部工工事			
図面の種類	シム川橋（上り線） A 1 橋台配筋図（その 1 1）		
縮 尺	図 示	図面番号	-
設計会社名	株式会社 日本構造橋梁研究所		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 北海道支社 帯広工事事務所		

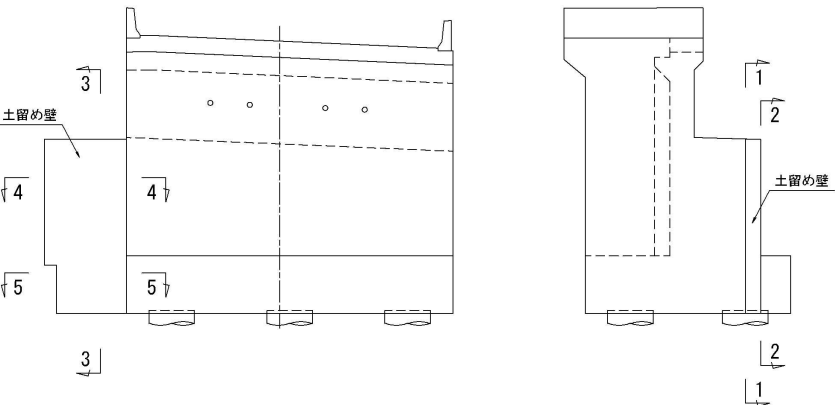
土留め壁



土留め壁かぶり詳細図 S=1:50



位置図



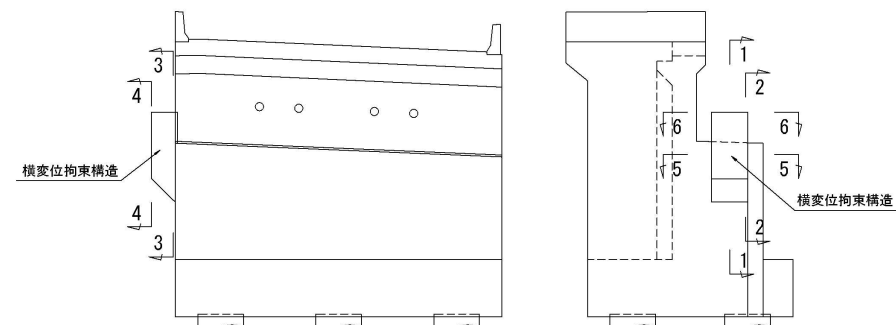
注1) △印表記は機械式鉄筋定着工法を示すものであり、下記の基準等を満足すること。
1. 道路橋示方書-同解説 (H29. 11 日本道路協会)
2. 機械式鉄筋定着工法の配筋設計ガイドライン (H28. 7 機械式定着工法技術検討委員会)
なお、定着体の設置方向は、施工条件に応じて定着体と半円形フックの設置方向を変更してもよい。
注2) 機械式定着鉄筋は、被拘束鉄筋に接触するように配置すること。
機械式定着鉄筋は、主鉄筋に可能な限り近づけること。
注3) T印は機械式鉄筋定着工法の定着体を表す。
注4) ◇鉄筋は防錆処理鉄筋を表す。
注5) ○鉄筋は上部工施工鉄筋を表す。
注6) 鉄筋長は切り上げの10mm丸めとする。

道東自動車道 占冠地区下部工工事			
図面の種類	シム川橋（上り線） A 1 橋台配筋図（その 1 2）		
縮 尺	図 示	図面番号	-
設計会社名	株式会社 日本構造橋梁研究所		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 北海道支社 帯広工事事務所		

横変位拘束構造かぶり詳細図 S=1 : 30

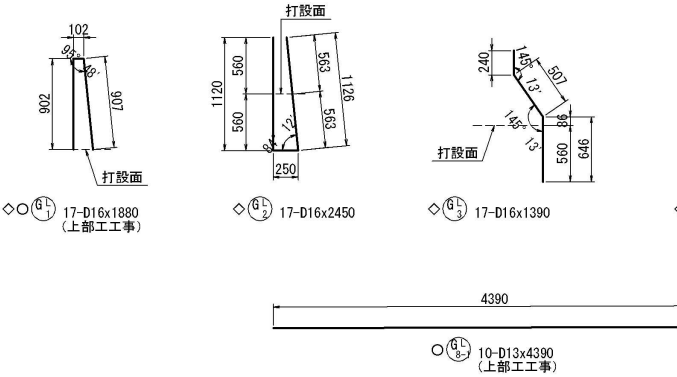
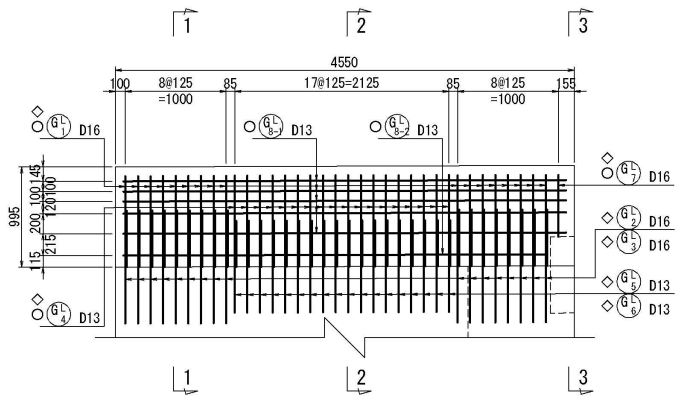


- 注1) △印表記は機械式鉄筋定着工法を示すものであり、下記の基準等を満足すること。
1. 道路橋示方書-同解読(H29.11 日本道路協会)
2. 機械式鉄筋定着工法の配筋設計ガイドライン(H28.7 機械式定着工法技術検討委員会)
- なお、定着体の設置方向は、施工条件に応じて定着体と半円形フックの設置方向を変更してもよい。
- 注2) 機械式定着鉄筋は、被拘束鉄筋に接触するように配置すること。
- 機械式定着鉄筋は、主鉄筋に可能な限り近づけること。
- 注3) ①印は機械式鉄筋定着工法の定着体を表す。
- 注4) ◇鉄筋は防錆処理鉄筋を表す。
- 注5) ○鉄筋は上部工施工鉄筋を表す。
- 注6) 鉄筋長は切り上げの0.0mm丸めとする。

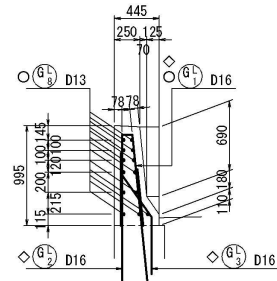


道東自動車道 占冠地区下部工工事			
図面の種類	シム川橋（より線） A 1橋台配筋図（その１３）		
	縮 尺	図 示	図面番号
設計会社名	株式会社 日本橋樑建築研究所		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 北海道支社 帯広工事事務所		

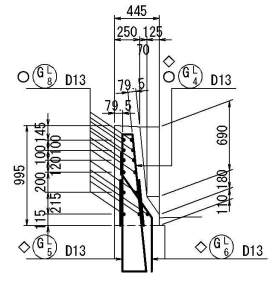
左壁欄側面展開図



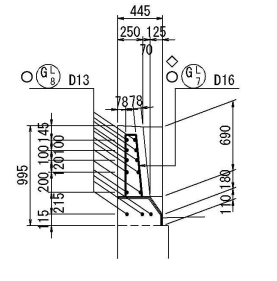
1 - 1



2 - 2

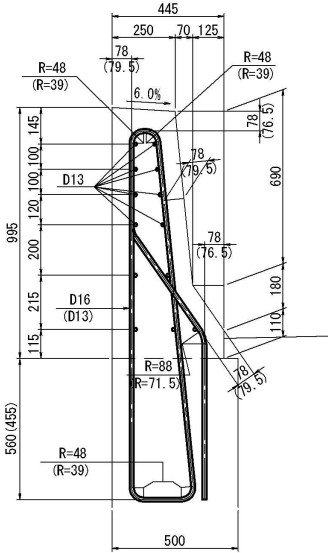


3 - 3



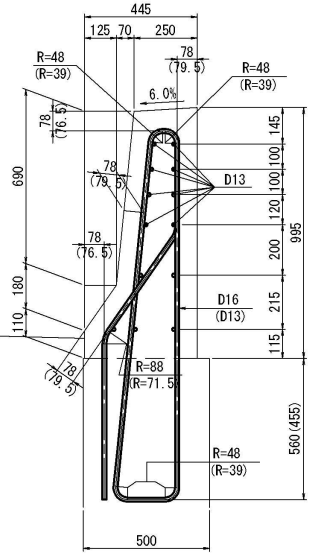
壁高欄かぶり詳細図 S=1:30

左壁欄



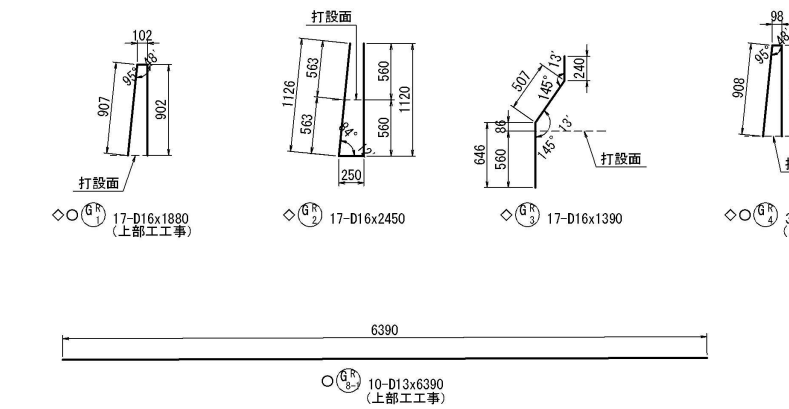
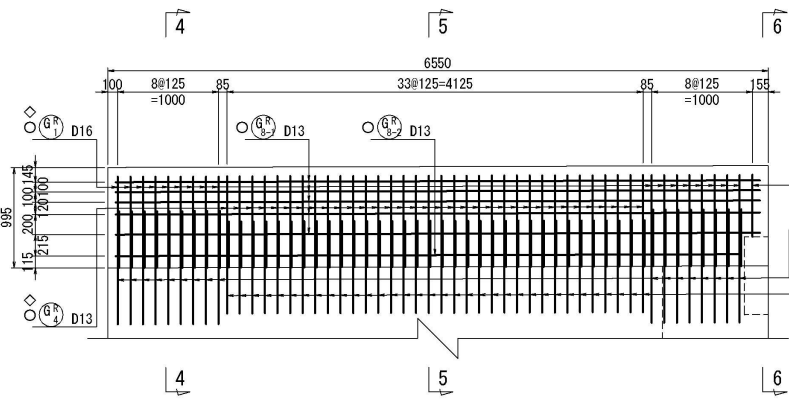
注) ()内はD13鉄筋の数値を表す。

右壁欄

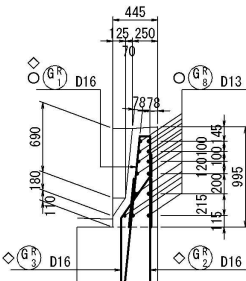


注) ()内はD13鉄筋の数値を表す。

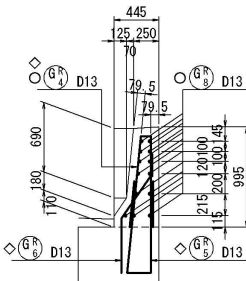
右壁欄側面展開図



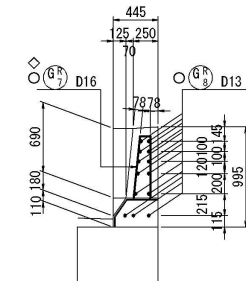
4 - 4



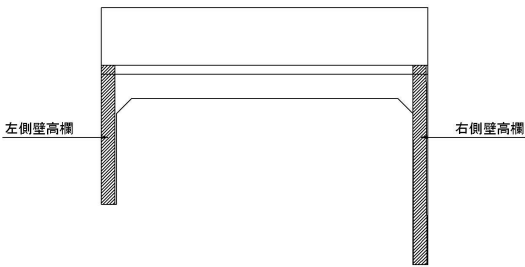
5 - 5



6 - 6



位置図



- 注1) △印表記は機械式鉄筋定着工法を示すものであり、下記の基準等を満足すること。
1. 道路橋示方書-同解説 (H29. 11 日本道路協会)
 2. 機械式鉄筋定着工法の配筋設計ガイドライン (H28. 7 機械式定着工法技術検討委員会)
- なお、定着体の設置方向は、施工条件に応じて定着体と半円形フックの設置方向を変更してもよい。
- 注2) 機械式定着鉄筋は、被拘束鉄筋に接触するように配置すること。機械式定着鉄筋は、主鉄筋に可能な限り近づくこと。
- 注3) T印は機械式鉄筋定着工法の定着体を表す。
- 注4) ◇鉄筋は防錆処理鉄筋を表す。
- 注5) ○鉄筋は上部工施工鉄筋を表す。
- 注6) 鉄筋長は切り上げの10mm丸めとする。

道東自動車道 占冠地区下部工工事			
図面の種類	シム川橋（上り線） A 1 橋台配筋図（その 1 4）		
縮 尺	図 示	図面番号	-
設計会社名	株式会社 日本構造橋梁研究所		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 北海道支社 帯広工事事務所		

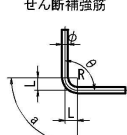
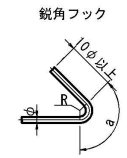
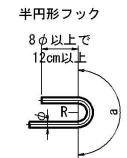
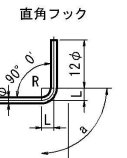
鉄筋集計表

種別	鉄筋径		（単位：kg） 下部工 施工	
			一般鉄筋	防錆処理鉄筋
A (SD345)	D13	D13	21	325
		D16	1824	1400
	D16～D25	D19	740	1064
		D22	355	2025
		D25	3160
		小計	6079	4489
	D29～D32	D29	2292	1088
		D32
		小計	2292	1088
	D35		3150
	D38	
	D41	
B (SD345)	D16～D25	D16
		D19
		D22
		D25
		小計
	D29～D32	D29
		D32
		小計
	D35	
	D38	
	D41	
	D51	
C (SD345)	D13	D13
	D16～D25	D16	177	175
		D19	322
		D22	628
		D25
		小計	177	1125
	D29～D32	D29
		D32
		小計
	D35	
	D38	
	D41	
	D51	
	合計		177	1125
総合計			13120	7027

機械式鉄筋定着工法数量表（下部工施工）

鉄筋径	箇 所 数					
	0<=L≤1m	1m<=L≤2m	2m<=L≤3m	3m<=L≤4m	4m<=L≤5m	5m<=L≤6m
D13						
D16		62				
D19						
合計						62
D16 (防錆処理)				37		
D19 (防錆処理)	174					
D22 (防錆処理)				66		
合計 (防錆処理)						277

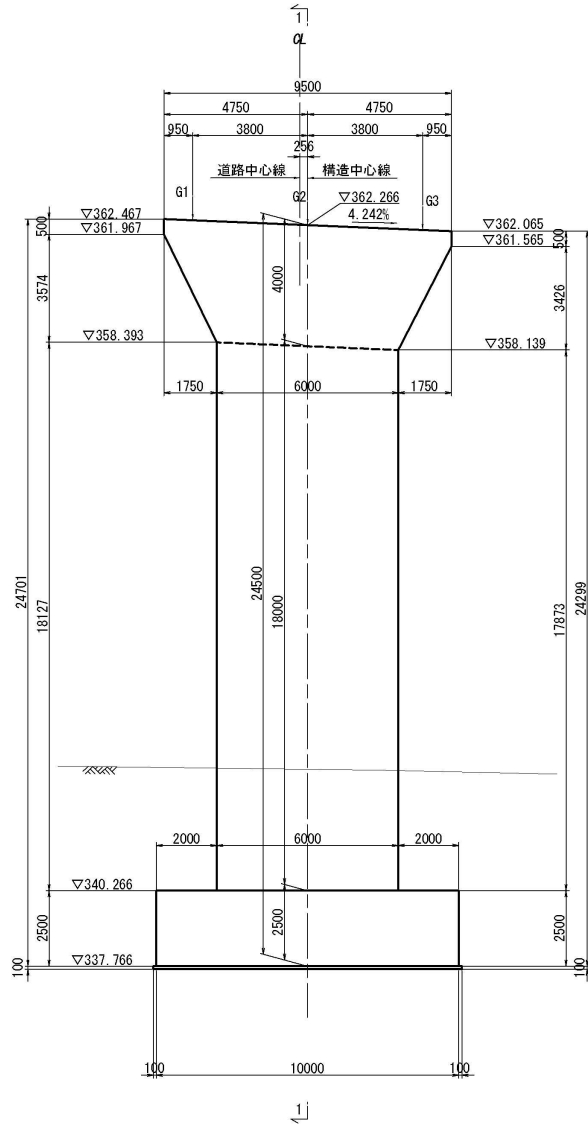
鉄筋加工寸法表 (SD345)

<div><div><div>主 筋 せん断補強筋</div></div><div><div>鋭角フック</div></div><div><div>半円形フック</div></div><div><div>直角フック</div></div></div>										
主 筋	径	$\theta \leq 90^\circ$ $R=3.0\phi$	$\theta > 90^\circ$ $R=5.5\phi$	$\theta = 45^\circ$		$\theta = 60^\circ$		$\theta = 90^\circ$		$\theta = 135^\circ$
				a	ΔL	a	ΔL	a	ΔL	a
	D13	39	71.5	92	96	82	53	61	17	56
	D16	48	88	113	119	100	66	75	21	69
	D19	57	104.5	134	141	119	78	89	25	82
	D22	66	121	155	164	138	91	104	28	95
	D25	75	137.5	177	185	157	103	118	32	108
	D29	87	159.5	205	215	182	119	137	37	125
	D32	96	176	226	237	201	132	151	41	138
	D35	105	192.5	247	260	220	144	165	45	151
	D38	114	209	269	281	239	156	179	49	164
	D41	123	225.5	290	304	258	168	193	53	177
せん断補強筋及び帯鉄筋	径	$R=2.5\phi$		$\theta = 45^\circ$		$\theta = 60^\circ$		$\theta = 90^\circ$		——
				a	ΔL	a	ΔL	a	ΔL	——
	D13	32.5		77	80	68	45	51	14	——
	D16	40		94	99	84	55	63	17	——
	D19	47.5		112	117	99	66	75	20	——
	D22	55		130	136	115	76	86	24	——
	D25	62.5		147	155	131	86	98	27	——
	D29	72.5		171	179	152	99	114	31	——
	径	$R=3.0\phi$		鋭角フック		半円形フック		直角フック		
				a		a		a	ΔL	
	D13	39		92		123		61		17
	D16	48		113		151		75		21
	D19	57		134		179		89		25
	D22	66		156		207		104		28
	D25	75		177		236		118		32
	D29	87		205		273		137		37

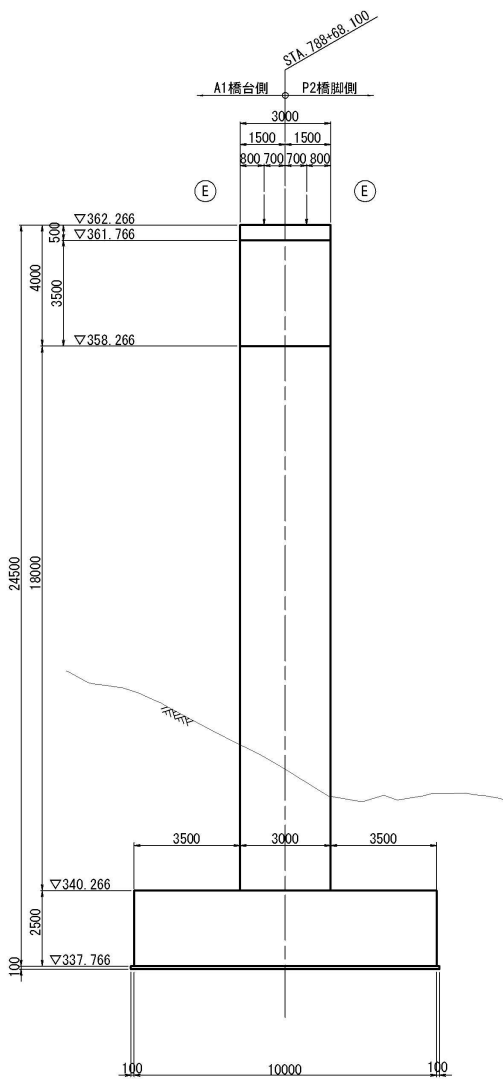
注1) Δ印表記は機械式鉄筋定着工法を示すものであり、下記の基準等を満足すること。
1. 道路橋示方書-同解説 (H29. 11 日本道路協会)
2. 機械式鉄筋定着工法の配筋設計ガイドライン (H28. 7 機械式定着工法技術検討委員会)
なお、定着体の設置方向は、施工条件に応じて定着体と半円形フックの設置方向を変更してもよい。
注2) 機械式定着鉄筋は、被拘束鉄筋に接触するように配置すること。
機械式定着鉄筋は、主鉄筋に可能な限り近づけること。
注3) T印は機械式鉄筋定着工法の定着体を表す。
注4) ◇鉄筋は防錆処理鉄筋を表す。
注5) ○鉄筋は上部工施工鉄筋を表す。
注6) 鉄筋長は切り上げの10mm丸めとする。

道東自動車道 占冠地区下部工工事			
図面の種類	シム川橋（上り線） A 1 橋台配筋図（その 1 6）		
縮 尺	図 示	図面番号	-
設計会社名	株式会社 日本構造橋梁研究所		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 北海道支社 帯広工事事務所		

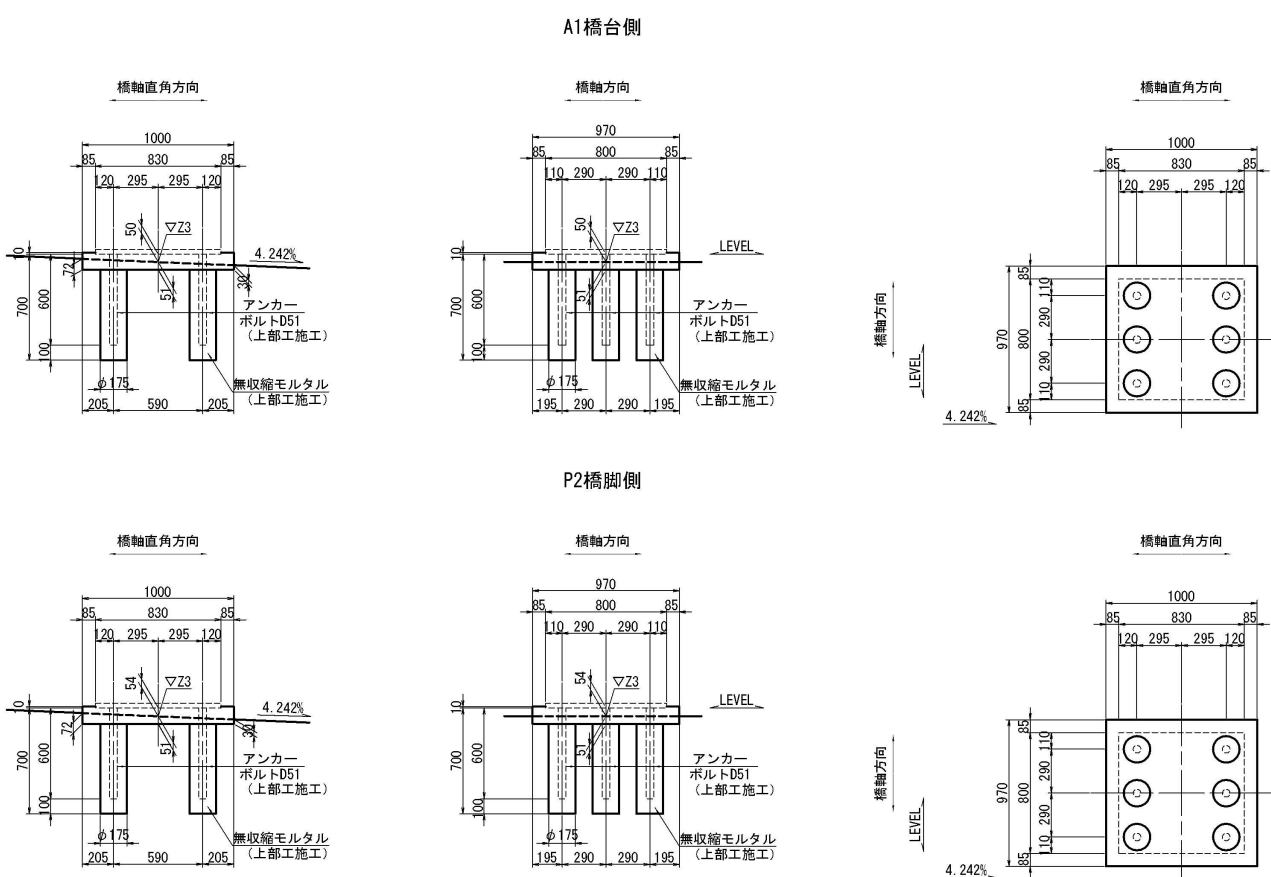
正面図



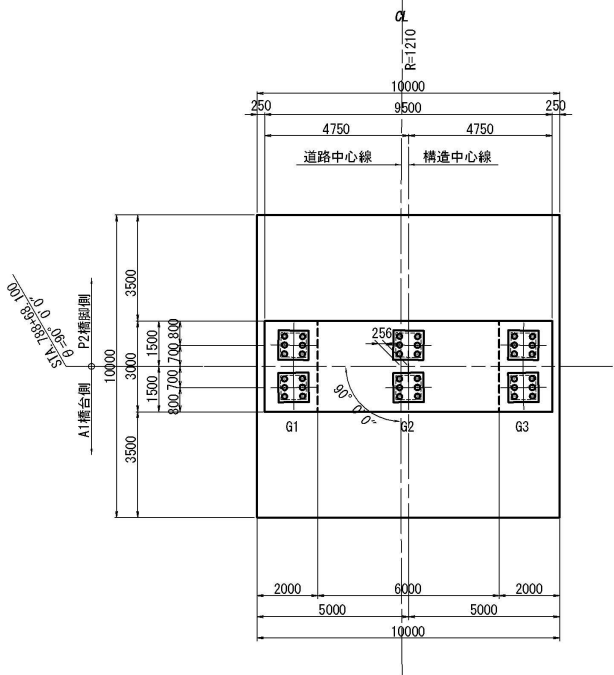
側面図 (1-1)



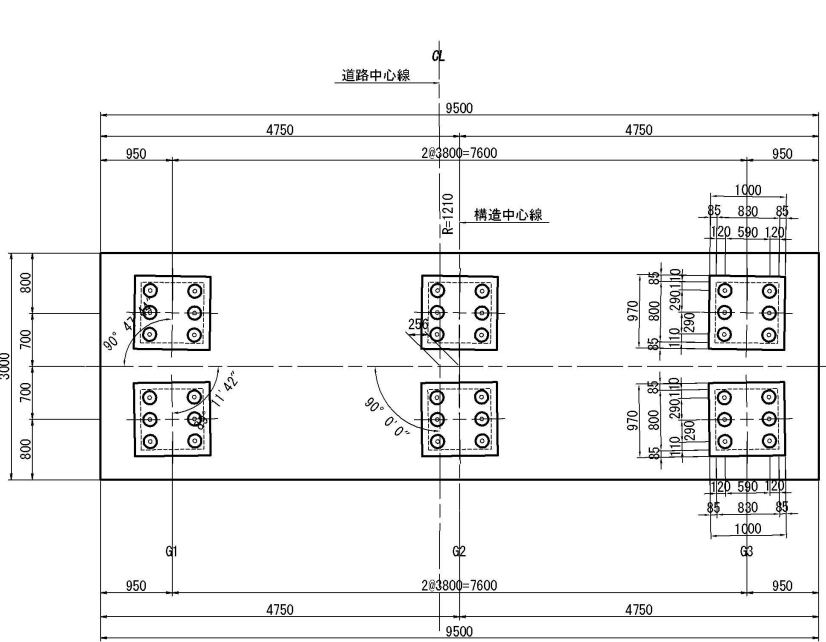
支承部詳細図 S= 1:50



平面図



支承配置図 S= 1:100



構造高表

		P1橋脚					
		A1橋台側			P2橋脚側		
		G1	G2	G3	G1	G2	G3
路面計画高	Z1	365.632	365.461	365.290	365.636	365.465	365.294
舗装厚	H1	0.108	0.098	0.088	0.108	0.098	0.088
床版厚	H2	0.200	0.200	0.200	0.200	0.200	0.200
桁高	H3	2.400	2.400	2.400	2.400	2.400	2.400
桁下端高 (レアー含む)	Z2	362.924	362.763	362.602	362.928	362.767	362.606
レアー厚	t1	0.040	0.040	0.040	0.040	0.040	0.040
支承高	H4	0.407	0.407	0.407	0.407	0.407	0.407
モルタル厚	t2	0.050	0.050	0.050	0.054	0.054	0.054
台座コンクリート厚	H5	-	-	-	-	-	-
下部工天端高	Z3	362.427	362.266	362.105	362.427	362.266	362.105
支承の方向	θ	89° 11' 42"			90° 47' 44"		

注) 舗装厚はアスファルト舗装・調整コンクリートの厚さを示す。

使用材料

コンクリート	躯体	σ _{ok} =30N/mm ²
	フーチング	σ _{ok} =24N/mm ²
鉄 筋	均しコンクリート	σ _{ok} =18N/mm ²
	梁	SD345
	柱	SD490
	フーチング	SD345

数 量 表

項 目	規格・寸法	単位	数 量	摘 要
構造物掘削	特殊部 A 2	m ³	1,514.0	土砂
		m ³	469.4	軟岩

道東自動車道 占冠地区下部工工事			
図面の種類	シム川橋（上り線） P 1 橋脚構造一般図		
縮 尺	図 示	図面番号	-
設計会社名	株式会社 日本構造橋梁研究所		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 北海道支社 帯広工事事務所		

注1) ◇印表記は機械式筋違法定型工法を示すものであり、下記の基準等を満足するものとする。

① 道路橋式筋違工法-同解説(H29, 11日本道路協会)

② 機械式筋違法定型工法の配筋設計ガイドライン
(H28, 7機械式筋違法定型工法技術検討委員会)

なお、定着体の設置方向は、施工条件に応じて定着体と平行形状の筋違の設置方向を変更してもよい。

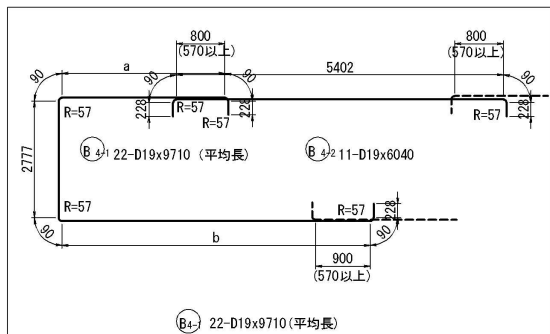
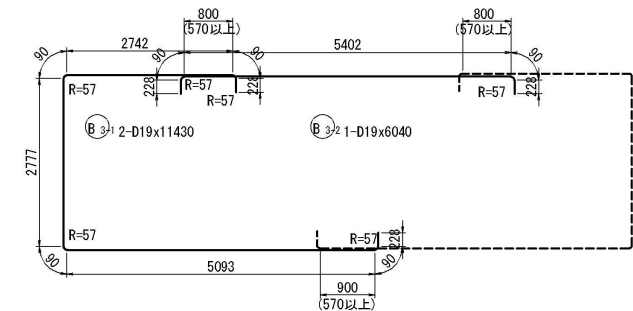
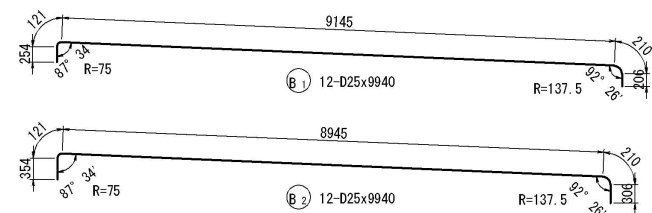
注2) 機械式定着筋は、被拘束筋に接触するように配置すること。
機械式定着筋は、10mm以内で可能な限り近づけること。

注3) 筋筋長は切り上げの10mm丸めとする。

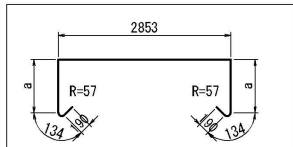
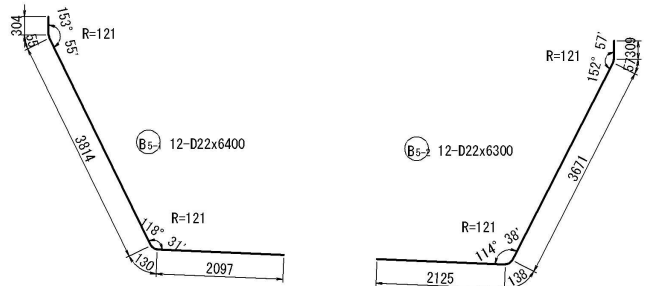
道東自動車道 占冠地区下部工工事				
図面の種類	シム川橋（上り線） P 1 橋脚配筋図（その 1）			
縮 尺	図 示	図面番号	-	
設計会社名	株式会社 日本橋造橋梁研究所			
施工会社名				
事務所名	東日本高速道路株式会社 北海道支社 帯広工事事務所			

支承補強鉄筋

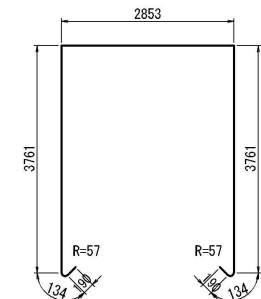
(6箇所)



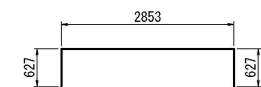
記号	径	本数	a	b	L
1	D19	2	2635	4986	11210
2	D19	2	2485	4836	10910
3	D19	2	2335	4686	10610
4	D19	2	2184	4535	10310
5	D19	2	2034	4385	10010
6	D19	2	1884	4235	9710
7	D19	2	1733	4084	9410
8	D19	2	1583	3934	9110
9	D19	2	1433	3784	8810
10	D19	2	1283	3634	8510
11	D19	2	1132	3483	8210
平均長		22			9710



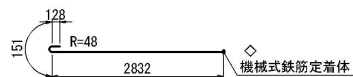
記号	径	本数	a	L
1	D19	1	691	4830
2	D19	1	991	5430
3	D19	1	1291	6030
4	D19	1	1791	7030
5	D19	1	2091	7630
6	D19	1	2391	8230
7	D19	1	2891	9230
8	D19	1	3191	9830
9	D19	1	3491	10430
10	D19	1	3495	10440
11	D19	1	3195	9840
12	D19	1	2895	9240
13	D19	1	2395	8240
14	D19	1	2095	7640
15	D19	1	1795	7040
16	D19	1	1295	6040
17	D19	1	995	5440
18	D19	1	695	4840
平均長		18		7635



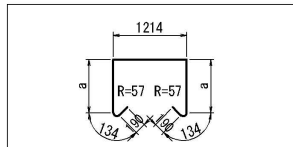
⑩ 30-D19x10980



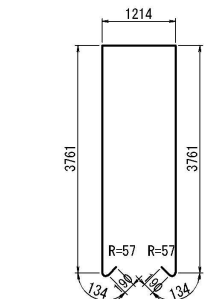
⑪ 8-D19x4060



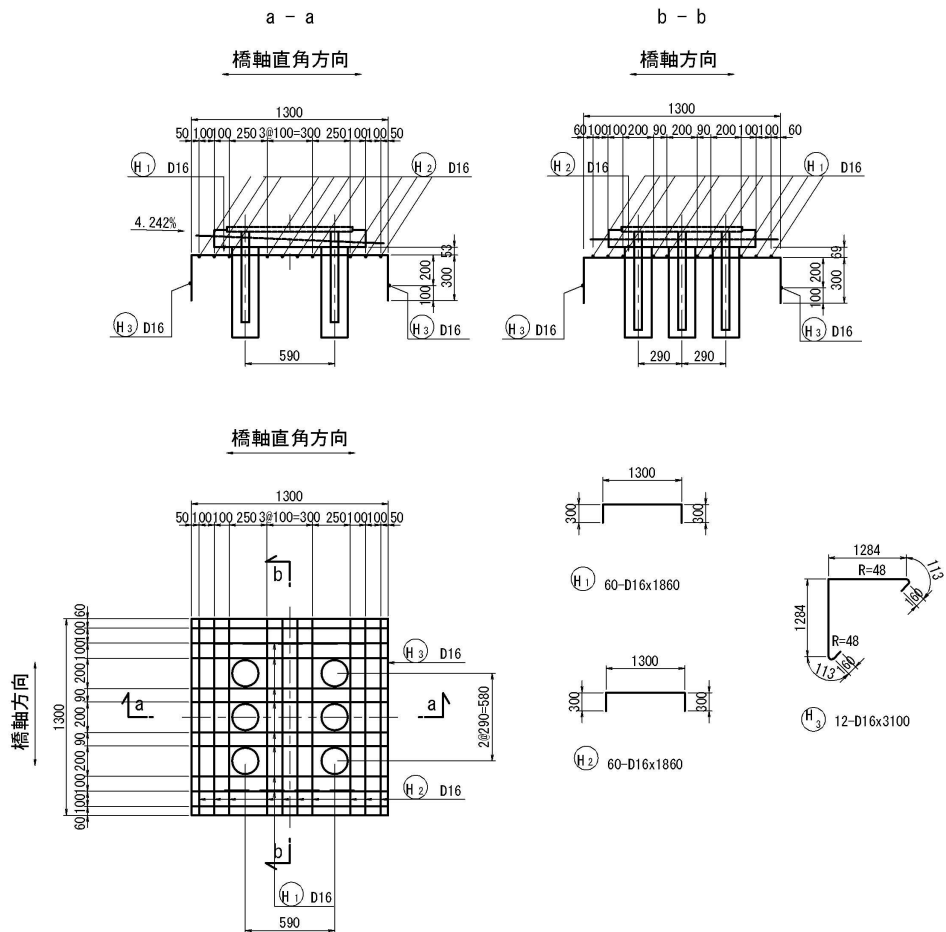
⑫ 40-D16x3120



記号	径	本数	a	L
1	D19	1	691	3190
2	D19	1	991	3790
3	D19	1	1291	4390
4	D19	1	1791	5390
5	D19	1	2091	5990
6	D19	1	2391	6590
7	D19	1	2891	7590
8	D19	1	3191	8190
9	D19	1	3491	8790
10	D19	1	3495	8800
11	D19	1	3195	8200
12	D19	1	2895	7600
13	D19	1	2395	6600
14	D19	1	2095	6000
15	D19	1	1795	5400
16	D19	1	1295	4400
17	D19	1	995	3800
18	D19	1	695	3200
平均長		18		5995

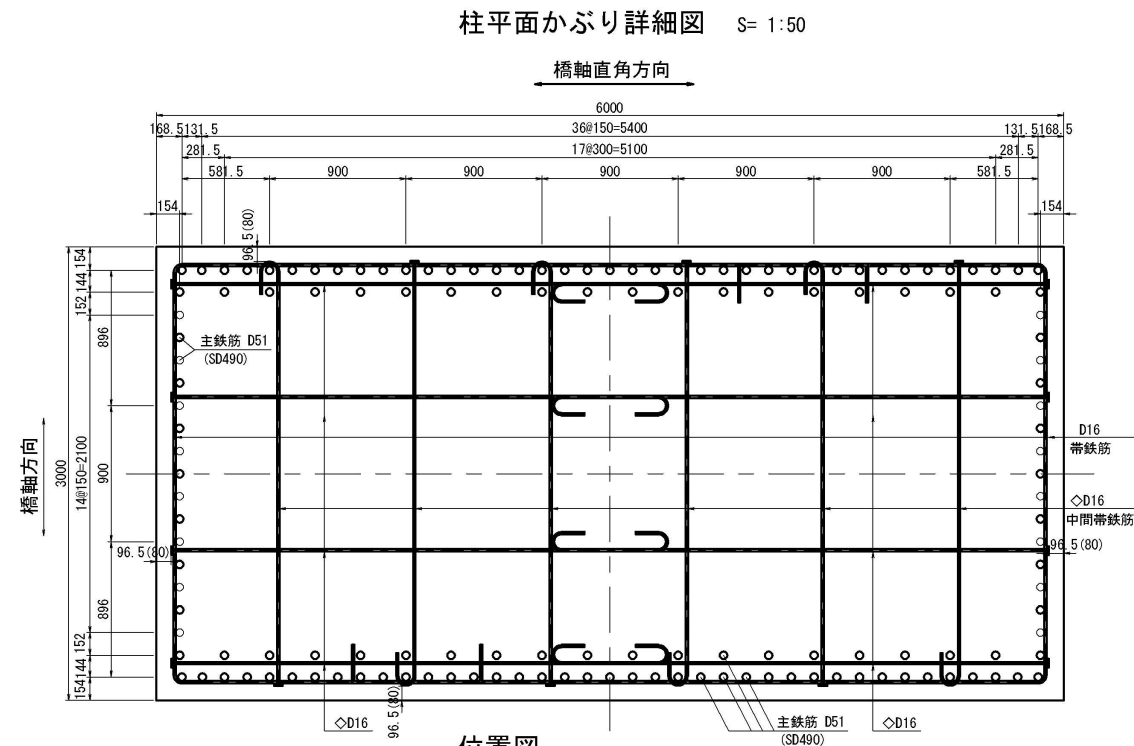
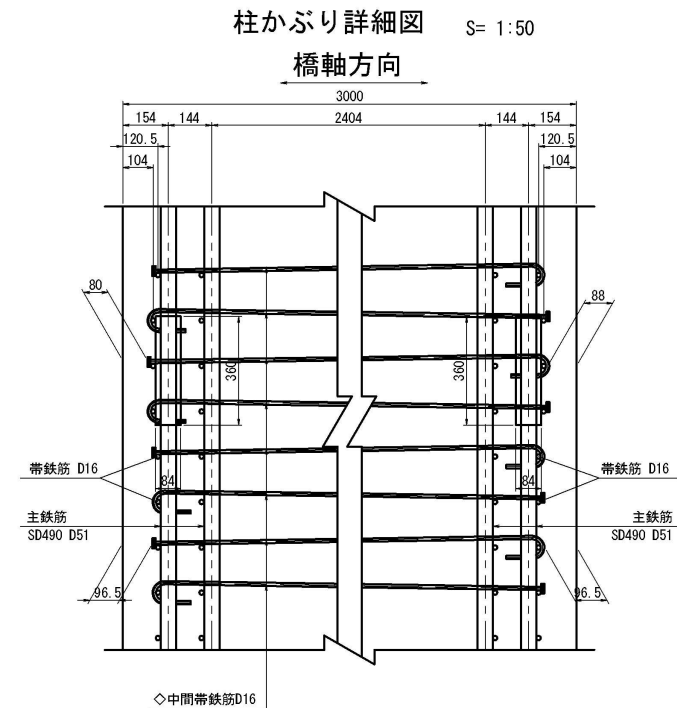
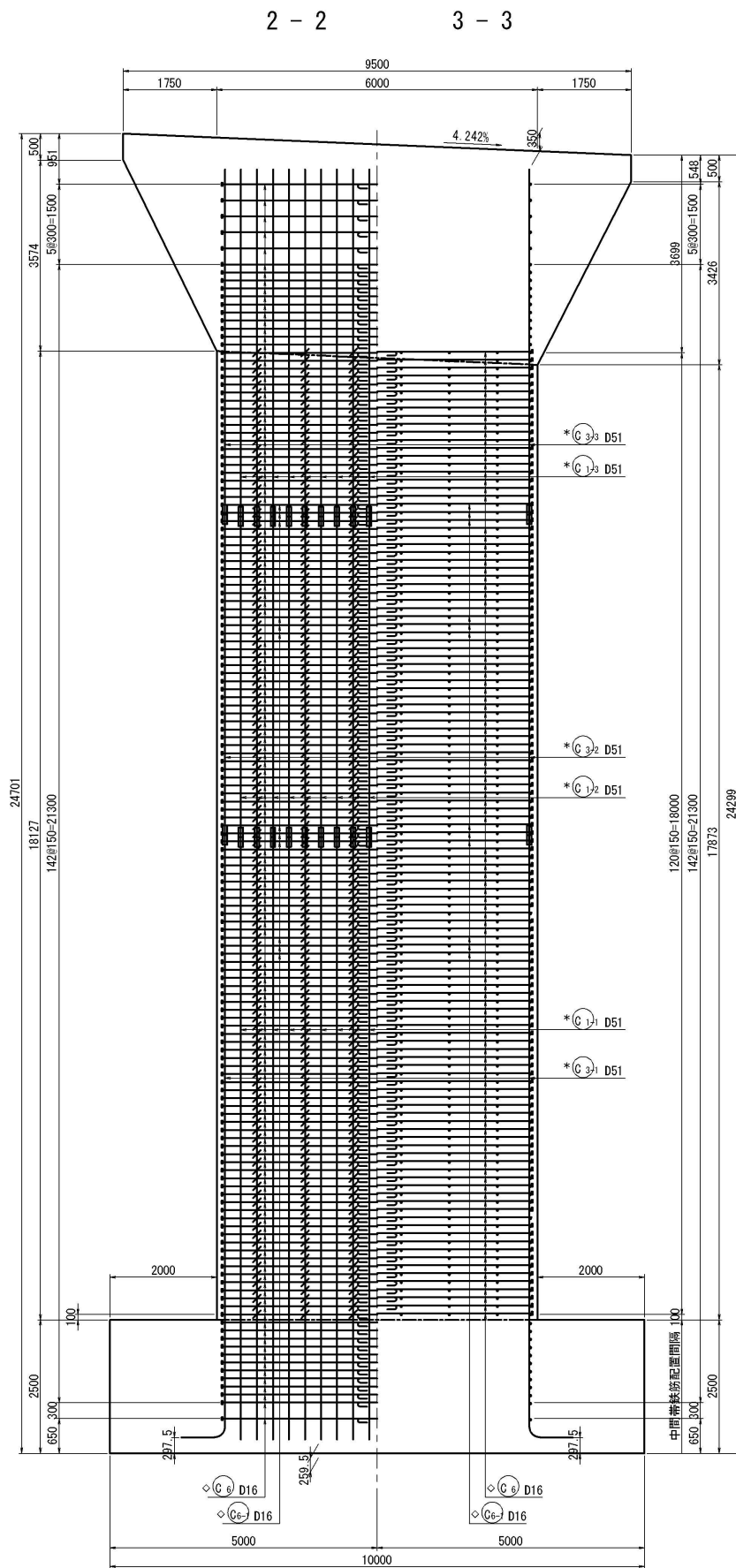
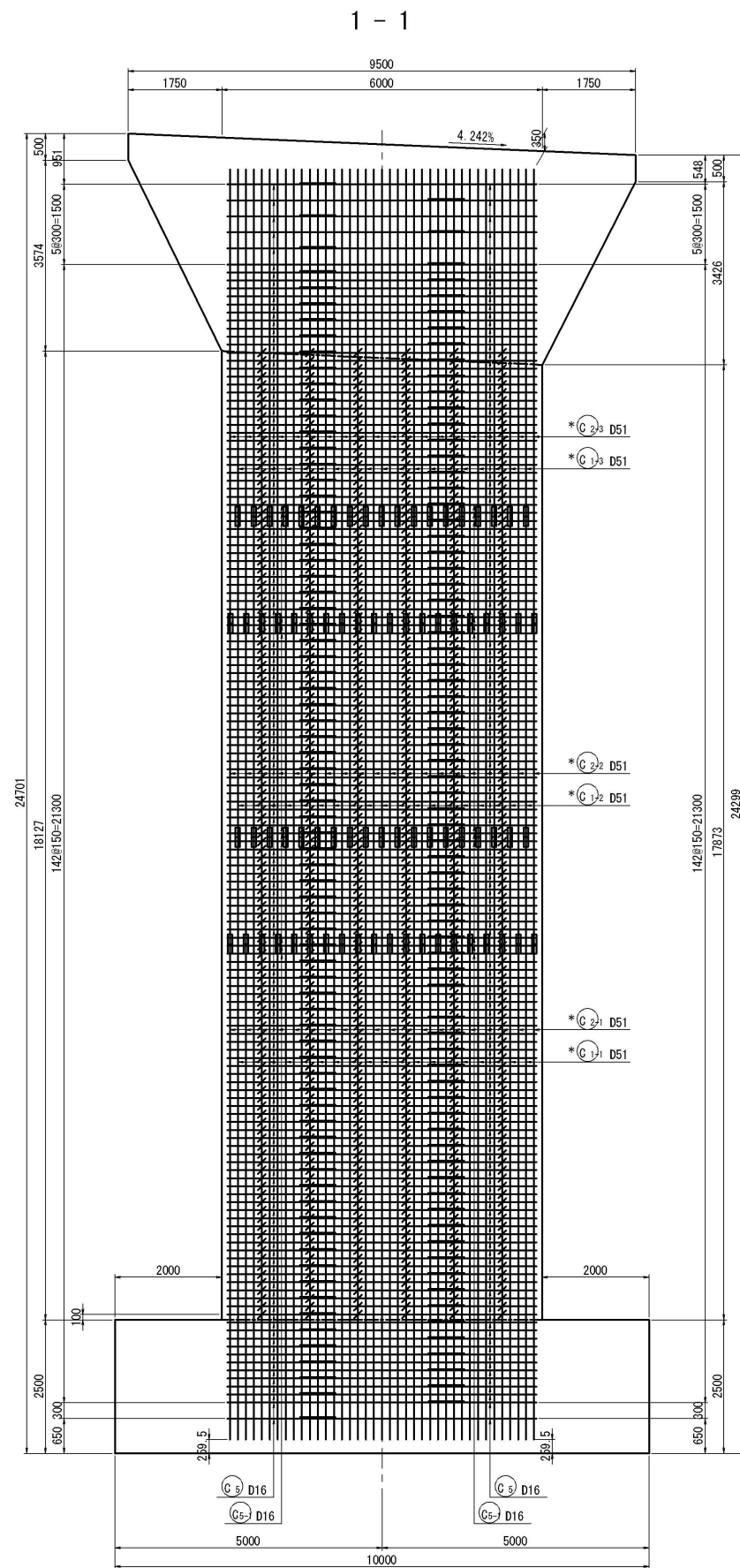


⑭ 30-D19x9340

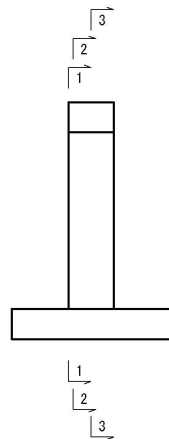


注1) ◇印表記は機械式鉄筋定着工法を示すものであり、下記の基準等を満足すること。
1. 道路橋示方書-同解説 (H29.11日本道路協会)
2. 機械式鉄筋定着工法の配筋設計ガイドライン (H28.7機械式鉄筋定着工法技術検討委員会)
なお、定着体の設置方向は、施工条件に応じて定着体と半円形フックの設置方向を変更してもよい。
注2) 機械式定着鉄筋は、被拘束鉄筋に接触するように配置すること。
機械式定着鉄筋は、主鉄筋に可能な限り近づけること。
注3) 鉄筋長は切り上げの10mm丸めとする。

道東自動車道 占冠地区下部工工事			
図面の種類	シム川橋（上り線） P 1 橋脚配筋図（その2）		
縮尺	図示	図面番号	-
設計会社名	株式会社 日本橋梁研究所		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 北海道支社 帯広工事事務所		



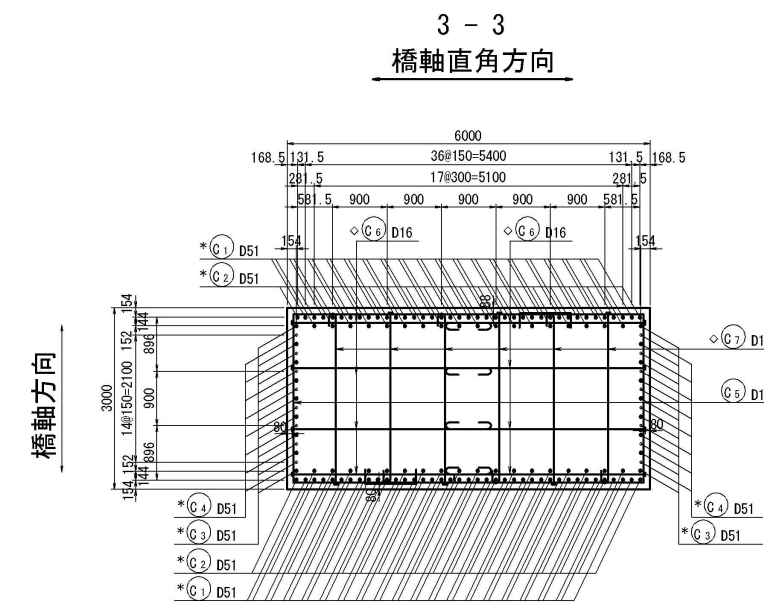
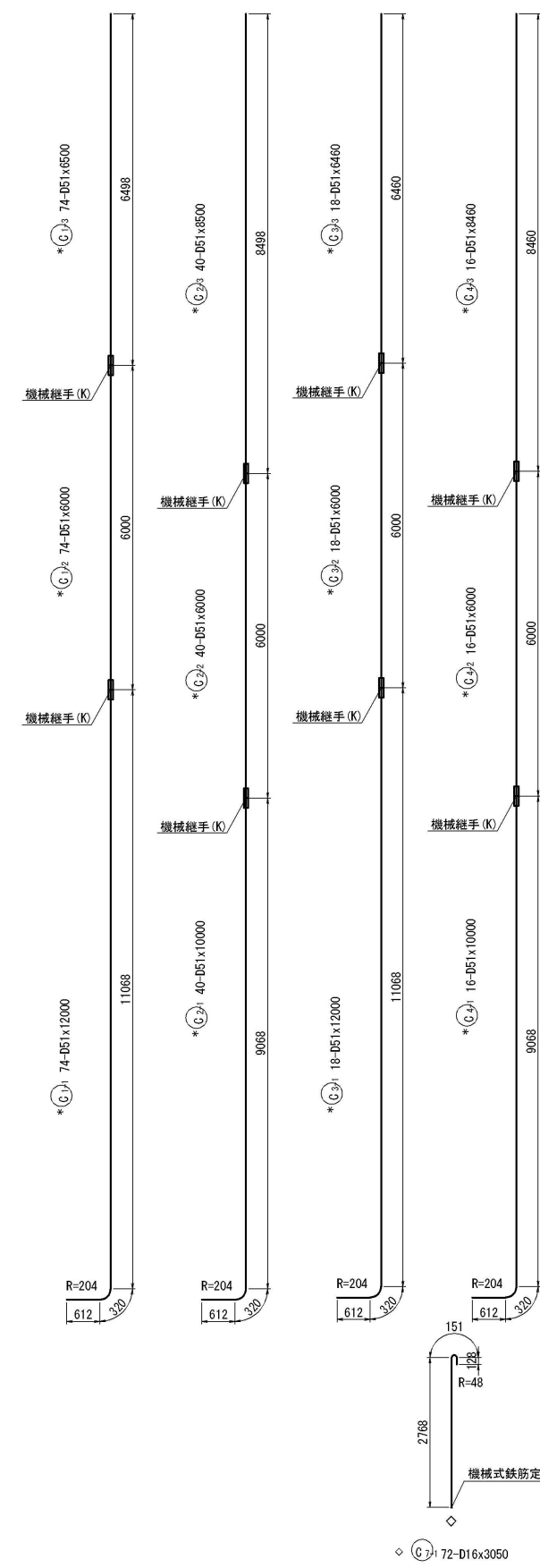
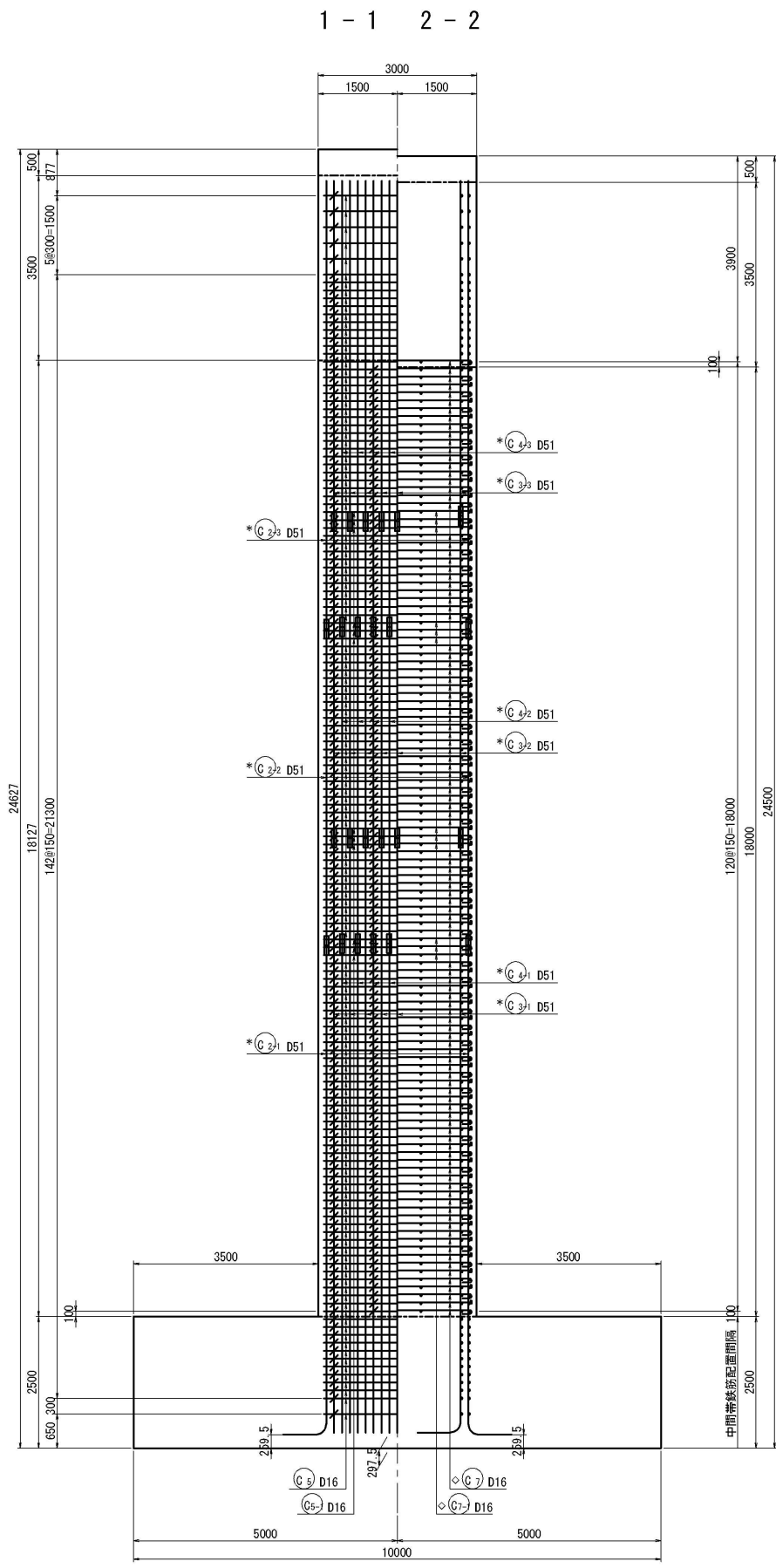
位置図



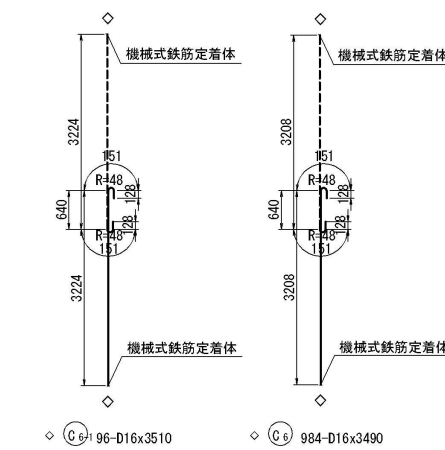
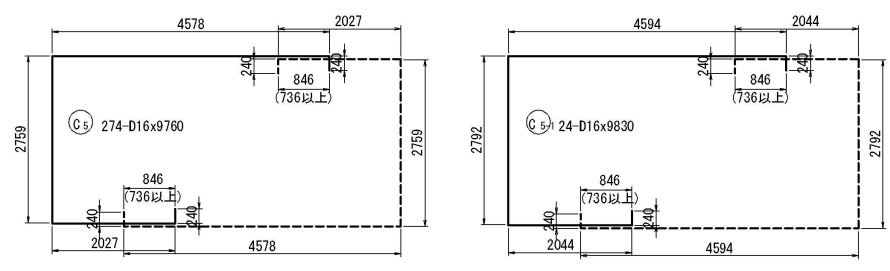
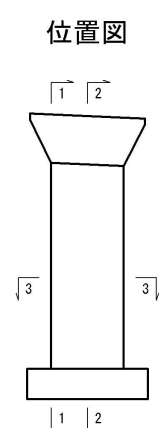
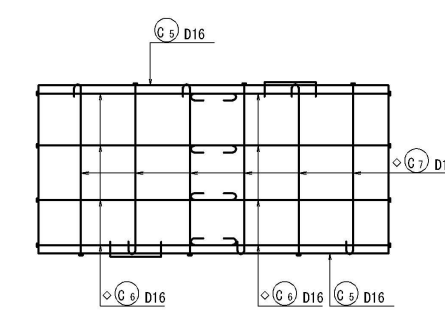
注) () 内の値は、機械式継手部の値を示す。

注) 鉄筋長は切り上げの10mm丸めとする。
* 印の鉄筋はSD490鉄筋を示す。

道東自動車道 占冠地区下部工工事			
図面の種類	シム川橋（上り線） P 1 橋脚配筋図（その3）		
縮 尺	図 示	図面番号	-
設計会社名	株式会社 日本構造橋梁研究所		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 北海道支社 帯広工事事務所		

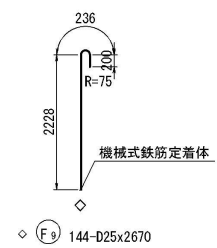
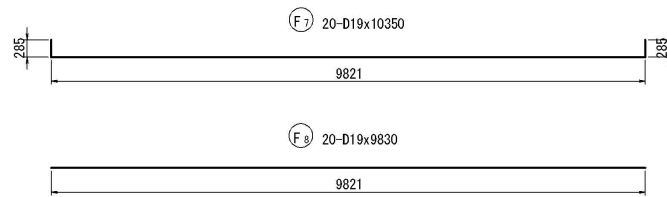
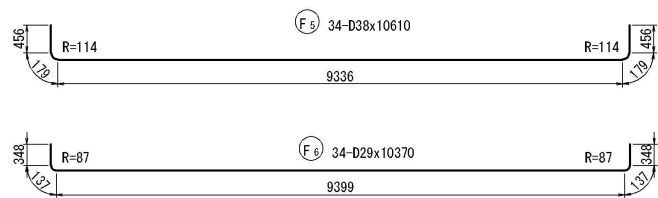
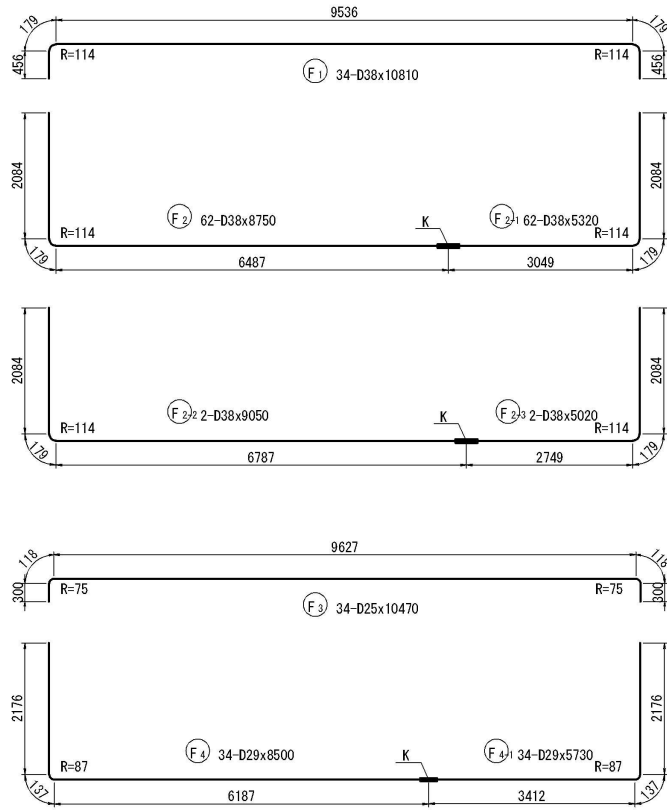
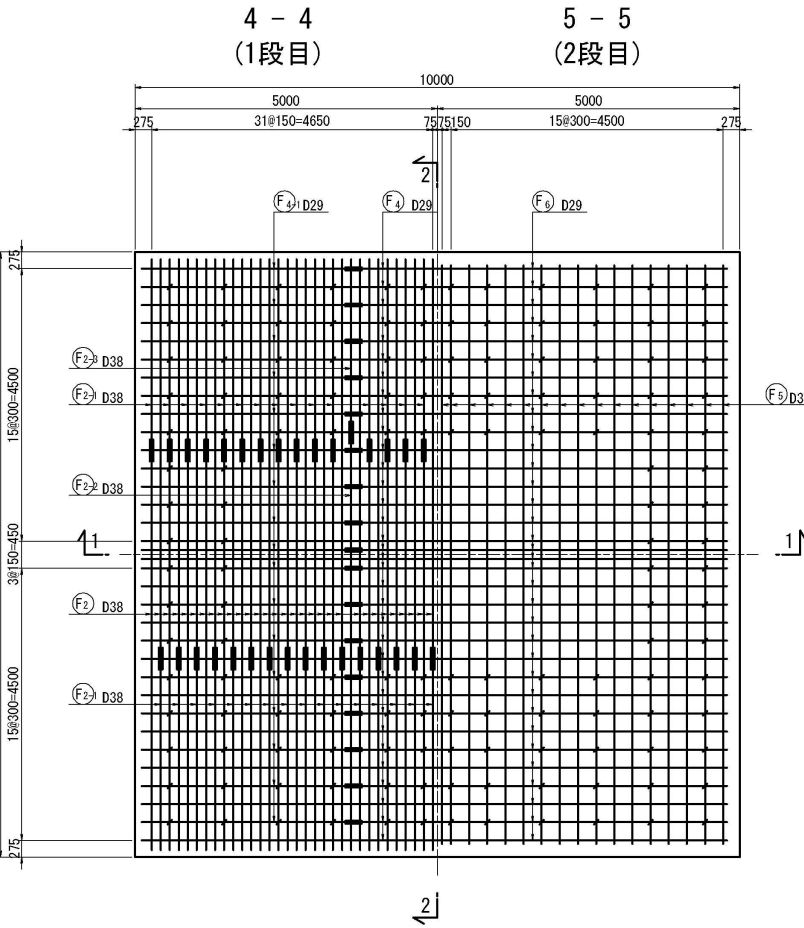
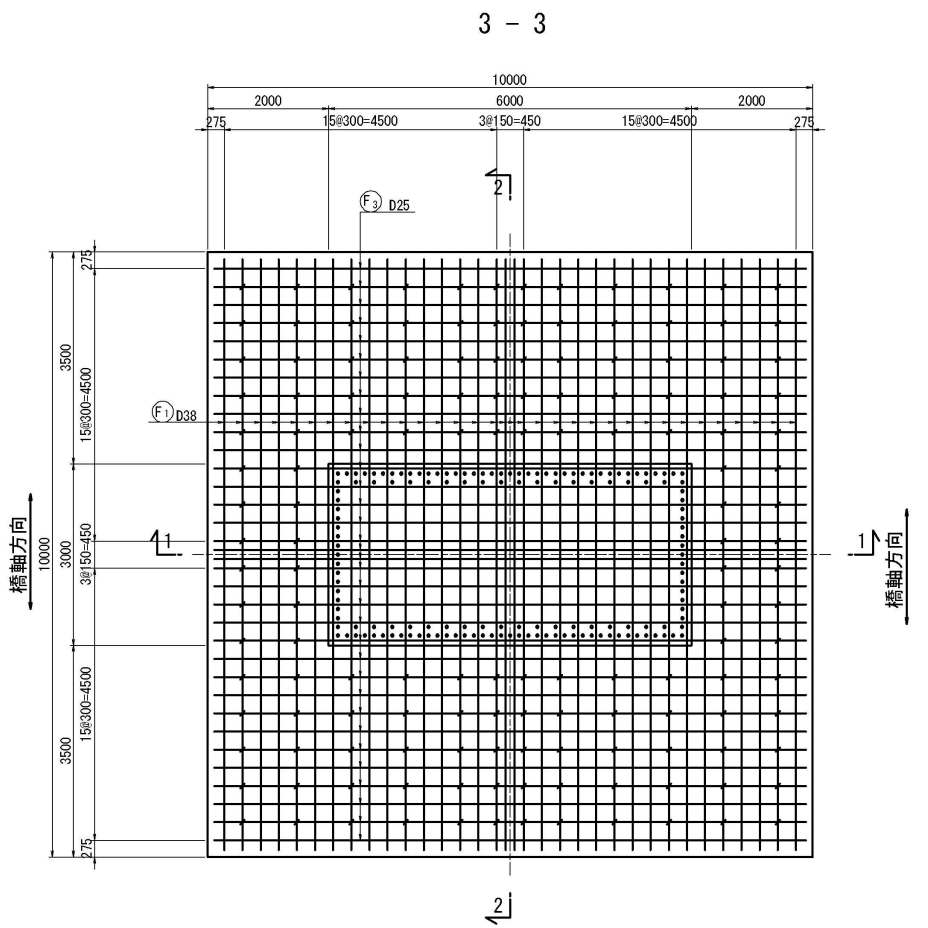
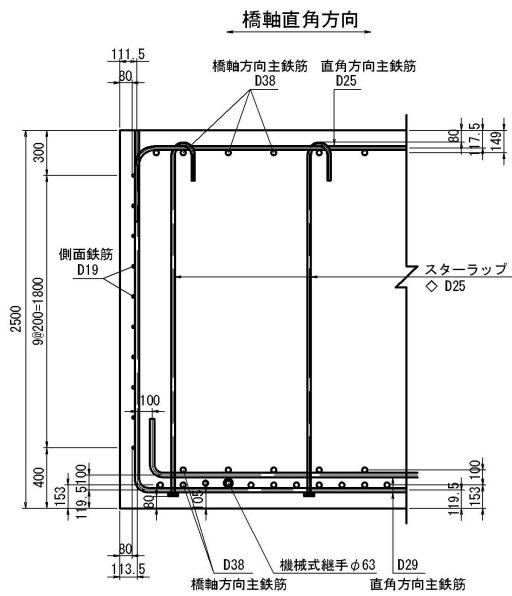
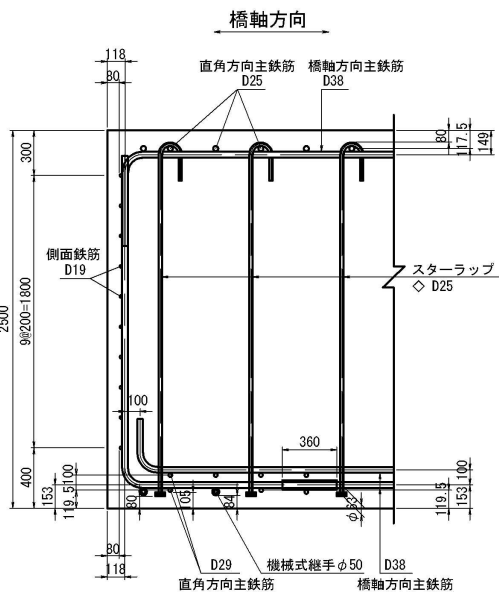
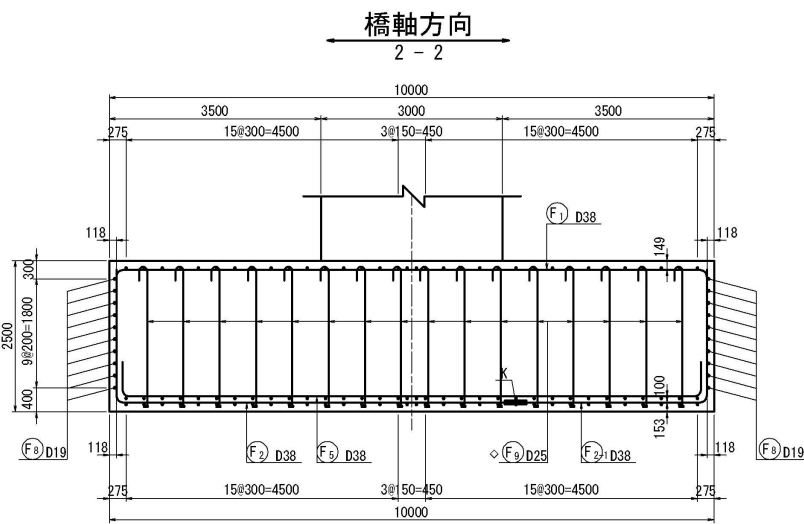
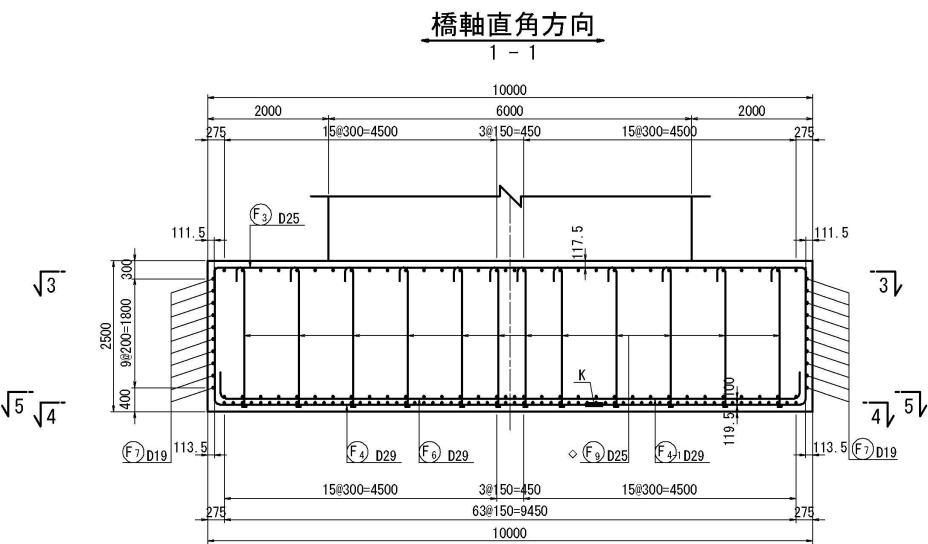


帯鉄筋組立図



注1) ◇印表記は機械式鉄筋定着工法を示すものであり、下記の基準等を満足すること。
1. 道路橋示方書-同解説 (H29.11日本道路協会)
2. 機械式鉄筋定着工法の配筋設計ガイドライン (H28.7機械式鉄筋定着工法技術検討委員会)
なお、定着体の設置方向は、施工条件に応じて定着体と半円形フックの設置方向を変更してもよい。
注2) 鉄筋長は切り上げの10mm丸めとする。
* 印の鉄筋はSD490鉄筋を示す。

道東自動車道 占冠地区下部工工事			
図面の種類	シム川橋（上り線） P 1 橋脚配筋図（その4）		
縮 尺	図 示	図面番号	-
設計会社名	株式会社 日本構造橋梁研究所		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 北海道支社 帯広工事事務所		



注1) ◇印表記は機械式鉄筋定着工法を示すものであり、下記の基準等を満足すること。
1. 道路橋示方書-同解説 (H29.11日本道路協会)
2. 機械式鉄筋定着工法の配筋設計ガイドライン (H28.7機械式鉄筋定着工法技術検討委員会)
なお、定着体の設置方向は、施工条件に応じて定着体と半円形フックの設置方向を変更してもよい。

道東自動車道 占冠地区下部工工事			
図面の種類	シム川橋（上り線） P 1 橋脚配筋図（その5）		
縮 尺	図 示	図面番号	-
設計会社名	株式会社 日本橋造橋梁研究所		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 北海道支社 帯広工事事務所		

鉄筋表（下部工施工）

符号	径	長さ (mm)	本数	単位質量 (kg/m)	1本当り質量 (kg)	総質量 (kg)	摘要	
B 1	D25	9940	12	3.98	39.6	475		
B 2	D25	9940	12	3.98	39.6	475		
B 3-1	D19	11430	2	2.25	25.7	51		
B 3-2	D19	6040	1	2.25	13.6	14		
B 4-1	D19	9710	22	2.25	21.8	480	(平均長)	
B 4-2	D19	6040	11	2.25	13.6	150		
B 5-1	D22	6400	12	3.04	19.5	234		
B 5-2	D22	6300	12	3.04	19.2	230		
B 6	D19	7640	18	2.25	17.2	310	(平均長)	
B 7	D19	10980	30	2.25	24.7	741		
B 7-1	D19	4060	8	2.25	9.14	73		
B 8	D19	6000	18	2.25	13.5	243		
B 9	D19	9340	30	2.25	21.0	630	(平均長)	
B 10	D16	3120	40	1.56	4.87	195		
B 11	D19	3390	48	2.25	7.63	366	C (40)	
4667 kg								
H 1	D16	1860	60	1.56	2.90	174		
H 2	D16	1860	60	1.56	2.90	174		
H 3	D16	3100	12	1.56	4.84	58		
406 kg								
* C 1-1	D51	12000	74	15.9	191	14134	^K B<74>	
* C 1-2	D51	6000	74	15.9	95.4	7060		
* C 1-3	D51	6500	74	15.9	103	7622	^K B<->	
* C 2-1	D51	10000	40	15.9	159	6360		
* C 2-2	D51	6000	40	15.9	95.4	3816	^K B<40>	
* C 2-3	D51	8500	40	15.9	135	5400		
* C 3-1	D51	12000	18	15.9	191	3438	^K B<18>	
* C 3-2	D51	6000	18	15.9	95.4	1717		
* C 3-3	D51	6460	18	15.9	103	1854	^K B<->	
* C 4-1	D51	10000	16	15.9	159	2544		
* C 4-2	D51	6000	16	15.9	95.4	1526	^K B<16>	
* C 4-3	D51	8460	16	15.9	135	2160		
C 5	D16	9760	274	1.56	15.2	4165	^K B<->	
C 5-1	D16	9830	24	1.56	15.3	367		
C 6	D16	3490	984	1.56	5.44	5353	^K C (984)	
C 6-1	D16	3510	96	1.56	5.48	526		
C 7	D16	3020	654	1.56	4.71	3080	^K C (654)	
C 7-1	D16	3050	72	1.56	4.76	343		
71465 kg								
F 1	D38	10810	34	8.95	96.7	3288		
F 2	D38	8750	62	8.95	78.3	4855		
F 2-1	D38	5320	62	8.95	47.6	2951	^K B<->	
F 2-2	D38	9050	2	8.95	81.0	162		
F 2-3	D38	5020	2	8.95	44.9	90	^K B<->	
F 3	D25	10470	34	3.98	41.7	1418		
F 4	D29	8500	34	5.04	42.8	1455	^K B<34>	
F 4-1	D29	5730	34	5.04	28.9	983		
F 5	D38	10610	34	8.95	95.0	3230	^K B<->	
F 6	D29	10370	34	5.04	52.3	1778		
F 7	D19	10350	20	2.25	23.3	466		
F 8	D19	9830	20	2.25	22.1	442		
F 9	D25	2670	144	3.98	10.6	1526	^K C (144)	
22644 kg								
鉄筋質量集計 (下部工施工) (SD490)								
A種鉄筋		B種鉄筋	C種鉄筋	合計	<機械継手箇所数>			
D51		57631 kg	-	57631 kg	<296>			
合 計		57631 kg	-	57631 kg	<296>			
鉄筋質量集計 (下部工施工) (SD345)								
A種鉄筋		B種鉄筋	C種鉄筋	合計	<機械継手> (機械式鉄筋) (箇所数) (定着箇所数)			
D38		6518 kg	8058 kg	-	14576 kg	<64>		
D29		1778 kg	2438 kg	-	4216 kg	<34>		
D25		2368 kg	-	1526 kg	3894 kg	(144)		
D22		464 kg	-	-	464 kg			
D19		3966 kg	-	-	3966 kg			
D16		4938 kg	-	9497 kg	14435 kg	(1846)		
合 計		20032 kg	10496 kg	11023 kg	41551 kg	<98> (1990)		
< > 内数値は、機械継手の箇所数を示す。								
() 内数値は、機械式鉄筋定着工法箇所数を示す。								

鉄筋集計表（SD490）

種 別		下部工施工		合計 (kg)	
		躯体	計 (kg)		
A (SD490)	D16～D25	D16	—	—	
		D19	—	—	
		D22	—	—	
		D25	—	—	
		小計	—	—	
	D29～D32	D29	—	—	
		D32	—	—	
		小計	—	—	
	D35		—	—	
	D38		—	—	
A の 合 計		—	—		
B (SD490)	D16～D25	D16	—	—	
		D19	—	—	
		D22	—	—	
		D25	—	—	
		小計	—	—	
	D29～D32	D29	—	—	
		D32	—	—	
		小計	—	—	
	D35		—	—	
	D38		—	—	
	D51		57631	57631	57631
	B の 合 計		57631	57631	57631
鉄筋総質量		57631	57631	57631	

鉄筋集計表（SD345）

種 別		下部工施工		合計 (kg)
		躯体	計 (kg)	
A (SD345)	D16～D25	D16	4938	4938
		D19	3966	3966
		D22	464	464
		D25	2368	2368
		小計	11736	11736
	D29～D32	D29	1778	1778
		D32	—	—
		小計	1778	1778
		D38	6518	6518
		D41	—	—
A の 合 計		20032	20032	
B (SD345)	D29～D32	D29	2438	2438
		D32	—	—
		小計	2438	2438
	D38	8058	8058	
	B の 合 計		10496	10496
C (SD345)	D16～D25	D16	9497	9497
		D19	—	—
		D22	—	—
		D25	1526	1526
		小計	11023	11023
	C の 合 計		11023	11023
鉄筋総質量		41551	41551	

機械継手箇所数

項目	鉄筋径	継手箇所数	合 計
機械継手箇所数	D25	—	—
	D29	34	34
	D32	—	—
	D38	64	64
	D41	—	—
	D51	296	296
合 計		394	394

機械式鉄筋定着工法数量表

鉄筋径	0<L≤1m	1m<L≤2m	2m<L≤3m	3m<L≤4m	4m<L≤5m	5m<L≤6m
D16	—	—	—	1846	—	—
D19	—	—	—	—	—	—
D25	—	—	144	—	—	—
合計	1990					

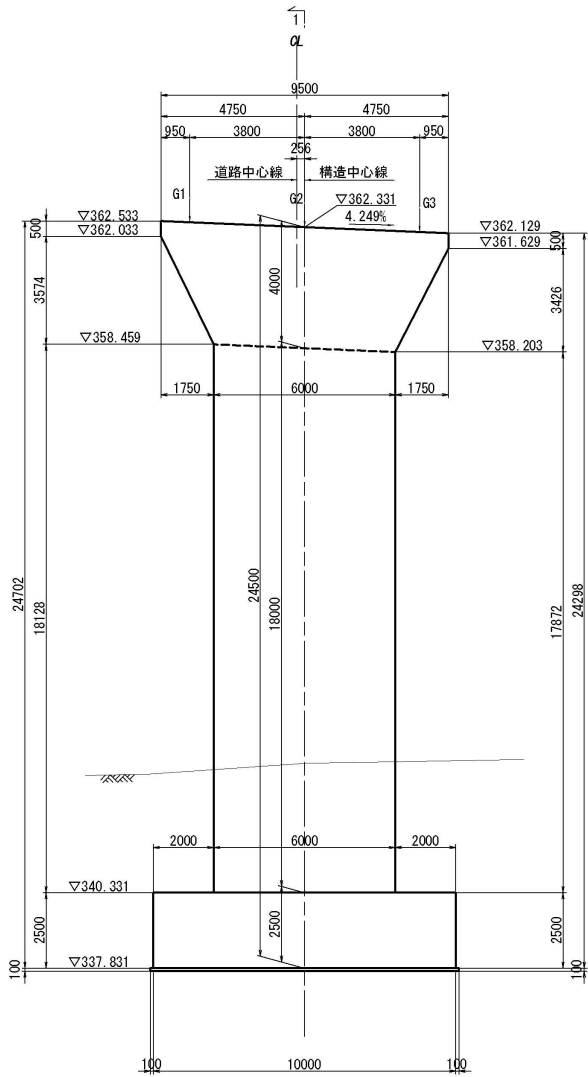
鉄筋加工寸法表（SD345）

主 筋		鋭角フック		半円径フック		直角フック	
		10φ以上	8φ以上で12cm以上	90°	12φ	△L=2L-a	
径	θ ≤90° R=3.0φ	θ >90° R=5.5φ	θ =45°	θ =60°	θ =90°	θ =135°	
主 筋	D13	39	71.5	92	96	82	53
	D16	48	88	113	119	100	66
	D19	57	104.5	134	141	119	78
	D22	66	121	155	164	138	91
	D25	75	137.5	177	185	157	103
	D29	87	159.5	205	215	182	119
	D32	96	176	226	237	201	132
	D35	105	192.5	247	260	220	144
	D38	114	209	269	281	239	156
	D41	123	225.5	290	304	258	168
中間帯鉄筋	D51	153	280.5	360	379	320	210
	R=3.0φ		鋭角フック	半円径フック	直 角 フ ッ ク		
	D13		a	a	a	△L	
	D16		92	123	61	17	
	D19		113	151	75	21	
ス タ ー ラ ッ プ	D22		134	179	89	25	
	D25		156	207	104	28	
	D29		177	236	118	32	
	D32		205	273	137	37	
	D35		205	273	137	37	
R=2.5φ		直角フック		—		—	
D13		a	△L	—	—	—	
D16		51	14	—	—	—	
D19		63	17	—	—	—	
D22		75	20	—	—	—	
D25		86	24	—	—	—	
D29		98	27	—	—	—	
D32		114	31	—	—	—	

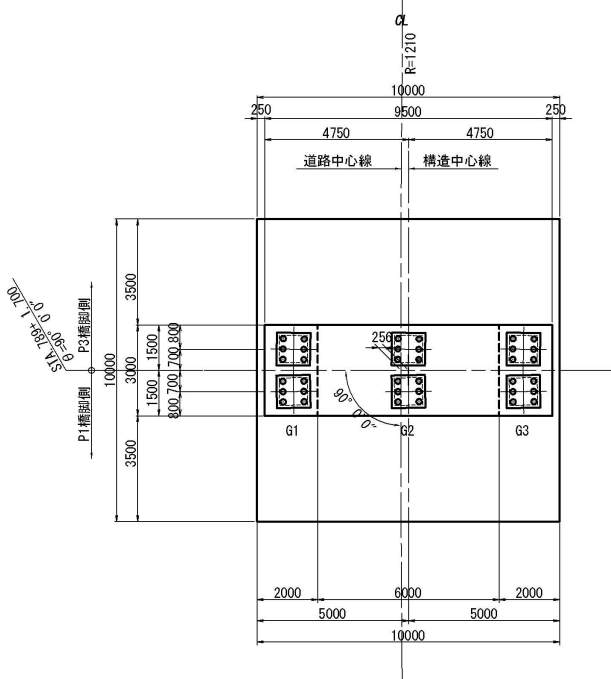
鉄筋加工寸法表（SD490）

主 筋							
$\Delta L = 2L - a$							
径	$\theta \leq 90^\circ$ $R = 4.0\phi$	$\theta > 90^\circ$ $R = 5.5\phi$	$\theta = 90^\circ$		$\theta = 135^\circ$		
	a	ΔL	a	ΔL	a	ΔL	a
D13	52	71.5	82	22	56	3	
D16	64	88	101	27	69	4	
D19	76	104.5	119	33	82	5	
D22	88	121	138	38	95	5	
D25	100	137.5	157	43	108	6	
D29	116	159.5	182	50	125	7	
D32	128	176	201	55	138	8	
D35	140	192.5	220	60	151	8	
D38	152	209	239	65	164	9	
D51	204	280.5	320	88	220	12	

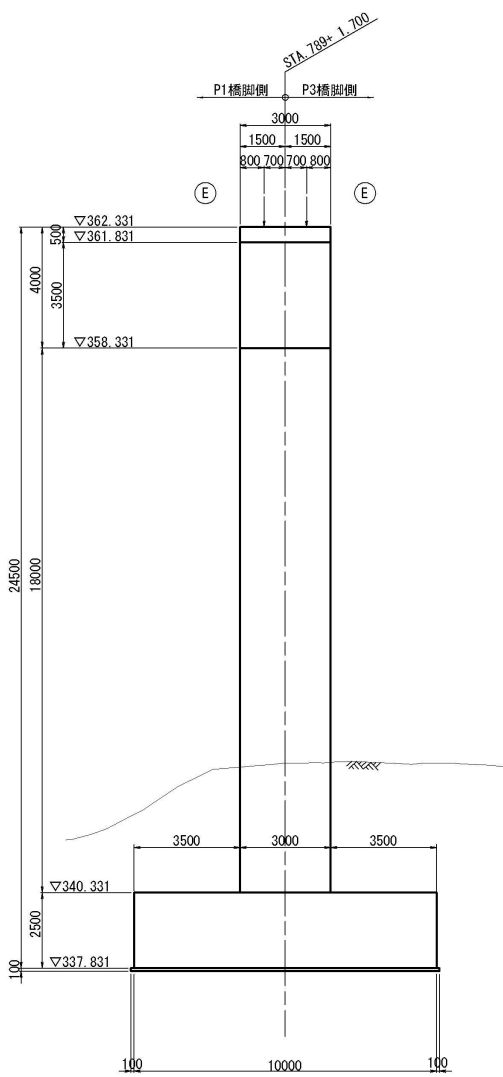
正面図



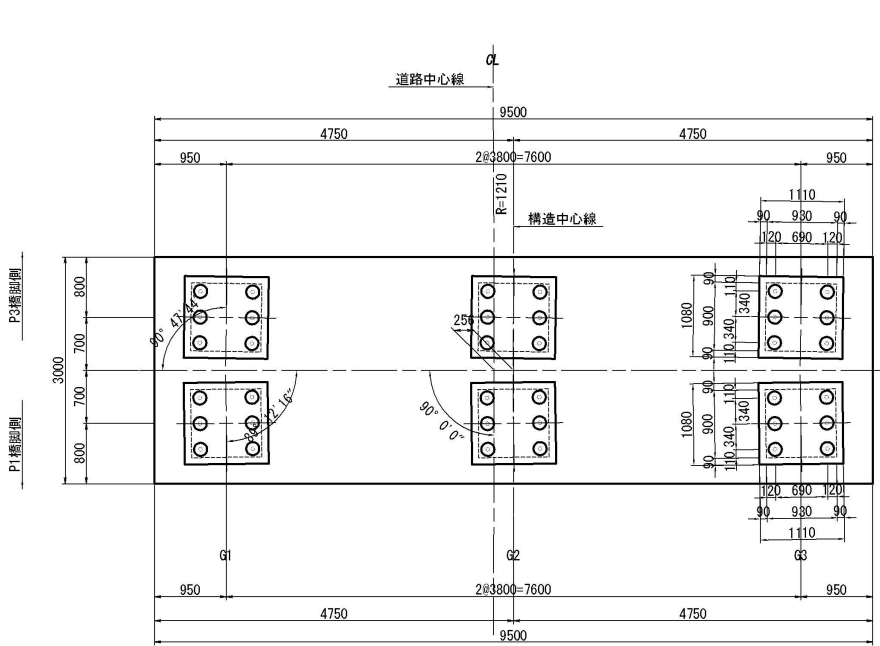
平面図



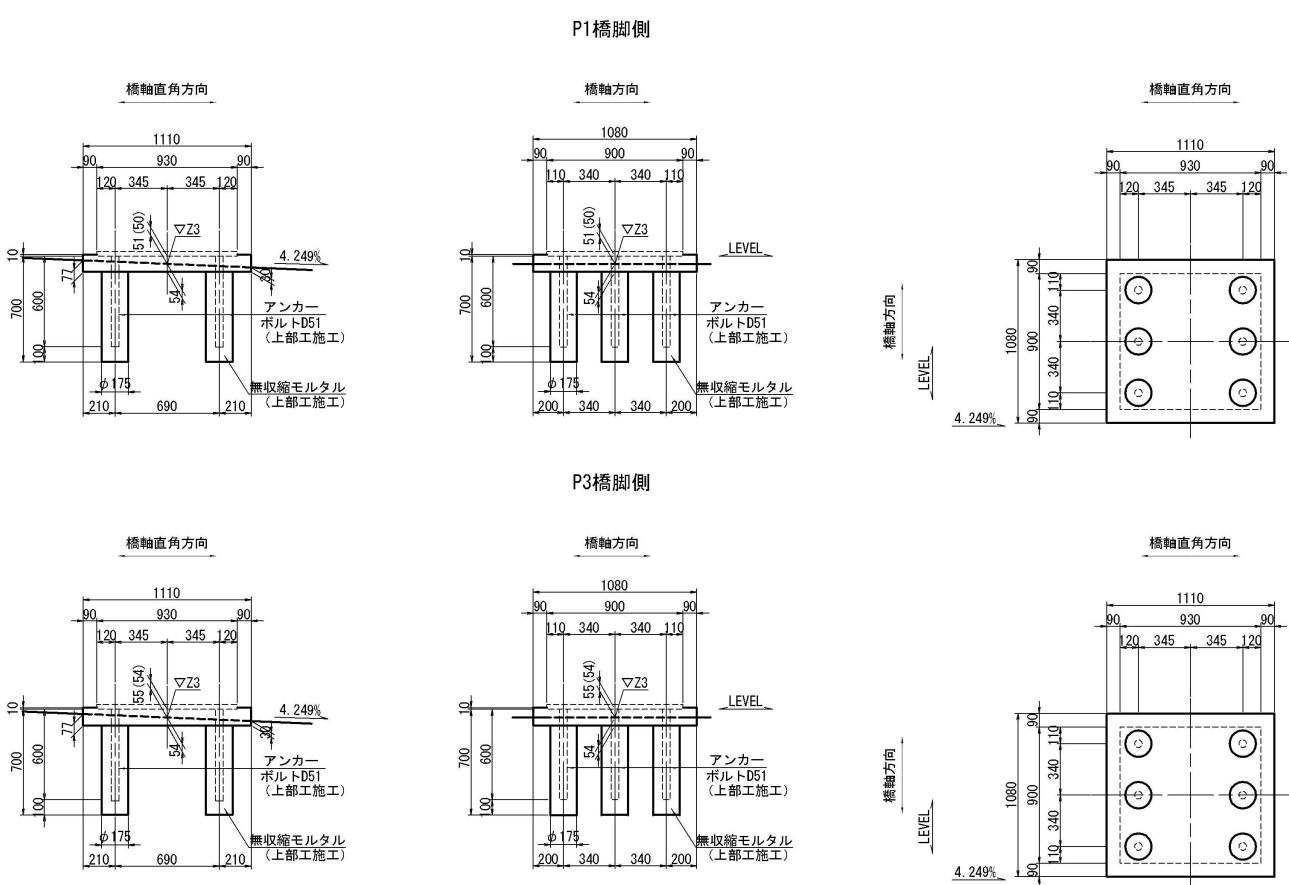
側面図 (1-1)



支承配置図 S=1:100



支承部詳細図 S=1:50



構造高表

		P2橋脚					
		G1	G2	G3	G1	G2	G3
路面計画高	Z1	365.733	365.562	365.391	365.737	365.566	365.395
舗装厚	H1	0.106	0.097	0.087	0.106	0.097	0.087
床版厚	H2	0.200	0.200	0.200	0.200	0.200	0.200
桁高	H3	2.400	2.400	2.400	2.400	2.400	2.400
桁下端高 (レアー含む)	Z2	363.027	362.865	362.704	363.031	362.869	362.708
レアー厚	t1	0.040	0.040	0.040	0.040	0.040	0.040
支承高	H4	0.444	0.444	0.444	0.444	0.444	0.444
モルタル厚	t2	0.050	0.050	0.051	0.054	0.054	0.055
台座コンクリート厚	H5	-	-	-	-	-	-
下部工天端高	Z3	362.493	362.331	362.169	362.493	362.331	362.169
支承の方向	θ	89° 12' 16"			90° 47' 44"		

注) 舗装厚はアスファルト舗装・調整コンクリートの厚さを示す。

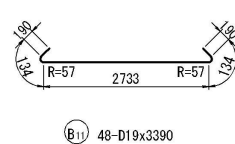
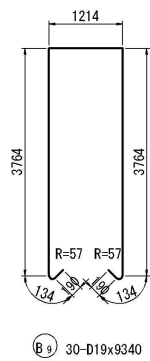
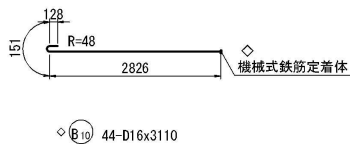
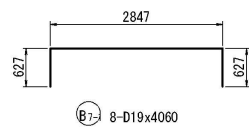
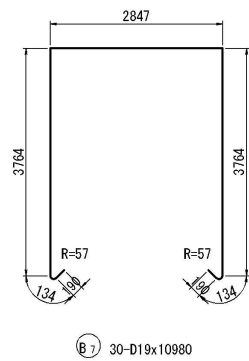
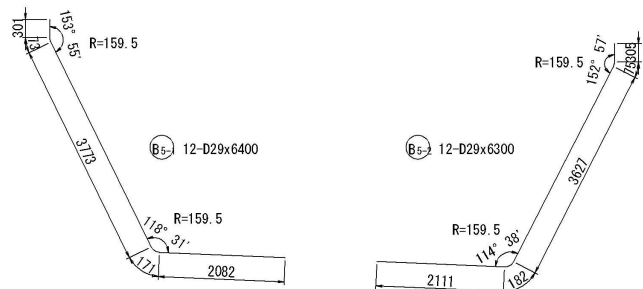
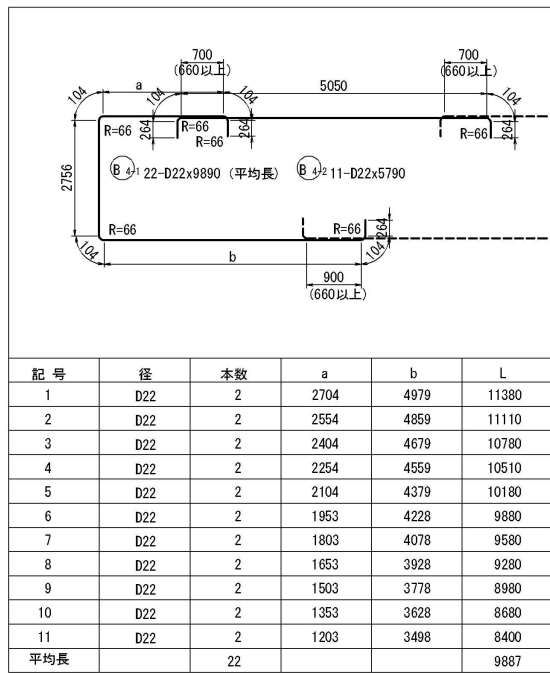
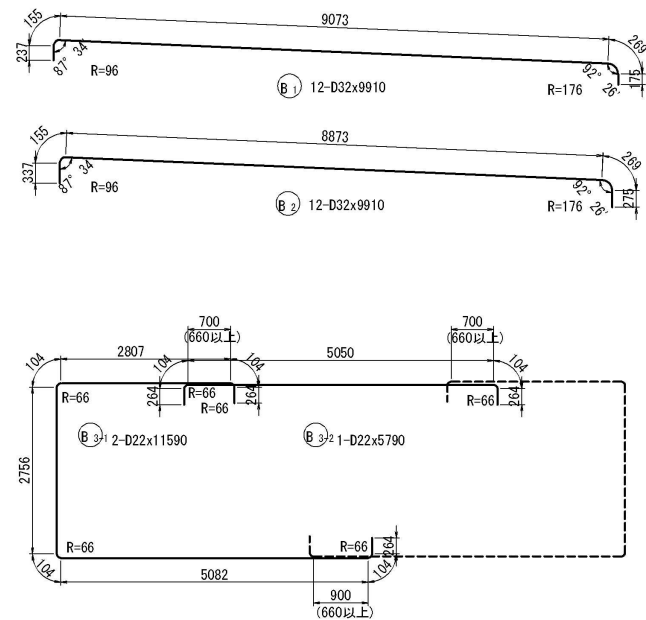
使用材料

コンクリート	躯体	σ _{ck} =30N/mm ²
	フーチング	σ _{ck} =24N/mm ²
	均しコンクリート	σ _{ck} =18N/mm ²
鉄筋	梁	SD345
	柱	SD490
	フーチング	SD345

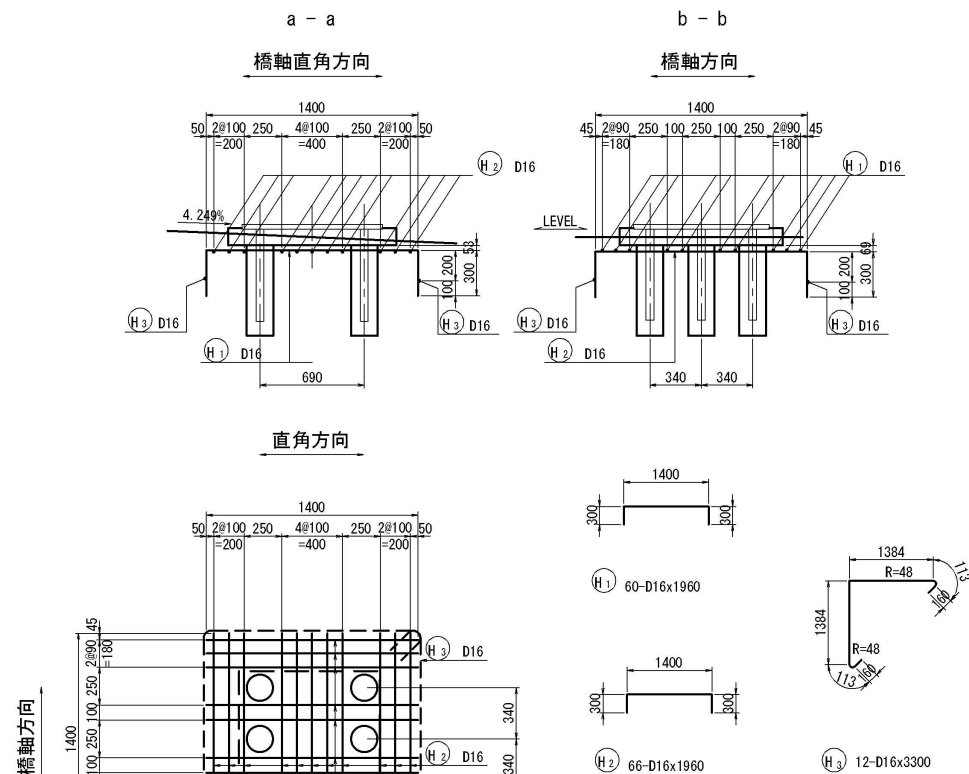
数量表

項目	規格・寸法	単位	数量	摘要
構造物掘削	特殊部 A 3	m ³	680.4	土砂
		m ³	504.5	軟岩

道東自動車道 占冠地区下部工工事			
図面の種類	シム川橋（上り線） P 2 橋脚構造一般図		
縮尺	図示	図面番号	-
設計会社名	株式会社 日本橋建設研究所		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 北海道支社 帯広工事事務所		



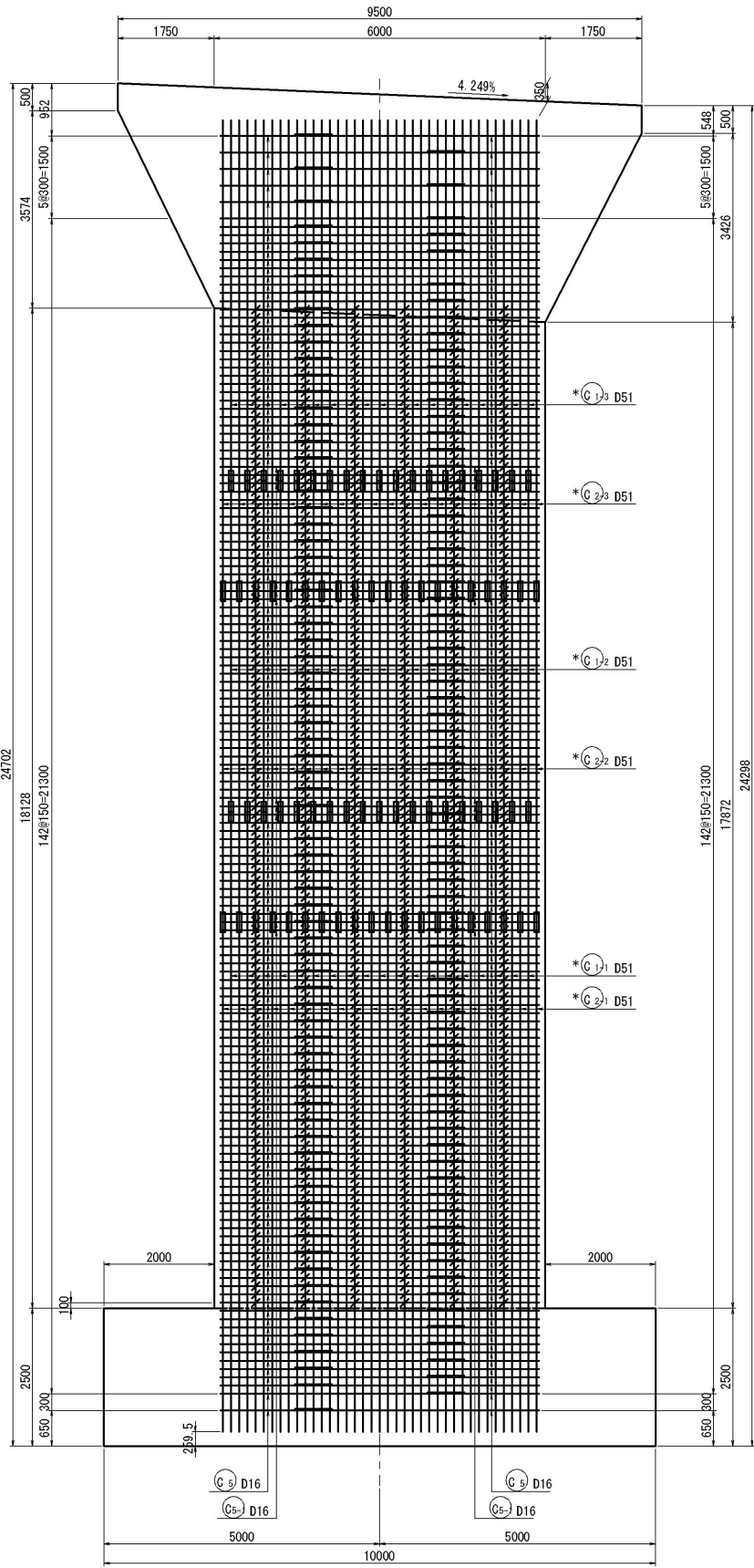
支承補強鉄筋図 S= 1:50
(6箇所)



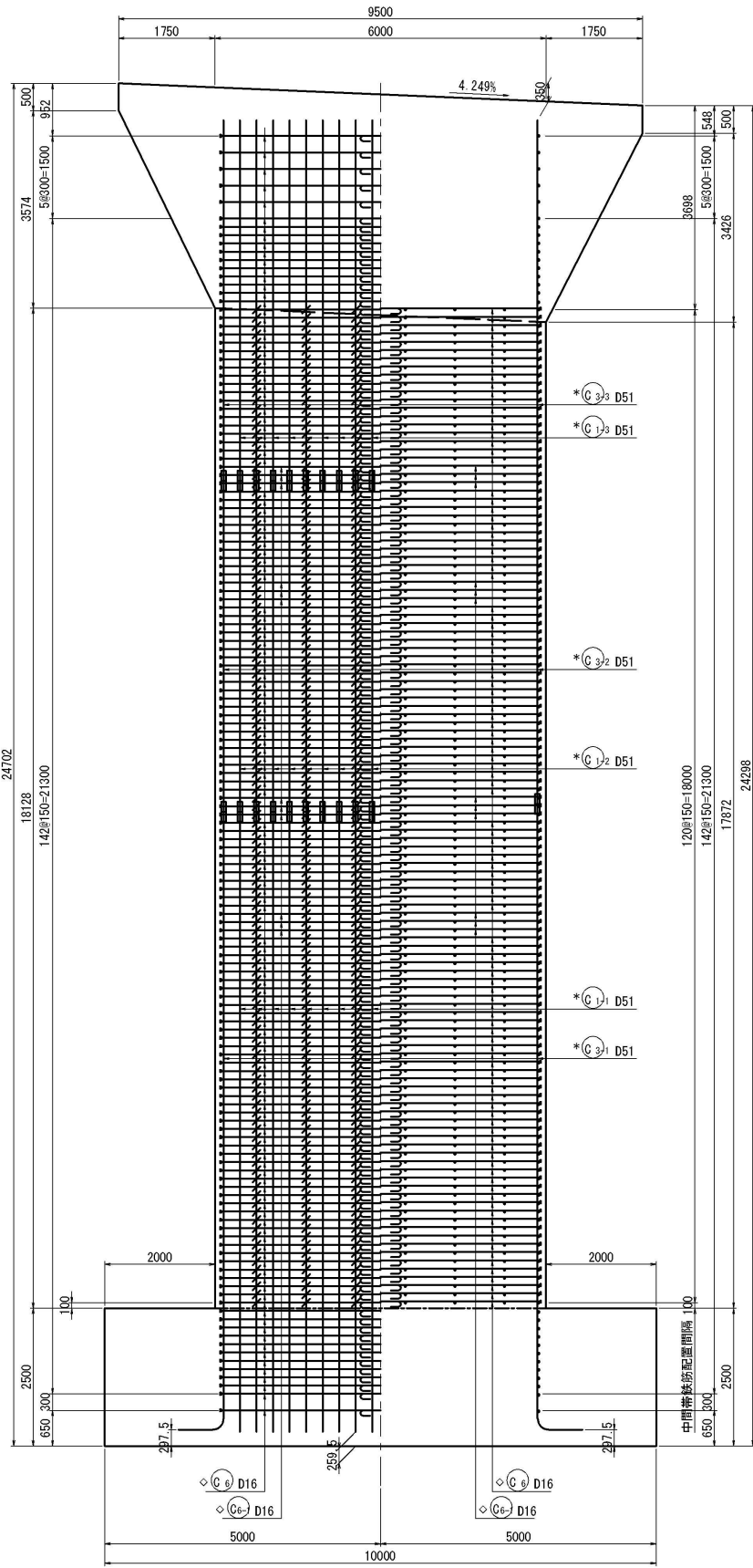
注1) ◇印表記は機械式鉄筋定着工法を示すものであり、下記の基準等を満足すること。
1. 道路橋示方書-同解説 (H29. 11日本道路協会)
2. 機械式鉄筋定着工法の配筋設計ガイドライン (H28. 7機械式鉄筋定着工法技術検討委員会)
なお、定着体の設置方向は、施工条件に応じて定着体と半円形フックの設置方向を変更してもよい。
注2) 機械式定着鉄筋は、被拘束鉄筋に接触するように配置すること。機械式定着鉄筋は、主鉄筋に可能な限り近づけること。
注3) 鉄筋長は切り上げの10mm丸めとする。

道東自動車道 占冠地区下部工工事			
図面の種類	シム川橋（上り線） P 2 橋脚配筋図（その2）		
縮 尺	図 示	図面番号	-
設計会社名	株式会社 日本橋造橋梁研究所		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 北海道支社 帯広工事事務所		

1 - 1



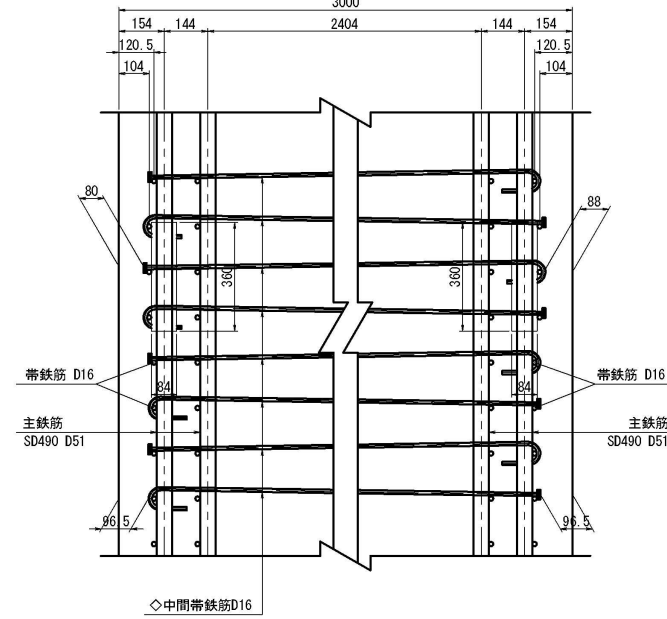
2 - 2



3 - 3

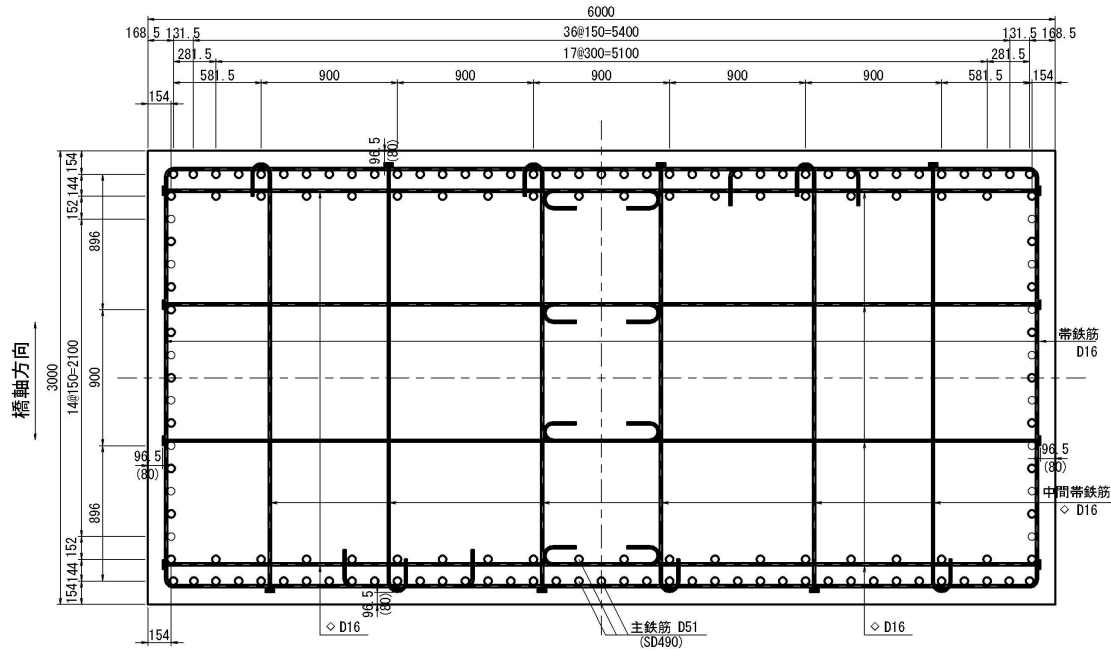
柱かぶり詳細図 S= 1:50

橋軸方向

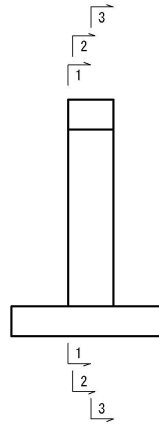


柱平面かぶり詳細図 S= 1:50

橋軸直角方向



位置図

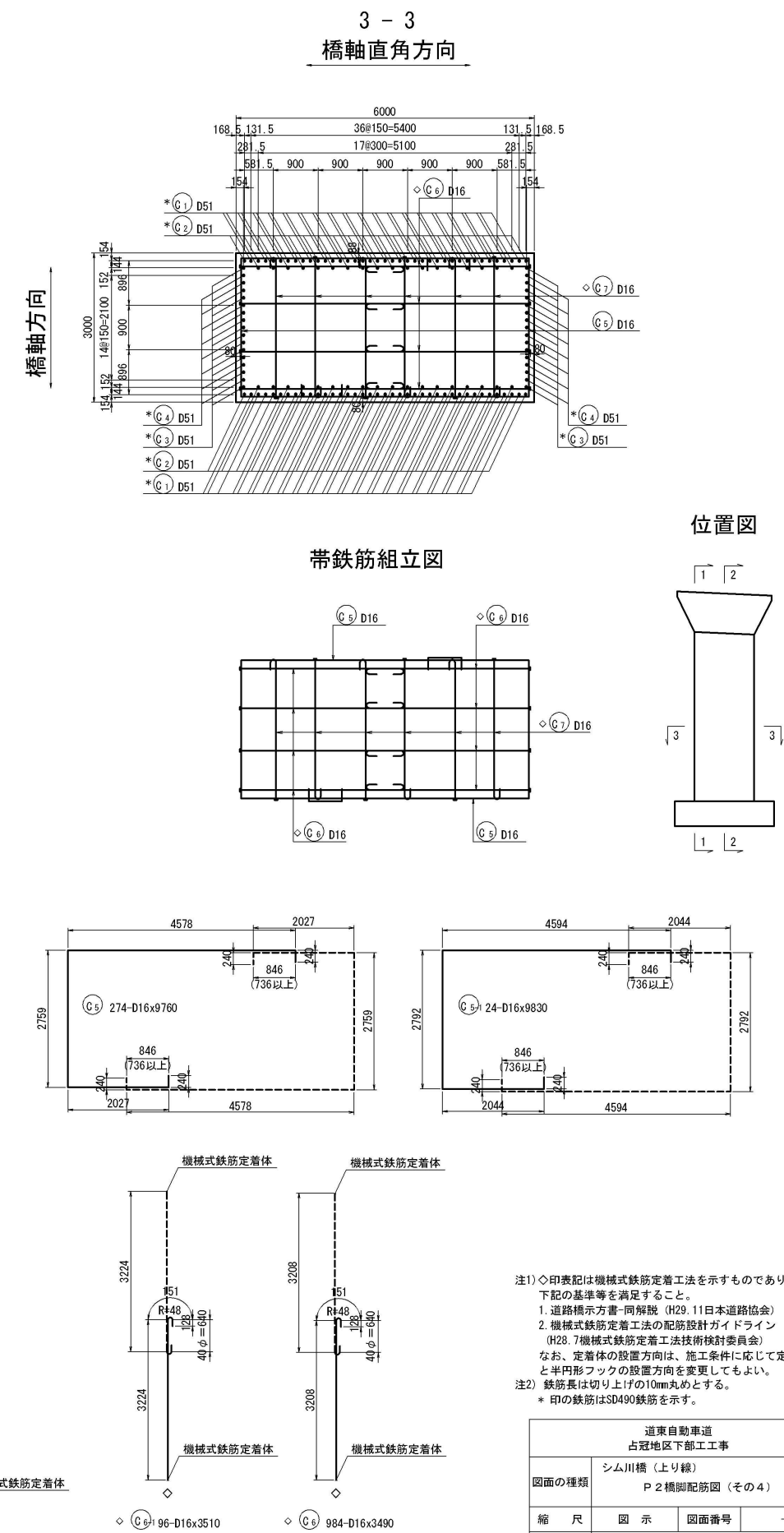
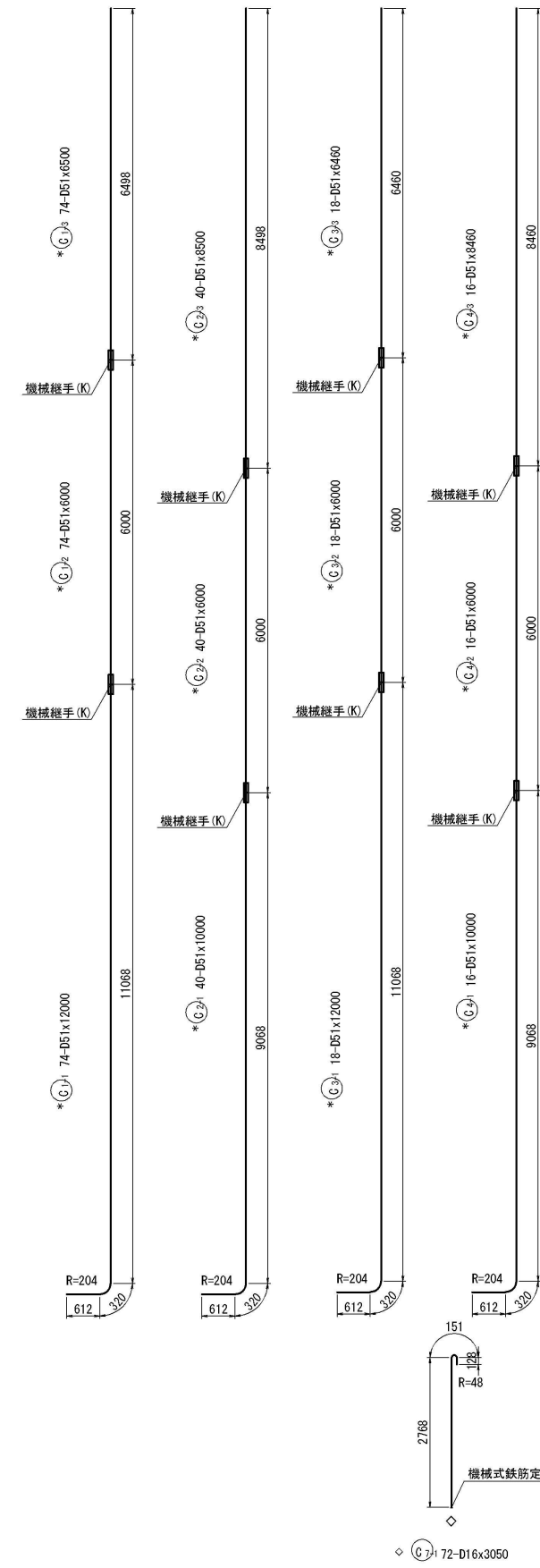
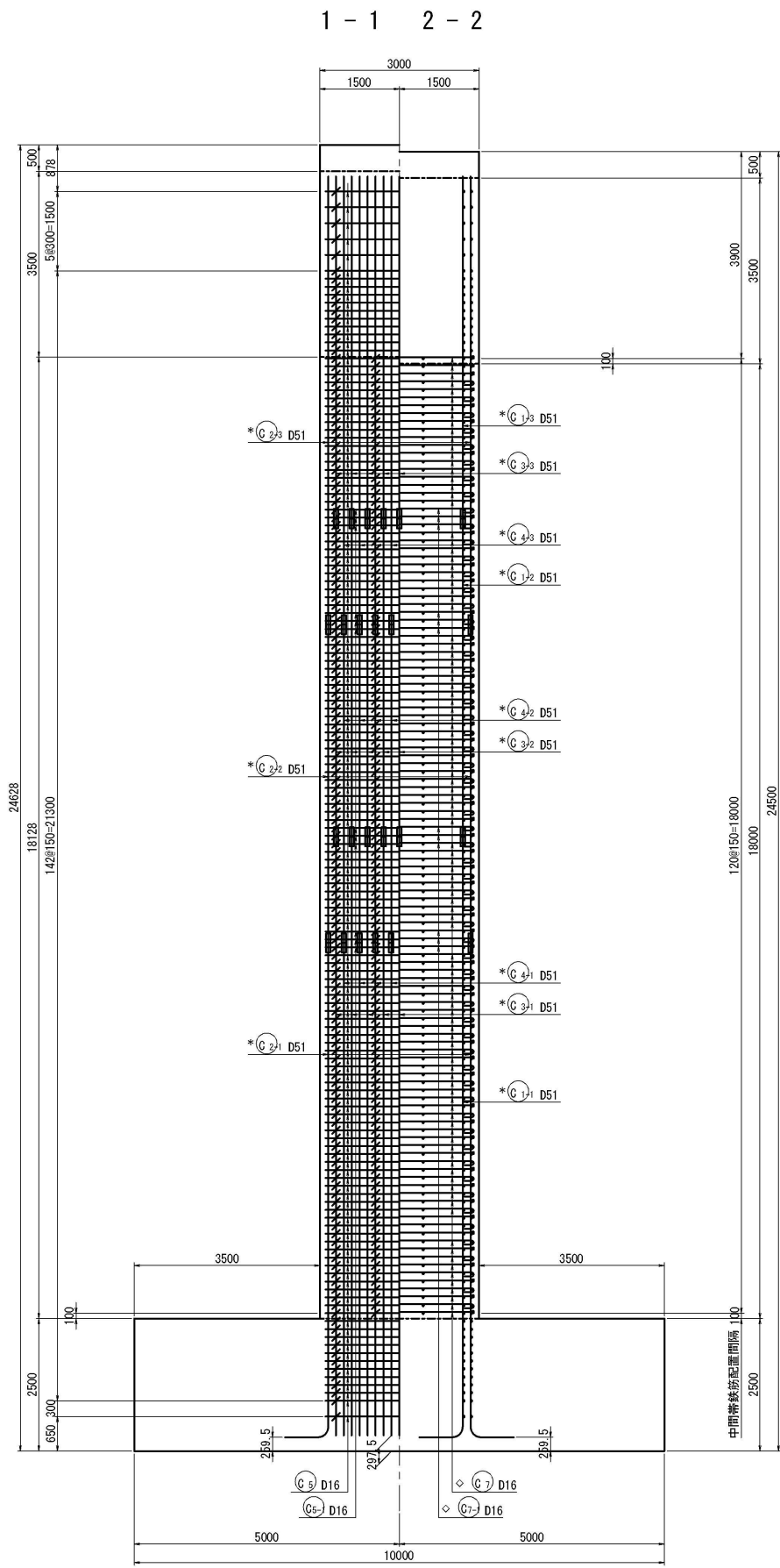


注) 〇内の値は、機械継手部の値を示す

注) 鉄筋長は切り上げの10mm丸めとする。

* 印の鉄筋はSD490鉄筋を示す。

道東自動車道 占冠地区下部工工事			
図面の種類	シム川橋（上り線） P 2 橋脚配筋図（その3）		
縮 尺	図 示	図面番号	-
設計会社名	株式会社 日本構造橋梁研究所		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 北海道支社 帯広工事事務所		



注1) ◇印表記は機械式鉄筋定着工法を示すものであり、下記の基準等を満足すること。
1. 道路橋示方書-同解説 (H29.11日本道路協会)
2. 機械式鉄筋定着工法の配筋設計ガイドライン (H28.7機械式鉄筋定着工法技術検討委員会)
なお、定着体の設置方向は、施工条件に応じて定着体と半円形フックの設置方向を変更してもよい。
注2) 鉄筋長は切り上げの10mm丸めとする。
* 印の鉄筋はSD490鉄筋を示す。

鉄筋表（下部工施工）

符号	径	長さ (mm)	本数	単位質量 (kg/m)	1本当り質量 (kg)	総質量 (kg)	摘要
B 1	D32	9910	12	6.23	61.7	740	
B 2	D32	9910	12	6.23	61.7	740	
B 3-1	D22	11590	2	3.04	35.2	70	
B 3-2	D22	5790	1	3.04	17.6	18	
B 4-1	D22	9890	22	3.04	30.1	662	(平均長)
B 4-2	D22	5790	11	3.04	17.6	194	
B 5-1	D29	6400	12	5.04	32.3	388	
B 5-2	D29	6300	12	5.04	31.8	382	
B 6	D19	7910	18	2.25	17.8	320	(平均長)
B 7	D19	10980	30	2.25	24.7	741	
B 7-1	D19	4060	8	2.25	9.14	73	(平均長)
B 8	D19	6280	18	2.25	14.1	254	
B 9	D19	9340	30	2.25	21.0	630	C (44)
B 10	D16	3110	44	1.56	4.85	213	
B 11	D19	3390	48	2.25	7.63	366	
						5791	kg
H 1	D16	1960	60	1.56	3.06	184	
H 2	D16	1960	66	1.56	3.06	202	
H 3	D16	3300	12	1.56	5.15	62	
						448	kg
* C 1-1	D51	12000	74	15.9	191	14134	^K B<74>
* C 1-2	D51	6000	74	15.9	95.4	7060	^K B<74>
* C 1-3	D51	6500	74	15.9	103	7622	^K B<->
* C 2-1	D51	10000	40	15.9	159	6360	^K B<40>
* C 2-2	D51	6000	40	15.9	95.4	3816	^K B<40>
* C 2-3	D51	8500	40	15.9	135	5400	^K B<->
* C 3-1	D51	12000	18	15.9	191	3438	^K B<18>
* C 3-2	D51	6000	18	15.9	95.4	1717	^K B<18>
* C 3-3	D51	6460	18	15.9	103	1854	^K B<->
* C 4-1	D51	10000	16	15.9	159	2544	^K B<16>
* C 4-2	D51	6000	16	15.9	95.4	1526	^K B<16>
* C 4-3	D51	8460	16	15.9	135	2160	^K B<->
C 5	D16	9760	274	1.56	15.2	4165	
C 5-1	D16	9830	24	1.56	15.3	367	
△ C 6	D16	3490	984	1.56	5.44	5353	C (984)
△ C 6-1	D16	3510	96	1.56	5.48	526	C (96)
△ C 7	D16	3020	654	1.56	4.71	3080	C (654)
△ C 7-1	D16	3050	72	1.56	4.76	343	C (72)
						71465	kg
F 1	D38	10810	34	8.95	96.7	3288	
F 2	D38	8750	62	8.95	78.3	4855	
F 2-1	D38	5320	62	8.95	47.6	2951	^K B<->
F 2-2	D38	9050	2	8.95	81.0	162	
F 2-3	D38	5020	2	8.95	44.9	90	^K B<->
F 3	D25	10470	34	3.98	41.7	1418	
F 4	D29	8500	34	5.04	42.8	1455	^K B<34>
F 4-1	D29	5730	34	5.04	28.9	983	
F 5	D38	10610	34	8.95	95.0	3230	^K B<->
F 6	D29	10370	34	5.04	52.3	1778	
F 7	D19	10350	20	2.25	23.3	466	
F 8	D19	9830	20	2.25	22.1	442	
△ F 9	D25	2670	144	3.98	10.6	1526	C (144)
						22644	kg
鉄筋質量集計<下部工施工> (SD490)							
A種鉄筋		B種鉄筋	C種鉄筋	合計	<機械継手箇所数>		
D51		-	57631 kg	-	57631 kg	<296>	
合 計		-	57631 kg	-	57631 kg	<296>	
鉄筋質量集計<下部工施工> (SD345)							
A種鉄筋		B種鉄筋	C種鉄筋	合計	<機械継手> <箇所数> <機械式鉄筋> <定着箇所数>		
D38		6518 kg	8058 kg	-	14576 kg	<64>	
D32		1480 kg	-	-	1480 kg	<296>	
D29		2548 kg	2438 kg	-	4986 kg	<34>	
D25		1418 kg	-	1526 kg	2944 kg	(144)	
D22		944 kg	-	-	944 kg		
D19		3292 kg	-	-	3292 kg		
D16		4980 kg	-	9515 kg	14495 kg	(1850)	
合 計		21180 kg	10496 kg	11041 kg	42717 kg	<98> (1994)	
< > 内数値は、機械継手の箇所数を示す。							
() 内数値は、機械式鉄筋定着工法箇所数を示す。							

鉄筋集計表（SD490）

種 別		下部工施工		合計 (kg)	
		躯体	計 (kg)		
A (SD490)	D16～D25	D16	—	—	
		D19	—	—	
		D22	—	—	
		D25	—	—	
		小計	—	—	
	D29～D32	D29	—	—	
		D32	—	—	
		小計	—	—	
	D35		—	—	
	D38		—	—	
A の 合 計		—	—		
B (SD490)	D16～D25	D16	—	—	
		D19	—	—	
		D22	—	—	
		D25	—	—	
		小計	—	—	
	D29～D32	D29	—	—	
		D32	—	—	
		小計	—	—	
	D35		—	—	
	D38		—	—	
	D51		57631	57631	57631
	B の 合 計		57631	57631	57631
鉄筋総質量		57631	57631	57631	

鉄筋集計表（SD345）

種 別		下部工施工		合計 (kg)	
		躯体	計 (kg)		
A (SD345)	D16～D25	D16	4980	4980	4980
		D19	3292	3292	3292
		D22	944	944	944
		D25	1418	1418	1418
		小計	10634	10634	10634
	D29～D32	D29	2548	2548	2548
		D32	1480	1480	1480
		小計	4028	4028	4028
		D38	6518	6518	6518
		D41	—	—	—
A の 合 計		21180	21180	21180	
B (SD345)	D29～D32	D29	2438	2438	2438
		D32	—	—	—
		小計	2438	2438	2438
	D38		8058	8058	8058
	B の 合 計		10496	10496	10496
C (SD345)	D16～D25	D16	9515	9515	9515
		D19	—	—	—
		D22	—	—	—
		D25	1526	1526	1526
		小計	11041	11041	11041
	C の 合 計		11041	11041	11041
鉄筋総質量		42717	42717	42717	

機械継手箇所数

項目	鉄筋径	継手箇所数	合 計
機械継手箇所数	D25	—	—
	D29	34	34
	D32	—	—
	D38	64	64
	D41	—	—
	D51	296	296
合 計		394	394

機械式鉄筋定着工法数量表

鉄筋径	0<L≤1m	1m<L≤2m	2m<L≤3m	3m<L≤4m	4m<L≤5m	5m<L≤6m
D16	—	—	—	1850	—	—
D19	—	—	—	—	—	—
D25	—	—	144	—	—	—
合計	1994					

鉄筋加工寸法表（SD345）

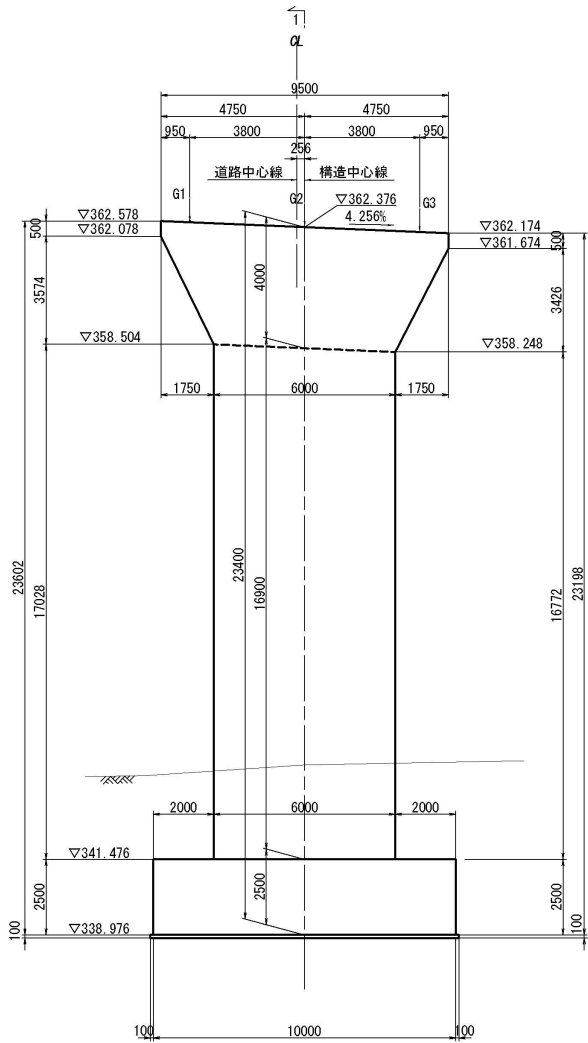
主 筋		中間帯鉄筋		半円径フック		直角フック	
		θ ≤ 90° R=3.0φ	θ > 90° R=5.5φ	θ = 45°	θ = 60°	θ = 90°	θ = 135°
主 筋	径	a	ΔL	a	ΔL	a	ΔL
	D13	39	71.5	92	96	82	53
	D16	48	88	113	119	100	66
	D19	57	104.5	134	141	119	78
	D22	66	121	155	164	138	91
	D25	75	137.5	177	185	157	103
	D29	87	159.5	205	215	182	119
	D32	96	176	226	237	201	132
	D35	105	192.5	247	260	220	144
	D38	114	209	269	281	239	156
中間帯鉄筋	D41	123	225.5	290	304	258	168
	D51	153	280.5	360	379	320	210
	径	R=3.0φ	鋭角フック	半円フック	直 角 フ ッ ク		
	D13	39	92	123	a	ΔL	—
	D16	48	113	151	a	ΔL	—
ス タ ー ラ ッ プ	D19	57	134	179	a	ΔL	—
	D22	66	156	207	a	ΔL	—
	D25	75	177	236	a	ΔL	—
	D29	87	205	273	a	ΔL	—
	D32	96	226	294	a	ΔL	—

鉄筋加工寸法表（SD490）

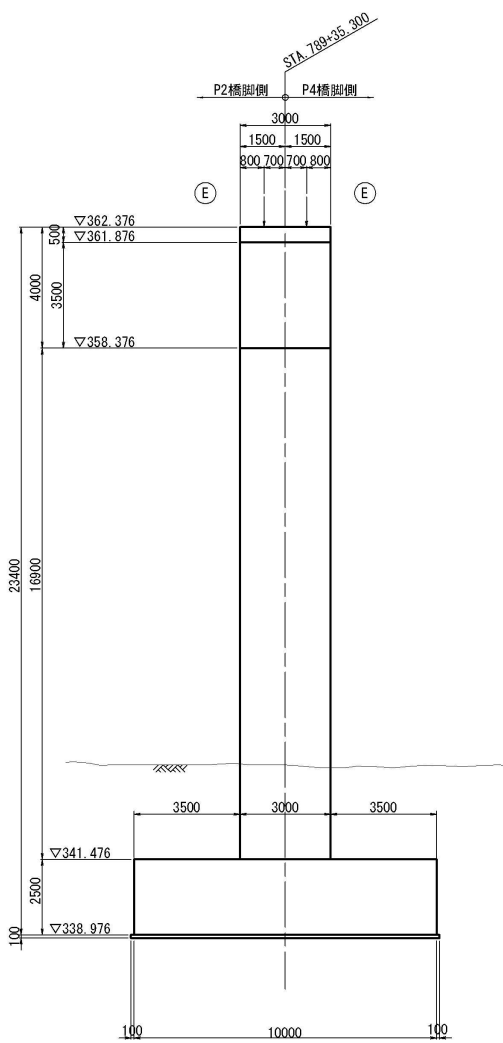
主 筋		中間帯鉄筋		半円径フック		直角フック	
		θ ≤ 90° R=4.0φ	θ > 90° R=5.5φ	θ = 45°	θ = 60°	θ = 90°	θ = 135°
主 筋	径	a	ΔL	a	ΔL	a	ΔL
	D13	52	71.5	82	22	56	3
	D16	64	88	101	27	69	4
	D19	76	104.5	119	33	82	5
	D22	88	121	138	38	95	5
	D25	100	137.5	157	43	108	6
	D29	116	159.5	182	50	125	7
	D32	128	176	201	55	138	8
	D35	140	192.5	220	60	151	8
	D38	152	209	239	65	164	9
ス タ ー ラ ッ プ	D51	204	280.5	320	88	220	12

注1) △印表記は機械式鉄筋定着工法を示すものであり、下記の基準等を満足すること。
1. 道路橋示方書-同解説（H29.11日本道路協会）
2. 機械式鉄筋定着工法の配筋設計ガイドライン（H28.7機械式鉄筋定着工法技術検討委員会）
なお、定着体の設置方向は、施工条件に応じて定着体と半円形フックの設置方向を変更してもよい。
注2) 機械式定着鉄筋は、被拘束鉄筋に接触するように配置すること。機械式定着鉄筋は、主鉄筋に可能な限り近づけること。
注3) 鉄筋長は切り上げの10mm丸めとする。
注4) * 印の鉄筋はSD490鉄筋を示す。

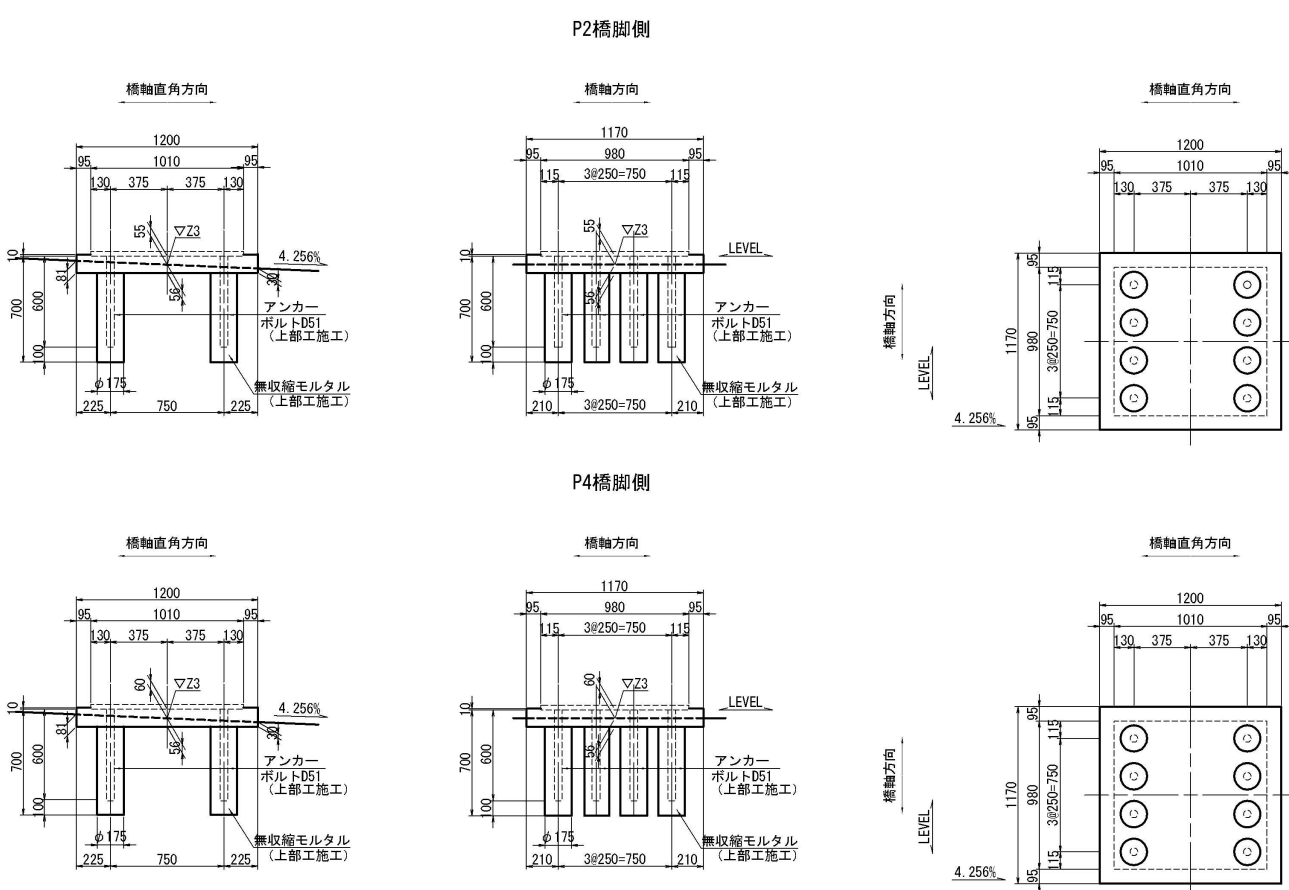
正面図



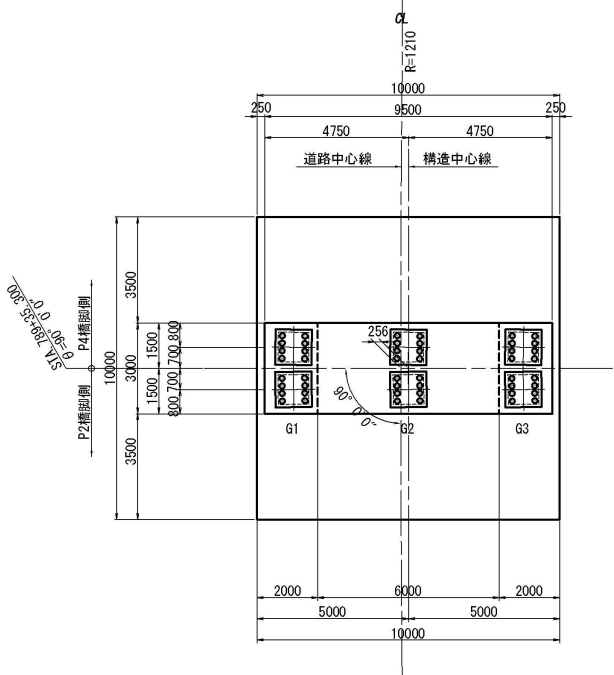
側面図 (1-1)



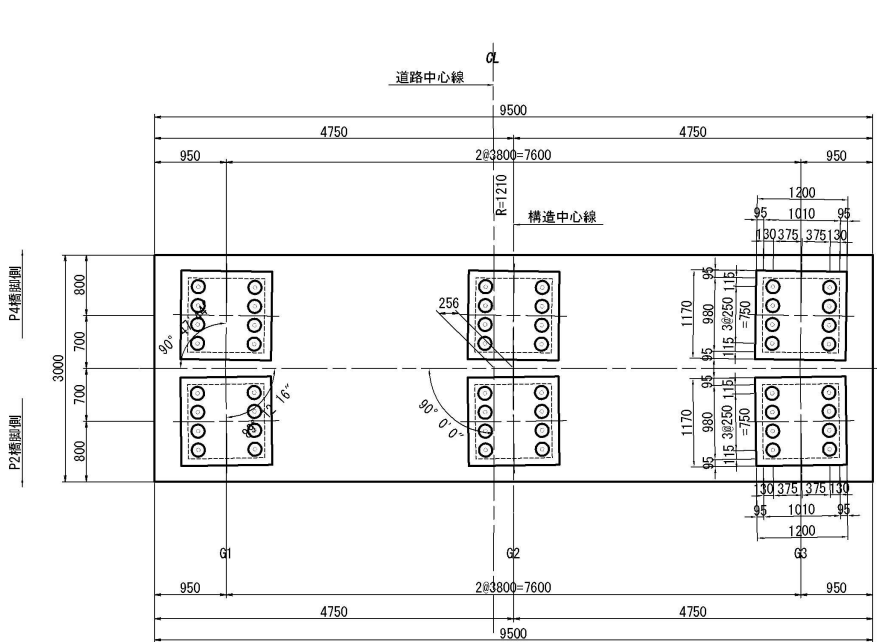
支承部詳細図 S= 1:50



平面図



支承配置図 S= 1:100



構造高表

		P3橋脚					
		G1	G2	G3	G1	G2	G3
路面計画高	Z1	365.833	365.662	365.491	365.838	365.667	365.496
舗装厚	H1	0.106	0.097	0.088	0.106	0.097	0.088
床版厚	H2	0.200	0.200	0.200	0.200	0.200	0.200
桁高	H3	2.400	2.400	2.400	2.400	2.400	2.400
桁下端高 (レアー含む)	Z2	363.127	362.965	362.803	363.132	362.970	362.808
レアー厚	t1	0.040	0.040	0.040	0.040	0.040	0.040
支承高	H4	0.494	0.494	0.494	0.494	0.494	0.494
モルタル厚	t2	0.055	0.055	0.055	0.060	0.060	0.060
台座コンクリート厚	H5	-	-	-	-	-	-
下部工天端高	Z3	362.538	362.376	362.214	362.538	362.376	362.214
支承の方向	θ	89° 12' 16"			90° 47' 44"		

注) 舗装厚はアスファルト舗装+調整コンクリートの厚さを示す。

使用材料

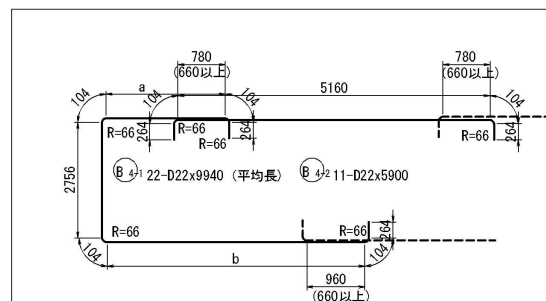
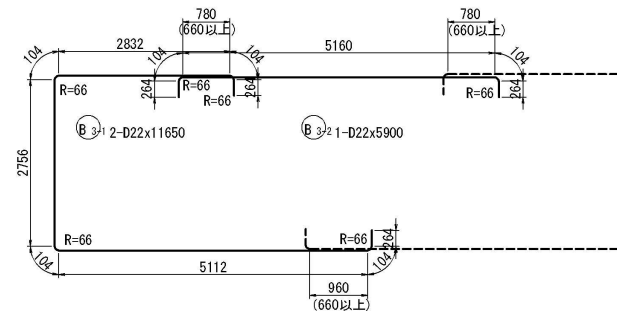
コンクリート	躯体	σ _{ck} =30N/mm ²
	フーチング	σ _{ck} =24N/mm ²
鉄筋	均しコンクリート	σ _{ck} =18N/mm ²
	梁	SD345
	柱	SD490
	フーチング	SD345

数量表

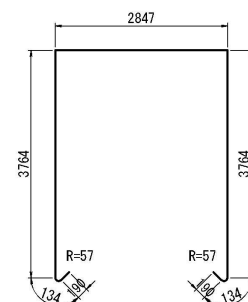
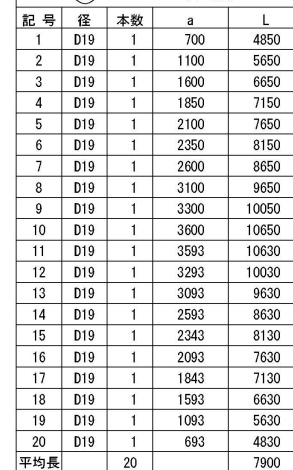
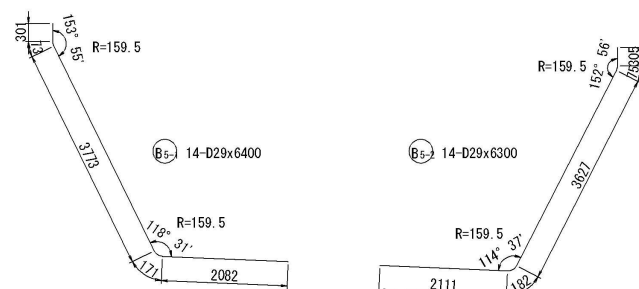
項目	規格・寸法	単位	数量	摘要
構造物掘削	特殊部 A 4	m ³	800.3	土砂
		m ³	254.1	軟岩

道東自動車道 占冠地区下部工工事			
図面の種類	シム川橋（上り線） P 3 橋脚構造一般図		
縮尺	図示	図面番号	-
設計会社名	株式会社 日本構造橋梁研究所		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 北海道支社 帯広工事事務所		

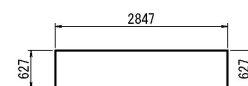
(6箇所)



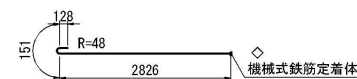
配 号	径	本数	a	b	L
1	D22	2	2729	5009	11440
2	D22	2	2579	4859	11140
3	D22	2	2429	4709	10840
4	D22	2	2279	4559	10540
5	D22	2	2129	4409	10240
6	D22	2	1978	4258	9940
7	D22	2	1828	4108	9640
8	D22	2	1678	3958	9340
9	D22	2	1528	3808	9040
10	D22	2	1378	3658	8740
11	D22	2	1228	3508	8440
平均長		22			9940



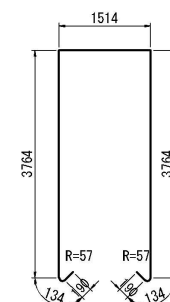
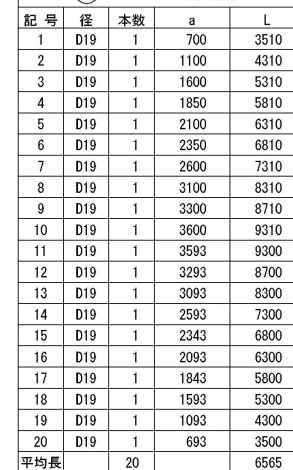
30-D19x10980



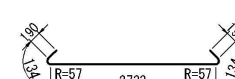
(B7-d) 8-D19x4060



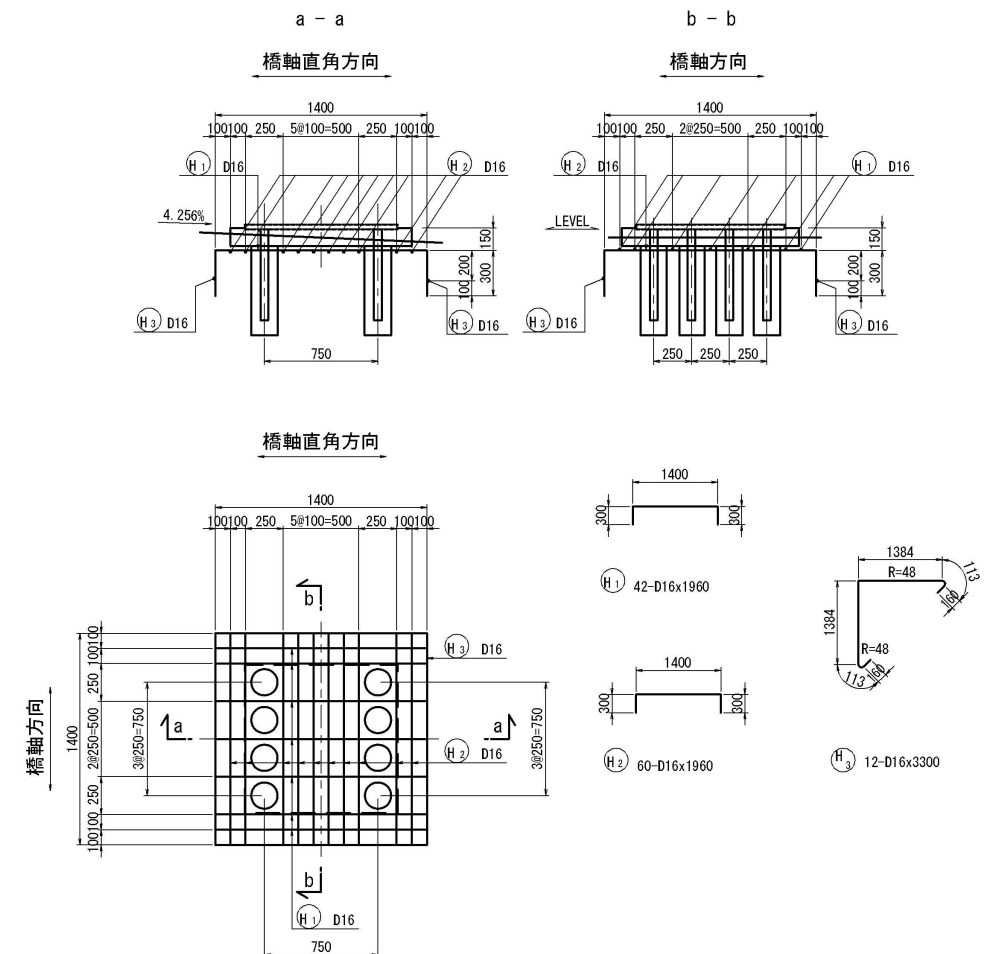
◇ B₁₀ 46-D16x3110



30-D19x9640



ⓑ11 50-D19x3390



注1) ◇印表記は機械式鉄筋定着工法を示すものであり、
以下の基準等を満足すること。

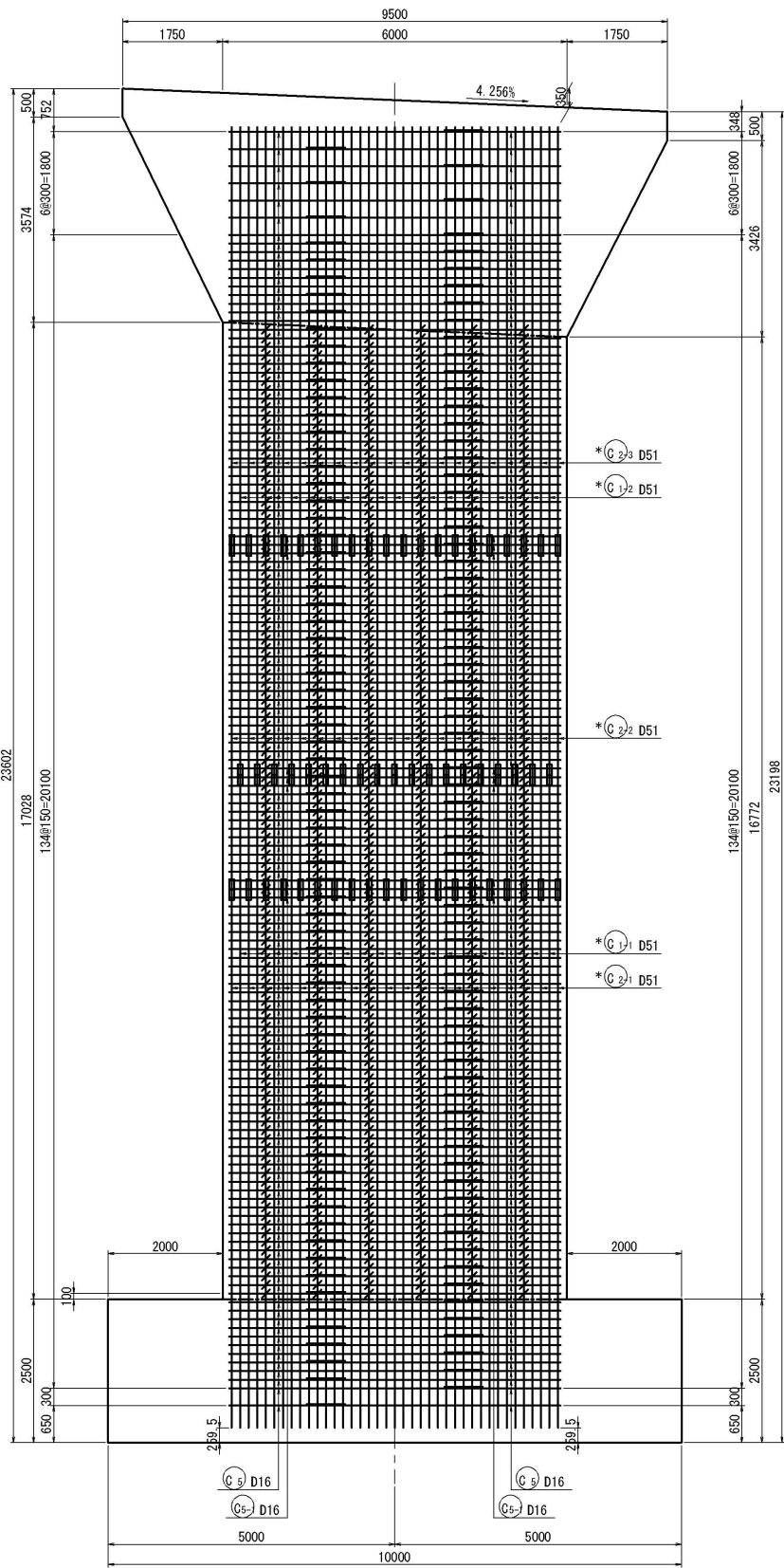
注2) 1. 道路橋示方書 一般解説 (H20.11日本道路協会)
2. 機械式鉄筋定着工法の配筋設計ガイドライン
(H28.7機械式鉄筋定着工法技術検討委員会)
なお、定着部の設置方向は、施工条件により定着部と
半円筒状の設置方向を変更してもよい。

注3) 機械式定着鉄筋は、被拘束鉄筋に拘束するように配置すること。
機械式定着鉄筋は、0mmに可能な限り近づけること。

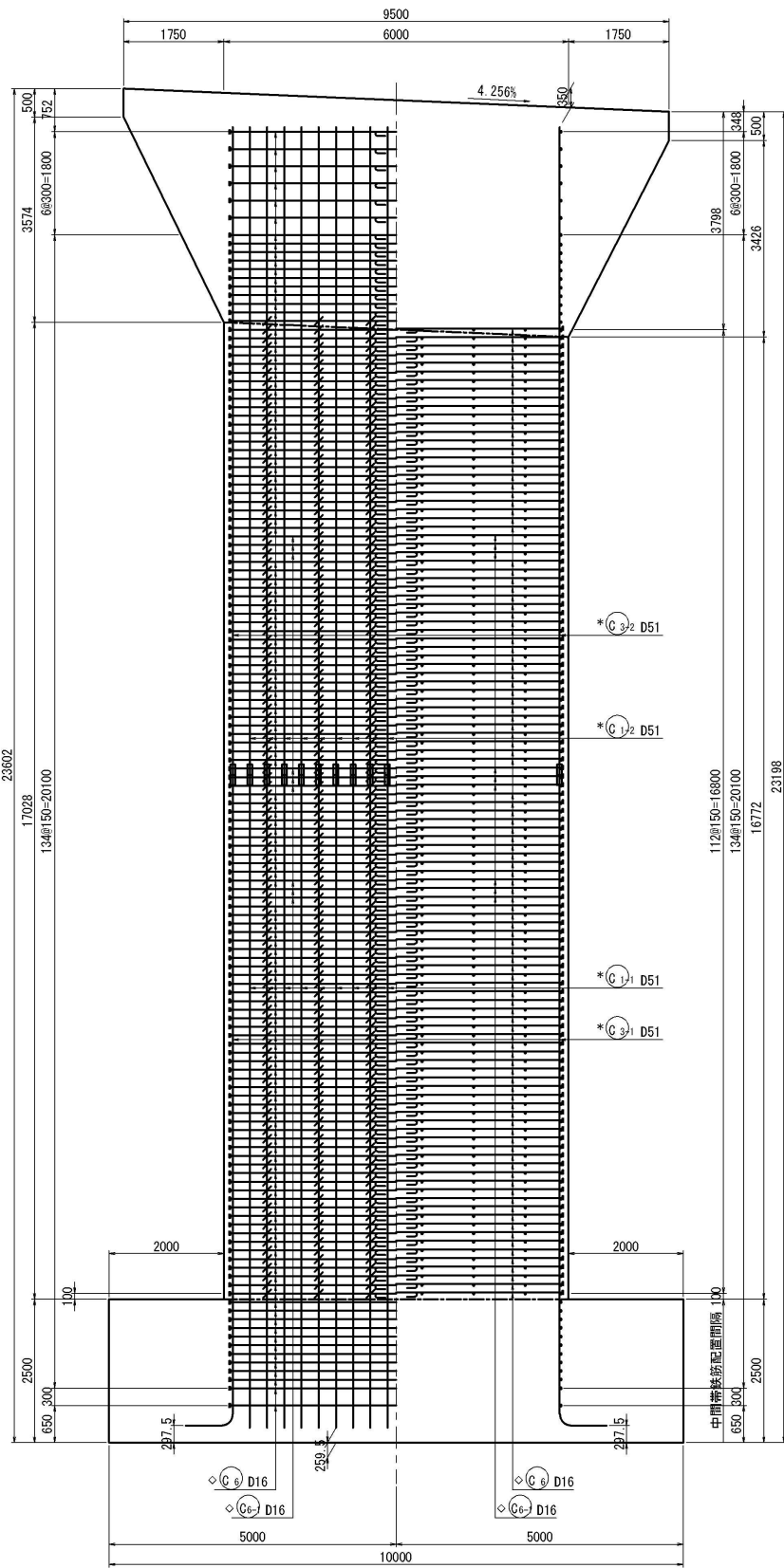
注4) 鉄筋長は切り上げの10mm丸めとなる。

道東自動車道 占冠地区下部工工事				
図面の種類	シム川橋（上り線） P3橋脚配筋図（その2）			
縮 尺	図 示	図面番号	-	
設計会社名	株式会社 日本構造橋梁研究所			
施工会社名				
事務所名	東日本高速道路株式会社 北海道支社 帯広工事事務所			

1 - 1

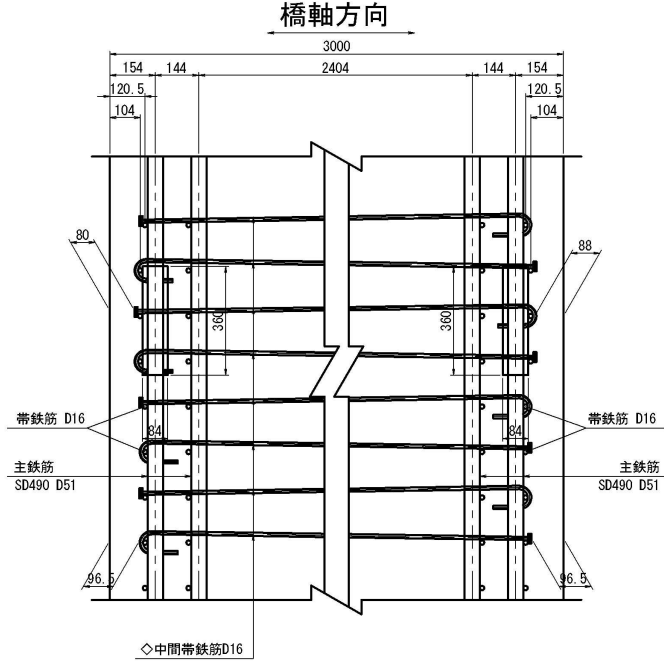


2 - 2

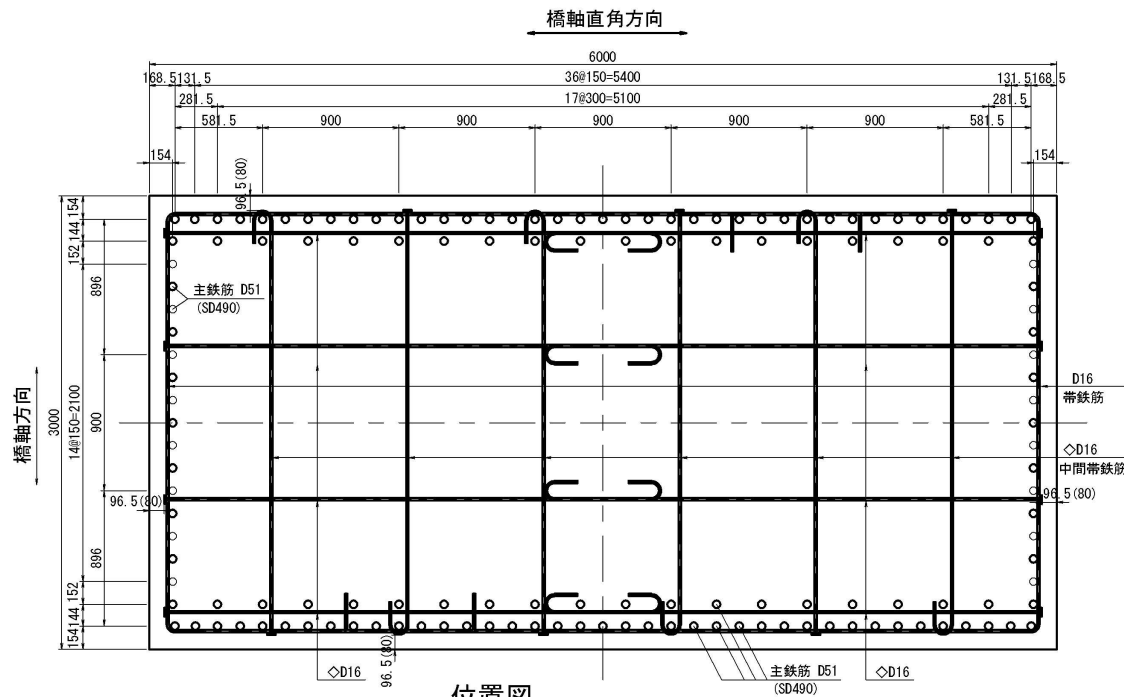


3 - 3

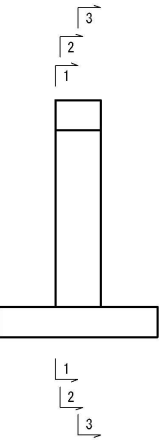
柱かぶり詳細図 S= 1:50



柱平面かぶり詳細図 S= 1:50



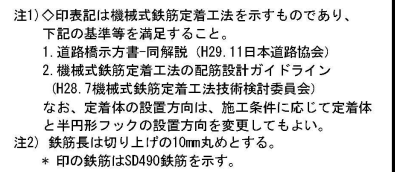
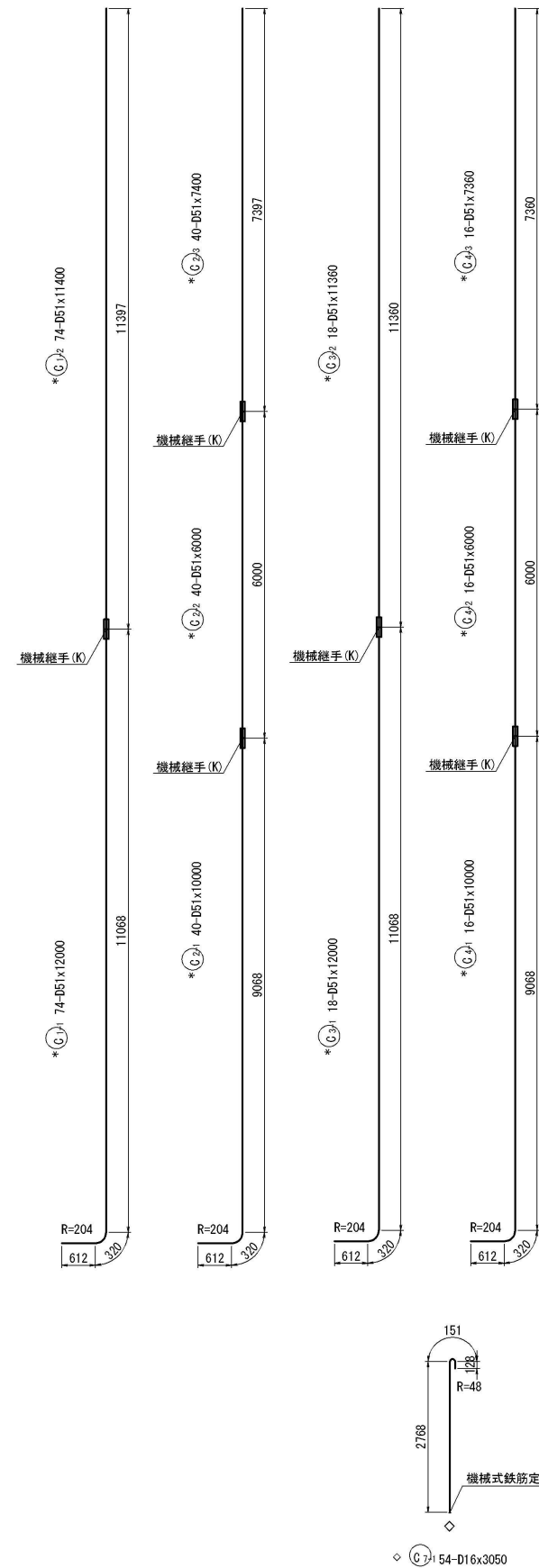
位置図



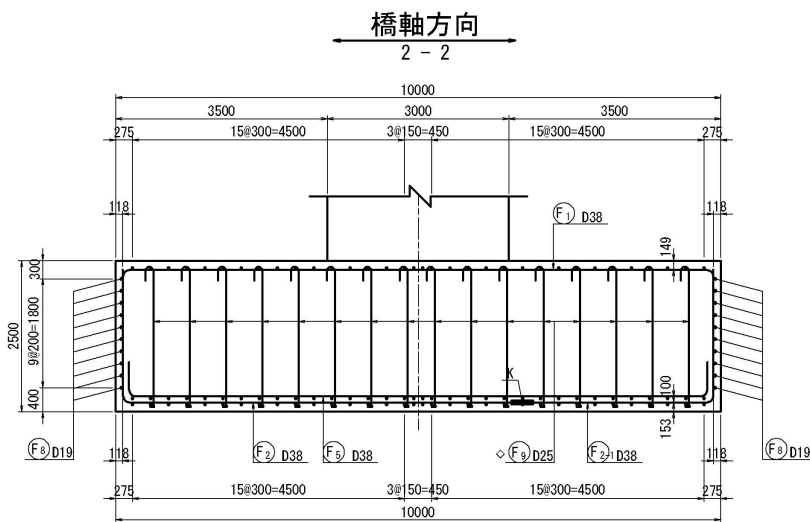
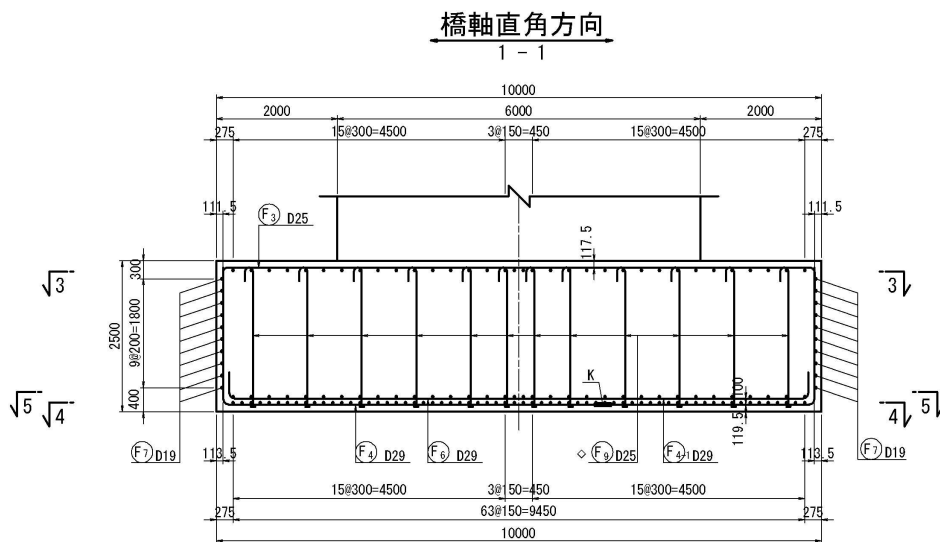
注) () 内の値は、機械式機手部の値を示す。

注) 鉄筋長は切り上げの10mm丸めとする。
* 印の鉄筋はSD490鉄筋を示す。

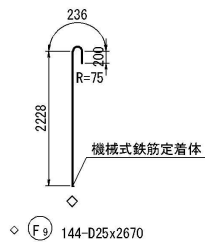
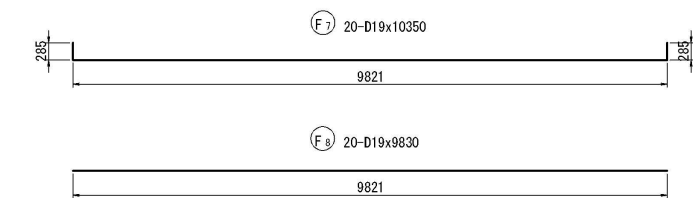
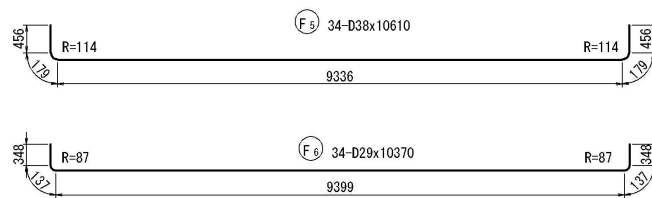
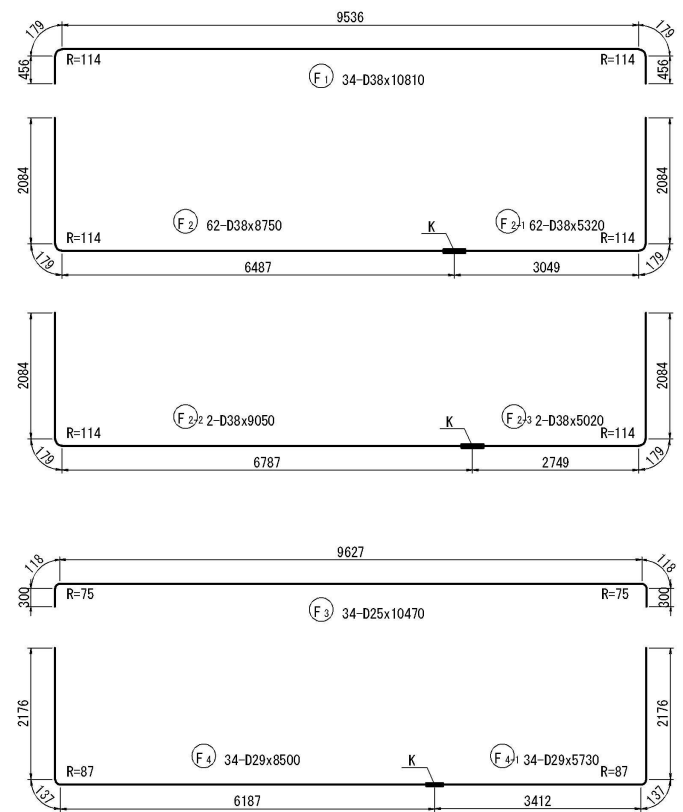
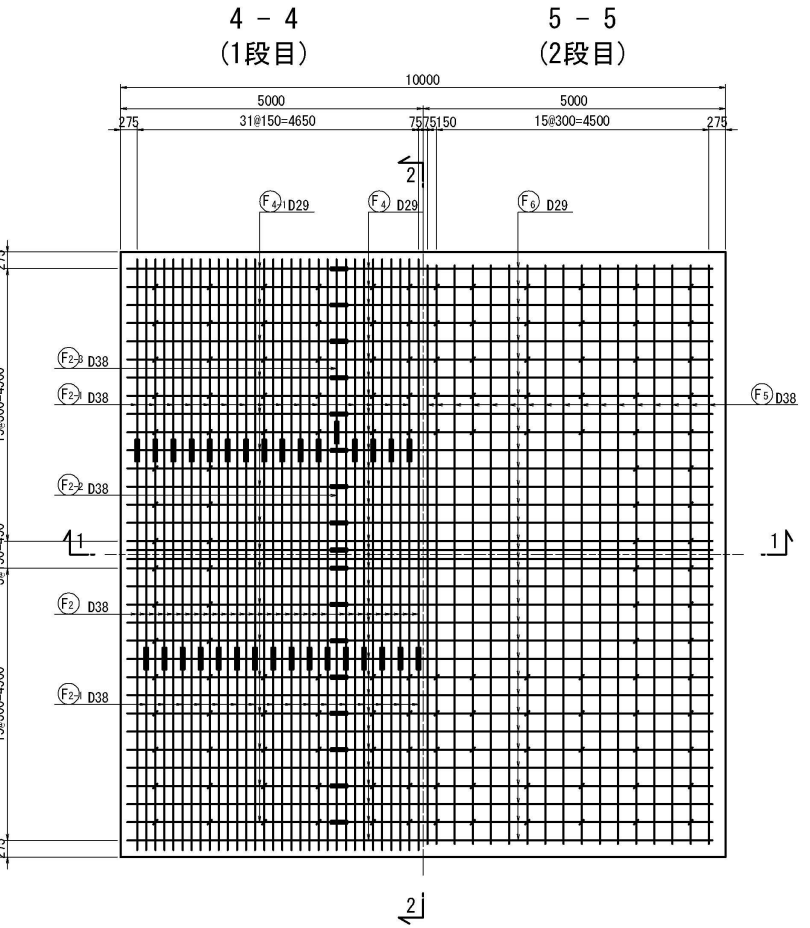
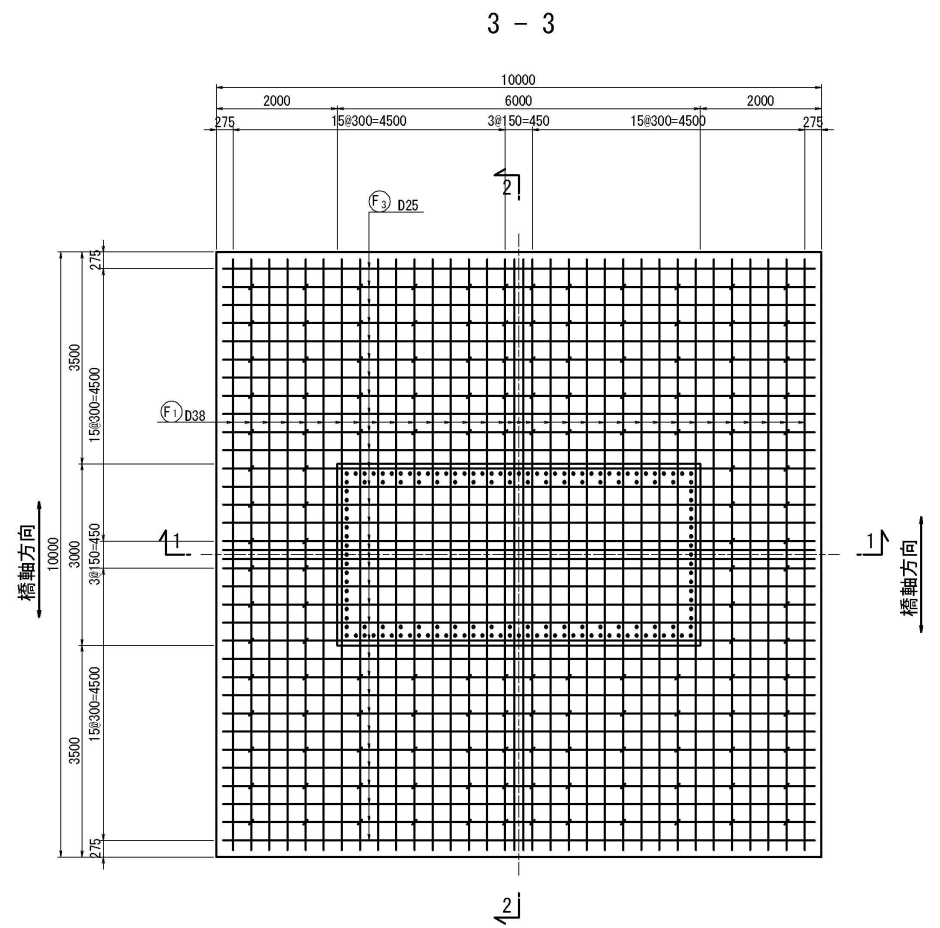
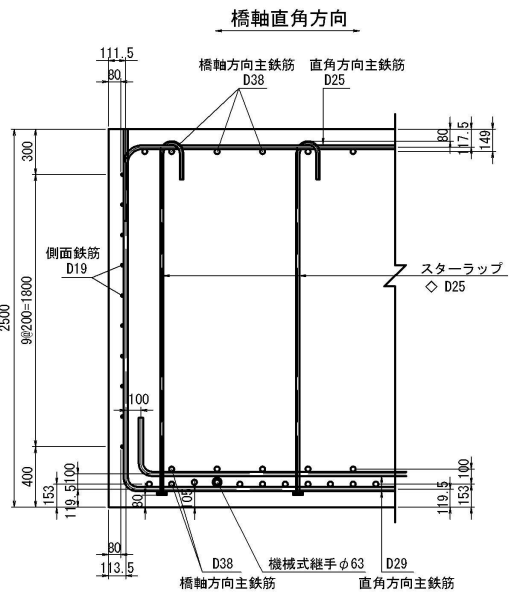
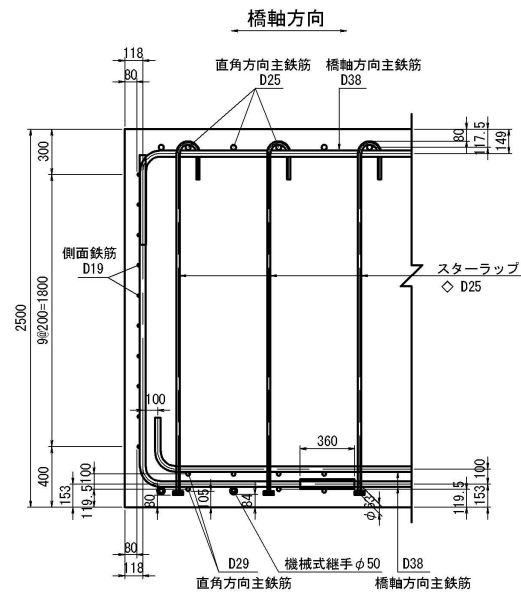
道東自動車道 占冠地区下部工工事			
図面の種類	シム川橋（上り線） P 3 橋脚配筋図（その3）		
縮 尺	図 示	図面番号	-
設計会社名	株式会社 日本構造橋梁研究所		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 北海道支社 帯広工事事務所		



道東自動車道 占冠地区下部工工事			
図面の種類	シム川橋（より線） P 3 橋脚配筋図（その４）		
縮 尺	図 示	図面番号	-
設計会社名	株式会社 日本構造橋梁研究所		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 北海道支社 帯広工事事務所		



かぶり詳細図 S=1:50



注1) ◇印表記は機械式鉄筋定着工法を示すものであり、
下記の基準等を満足すること。
1. 道路橋示方書-同解説 (H29.11日本道路協会)
2. 機械式鉄筋定着工法の配筋設計ガイドライン
(H28.7機械式鉄筋定着工法技術検討委員会)
なお、定着体の設置方向は、施工条件に応じて定着体
と半円形フックの設置方向を変更してもよい。

道東自動車道 占冠地区下部工工事			
図面の種類	シム川橋（上り線） P 3 橋脚配筋図（その5）		
縮 尺	図 示	図面番号	-
設計会社名	株式会社 日本構造橋梁研究所		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 北海道支社 帯広工事事務所		

鉄筋表（下部工施工）

符号	径	長さ (mm)	本数	単位質量 (kg/m)	本当り質量 (kg)	総質量 (kg)	摘要	
B 1	D32	9910	13	6. 23	61. 7	802		
B 2	D32	9910	13	6. 23	61. 7	802		
B 3-1	D22	11650	2	3. 04	35. 4	71		
B 3-2	D22	5900	1	3. 04	17. 9	18		
B 4-1	D22	9940	22	3. 04	30. 2	664		
B 4-2	D22	5900	11	3. 04	17. 9	197) (平均長)	
B 5-1	D29	6400	14	5. 04	32. 3	452		
B 5-2	D29	6300	14	5. 04	31. 8	445	/	
B 6	D19	7900	20	2. 25	17. 8	356		
B 7	D19	10980	30	2. 25	24. 7	741) (平均長)	
B 7-1	D19	4060	8	2. 25	9. 14	73		
B 8	D19	6570	20	2. 25	14. 8	296) (平均長)	
B 9	D19	9640	30	2. 25	21. 7	651		
△	B 10	D16	3110	46	1. 56	4. 85	223) C (46)
	B 11	D19	3390	50	2. 25	7. 63	382	
						6173	kg	
H 1	D16	1960	42	1. 56	3. 06	129) (
H 2	D16	1960	60	1. 56	3. 06	184		
H 3	D16	3300	12	1. 56	5. 15	62		
						375	kg	
*	C 1-1	D51	12000	74	15. 9	191) K B<74>	
	C 1-2	D51	11400	74	15. 9	181		K B<->
*	C 2-1	D51	10000	40	15. 9	159) K B<40>	
*	C 2-2	D51	6000	40	15. 9	95. 4		K B<40>
*	C 2-3	D51	7400	40	15. 9	118) K B<->	
*	C 3-1	D51	12000	18	15. 9	191		K B<18>
*	C 3-2	D51	11360	18	15. 9	181) K B<->	
*	C 4-1	D51	10000	16	15. 9	159		K B<16>
*	C 4-2	D51	6000	16	15. 9	95. 4) K B<16>	
*	C 4-3	D51	7360	16	15. 9	117		K B<->
△	C 5	D16	9760	266	1. 56	15. 2) K B<->	
	C 5-1	D16	9830	18	1. 56	15. 3		275
△	C 6	D16	3490	948	1. 56	5. 44) C (948)	
△	C 6-1	D16	3510	72	1. 56	5. 48) C (72)	
△	C 7	D16	3020	624	1. 56	4. 71) C (624)	
△	C 7-1	D16	3050	54	1. 56	4. 76) C (54)	
						68128	kg	
F 1	D38	10810	34	8. 95	96. 7	3288) K B<62>	
F 2	D38	8750	62	8. 95	78. 3	4855		
F 2-1	D38	5320	62	8. 95	47. 6	2951) K B<->	
F 2-2	D38	9050	2	8. 95	81. 0	162		
F 2-3	D38	5020	2	8. 95	44. 9	90) K B<->	
F 3	D25	10470	34	3. 98	41. 7	1418		
F 4	D29	8500	34	5. 04	42. 8	1455) K B<34>	
F 4-1	D29	5730	34	5. 04	28. 9	983		
F 5	D38	10610	34	8. 95	95. 0	3230) K B<->	
F 6	D29	10370	34	5. 04	52. 3	1778		
F 7	D19	10350	20	2. 25	23. 3	466) K B<->	
F 8	D19	9830	20	2. 25	22. 1	442		
△	F 9	D25	2670	144	3. 98	10. 6) C (144)	
						22644	kg	
鉄筋質量集計（下部工施工）（SD490）								
A種鉄筋		B種鉄筋	C種鉄筋	合計	<機械継手箇所数>			
D51		-	55062 kg	-	55062 kg <204>			
合 計		-	55062 kg	-	55062 kg <204>			
A種鉄筋		B種鉄筋	C種鉄筋	合計	<機械式鉄筋>（機械式鉄筋） <箇所数>（定着箇所数）			
D38		6518 kg	8058 kg	-	14576 kg <64>			
D32		1604 kg	-	-	1604 kg			
D29		2675 kg	2438 kg	-	5113 kg <34>			
D25		1418 kg	-	1526 kg	2944 kg (144)			
D22		950 kg	-	-	950 kg			
D19		3407 kg	-	-	3407 kg			
D16		4693 kg	-	8971 kg	13664 kg (1744)			
合 計		21265 kg	10496 kg	10497 kg	42258 kg <98> (1888)			
< > 内数値は、機械継手の箇所数を示す。								
() 内数値は、機械式鉄筋定着工法箇所数を示す。								

鉄筋集計表（SD490）

種 別		下部工施工		合計 (kg)	
		躯体	計 (kg)		
A (SD490)	D16～D25	D16	—	—	
		D19	—	—	
		D22	—	—	
		D25	—	—	
		小計	—	—	
	D29～D32	D29	—	—	
		D32	—	—	
		小計	—	—	
	D35		—	—	
	D38		—	—	
A の 合 計		—	—		
B (SD490)	D16～D25	D16	—	—	
		D19	—	—	
		D22	—	—	
		D25	—	—	
		小計	—	—	
	D29～D32	D29	—	—	
		D32	—	—	
		小計	—	—	
	D35		—	—	
	D38		—	—	
	D51		55062	55062	55062
	B の 合 計		55062	55062	55062
	鉄筋総質量		55062	55062	55062

鉄筋集計表（SD345）

種 別		下部工施工		合計 (kg)
		躯体	計 (kg)	
A (SD345)	D16～D25	D16	4693	4693
		D19	3407	3407
		D22	950	950
		D25	1418	1418
		小計	10468	10468
	D29～D32	D29	2675	2675
		D32	1604	1604
		小計	4279	4279
		D38	6518	6518
		D41	—	—
B (SD345)	A の 合 計		21265	21265
	D29～D32	D29	2438	2438
		D32	—	—
		小計	2438	2438
		D38	8058	8058
		B の 合 計	10496	10496
C (SD345)	D16～D25	D16	8971	8971
		D19	—	—
		D22	—	—
		D25	1526	1526
		小計	10497	10497
	C の 合 計	10497	10497	10497
		鉄筋総質量	42258	42258

機械継手箇所数

項目	鉄筋径	継手箇所数	合 計
機械継手 箇所数	D25	—	—
	D29	34	34
	D32	—	—
	D38	64	64
	D41	—	—
	D51	204	204
合 計		302	302

機械式鉄筋定着工法数量表

鉄筋径	0<L≤1m	1m<L≤2m	2m<L≤3m	3m<L≤4m	4m<L≤5m	5m<L≤6m
D16	—	—	—	1744	—	—
D19	—	—	—	—	—	—
D25	—	—	144	—	—	—
合計	1888					

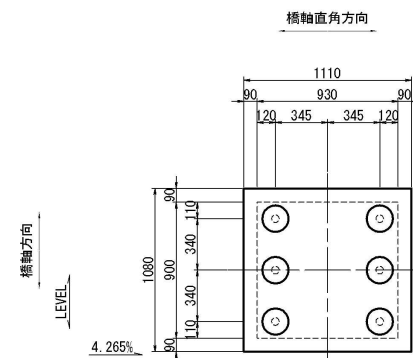
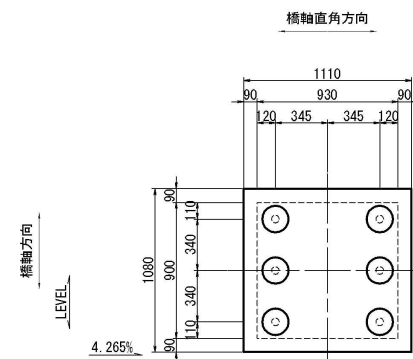
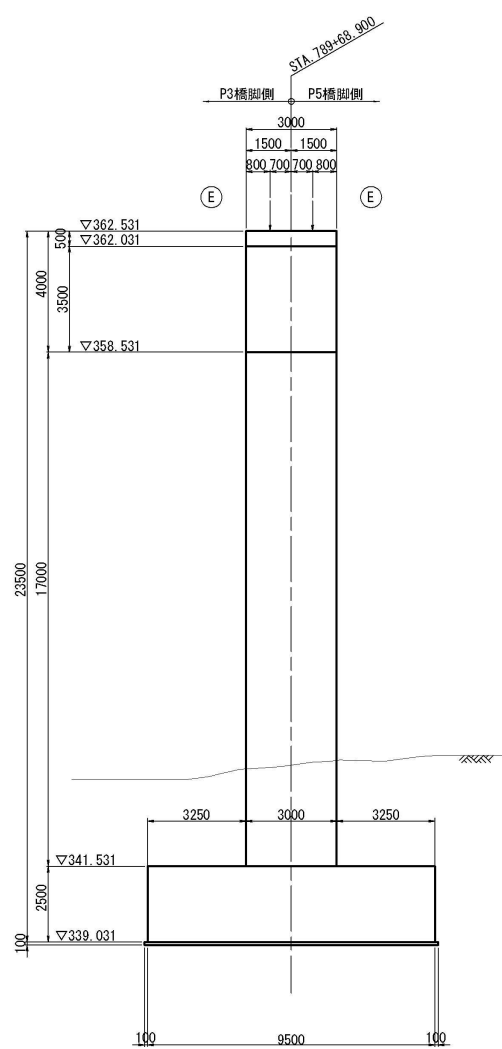
鉄筋加工寸法表（SD345）

主 筋		鋭角フック		半円径フック		直角フック	
		10φ以上	8φ以上で 12cm以上	90°	12φ	90°	12φ
主 筋	径	θ ≤90° R=3. 0φ	θ >90° R=5. 5φ	θ =45°	θ =60°	θ =90°	θ =135°
	D13	39	71. 5	92	96	82	53
	D16	48	88	113	119	100	66
	D19	57	104. 5	134	141	119	78
	D22	66	121	155	164	138	91
	D25	75	137. 5	177	185	157	103
	D29	87	159. 5	205	215	182	119
	D32	96	176	226	237	201	132
	D35	105	192. 5	247	260	220	144
	D38	114	209	269	281	239	156
中 間 帯 鉄 筋	D41	123	225. 5	290	304	258	168
	D51	153	280. 5	360	379	320	210
	R=3. 0φ		鋭角フック	半円フック	直 角 フ ッ ク		
	D13	39	a	a	a	△L	
	D16	48	113	151	75	21	
	D19	57	134	179	89	25	
	D22	66	156	207	104	28	
	D25	75	177	236	118	32	
	D29	87	205	273	137	37	
	R=2. 5φ		直角フック		—	—	
ス タ ー ラ ッ プ	D13	32. 5	51	14	—	—	
	D16	40	63	17	—	—	
	D19	47. 5	75	20	—	—	
	D22	55	86	24	—	—	
	D25	62. 5	98	27	—	—	
	D29	72. 5	114	31	—	—	

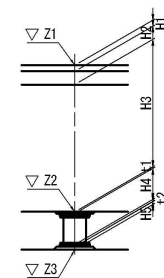
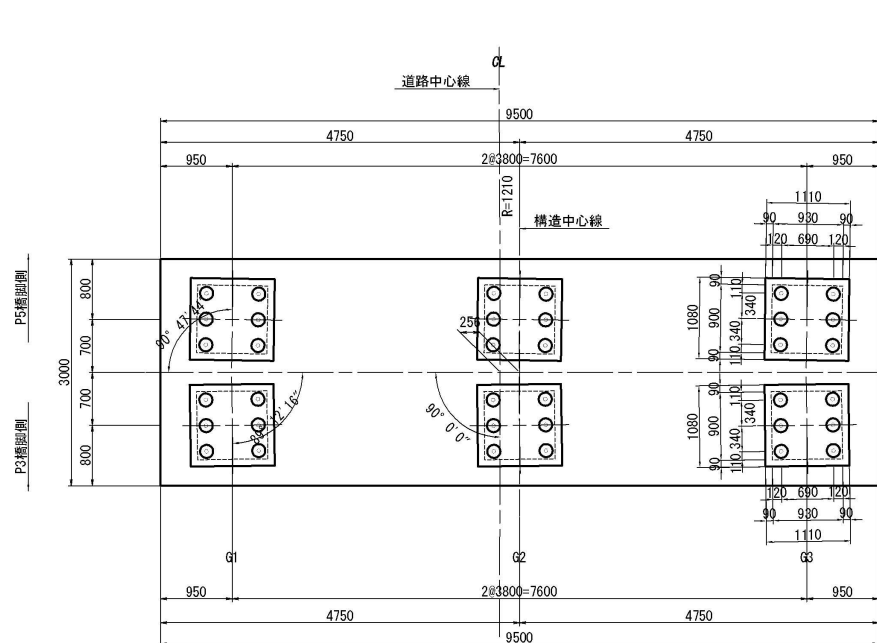
鉄筋加工寸法表（SD490）

主 筋		鋭角フック		半円径フック		直角フック	
		10φ以上	8φ以上で 12cm以上	90°	12φ	90°	12φ
主 筋	径	θ ≤90° R=4. 0φ	θ >90° R=5. 5φ	θ =90°	θ =135°		
	D13	52	71. 5	82	22	56	3
	D16	64	88	101	27	69	4
	D19	76	104. 5	119	33	82	5

支承部詳細図
 S= 1:50



支承配置図 S= 1:100



		P4橋脚					
		P3橋脚側			P5橋脚側		
		G1	G2	G3	G1	G2	G3
路面計面高	Z1	365.934	365.763	365.592	365.938	365.767	365.596
舗装厚	H1	0.107	0.098	0.089	0.107	0.098	0.089
床版厚	H2	0.200	0.200	0.200	0.200	0.200	0.200
桁高	H3	2.400	2.400	2.400	2.400	2.400	2.400
桁下端高（レアー含む）	Z2	363.227	362.065	362.903	363.231	363.069	362.907
レアー厚	t1	0.040	0.040	0.040	0.040	0.040	0.040
支承高	H4	0.444	0.444	0.444	0.444	0.444	0.444
モルタル厚	t2	0.050	0.050	0.050	0.054	0.054	0.054
台座コンクリート厚	H5	-	-	-	-	-	-
下部工天端高	Z3	362.693	362.531	362.369	362.693	362.531	362.369
支承の方向	θ	89° 12' 16"			90° 47' 44"		

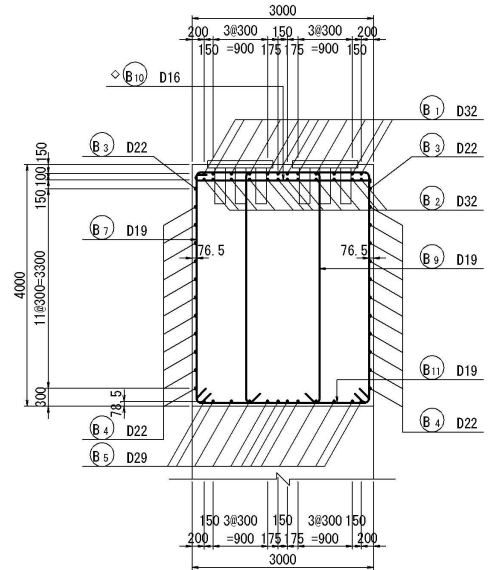
注) 舗装厚はアスファルト舗装+調整コンクリートの厚さを示す。

コンクリート	躯体		$\sigma_{ck}=30\text{N/mm}^2$
	フーチング		$\sigma_{ck}=24\text{N/mm}^2$
	均しコンクリート		$\sigma_{ck}=18\text{N/mm}^2$
鉄 筋	梁		SD345
	柱	主鉄筋	SD490
		その他	SD345
	フーチング		SD345

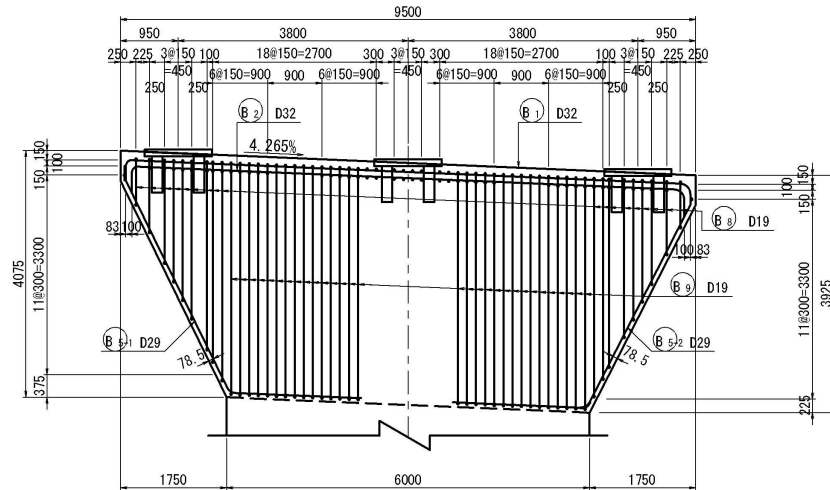
項 目	規格・寸法	單位	數 量	摘 要
構造物掘削	特殊部 A 5	m3	891.9	土砂
		m3	132.6	軟岩

道東自動車道 占冠地区下部工工事			
図面の種類	シム川橋（より線） P 4 横脚構造一般図		
縮 尺	図 示	図面番号	-
設計会社名	株式会社 日本構造橋梁研究所		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 北海道支社 帯広工事事務所		

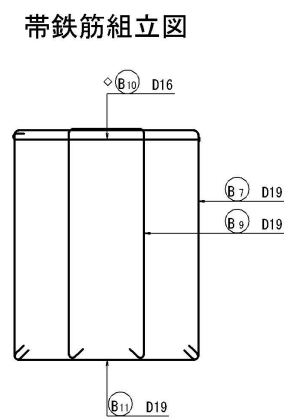
6 - 6



5 - 5

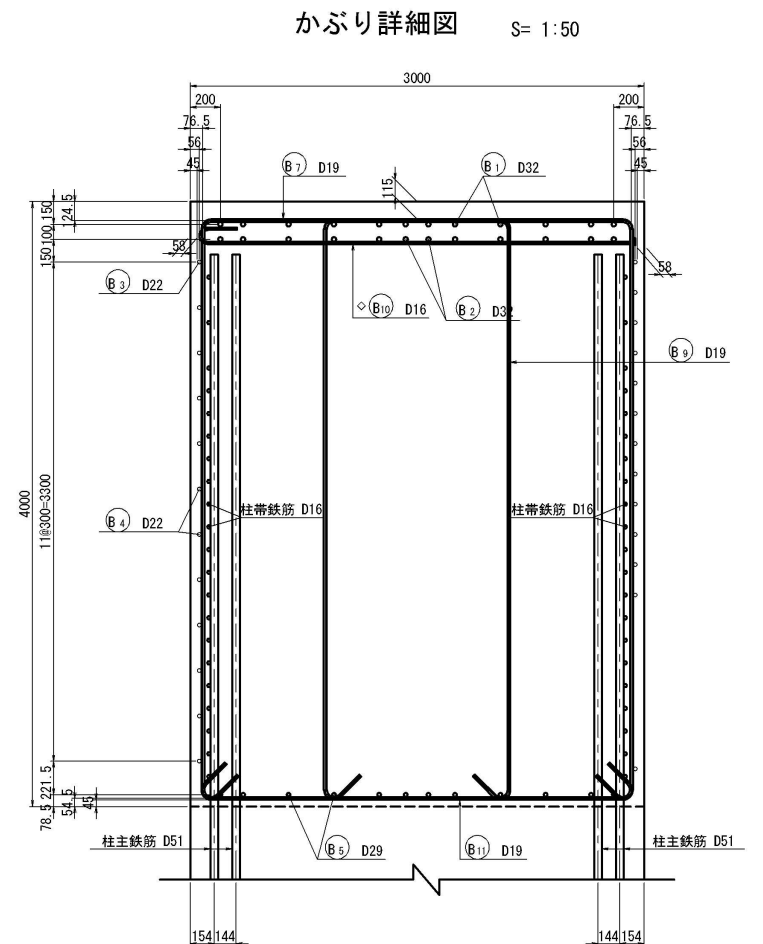


3 - 3



帶鉄筋組立図

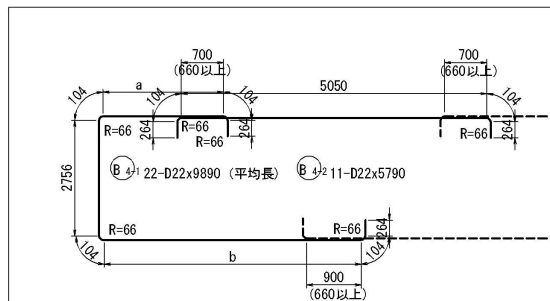
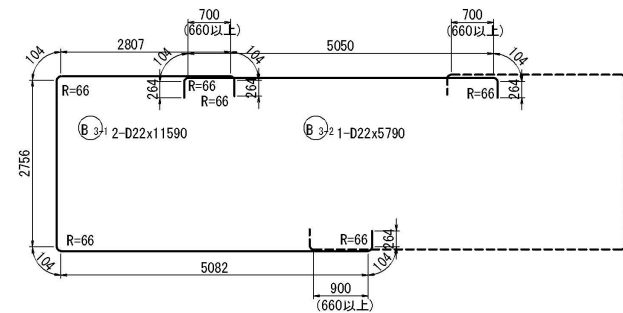
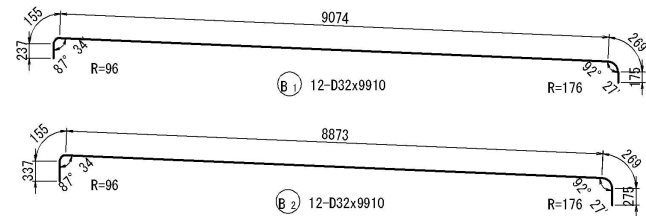
位置図



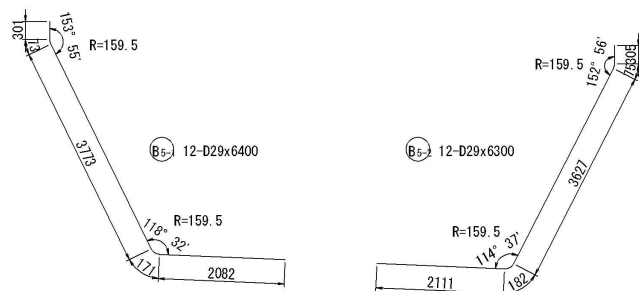
かぶり詳細図 S= 1:50

注1) ◇印表記は機械式鉄筋定着工法を示すものであり、下記の基準等を満たすこと。
① 道路標示方書・関係図 (H20 日本道路協会)
② 機械式鉄筋定着工法の配筋設計ガイドライン (H20 7機械式鉄筋定着工法技術検討委員会)
なお、定着部の設置方向は、施工条件により定着と半円形折付の設置方向を変更してもよい。
注2) 機械式定着鉄筋は、被拘束鉄筋に接触するように配置すること。機械式定着鉄筋は、10mm以内を可能なら近づけること。
注3) 鉄筋長は切り上げの10mm丸めのこと。

道東自動車道 占冠地区下部工工事			
図面の種類	シム川橋（上り線） P 4 橋脚配筋図（その 1）		
縮 尺	図 示	図面番号	-
設計会社名	株式会社 日本構造橋梁研究所		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 北海道支社 帯広工事事務所		

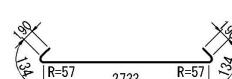
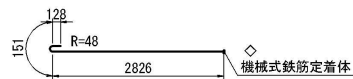
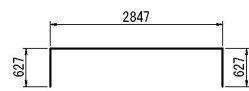
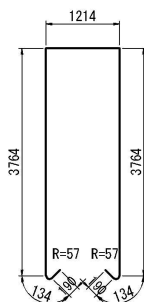
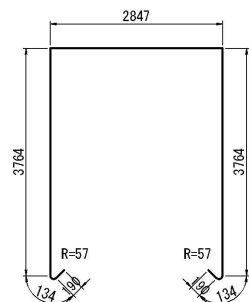


記号	径	本数	a	b	L
1	D22	2	2704	4979	11380
2	D22	2	2554	4859	11110
3	D22	2	2404	4679	10780
4	D22	2	2254	4559	10510
5	D22	2	2104	4379	10180
6	D22	2	1953	4228	9880
7	D22	2	1803	4078	9580
8	D22	2	1653	3928	9280
9	D22	2	1503	3778	8980
10	D22	2	1353	3628	8680
11	D22	2	1203	3498	8380
平均長		22			9885

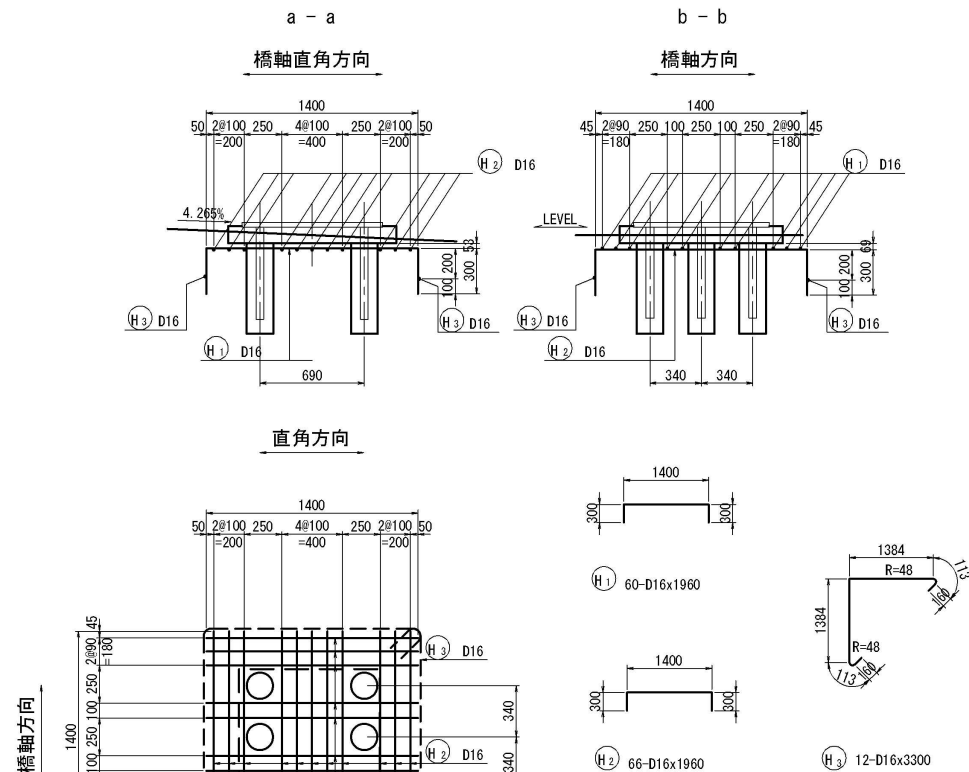


B6 18-D19x7910 (平均長)					
記号	径	本数	a	L	
1	D19	1	699	4840	
2	D19	1	1149	5740	
3	D19	1	1649	6740	
4	D19	1	1949	7340	
5	D19	1	2249	7940	
6	D19	1	2549	8540	
7	D19	1	3049	9540	
8	D19	1	3249	9940	
9	D19	1	3549	10540	
10	D19	1	3545	10540	
11	D19	1	3245	9940	
12	D19	1	3045	9540	
13	D19	1	2545	8540	
14	D19	1	2245	7940	
15	D19	1	1945	7340	
16	D19	1	1645	6740	
17	D19	1	1145	5740	
18	D19	1	695	4840	
平均長		18		7907	

B8 18-D19x6280 (平均長)					
記号	径	本数	a	L	
1	D19	1	699	3210	
2	D19	1	1149	4110	
3	D19	1	1649	5110	
4	D19	1	1949	5710	
5	D19	1	2249	6310	
6	D19	1	2549	6910	
7	D19	1	3049	7910	
8	D19	1	3249	8310	
9	D19	1	3549	8910	
10	D19	1	3545	8900	
11	D19	1	3245	8300	
12	D19	1	3045	7900	
13	D19	1	2545	6900	
14	D19	1	2245	6300	
15	D19	1	1945	5700	
16	D19	1	1645	5100	
17	D19	1	1145	4100	
18	D19	1	695	3200	
平均長		18		6272	



支承補強鉄筋図 S= 1:50 (6箇所)



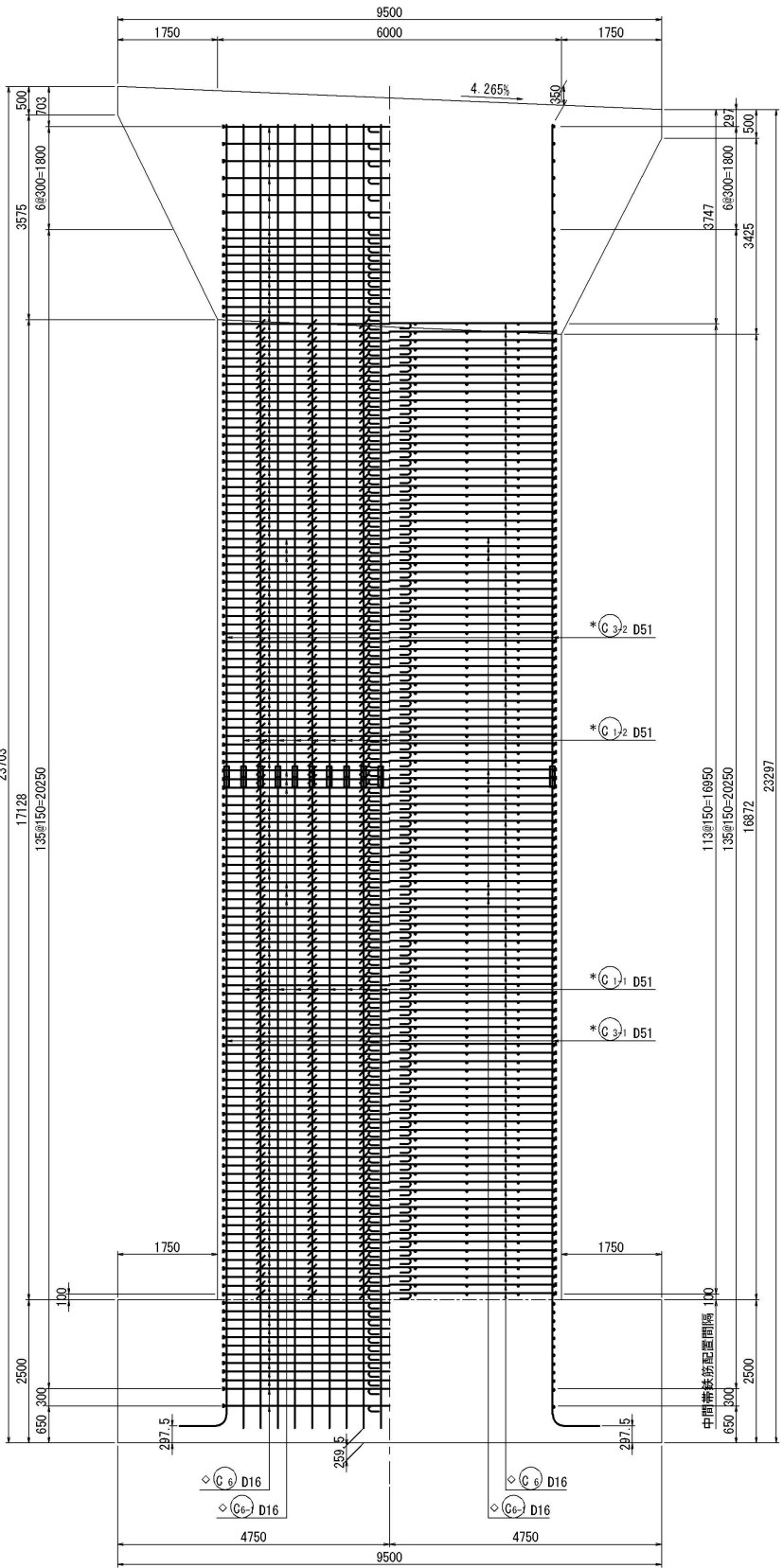
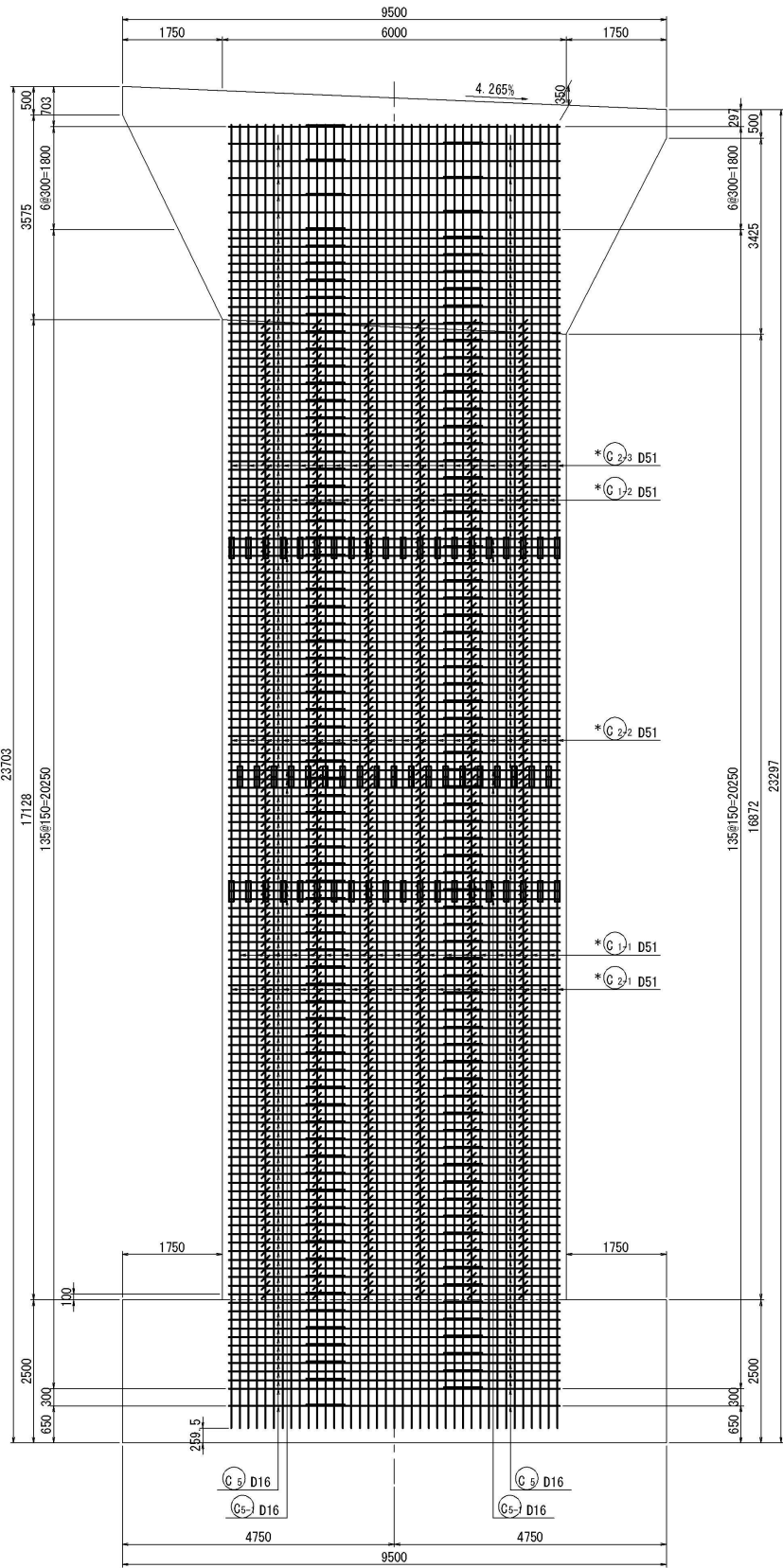
注1) ◇印表記は機械式鉄筋定着工法を示すものであり、下記の基準等を満足すること。
1. 道路橋示方書-同解説 (H29. 11日本道路協会)
2. 機械式鉄筋定着工法の配筋設計ガイドライン (H28. 7機械式鉄筋定着工法技術検討委員会)
なお、定着体の設置方向は、施工条件に応じて定着体と半円形フックの設置方向を変更してもよい。
注2) 機械式定着鉄筋は、被拘束鉄筋に接触するように配置すること。機械式定着鉄筋は、主鉄筋に可能な限り近づけること。
注3) 鉄筋長は切り上げの10mm丸めとする。

道東自動車道 占冠地区下部工工事			
図面の種類	シム川橋（上り線） P 4 橋脚配筋図（その2）		
縮 尺	図 示	図面番号	-
設計会社名	株式会社 日本橋造橋梁研究所		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 北海道支社 帯広工事事務所		

1 - 1

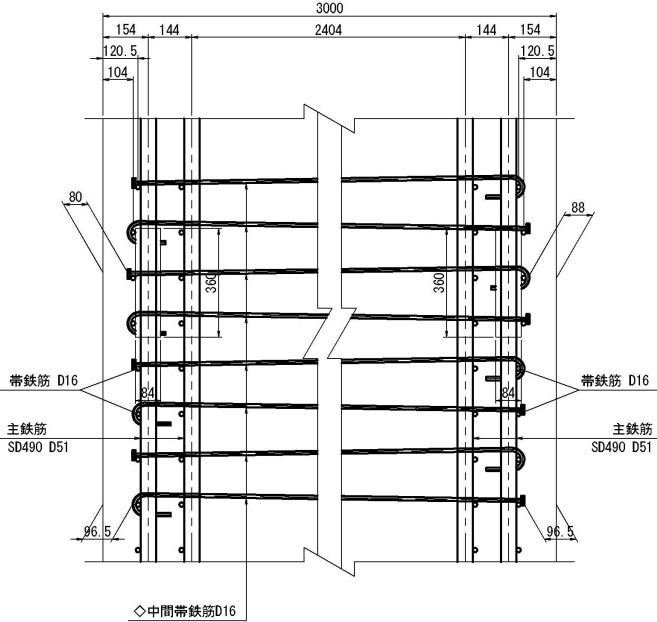
2 - 2

3 - 3



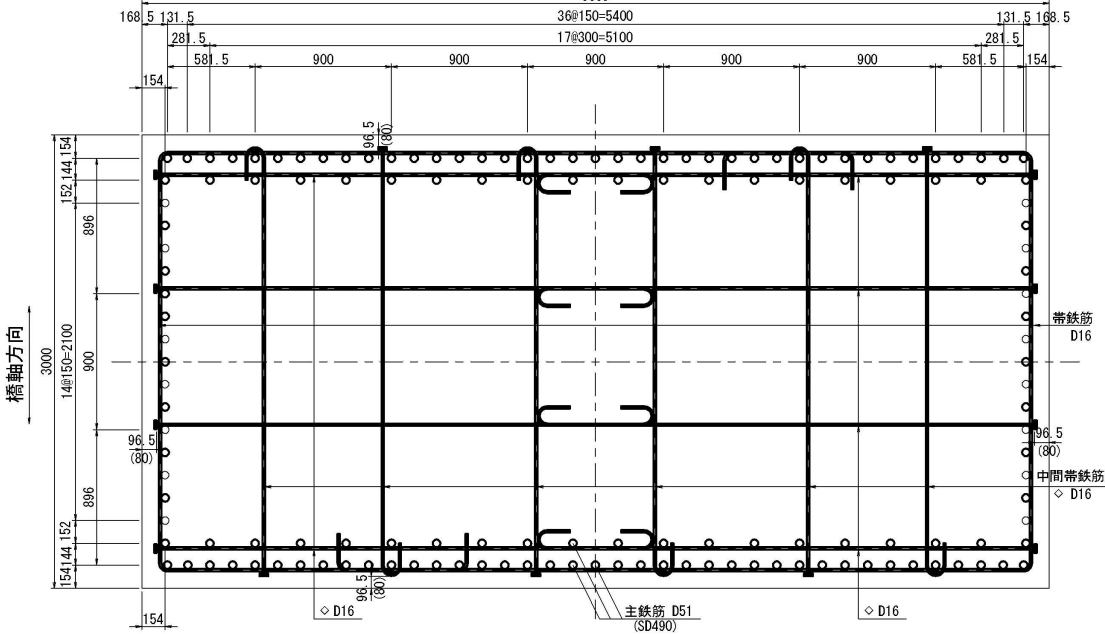
柱かぶり詳細図 S= 1:50

橋軸方向

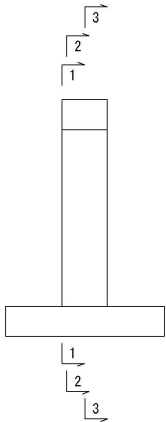


柱平面かぶり詳細図 S= 1:50

橋軸直角方向



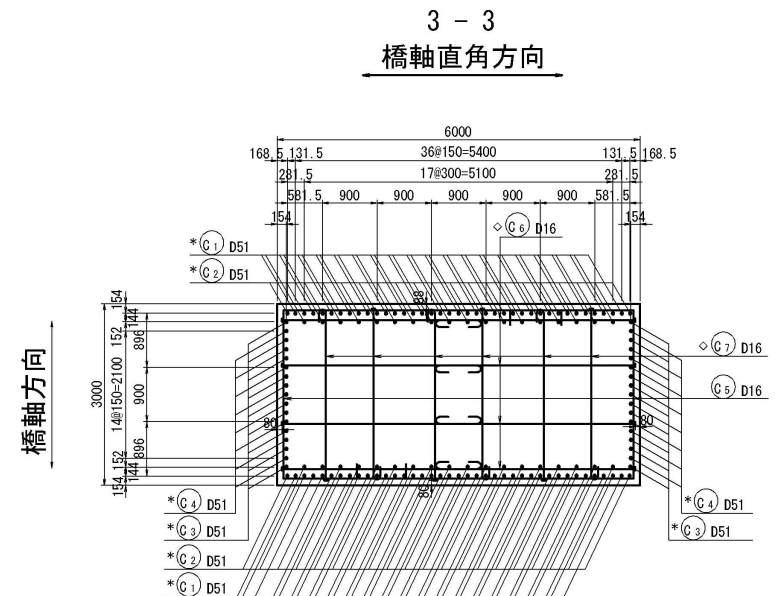
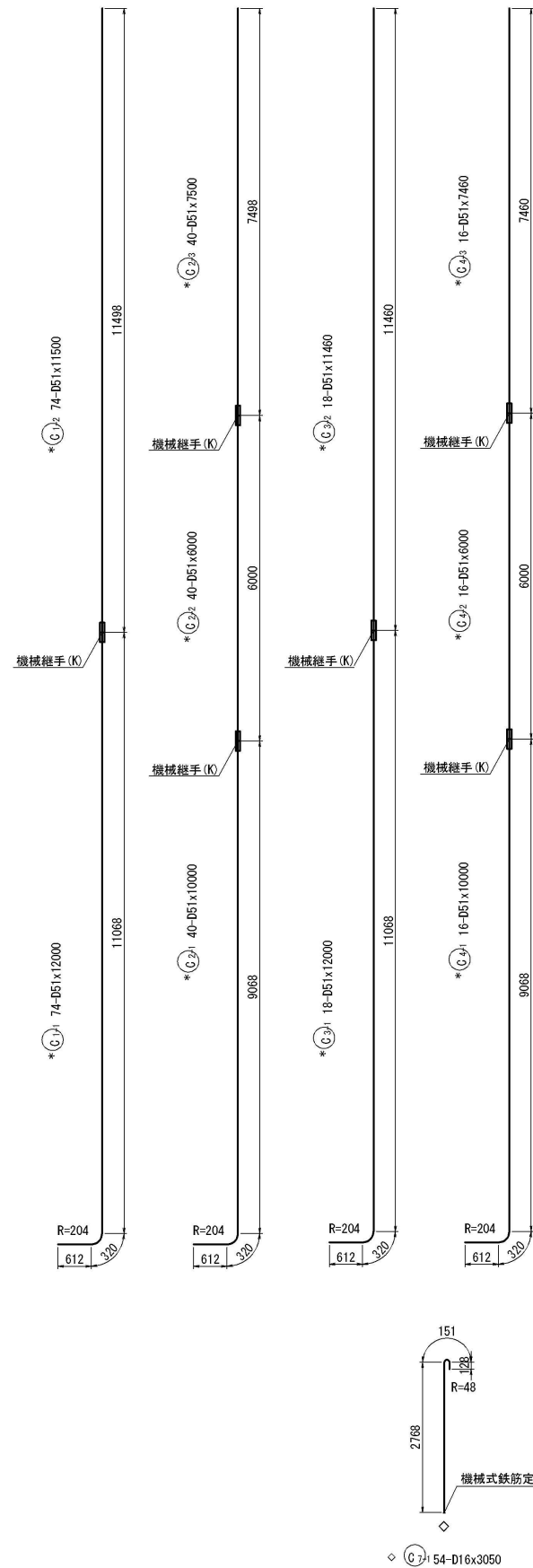
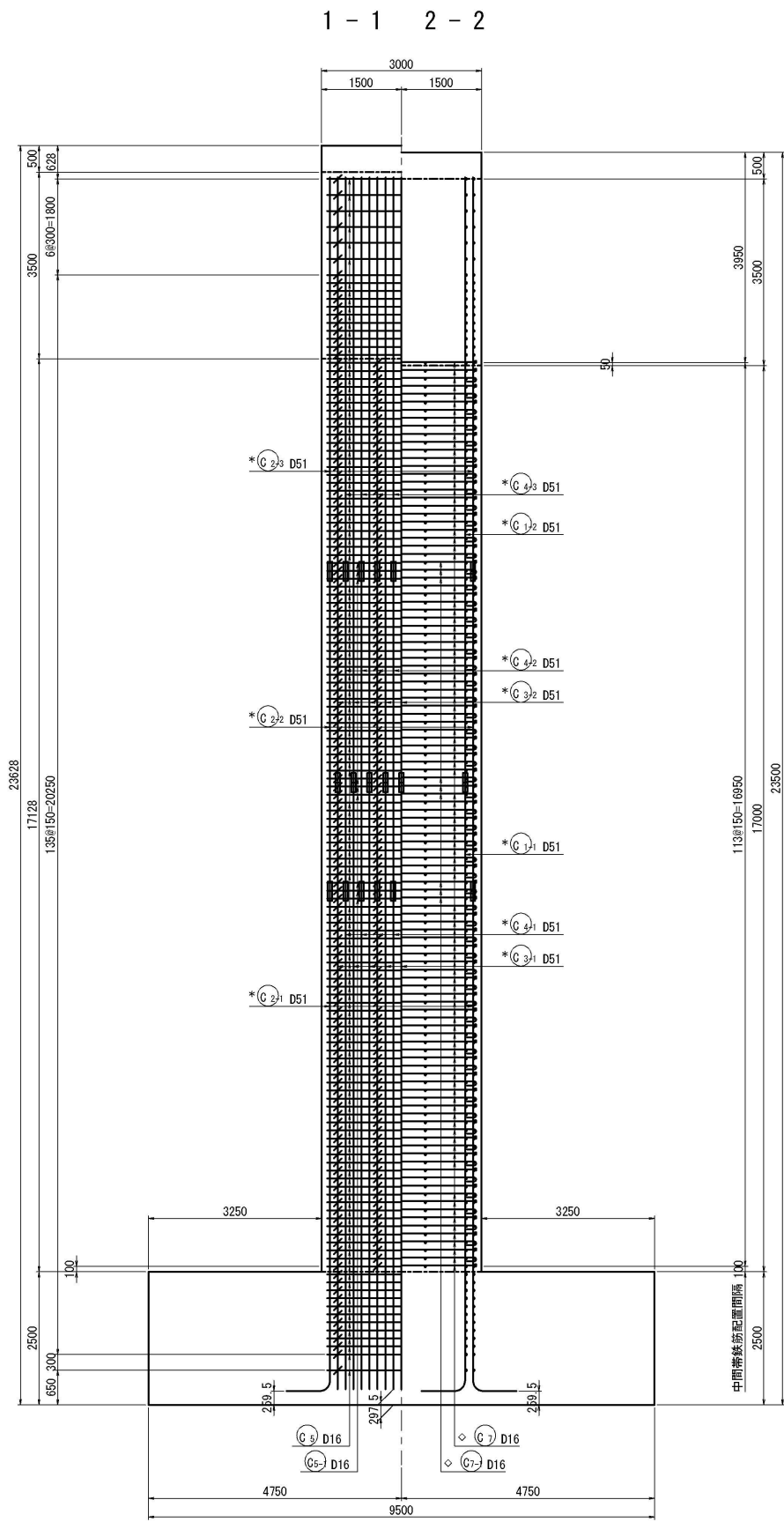
位置図



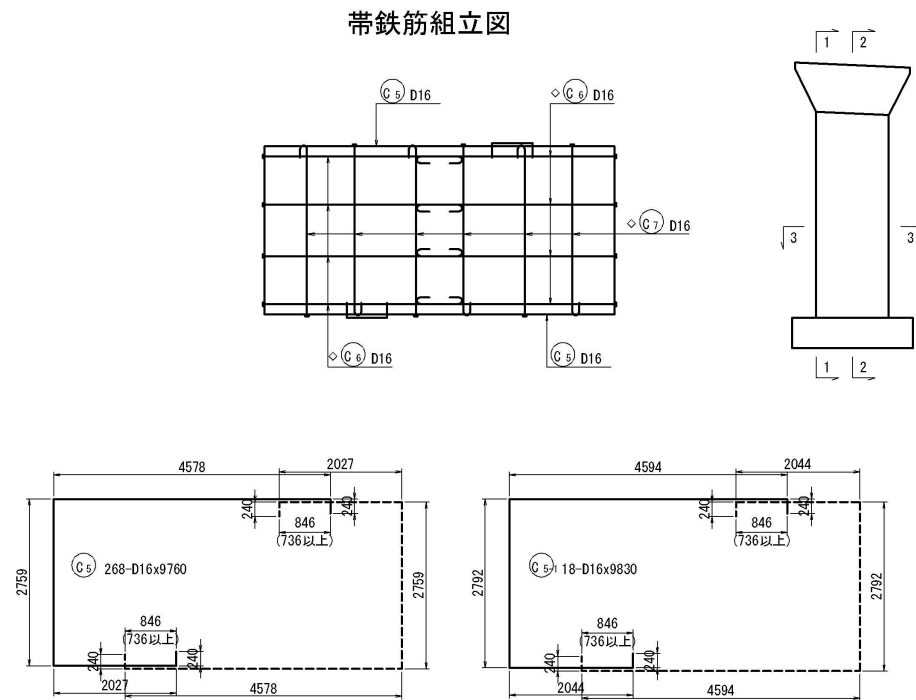
注) 〇内の値は、機械式継手部の値を示す

注) 鉄筋長は切り上げの10mm丸めとする。
* 印の鉄筋はSD490鉄筋を示す。

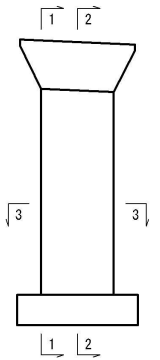
道東自動車道 占冠地区下部工工事			
図面の種類	シム川橋（上り線） P 4 橋脚配筋図（その3）		
縮 尺	図 示	図面番号	-
設計会社名	株式会社 日本構造橋梁研究所		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 北海道支社 帯広工事事務所		



帯鉄筋組立図



位置図



注1) ◇印表記は機械式鉄筋定着工法を示すものであり、下記の基準等を満足すること。
1. 道路橋示方書-同解説 (H29.11日本道路協会)
2. 機械式鉄筋定着工法の配筋設計ガイドライン (H28.7機械式鉄筋定着工法技術検討委員会)
なお、定着体の設置方向は、施工条件に応じて定着体と半円形フックの設置方向を変更してもよい。
注2) 鉄筋長は切り上げの10mm丸めとする。
* 印の鉄筋はSD490鉄筋を示す。

道東自動車道 占冠地区下部工工事			
図面の種類	シム川橋（上り線） P 4 橋脚配筋図（その4）		
縮 尺	図 示	図面番号	-
設計会社名	株式会社 日本構造橋梁研究所		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 北海道支社 帯広工事事務所		

鉄筋表（下部工施工）

符号	径	長さ (mm)	本数	単位質量 (kg/m)	本当り質量 (kg)	総質量 (kg)	摘要
B 1	D32	9910	12	6. 23	61. 7	740	
B 2	D32	9910	12	6. 23	61. 7	740	
B 3-1	D22	11590	2	3. 04	35. 2	70	
B 3-2	D22	5790	1	3. 04	17. 6	18	
B 4-1	D22	9890	22	3. 04	30. 1	662	(平均長)
B 4-2	D22	5790	11	3. 04	17. 6	194	
B 5-1	D29	6400	12	5. 04	32. 3	388	
B 5-2	D29	6300	12	5. 04	31. 8	382	
B 6	D19	7910	18	2. 25	17. 8	320	(平均長)
B 7	D19	10980	30	2. 25	24. 7	741	
B 7-1	D19	4060	8	2. 25	9. 14	73	(平均長)
B 8	D19	6280	18	2. 25	14. 1	254	
B 9	D19	9340	30	2. 25	21. 0	630	C (44)
B 10	D16	3110	44	1. 56	4. 85	213	
B 11	D19	3390	48	2. 25	7. 63	366	

5791 kg

H 1	D16	1960	60	1. 56	3. 06	184	
H 2	D16	1960	66	1. 56	3. 06	202	
H 3	D16	3300	12	1. 56	5. 15	62	

448 kg

* C 1-1	D51	12000	74	15. 9	191	14134	K B<74>
* C 1-2	D51	11500	74	15. 9	183	13542	K B<->
* C 2-1	D51	10000	40	15. 9	159	6360	K B<40>
* C 2-2	D51	6000	40	15. 9	95. 4	3816	K B<40>
* C 2-3	D51	7500	40	15. 9	119	4760	K B<->
* C 3-1	D51	12000	18	15. 9	191	3438	K B<18>
* C 3-2	D51	11460	18	15. 9	182	3276	K B<->
* C 4-1	D51	10000	16	15. 9	159	2544	K B<16>
* C 4-2	D51	6000	16	15. 9	95. 4	1526	K B<16>
* C 4-3	D51	7460	16	15. 9	119	1904	K B<->

C 5	D16	9760	268	1. 56	15. 2	4074	
C 5-1	D16	9830	18	1. 56	15. 3	275	
C 6	D16	3490	956	1. 56	5. 44	5201	C (956)
C 6-1	D16	3510	72	1. 56	5. 48	395	
C 7	D16	3020	630	1. 56	4. 71	2967	C (630)
C 7-1	D16	3050	54	1. 56	4. 76	257	

68469 kg

F 1	D38	10310	34	8. 95	92. 3	3138	
F 2	D38	8800	58	8. 95	78. 8	4570	
F 2-1	D38	4770	58	8. 95	42. 7	2477	B<->
F 2-2	D38	8500	2	8. 95	76. 1	152	
F 2-3	D38	5070	2	8. 95	45. 4	91	B<->
F 3	D25	9970	34	3. 98	39. 7	1350	
F 4	D29	9000	34	5. 04	45. 4	1544	B<34>
F 4-1	D29	4730	34	5. 04	23. 8	809	
F 5	D38	10110	32	8. 95	90. 5	2896	
F 6	D29	9870	32	5. 04	49. 7	1590	
F 7	D19	9850	20	2. 25	22. 2	444	
F 8	D19	9330	20	2. 25	21. 0	420	
F 9	D25	2670	130	3. 98	10. 6	1378	C (130)

20859 kg

鉄筋質量集計（下部工施工）（SD490）				
	A種鉄筋	B種鉄筋	C種鉄筋	合計
D51	—	55300 kg	—	55300 kg
合 計	—	55300 kg	—	55300 kg

鉄筋質量集計（下部工施工）（SD345）				
	A種鉄筋	B種鉄筋	C種鉄筋	合計
D38	6034 kg	7290 kg	—	13324 kg
D32	1480 kg	—	—	1480 kg
D29	2360 kg	2353 kg	—	4713 kg
D25	1350 kg	—	1378 kg	2728 kg
D22	944 kg	—	—	944 kg
D19	3248 kg	—	—	3248 kg
D16	4797 kg	—	9033 kg	13830 kg
合 計	20213 kg	9643 kg	10411 kg	40267 kg

< > 内数値は、機械継手の箇所数を示す。
() 内数値は、機械式鉄筋定着工法箇所数を示す。

鉄筋集計表（SD490）

種 別		下部工施工		合計 (kg)	
		躯体	計 (kg)		
A (SD490)	D16～D25	D16	—	—	
		D19	—	—	
		D22	—	—	
		D25	—	—	
		小計	—	—	
	D29～D32	D29	—	—	
		D32	—	—	
		小計	—	—	
	D35		—	—	
	D38		—	—	
A の 合 計		—	—		
B (SD490)	D16～D25	D16	—	—	
		D19	—	—	
		D22	—	—	
		D25	—	—	
		小計	—	—	
	D29～D32	D29	—	—	
		D32	—	—	
		小計	—	—	
	D35		—	—	
	D38		—	—	
	D51		55300	55300	55300
	B の 合 計		55300	55300	55300
	鉄筋総質量		55300	55300	55300

鉄筋集計表（SD345）

種 別		下部工施工		合計 (kg)
		躯体	計 (kg)	
A (SD345)	D16～D25	D16	4797	4797
		D19	3248	3248
		D22	944	944
		D25	1350	1350
		小計	10339	10339
	D29～D32	D29	2360	2360
		D32	1480	1480
		小計	3840	3840
		D38	6034	6034
		D41	—	—
B (SD345)	A の 合 計		20213	20213
	D29～D32	D29	2353	2353
		D32	—	—
		小計	2353	2353
		D38	7290	7290
		B の 合 計	9643	9643
C (SD345)	D16～D25	D16	9033	9033
		D19	—	—
		D22	—	—
		D25	1378	1378
		小計	10411	10411
	C の 合 計	10411	10411	10411
		鉄筋総質量	40267	40267

機械継手箇所数

項目	鉄筋径	継手箇所数	合 計
機械継手箇所数	D25	—	—
	D29	34	34
	D32	—	—
	D38	60	60
	D41	—	—
	D51	204	204
合 計		298	298

機械式鉄筋定着工法数量表

鉄筋径	0<L≤1m	1m<L≤2m	2m<L≤3m	3m<L≤4m	4m<L≤5m	5m<L≤6m
D16	—	—	—	1756	—	—
D19	—	—	—	—	—	—
D25	—	—	130	—	—	—
合計						1886

鉄筋加工寸法表（SD345）

主 筋		鋭角フック		半円フック		直角フック	
		10φ以上	8φ以上で12cm以上	8φ以上で12cm以上	90°φ	90°φ	90°φ
径	θ ≤90° R=3. 0φ	θ >90° R=5. 5φ	θ =45°	θ =60°	θ =90°	θ =135°	
主 筋	D13	39	71. 5	92	96	82	53
	D16	48	88	113	119	100	66
	D19	57	104. 5	134	141	119	78
	D22	66	121	155	164	138	91
	D25	75	137. 5	177	185	157	103
	D29	87	159. 5	205	215	182	119
	D32	96	176	226	237	201	132
	D35	105	192. 5	247	260	220	144
	D38	114	209	269	281	239	156
	D41	123	225. 5	290	304	258	168
中 間 帯 鉄 筋	D51	153	280. 5	360	379	320	210
	径	R=3. 0φ	鋭角フック	半円フック	直 角 フ ッ ク		
	D13	39	92	123	61	17	
	D16	48	113	151	75	21	
	D19	57	134	179	89	25	
	D22	66	156	207	104	28	
	D25	75	177	236	118	32	
	D29	87	205	273	137	37	
	径	R=2. 5φ	直角フック				
	D13	32. 5	51	14			
ス タ ー ラ ッ プ	D16	40	63	17			
	D19	47. 5	75	20			
	D22	55	86	24			
	D25	62. 5	98	27			
	D29	72. 5	114	31			

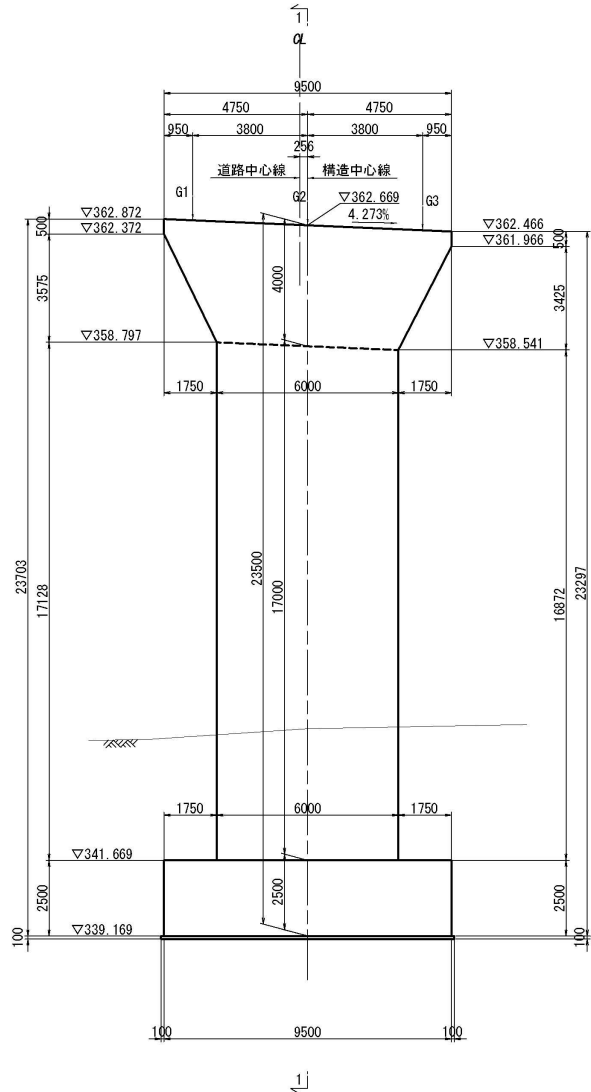
鉄筋加工寸法表（SD490）

主 筋		鋭角フック		半円フック		直角フック	
		10φ以上	8φ以上で12cm以上	8φ以上で12cm以上	90°φ	90°φ	90°φ
径	θ ≤90° R=4. 0φ	θ >90° R=5. 5φ	θ =90°	θ =135°			
D13	52	71. 5	82	22	56	3	
D16	64	88	101	27	69	4	
D19	76	104. 5	119	33	82	5	
D22	88	121	138	38	95	5	
D25	100	137. 5	157	43	108	6	
D29	116	159. 5	182	50	125	7	
D32	128	176	201	55	138	8	
D35	140	192. 5	220	60	151	8	
D38	152	209	239	65	164	9	
D51	204	280. 5	320	88	220	12	

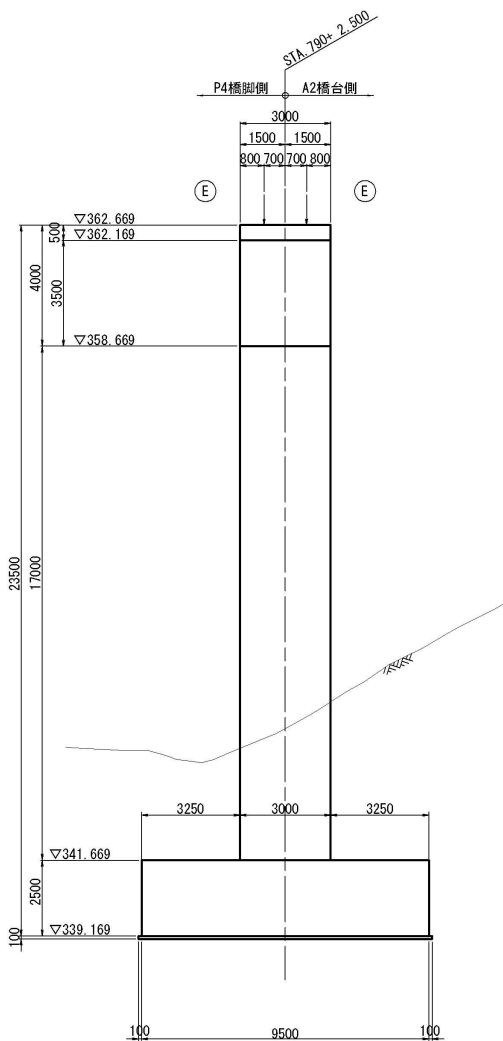
注1) △印表記は機械式鉄筋定着工法を示すものであり、下記の基準等を満足すること。
1. 道路橋示方書-同解説（H29. 11日本道路協会）
2. 機械式鉄筋定着工法の配筋設計ガイドライン（H28. 7機械式鉄筋定着工法技術検討委員会）
なお、定着体の設置方向は、施工条件に応じて定着体と半円形フックの設置方向を変更してもよい。
注2) 機械式定着鉄筋は、被拘束鉄筋に接触するように配置すること。機械式定着鉄筋は、主鉄筋に可能な限り近づけること。
注3) 鉄筋長は切り上げの10mm丸めとする。
注4) * 印の鉄筋はSD490鉄筋を示す。

道東自動車道 占冠地区下部工工事			
図面の種類	シム川橋（上り線） P 4 橋脚配筋図（その6）		
縮 尺	図 示	図面番号	—
設計会社名	株式会社 日本構造橋梁研究所		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 北海道支社 帯広工事事務所		

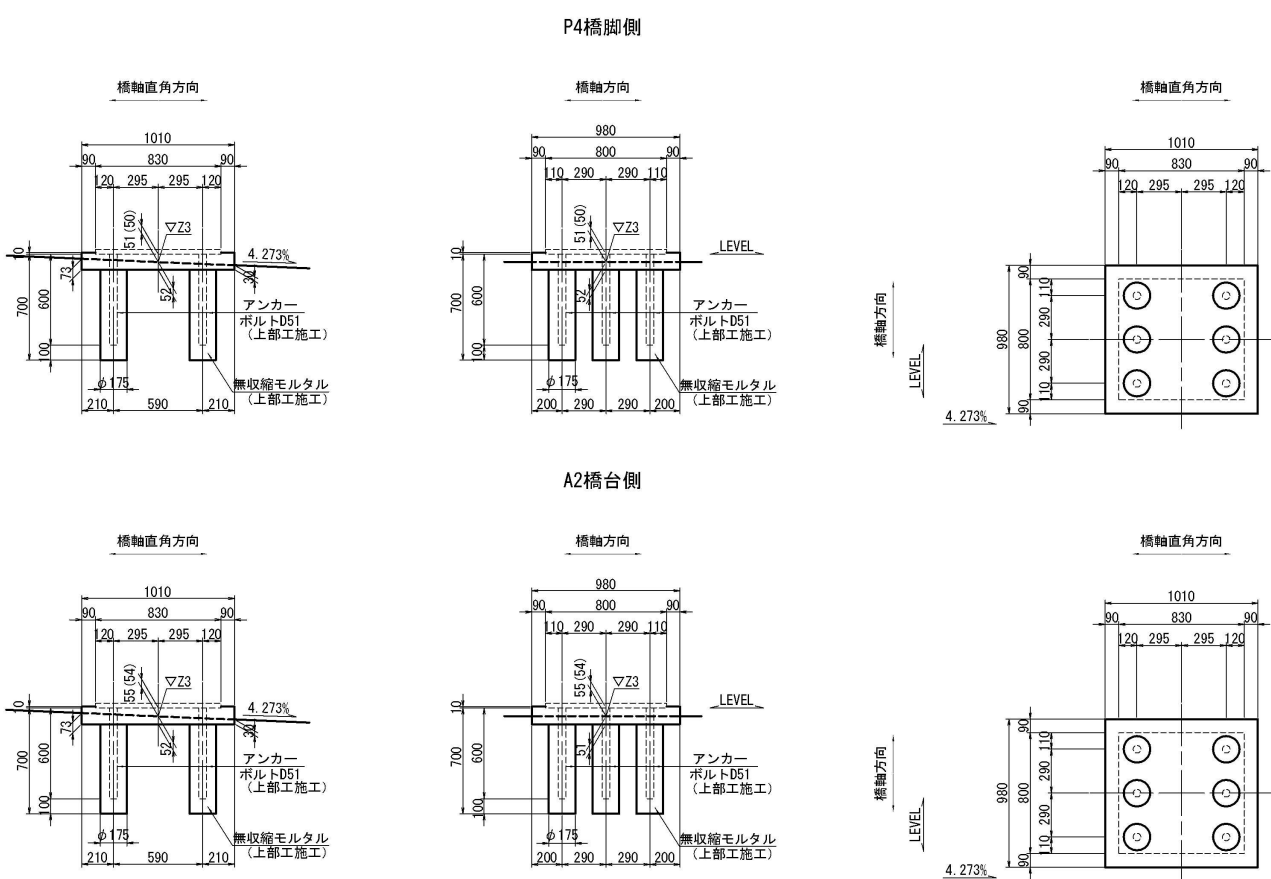
正面図



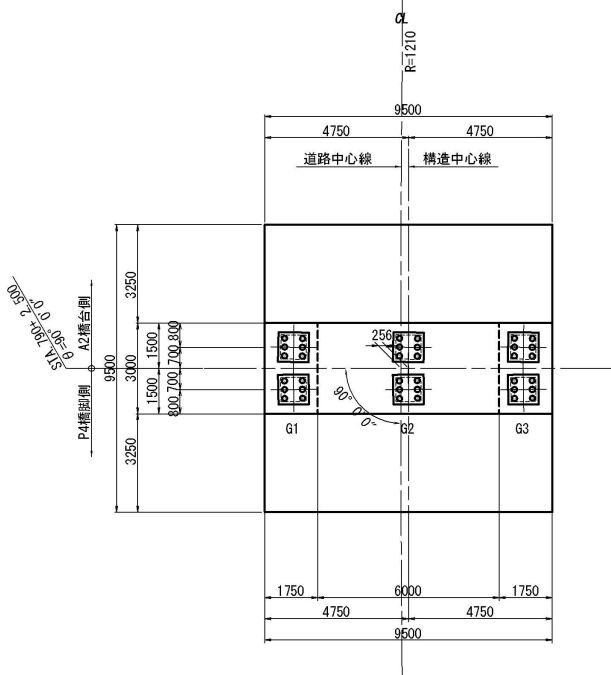
側面図 (1-1)



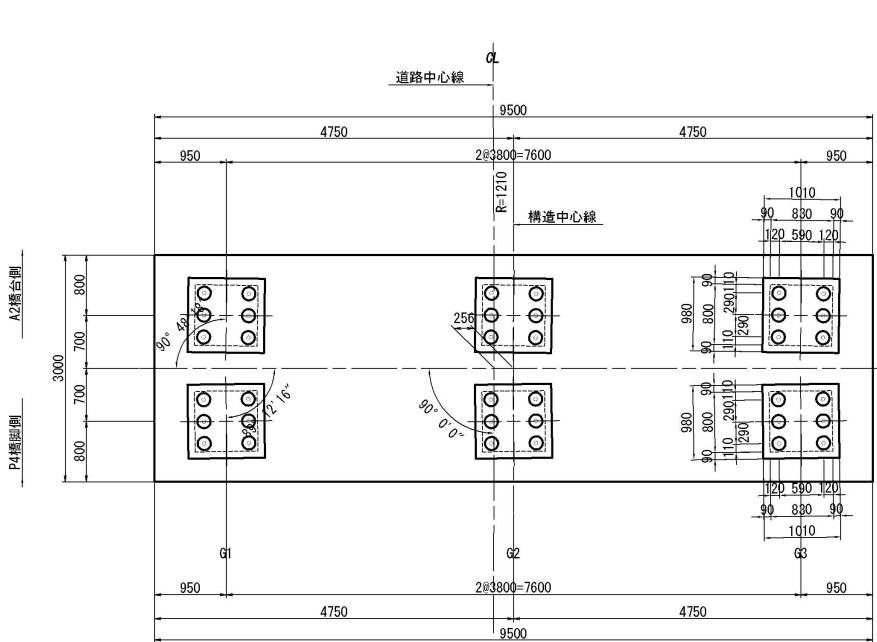
支承部詳細図 S= 1:50



平面図



支承配置図 S= 1:100



構造高表

		P5橋脚					
		P4橋脚側			A2橋台側		
		G1	G2	G3	G1	G2	G3
路面計画高	Z1	366.035	365.864	365.693	366.039	365.868	365.697
舗装厚	H1	0.106	0.098	0.089	0.106	0.098	0.089
床版厚	H2	0.200	0.200	0.200	0.200	0.200	0.200
桁高	H3	2.400	2.400	2.400	2.400	2.400	2.400
桁下端高 (レアー含む)	Z2	363.329	363.166	363.004	363.333	363.170	363.008
レアー厚	t1	0.040	0.040	0.040	0.040	0.040	0.040
支承高	H4	0.407	0.407	0.407	0.407	0.407	0.407
モルタル厚	t2	0.050	0.050	0.051	0.054	0.054	0.055
台座コンクリート厚	H5	-	-	-	-	-	-
下部工天端高	Z3	362.832	362.669	362.506	362.832	362.669	362.506
支承の方向	θ	89° 12' 16"			90° 48' 18"		

注) 舗装厚はアスファルト舗装・調整コンクリートの厚さを示す。

使用材料

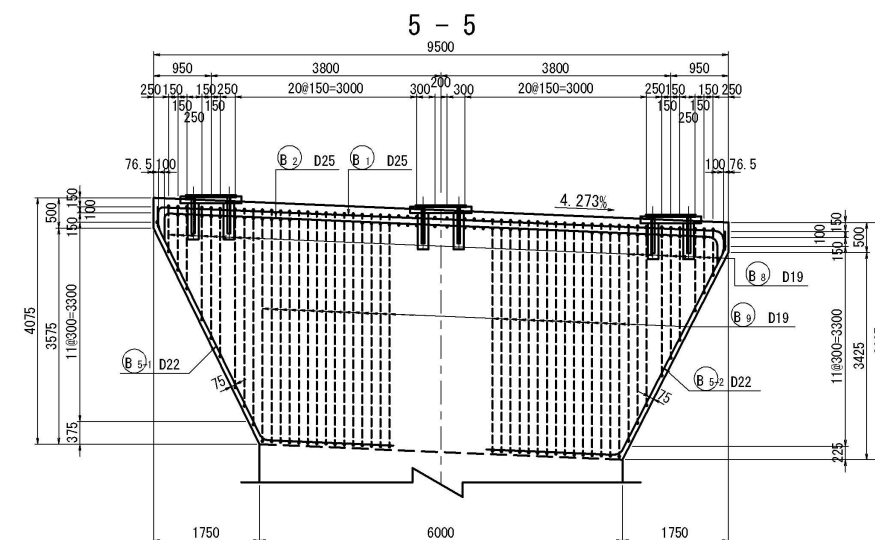
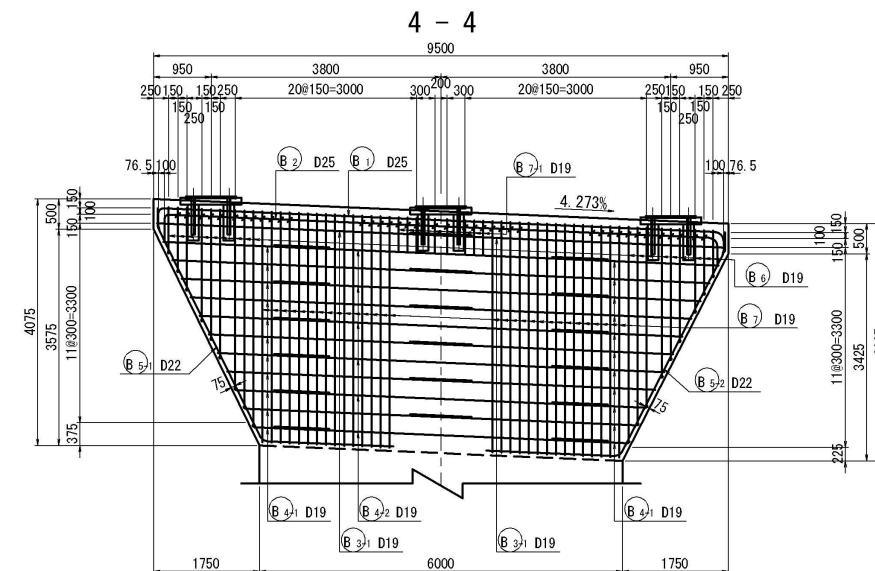
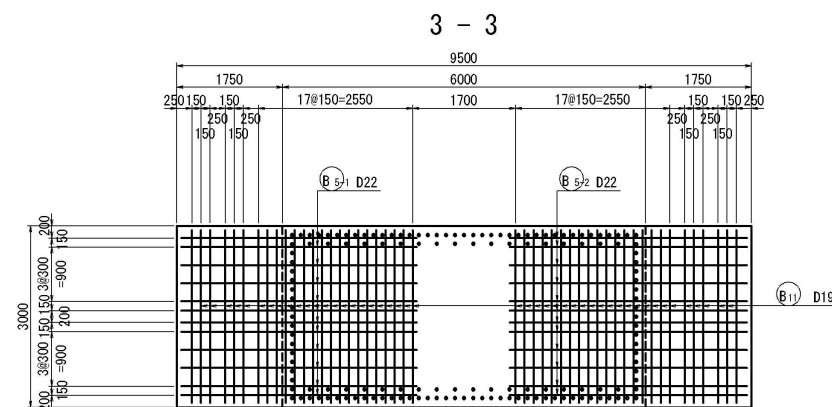
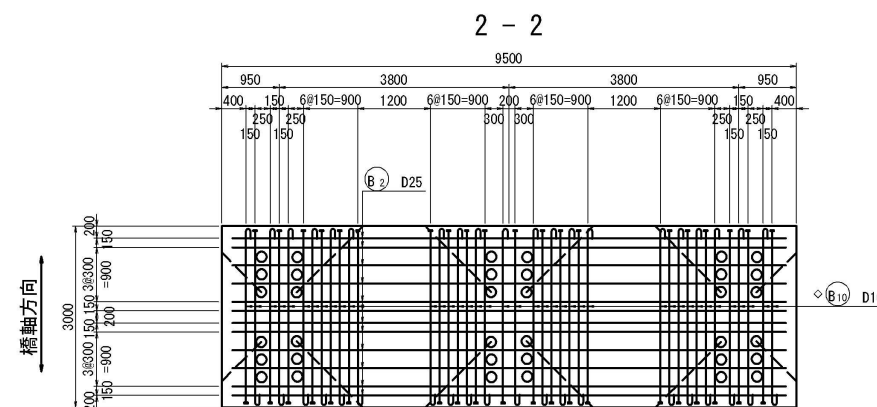
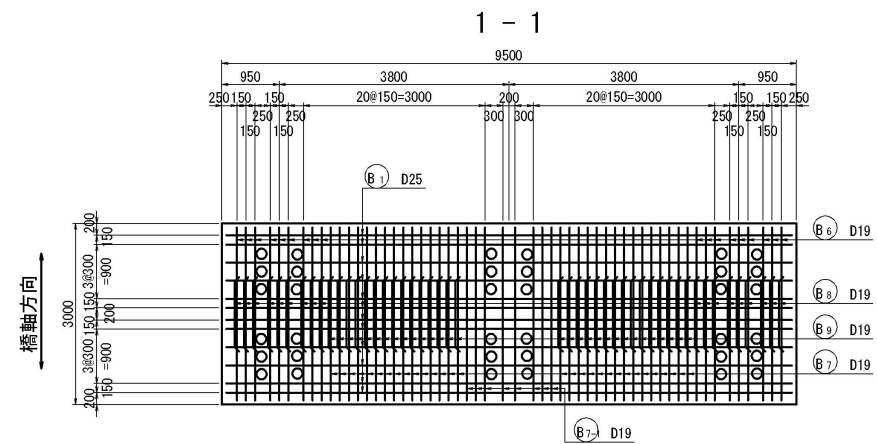
コンクリート	躯体	σ _{ck} =30N/mm ²
	フーチング	σ _{ck} =24N/mm ²
鉄 筋	均しコンクリート	σ _{ck} =18N/mm ²
	梁	SD345
	柱	SD490
	主鉄筋	SD345
鉄 筋	その他	SD345
	フーチング	SD345

数 量 表

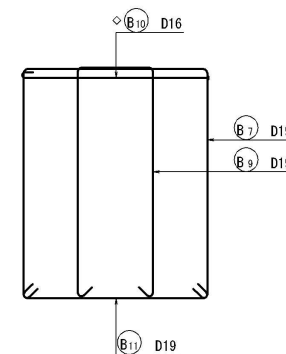
項 目	規格・寸法	単位	数 量	摘 要
構造物掘削	特殊部 A 6	m ³	1,780.5	土砂
		m ³	195.7	軟岩

道東自動車道 占冠地区下部工工事			
図面の種類	シム川橋（上り線） P 5 橋脚構造一般図		
縮 尺	図 示	図面番号	-
設計会社名	株式会社 日本橋梁研究所		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 北海道支社 帯広工事事務所		

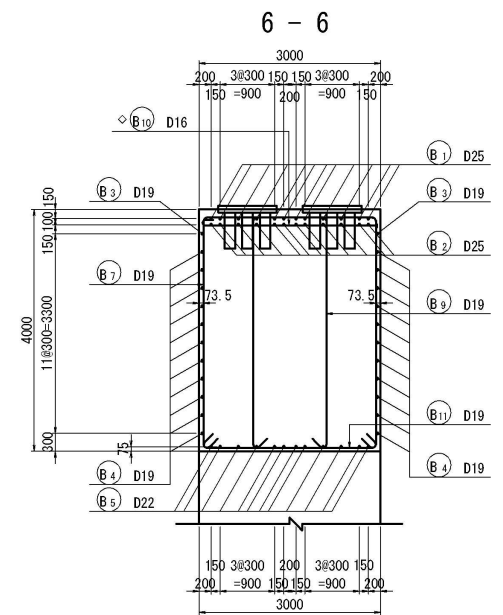
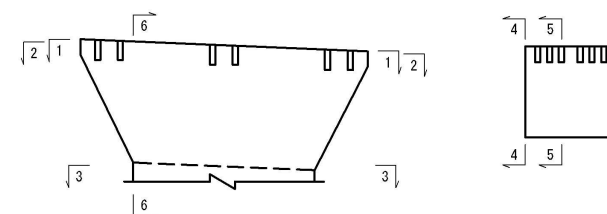
シム川橋（上り線）P5橋脚配筋図（その1）



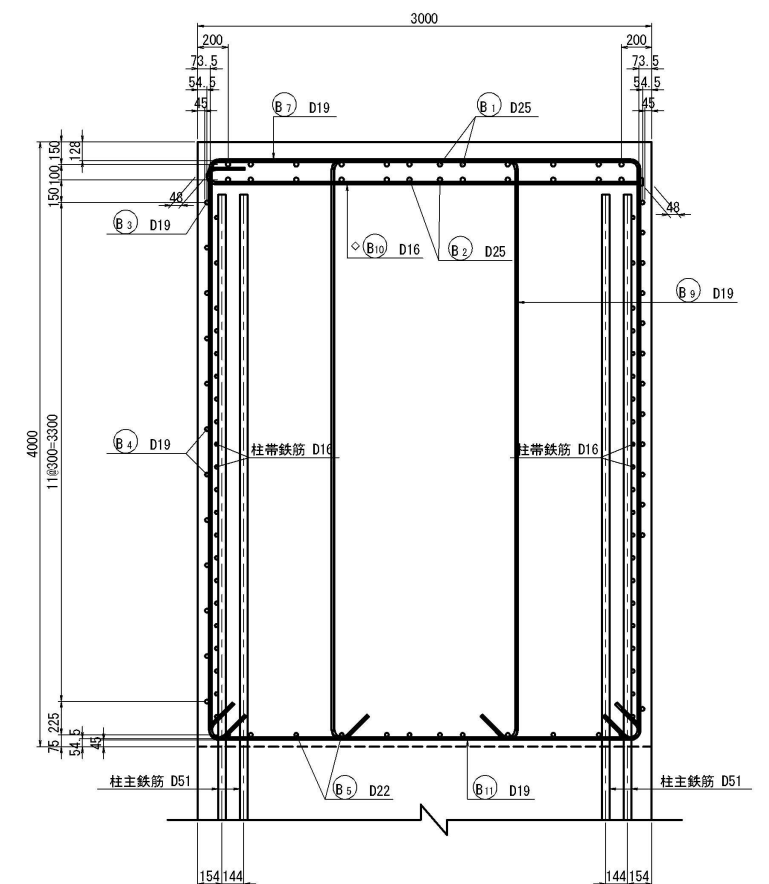
帯鉄筋組立図



位置図

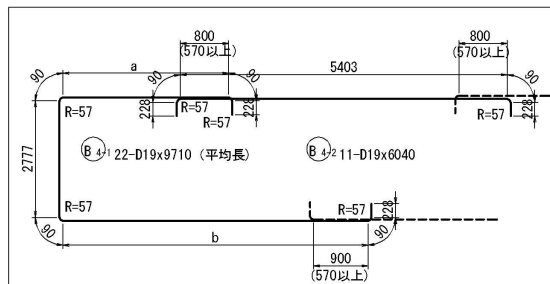
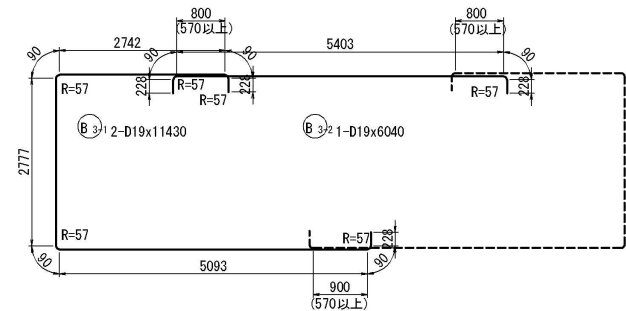
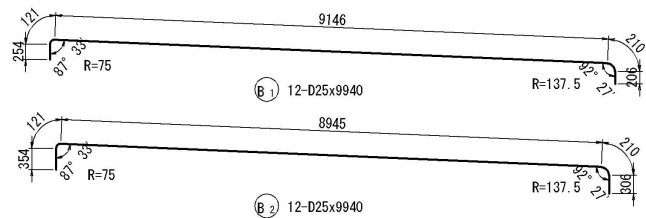


かぶり詳細図 S= 1:50

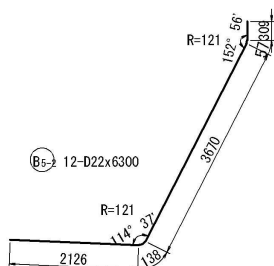
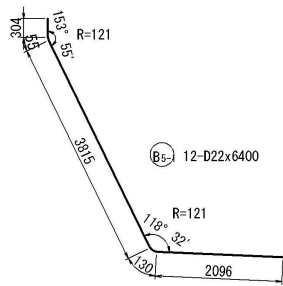


注1) ◇印表記は機械式鉄筋定着工法を示すものであり、下記の基準等を満足すること。
1. 道標標示方法-同解説(注1)日本道路協会)
2. 機械式鉄筋定着工法の配筋設計ガイドライン
(H28.7機械式鉄筋定着工法技術委員会)
など、定着式の鉄筋定着方法、施工条件に応じて定着定着と半円形折付の設置方法を変更してもよい。
注2) 機械式定着鉄筋は、被拘束鉄筋に接触するように配置すること。
機械式定着鉄筋は、10mm以下に可能な限り近づけること。
注3) 鉄筋長は切り上げの10mm丸めすること。

道東自動車道 占冠地区下部工工事			
図面の種類	シム川橋（上り線） P5橋脚配筋図（その１）		
縮 尺	図 示	図面番号	-
設計会社名	株式会社 日本構造橋梁研究所		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 北海道支社 帯広工事業務所		

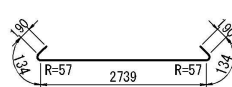
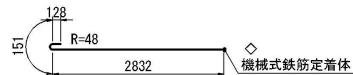
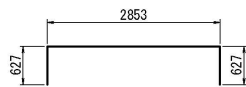
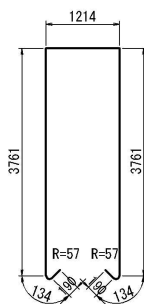
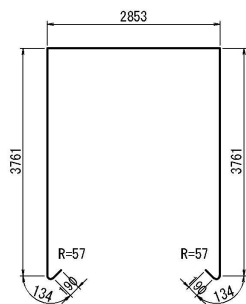


記号	径	本数	a	b	L
1	D19	2	2635	4986	11210
2	D19	2	2484	4836	10910
3	D19	2	2334	4686	10610
4	D19	2	2184	4535	10310
5	D19	2	2034	4385	10010
6	D19	2	1883	4235	9710
7	D19	2	1733	4085	9410
8	D19	2	1583	3934	9110
9	D19	2	1432	3784	8810
10	D19	2	1282	3634	8510
11	D19	2	1132	3483	8210
平均長		22			9710



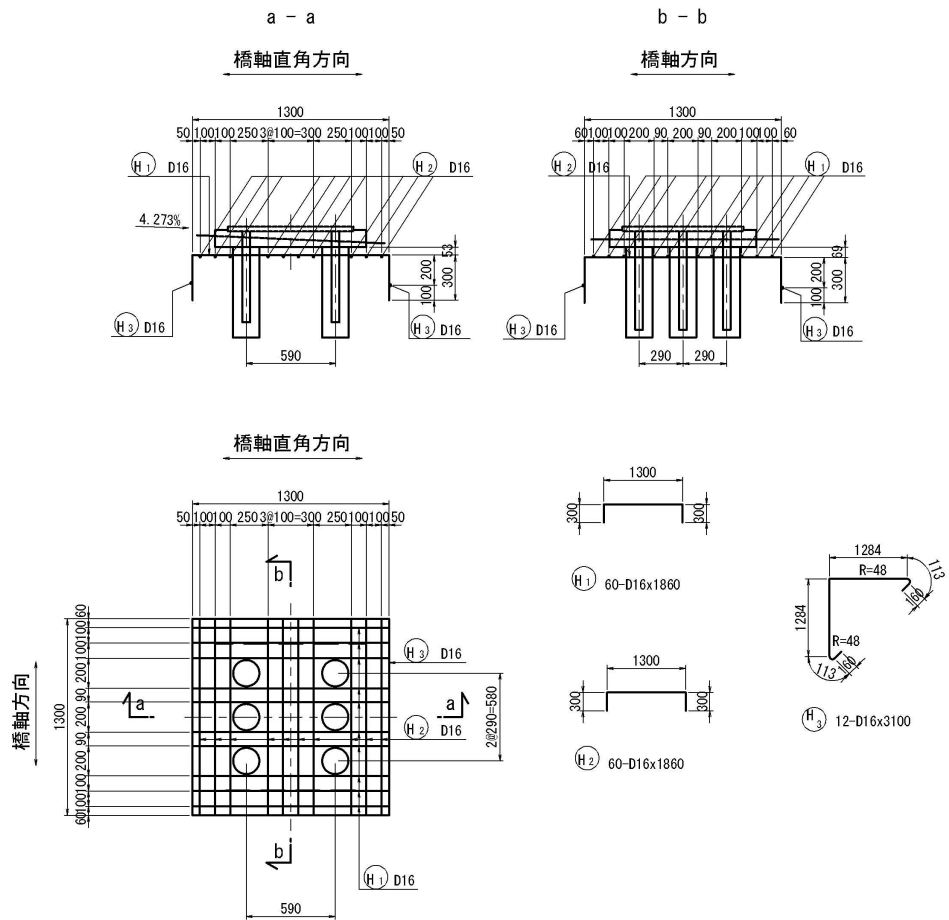
B6 18-D19x7640 (平均長)					
記号	径	本数	a	L	
1	D19	1	691	4830	
2	D19	1	991	5430	
3	D19	1	1291	6030	
4	D19	1	1791	7030	
5	D19	1	2091	7630	
6	D19	1	2391	8230	
7	D19	1	2891	9230	
8	D19	1	3191	9830	
9	D19	1	3491	10430	
10	D19	1	3495	10440	
11	D19	1	3195	9840	
12	D19	1	2895	9240	
13	D19	1	2395	8240	
14	D19	1	2095	7640	
15	D19	1	1795	7040	
16	D19	1	1295	6040	
17	D19	1	995	5440	
18	D19	1	695	4840	
平均長		18		7640	

B8 18-D19x6000 (平均長)					
記号	径	本数	a	L	
1	D19	1	691	3190	
2	D19	1	991	3790	
3	D19	1	1291	4390	
4	D19	1	1791	5390	
5	D19	1	2091	5990	
6	D19	1	2391	6590	
7	D19	1	2891	7590	
8	D19	1	3191	8190	
9	D19	1	3491	8790	
10	D19	1	3495	8800	
11	D19	1	3195	8200	
12	D19	1	2895	7600	
13	D19	1	2395	6600	
14	D19	1	2095	6000	
15	D19	1	1795	5400	
16	D19	1	1295	4400	
17	D19	1	995	3800	
18	D19	1	695	3200	
平均長		18		6000	



支承補強鉄筋

(6箇所)



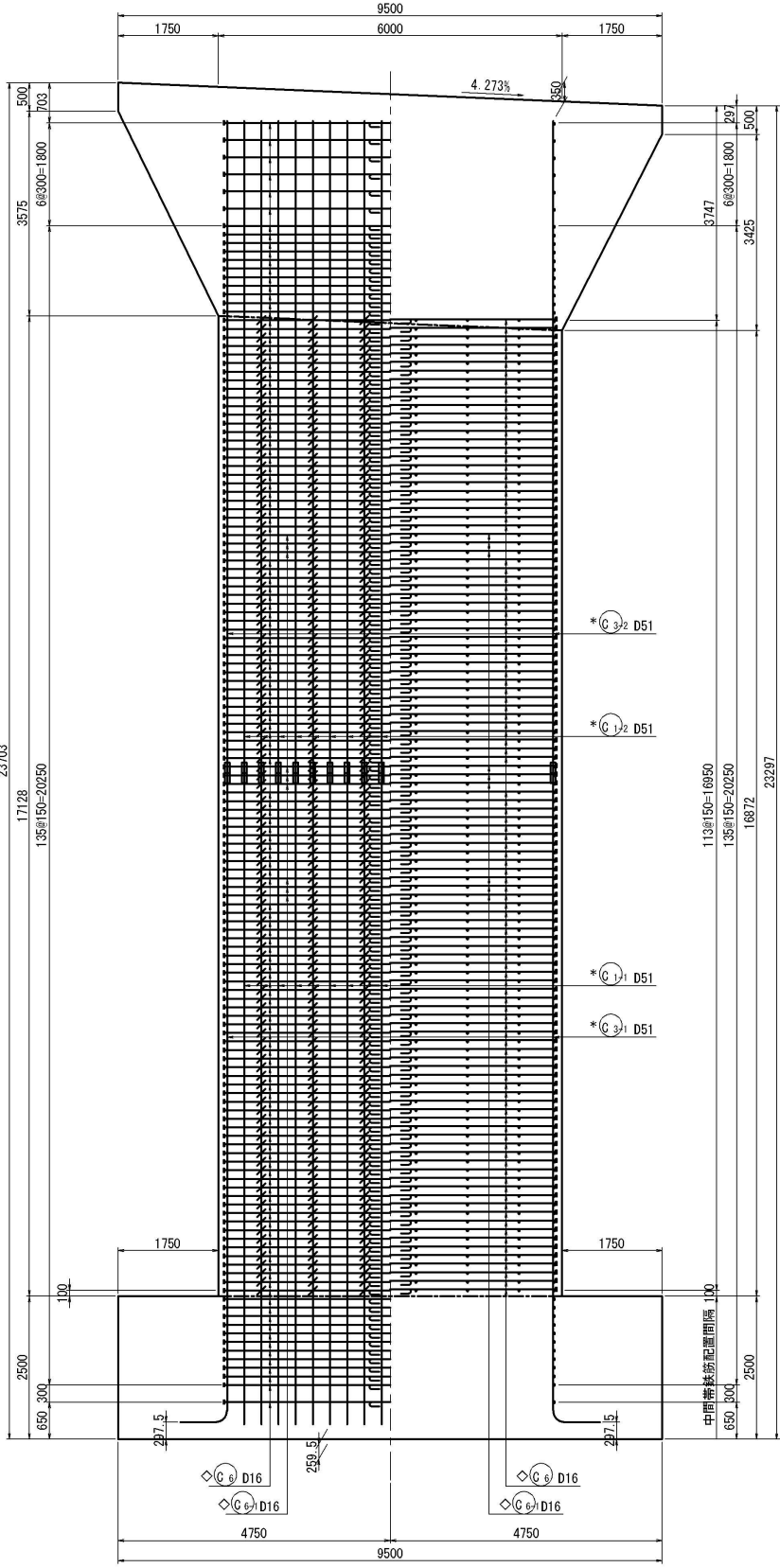
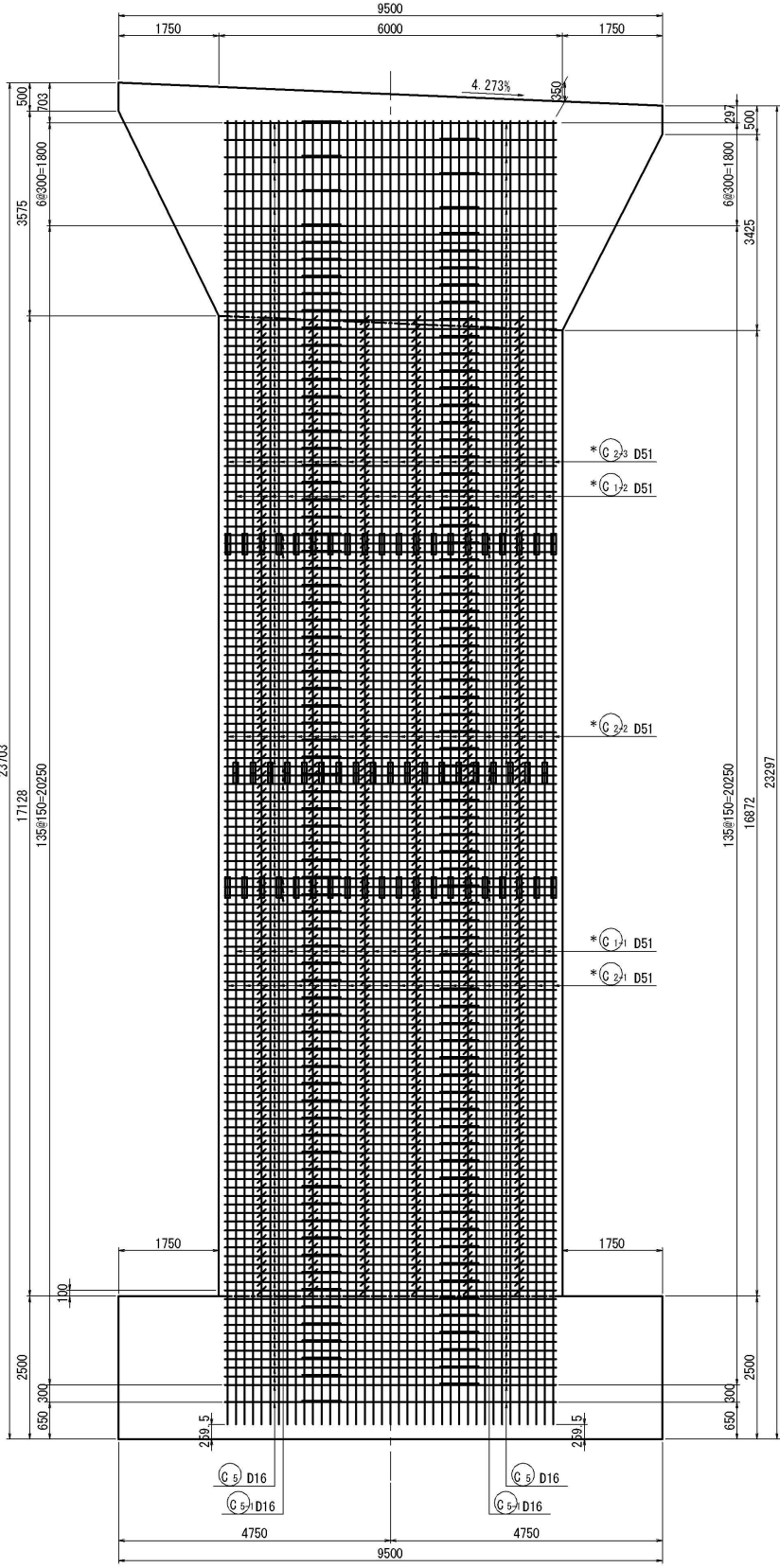
注1) ◇印表記は機械式鉄筋定着工法を示すものであり、下記の基準等を満足すること。
1. 道路橋示方書-同解説 (H29. 11日本道路協会)
2. 機械式鉄筋定着工法の配筋設計ガイドライン (H28. 7機械式鉄筋定着工法技術検討委員会)
なお、定着体の設置方向は、施工条件に応じて定着体と半円形フックの設置方向を変更してもよい。
注2) 機械式定着鉄筋は、被拘束鉄筋に接触するように配置すること。機械式定着鉄筋は、主鉄筋に可能な限り近づけること。
注3) 鉄筋長は切り上げの10mm丸めとする。

道東自動車道 占冠地区下部工事			
図面の種類	シム川橋（上り線） P 5 橋脚配筋図（その2）		
縮 尺	図 示	図面番号	-
設計会社名	株式会社 日本橋梁研究所		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 北海道支社 帯広工事事務所		

1 - 1

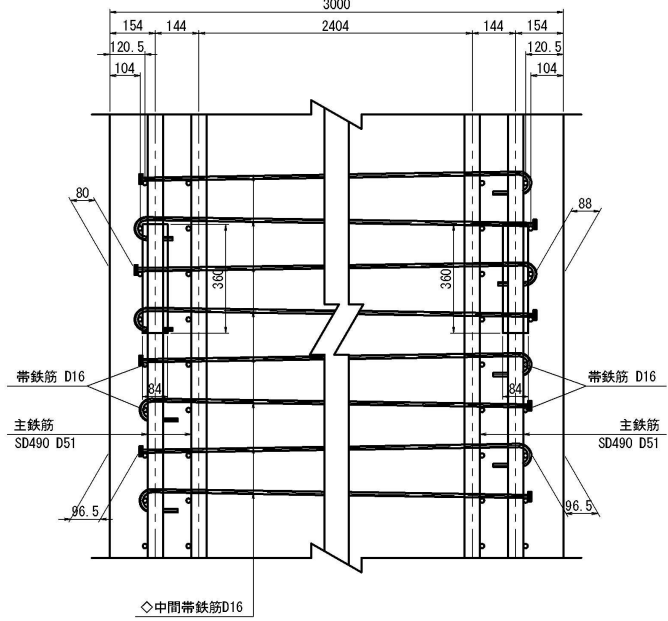
2 - 2

3 - 3



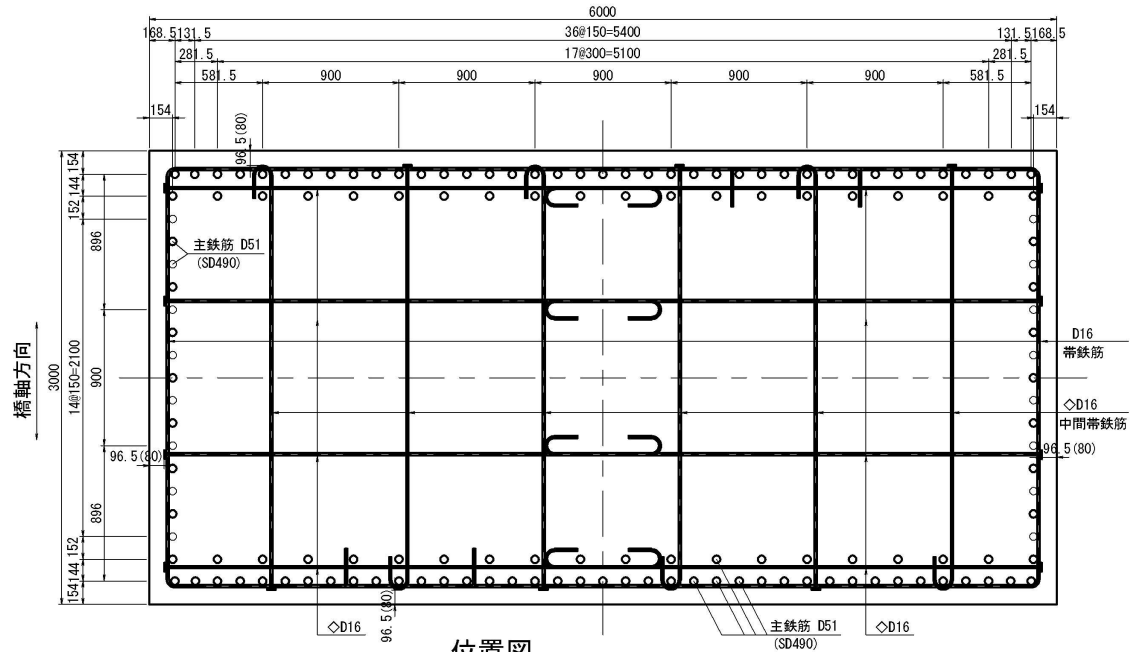
柱かぶり詳細図 S= 1:50

橋軸方向



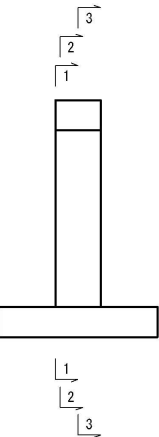
柱平面かぶり詳細図 S= 1:50

橋軸直角方向



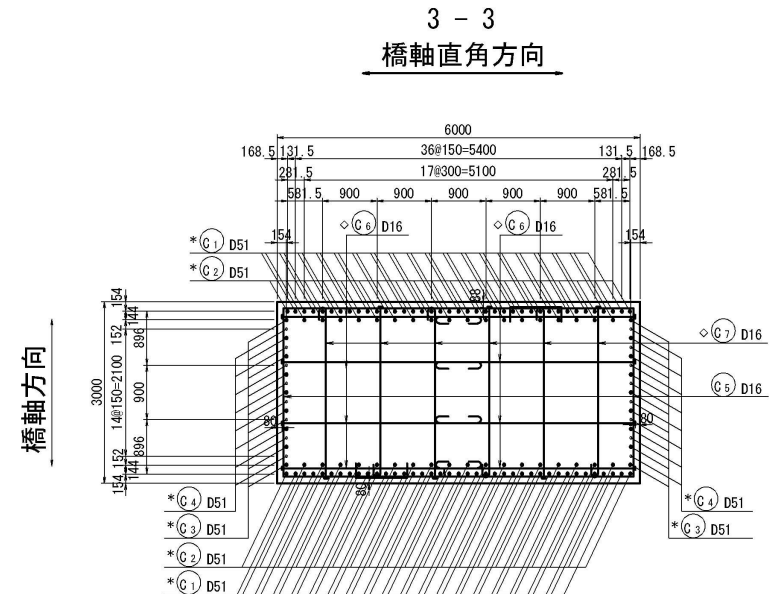
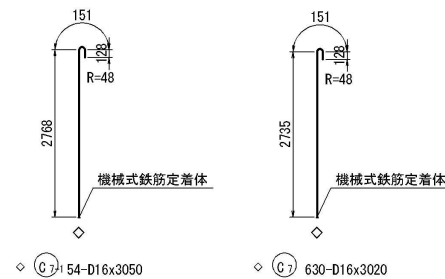
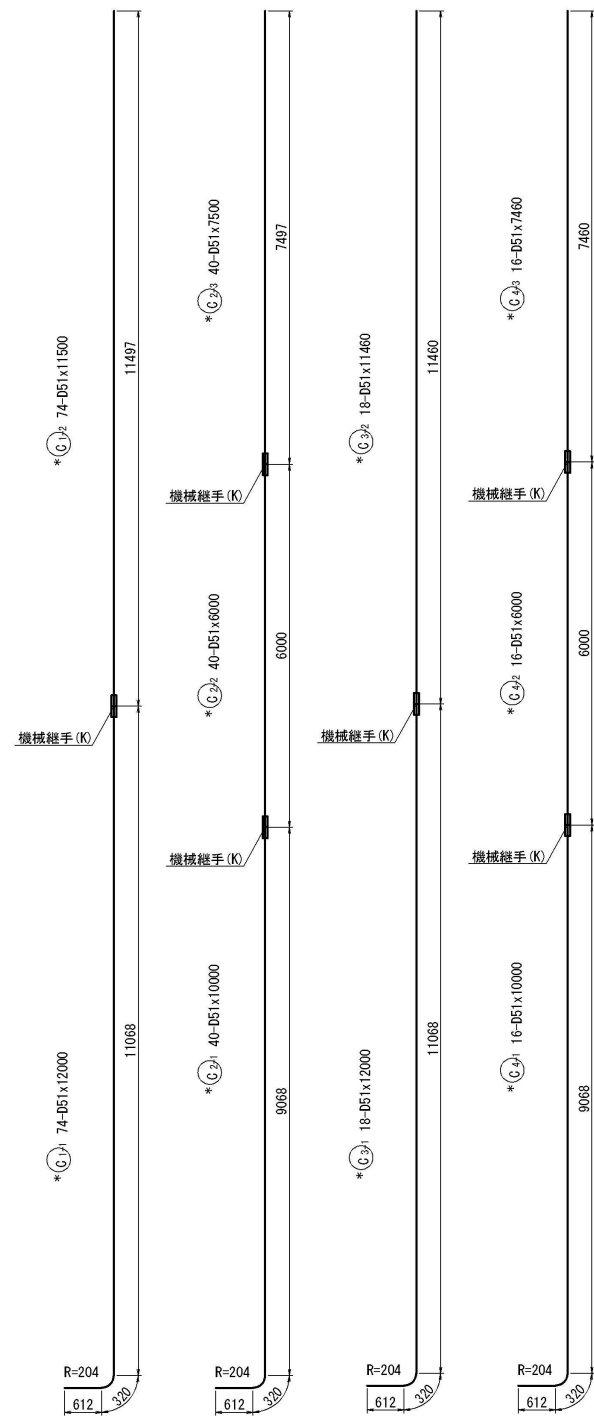
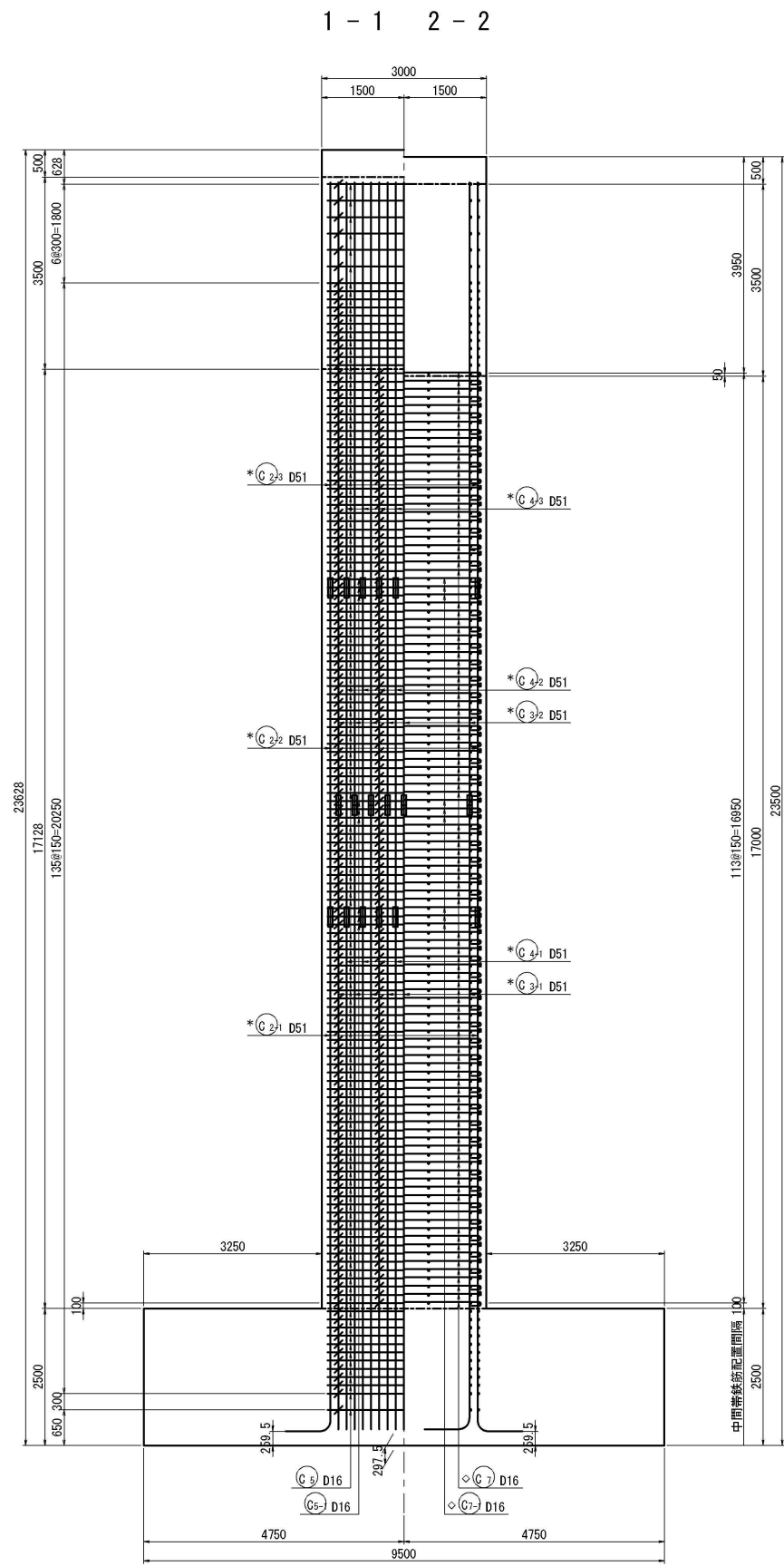
注) () 内の値は、機械式機手部の値を示す。

位置図

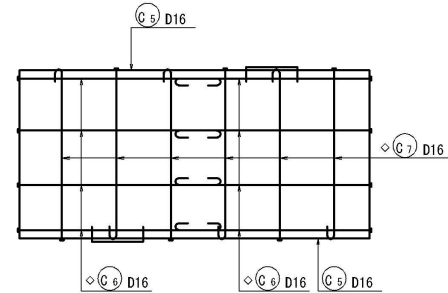


注) 鉄筋長は切り上げの10mm丸めとする。
* 印の鉄筋はSD490鉄筋を示す。

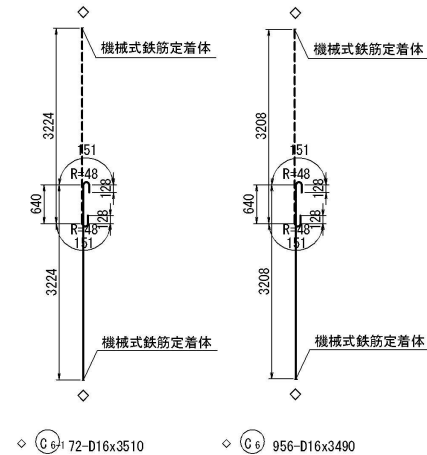
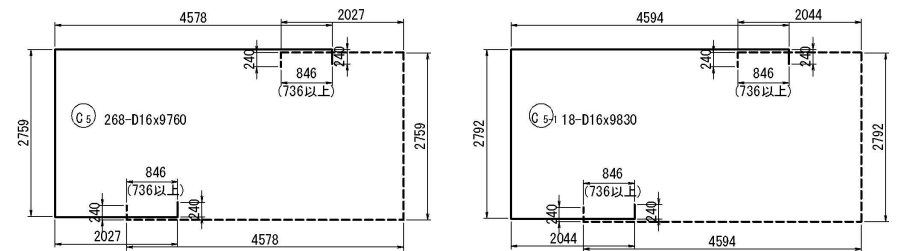
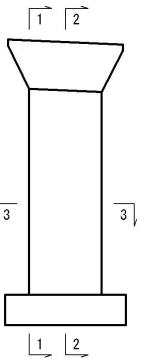
道東自動車道 占冠地区下部工工事			
図面の種類	シム川橋（上り線） P 5 橋脚配筋図（その3）		
縮 尺	図 示	図面番号	-
設計会社名	株式会社 日本構造橋梁研究所		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 北海道支社 帯広工事事務所		



帯鉄筋組立図

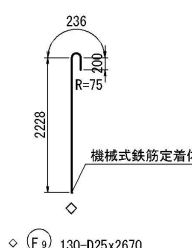
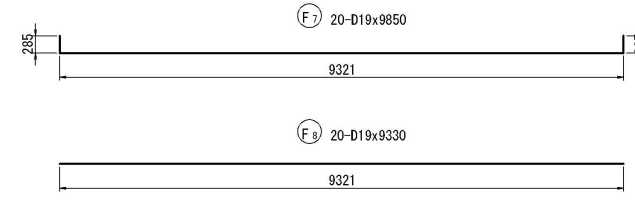
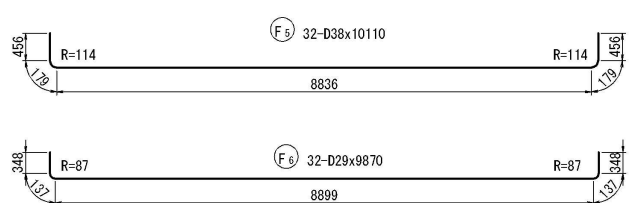
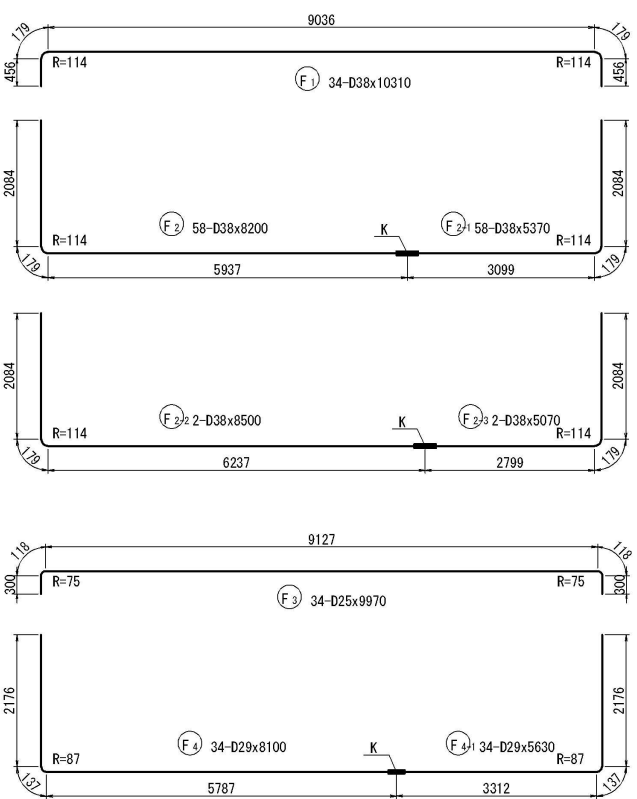
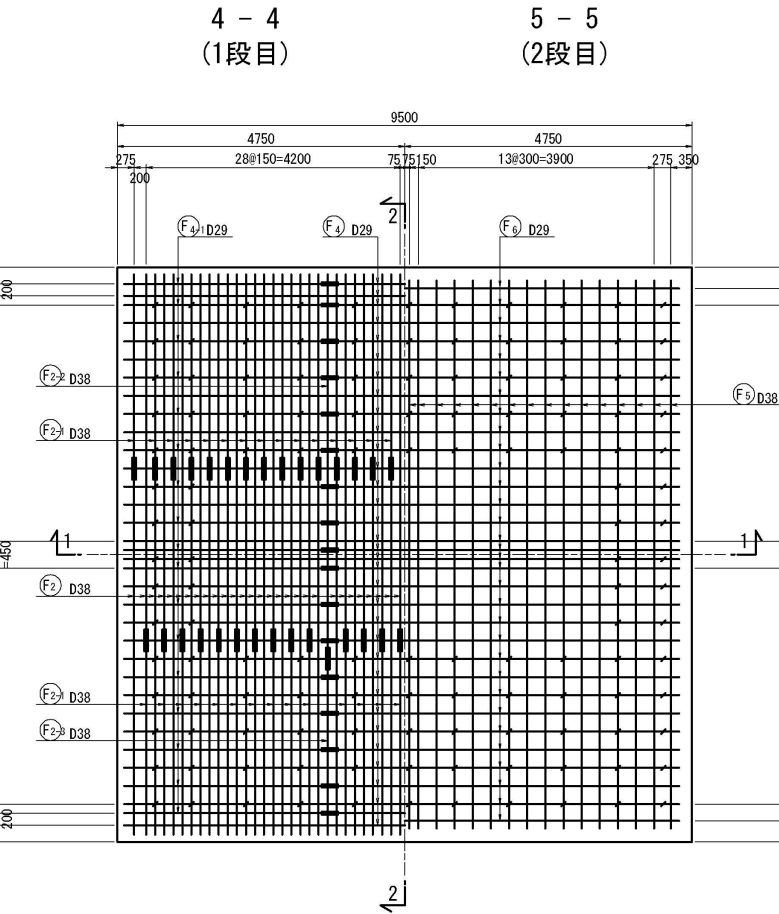
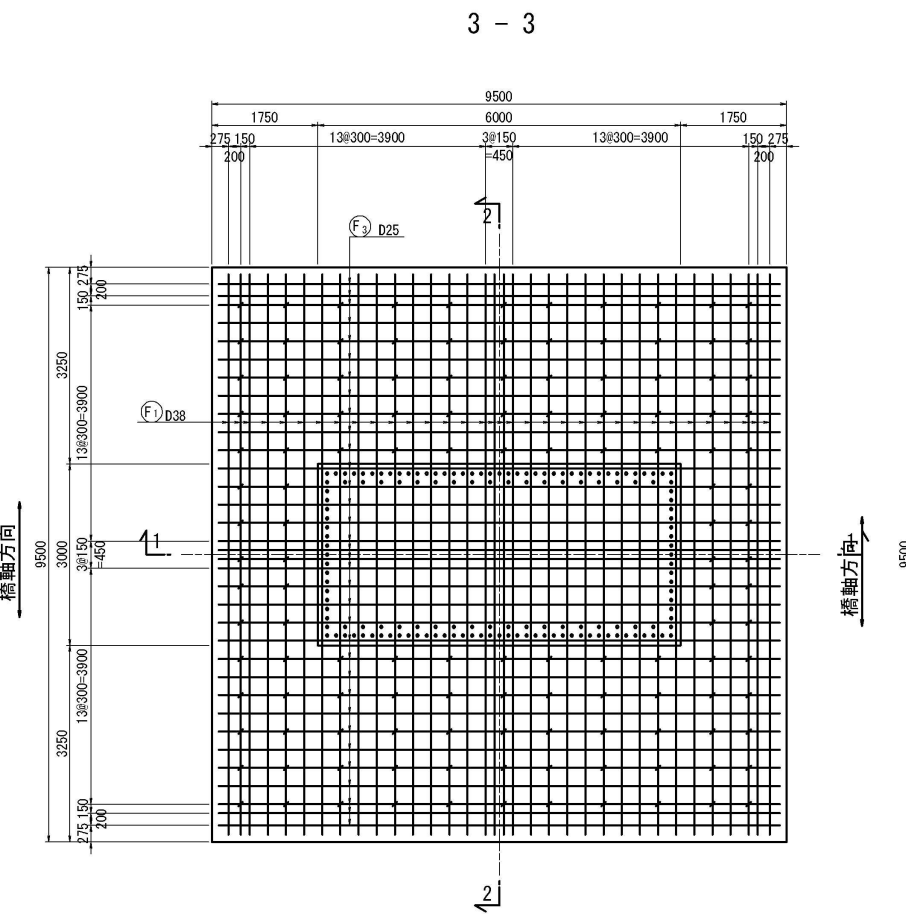
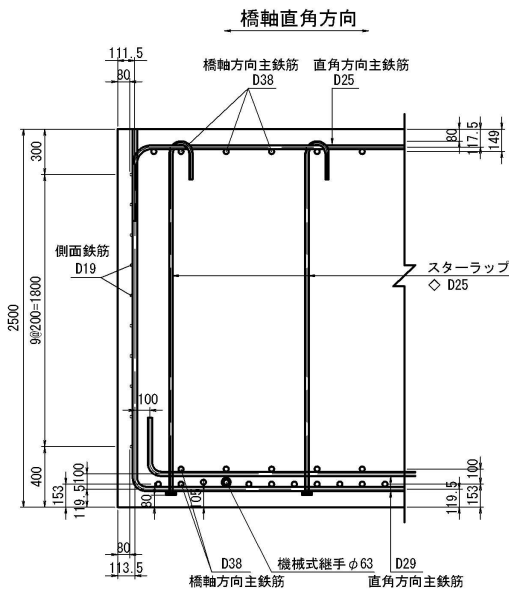
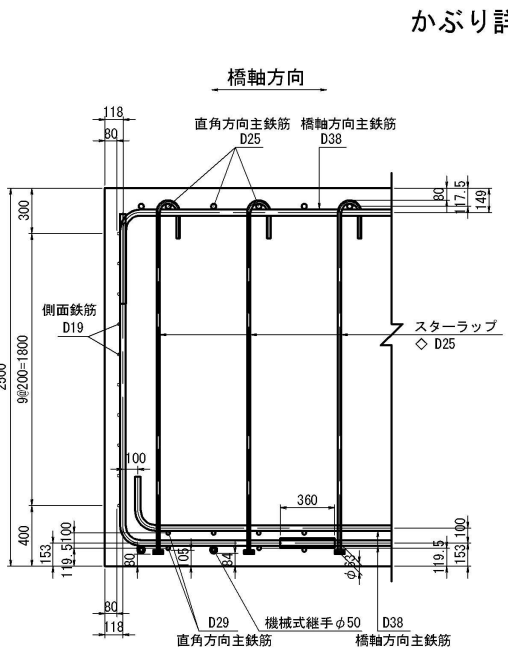
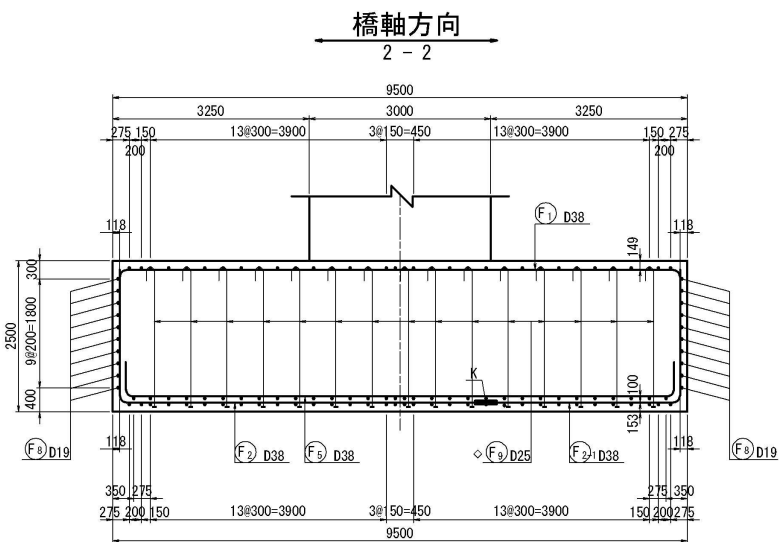
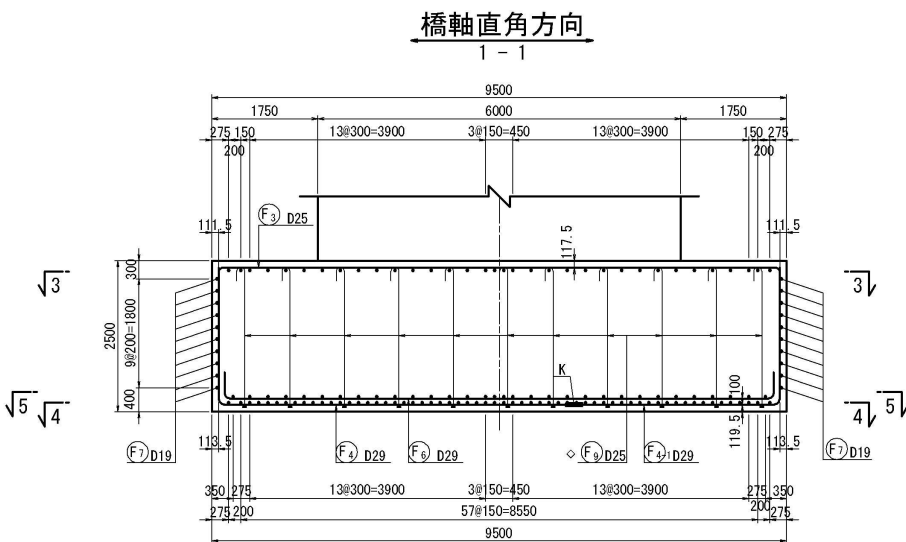


位置図



注1) ◇印表記は機械式鉄筋定着工法を示すものであり、下記の基準等を満足すること。
1. 道路橋示方書-同解説 (H29.11日本道路協会)
2. 機械式鉄筋定着工法の配筋設計ガイドライン (H28.7機械式鉄筋定着工法技術検討委員会)
なお、定着体の設置方向は、施工条件に応じて定着体と半円形フックの設置方向を変更してもよい。
注2) 鉄筋長は切り上げの10mm丸めとする。
* 印の鉄筋はSD490鉄筋を示す。

道東自動車道 占冠地区下部工工事			
図面の種類	シム川橋（上り線） P 5 橋脚配筋図（その4）		
縮 尺	図 示	図面番号	-
設計会社名	株式会社 日本橋造橋梁研究所		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 北海道支社 帯広工事事務所		



注1) ◇印表記は機械式鉄筋定着工法を示すものであり、下記の基準等を満足すること。
1. 道路橋示方書-同解説 (H29.11日本道路協会)
2. 機械式鉄筋定着工法の配筋設計ガイドライン (H28.7機械式鉄筋定着工法技術検討委員会)
なお、定着体の設置方向は、施工条件に応じて定着体と半円形フックの設置方向を変更してもよい。

道東自動車道 占冠地区下部工工事			
図面の種類	シム川橋（上り線） P 5 橋脚配筋図（その5）		
縮 尺	図 示	図面番号	-
設計会社名	株式会社 日本橋造橋梁研究所		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 北海道支社 帯広工事事務所		

鉄筋表（下部工施工）

符号	径	長さ (mm)	本数	単位質量 (kg/m)	本当り質量 (kg)	総質量 (kg)	摘要
B 1	D25	9940	12	3.98	39.6	475	┐┐
B 2	D25	9940	12	3.98	39.6	475	
B 3-1	D19	11430	2	2.25	25.7	51	┐┐┐┐
B 3-2	D19	6040	1	2.25	13.6	14	
B 4-1	D19	9710	22	2.25	21.8	480	┐┐ (平均長)
B 4-2	D19	6040	11	2.25	13.6	150	
B 5-1	D22	6400	12	3.04	19.5	234	┐
B 5-2	D22	6300	12	3.04	19.2	230	
B 6	D19	7640	18	2.25	17.2	310	┐┐ (平均長)
B 7	D19	10980	30	2.25	24.7	741	
B 7-1	D19	4060	8	2.25	9.14	73	┐┐┐┐ (平均長)
B 8	D19	6000	18	2.25	13.5	243	
B 9	D19	9340	30	2.25	21.0	630	┐┐┐┐
B 10	D16	3120	40	1.56	4.87	195	
B 11	D19	3390	48	2.25	7.63	366	┐┐
4667							kg
H 1	D16	1860	60	1.56	2.90	174	┐┐
H 2	D16	1860	60	1.56	2.90	174	
H 3	D16	3100	12	1.56	4.84	58	┐┐
406							kg
* C 1-1	D51	12000	74	15.9	191	14134	┐┐ B<74>
* C 1-2	D51	11500	74	15.9	183	13542	┐┐ B<->
* C 2-1	D51	10000	40	15.9	159	6360	┐┐ B<40>
* C 2-2	D51	6000	40	15.9	95.4	3816	┐┐ B<40>
* C 2-3	D51	7500	40	15.9	119	4760	┐┐ B<->
* C 3-1	D51	12000	18	15.9	191	3438	┐┐ B<18>
* C 3-2	D51	11460	18	15.9	182	3276	┐┐ B<->
* C 4-1	D51	10000	16	15.9	159	2544	┐┐ B<16>
* C 4-2	D51	6000	16	15.9	95.4	1526	┐┐ B<16>
* C 4-3	D51	7460	16	15.9	119	1904	┐┐ B<->
C 5	D16	9760	268	1.56	15.2	4074	┐┐
C 5-1	D16	9830	18	1.56	15.3	275	┐┐
△ C 6	D16	3490	956	1.56	5.44	5201	┐┐ C (956)
△ C 6-1	D16	3510	72	1.56	5.48	395	┐┐ C (72)
△ C 7	D16	3020	630	1.56	4.71	2967	┐┐ C (630)
△ C 7-1	D16	3050	54	1.56	4.76	257	┐┐ C (54)
68469							kg
F 1	D38	10310	34	8.95	92.3	3138	┐┐
F 2	D38	8200	58	8.95	73.4	4257	
F 2-1	D38	5370	58	8.95	48.1	2790	┐┐ B<->
F 2-2	D38	8500	2	8.95	76.1	152	┐┐ B<2>
F 2-3	D38	5070	2	8.95	45.3	91	┐┐ B<->
F 3	D25	9970	34	3.98	39.7	1350	┐┐
F 4	D29	8100	34	5.04	40.8	1387	
F 4-1	D29	5630	34	5.04	28.4	966	┐┐ B<->
F 5	D38	10110	32	8.95	90.5	2896	┐┐
F 6	D29	9870	32	5.04	49.7	1590	
F 7	D19	9850	20	2.25	22.2	444	┐┐
F 8	D19	9330	20	2.25	21.0	420	
△ F 9	D25	2670	130	3.98	10.6	1378	┐┐ C (130)
20859							kg
鉄筋質量集計 (下部工施工) (SD490)							
A種鉄筋		B種鉄筋	C種鉄筋	合計	<機械継手箇所数>		
D51		55300 kg	-	55300 kg	<204>		
合 計		55300 kg	-	55300 kg	<204>		
鉄筋質量集計 (下部工施工) (SD345)							
A種鉄筋		B種鉄筋	C種鉄筋	合計	<機械継手> (箇所数)		
D38		6034 kg	-	13324 kg	<60>		
D29		1590 kg	2353 kg	3943 kg	<34>		
D25		2300 kg	-	1378 kg	3678 kg	(130)	
D22		464 kg	-	-	464 kg		
D19		3922 kg	-	-	3922 kg		
D16		4755 kg	-	9015 kg	13770 kg	(1752)	
合 計		19065 kg	9643 kg	10393 kg	39101 kg	<94> (1882)	
< > 内数値は、機械継手の箇所数を示す。							
() 内数値は、機械式鉄筋定着工法箇所数を示す。							

鉄筋集計表 (SD490)

種 別		下部工施工		合計 (kg)	
		躯体	計 (kg)		
A (SD490)	D16～D25	D16	—	—	
		D19	—	—	
		D22	—	—	
		D25	—	—	
		小計	—	—	
	D29～D32	D29	—	—	
		D32	—	—	
		小計	—	—	
	D35		—	—	
	D38		—	—	
A の 合 計		—	—		
B (SD490)	D16～D25	D16	—	—	
		D19	—	—	
		D22	—	—	
		D25	—	—	
		小計	—	—	
	D29～D32	D29	—	—	
		D32	—	—	
		小計	—	—	
	D35		—	—	
	D38		—	—	
	D51		55300	55300	55300
	B の 合 計		55300	55300	55300
鉄筋総質量		55300	55300	55300	

鉄筋集計表 (SD345)

種 別		下部工施工		合計 (kg)
		躯体	計 (kg)	
A (SD345)	D16~D25	D16	4755	4755
		D19	3922	3922
		D22	464	464
		D25	2300	2300
		小計	11441	11441
	D29~D32	D29	1590	1590
		D32	—	—
		小計	1590	1590
		D38	6034	6034
		D41	—	—
B (SD345)	A の 合 計		19065	19065
	D29~D32	D29	2353	2353
		D32	—	—
		小計	2353	2353
		D38	7290	7290
		B の 合 計	9643	9643
C (SD345)	D16~D25	D16	9015	9015
		D19	—	—
		D22	—	—
		D25	1378	1378
		小計	10393	10393
	C の 合 計	10393	10393	10393
		鉄筋総質量	39101	39101

機械継手箇所数

項目	鉄筋径	継手箇所数	合 計
機械継手箇所数	D25	—	—
	D29	34	34
	D32	—	—
	D38	60	60
	D41	—	—
	D51	204	204
合 計		298	298

機械式鉄筋定着工法数量表

鉄筋径	0<L≤1m	1m<L≤2m	2m<L≤3m	3m<L≤4m	4m<L≤5m	5m<L≤6m
D16	—	—	—	1752	—	—
D19	—	—	—	—	—	—
D25	—	—	130	—	—	—
合計	1882					

鉄筋加工寸法表 (SD345)

主 筋		中間帯鉄筋									
		鋭角フック		半円径フック 8φ以上で 12cm以上		直角フック					
											
		$\Delta L = 2L - a$									
主 筋	径	$\theta \leq 90^\circ$ R=3.0φ	$\theta > 90^\circ$ R=5.5φ	$\theta = 45^\circ$	$\theta = 60^\circ$	$\theta = 90^\circ$	$\theta = 135^\circ$				
				a	ΔL	a	ΔL	a	ΔL		
	D13	39	71.5	92	96	82	53	61	17	56	3
	D16	48	88	113	119	100	66	75	21	69	4
	D19	57	104.5	134	141	119	78	89	25	82	5
	D22	66	121	155	164	138	91	104	28	95	5
	D25	75	137.5	177	185	157	103	118	32	108	6
	D29	87	159.5	205	215	182	119	137	37	125	7
	D32	96	176	226	237	201	132	151	41	138	8
	D35	105	192.5	247	260	220	144	165	45	151	8
中 間 帯 鉄 筋	D38	114	209	269	281	239	156	179	49	164	9
	D41	123	225.5	290	304	258	168	193	53	177	10
	D51	153	280.5	360	379	320	210	240	66	220	12
	径	R=3.0φ	鋭角フック		半円フック		直 角 フ ッ ク				
			a		a		a		ΔL		
	D13	39	92		123		61		17		
	D16	48	113		151		75		21		
	D19	57	134		179		89		25		
	D22	66	156		207		104		28		
	D25	75	177		236		118		32		
ス タ ー ラ ッ プ	D29	87	205		273		137		37		
	径	R=2.5φ	直角フック				—				
			a		ΔL		—				
	D13	32.5	51		14		—				
	D16	40	63		17		—				
	D19	47.5	75		20		—				
	D22	55	86		24		—				
ス タ ー ラ ッ プ	D25	62.5	98		27		—				
	D29	72.5	114		31		—				

鉄筋加工寸法表 (SD490)

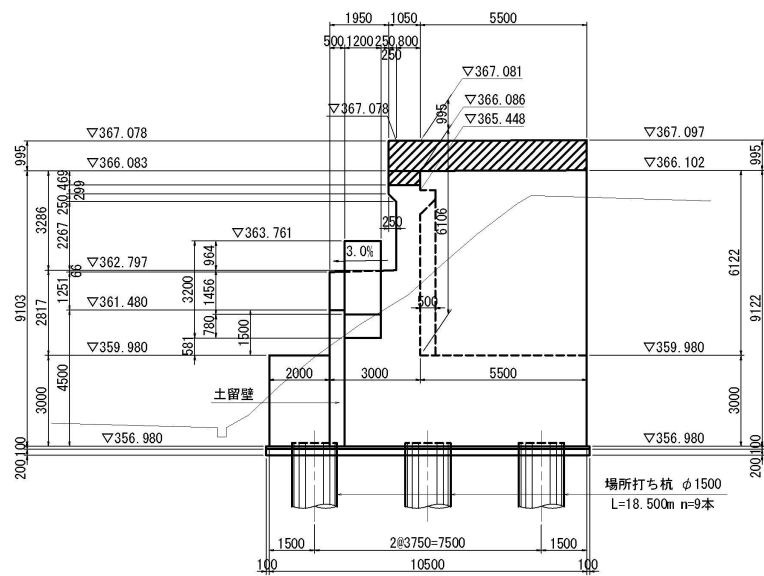
主 筋

$\Delta L=2L-a$

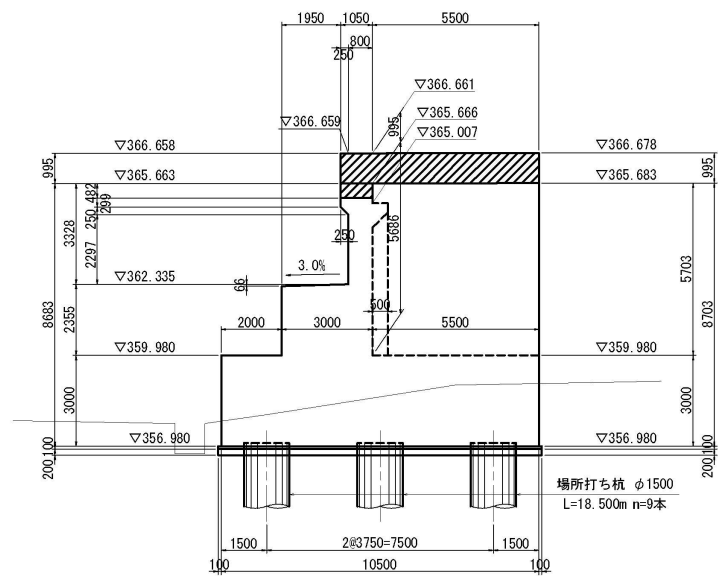
径	$\theta \leq 90^\circ$ $R=4.0\phi$		$\theta > 90^\circ$ $R=5.5\phi$		$\theta = 90^\circ$		$\theta = 135^\circ$	
	a	ΔL	a	ΔL	a	ΔL	a	ΔL
D13	52	71.5	82	22	56	3		
D16	64	88	101	27	69	4		
D19	76	104.5	119	33	82	5		
D22	88	121	138	38	95	5		
D25	100	137.5	157	43	108	6		
D29	116	159.5	182	50	125	7		
D32	128	176	201	55	138	8		
D35	140	192.5	220	60	151	8		
D38	152	209	239	65	164	9		
D51	204	280.5	320	88	220	12		

注1) △印表記は機械式鉄筋定着工法を示すものであり、下記の基準等を満足すること。
1. 道路橋示方書-同解説 (H29.11日本道路協会)
2. 機械式鉄筋定着工法の配筋設計ガイドライン (H28.7機械式鉄筋定着工法技術検討委員会)
なお、定着体の設置方向は、施工条件に応じて定着体と半円形フックの設置方向を変更してもよい。
注2) 機械式定着鉄筋は、被拘束鉄筋に接触するように配置すること。機械式定着鉄筋は、主鉄筋に可能な限り近づけること。
注3) 鉄筋長は切り上げの10mm丸めとする。
注4) * 印の鉄筋はSD490鉄筋を示す。

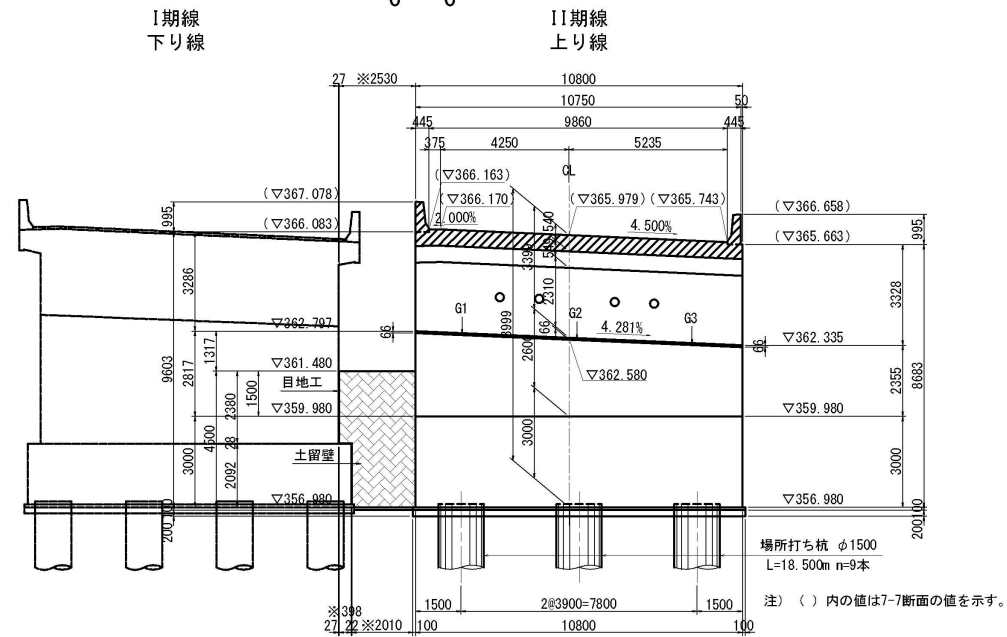
4 - 4



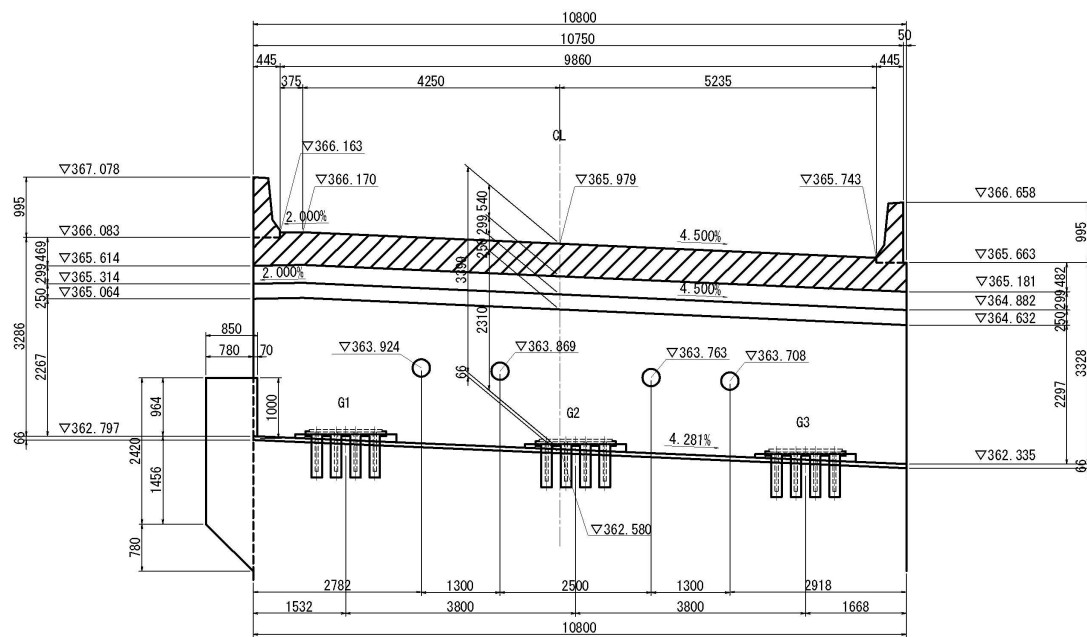
5 - 5



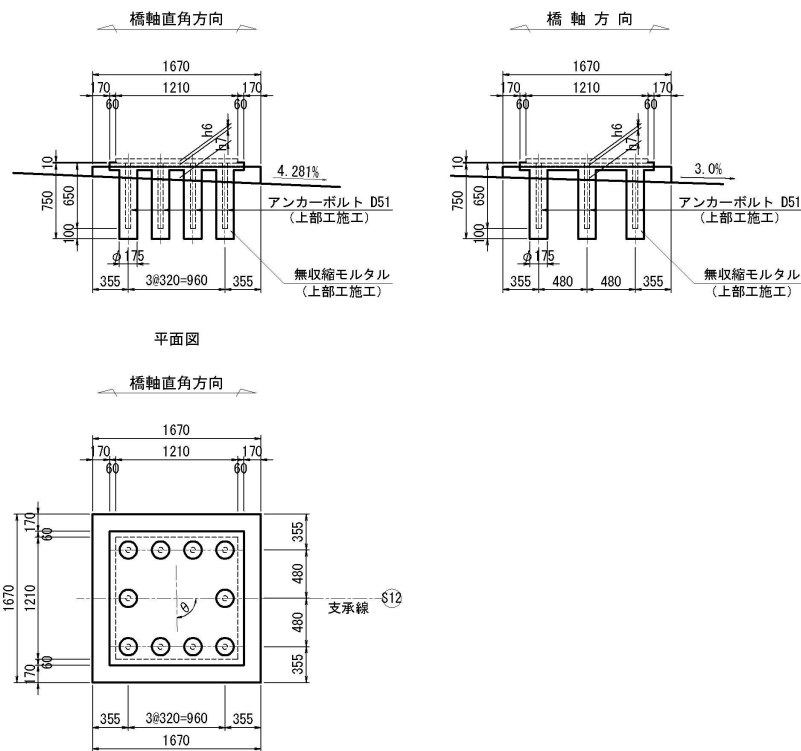
6 - 6



パラペット前面図(7-7) S=1:125
(伸縮装置受台先端)



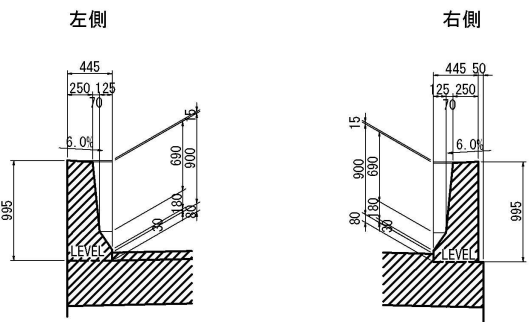
支承詳細図 S=1:75



数量表

項目	規格・寸法	単位	数量	摘要
目地工		m2	2.4	土留め壁

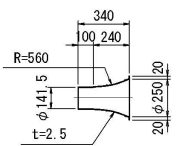
壁高欄詳細図 S=1:75



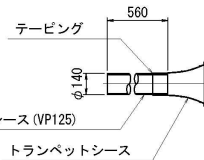
落橋防止構造詳細図 (上部工施工)

S=1:50

トランペットシース
(ポリエチレン)



箱抜き詳細図



※トランペットシースはコンクリート打設前にセットする。

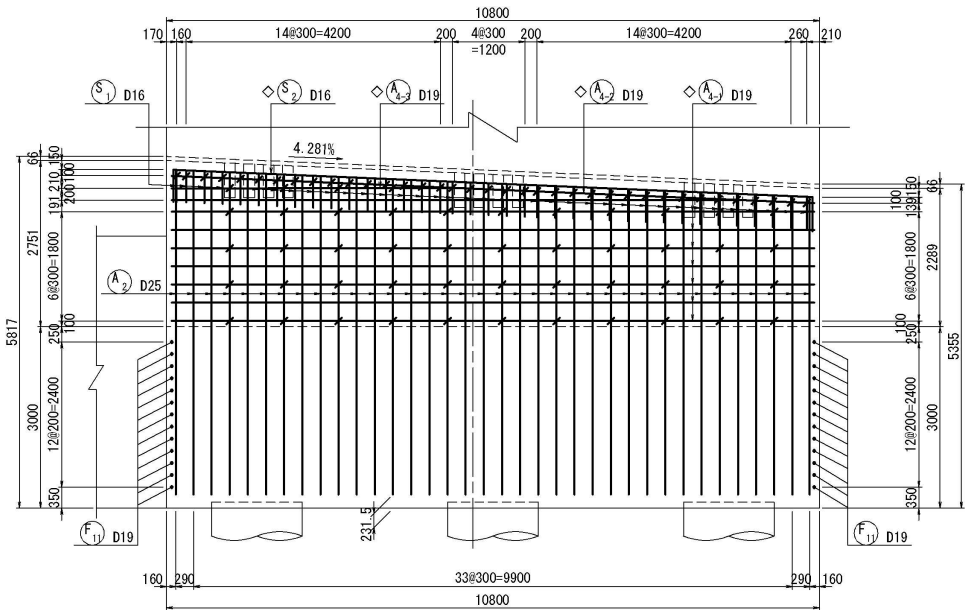
構造高表

		S12 (A2 支承横断ライン)			
		G1	G2	G3	PH
計画高	PH1	366.136	365.964	365.793	365.976
舗装厚	h1	0.107	0.098	0.090	
床版厚	h2	0.200	0.200	0.200	
桁高	h3	2.400	2.400	2.400	
レアー厚	h4	0.040	0.040	0.040	
支承高	h5	0.525	0.525	0.525	
小計	Σh1	3.272	3.263	3.255	
モルタル天端高	PH2	362.864	362.701	362.538	
モルタル厚	h6	0.036	0.036	0.036	
台座コンクリート	h7	0.130	0.130	0.130	
下部工天端高	PH3	362.698	362.535	362.372	362.547
支承セット方向	θ	89° 11' 42"			-

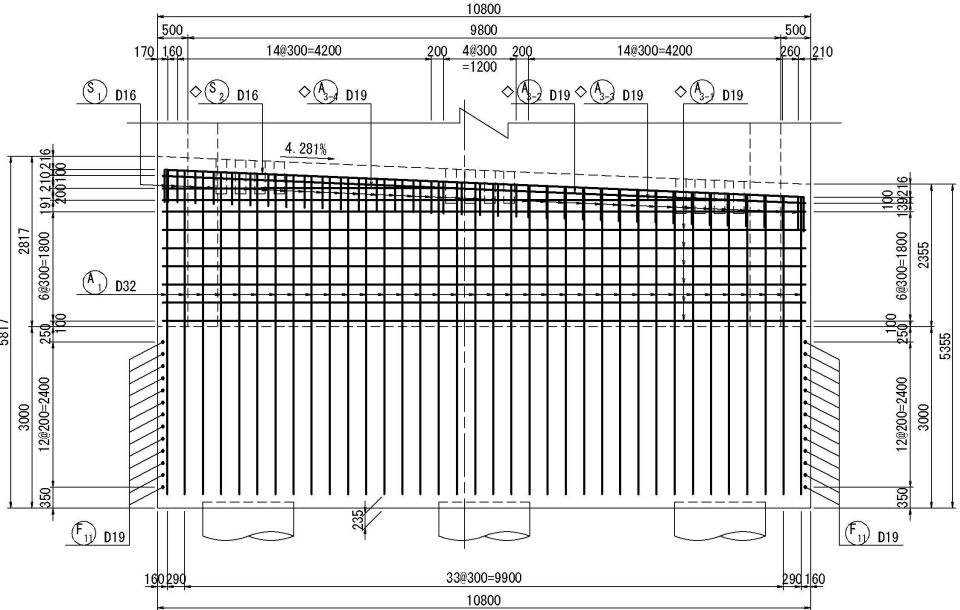
注)  : 上部工施工

道東自動車道 占冠地区下部工工事			
図面の種類	シム川橋（上り線） A 2 橋台構造図（その2）		
縮尺	図示	図面番号	-
設計会社名	株式会社 日本構造橋梁研究所		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 北海道支社 帯広工事事務所		

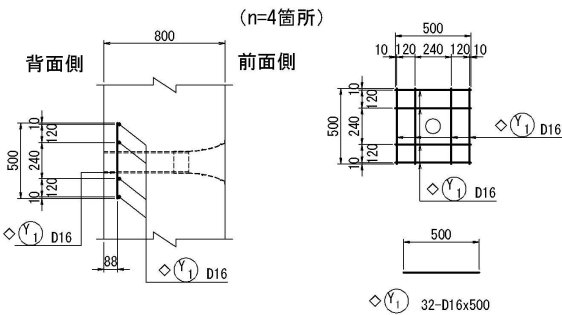
縦壁正面図
1 - 1



縦壁背面図
2 - 2

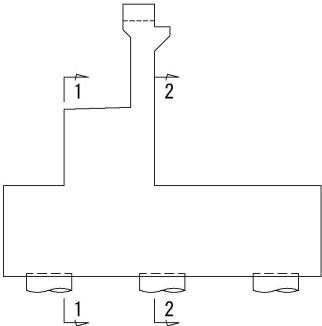


落橋防止構造用心鉄筋 S=1:50

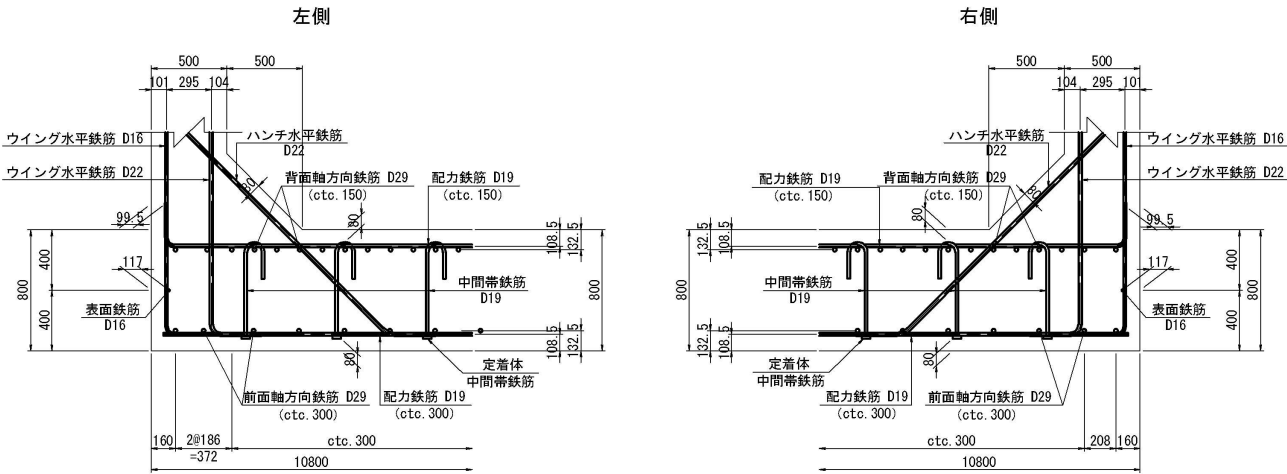


注) 用心鉄筋はコンクリート打設前にセットする。

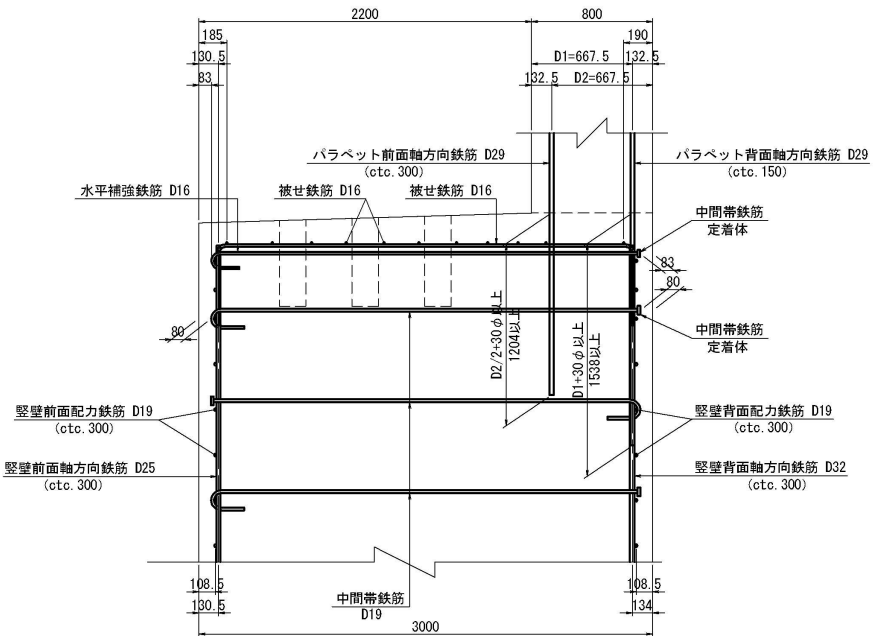
位置図



パラペット端部かぶり詳細図 S=1:50



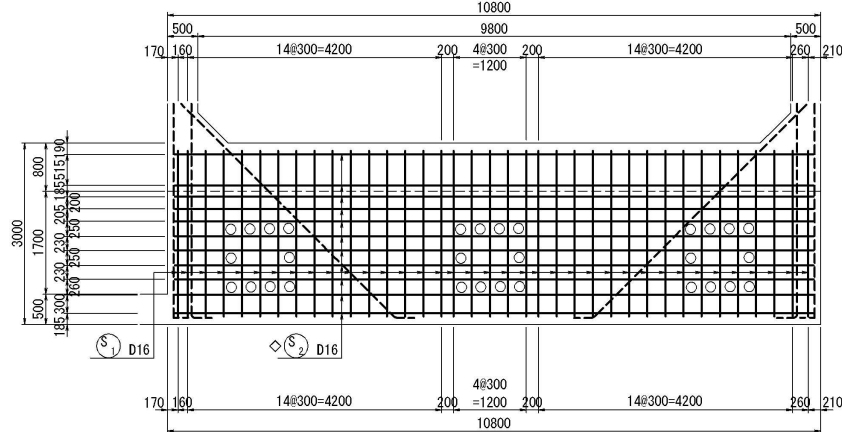
橋座かぶり詳細図 S=1:50



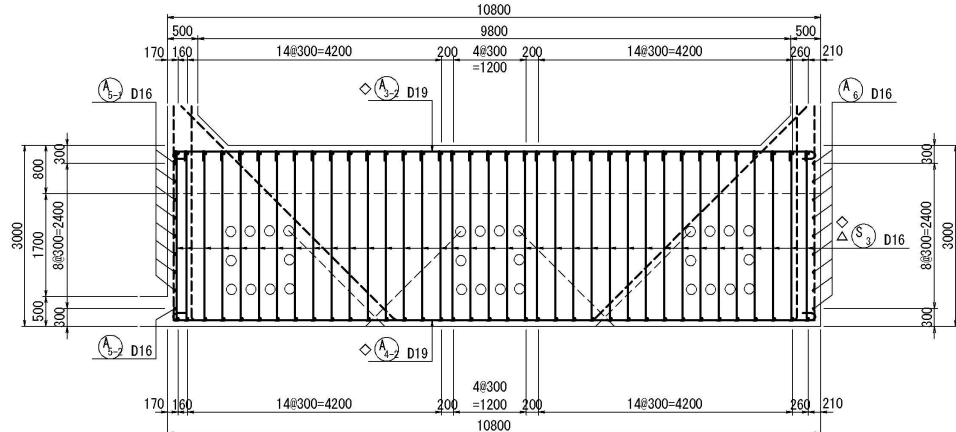
- 注1) △印表記は機械式鉄筋定着工法を示すものであり、下記の基準等を満足すること。
1. 道路橋示方書-同解説 (H29. 11 日本道路協会)
 2. 機械式鉄筋定着工法の配筋設計ガイドライン (H28. 7 機械式定着工法技術検討委員会)
- なお、定着体の設置方向は、施工条件に応じて定着体と半円形フックの設置方向を変更してもよい。
- 注2) 機械式定着鉄筋は、被拘束鉄筋に接触するように配置すること。機械式定着鉄筋は、主鉄筋に可能な限り近づけること。
- 注3) T印は機械式鉄筋定着工法の定着体を表す。
- 注4) ◇鉄筋は防錆処理鉄筋を表す。
- 注5) ○鉄筋は上部工施工鉄筋を表す。
- 注6) 鉄筋長は切り上げの10mm丸めとする。

道東自動車道 占冠地区下部工工事			
図面の種類	シム川橋（上り線） A 2 橋台配筋図（その 2）		
縮 尺	図 示	図面番号	-
設計会社名	株式会社 日本構造橋梁研究所		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 北海道支社 帯広工事事務所		

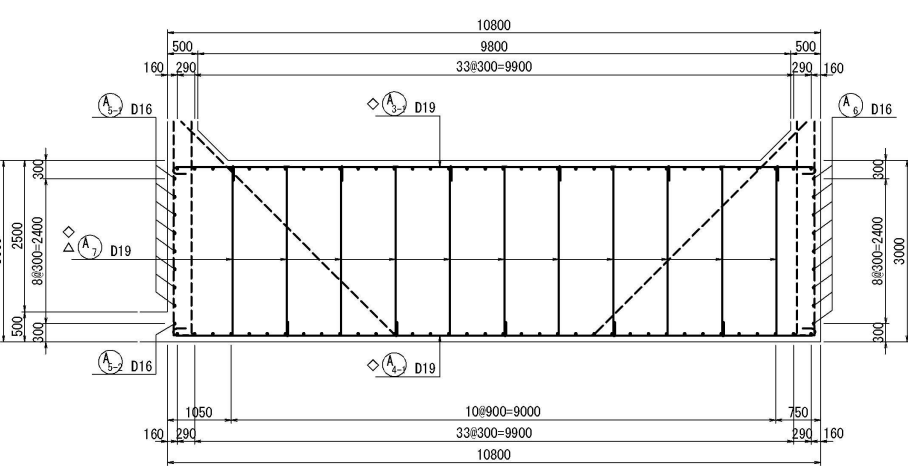
橋座平面図
1 - 1



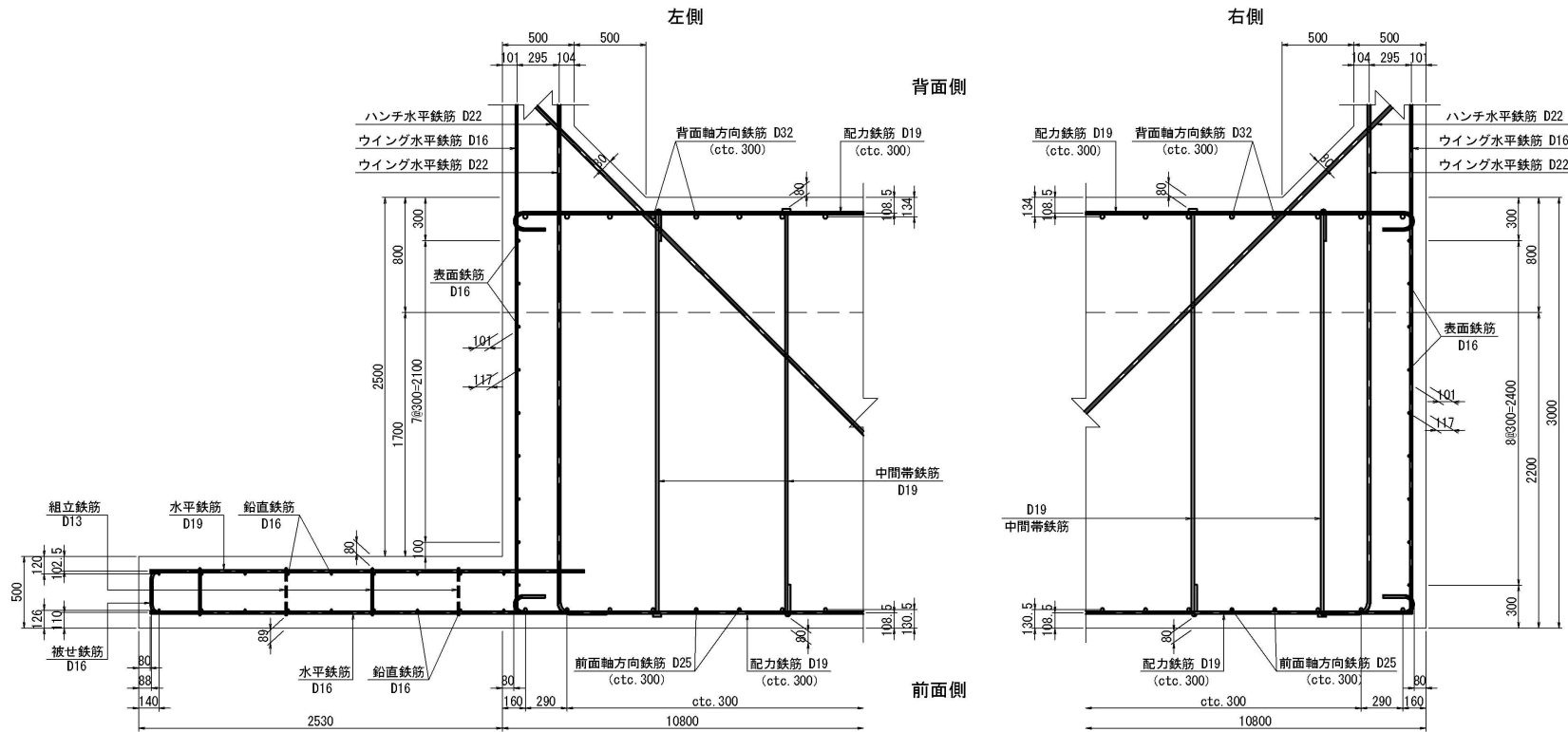
水平補強筋平面図
2 - 2



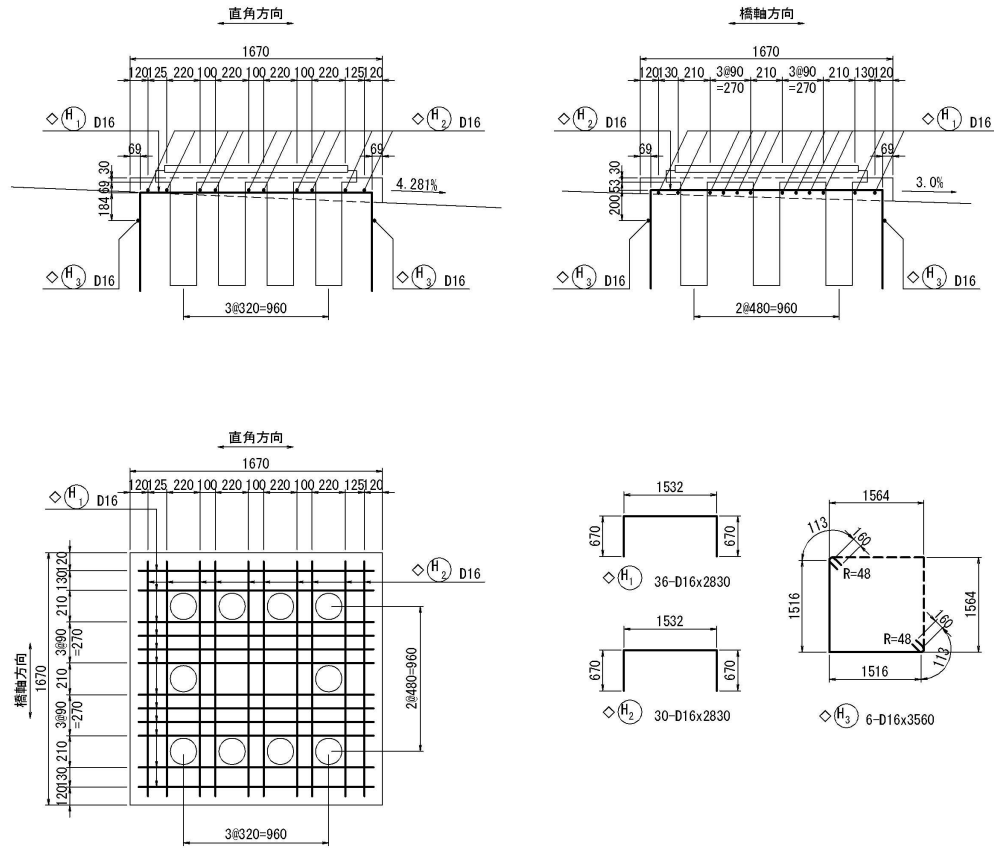
縦壁平面図
3 - 3



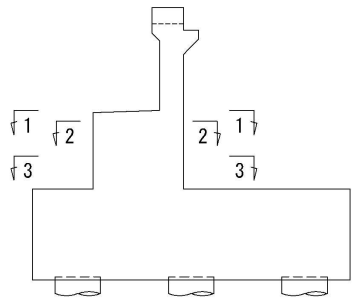
縦壁端部かぶり詳細図 S=1:50



支承補強鉄筋 S=1:50
(n=3箇所)

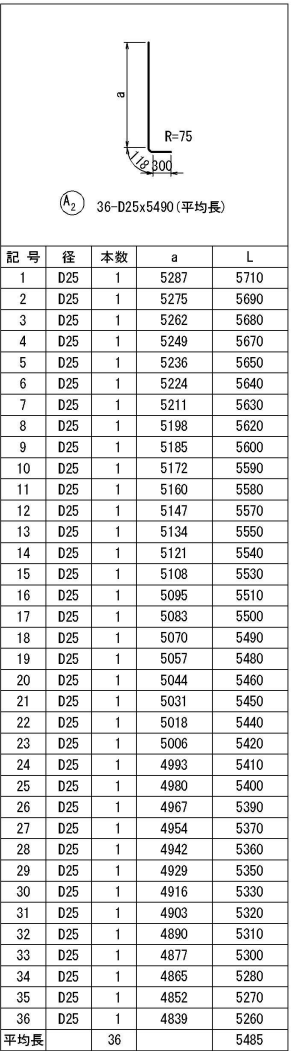
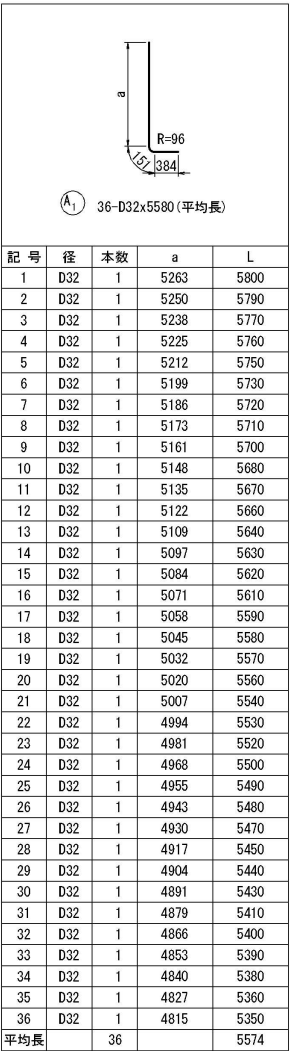
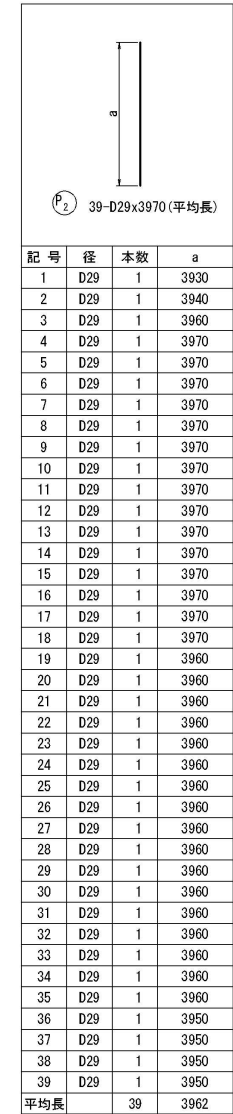
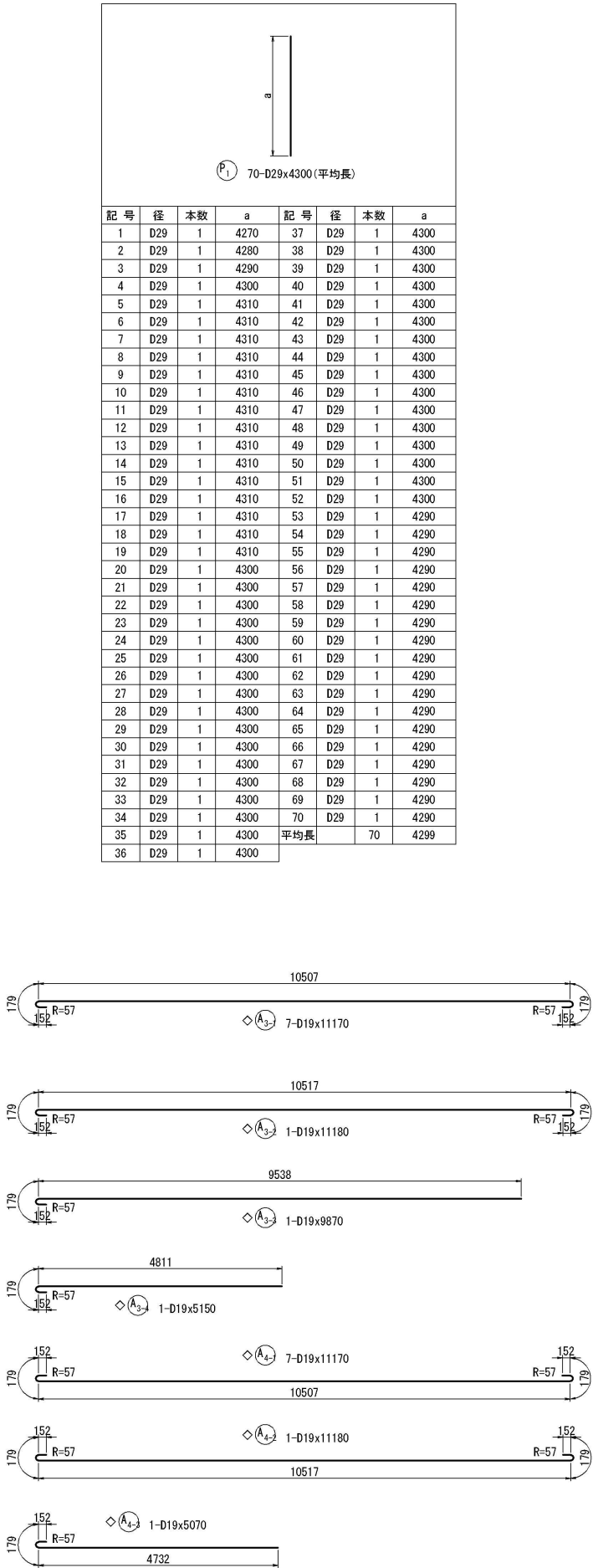
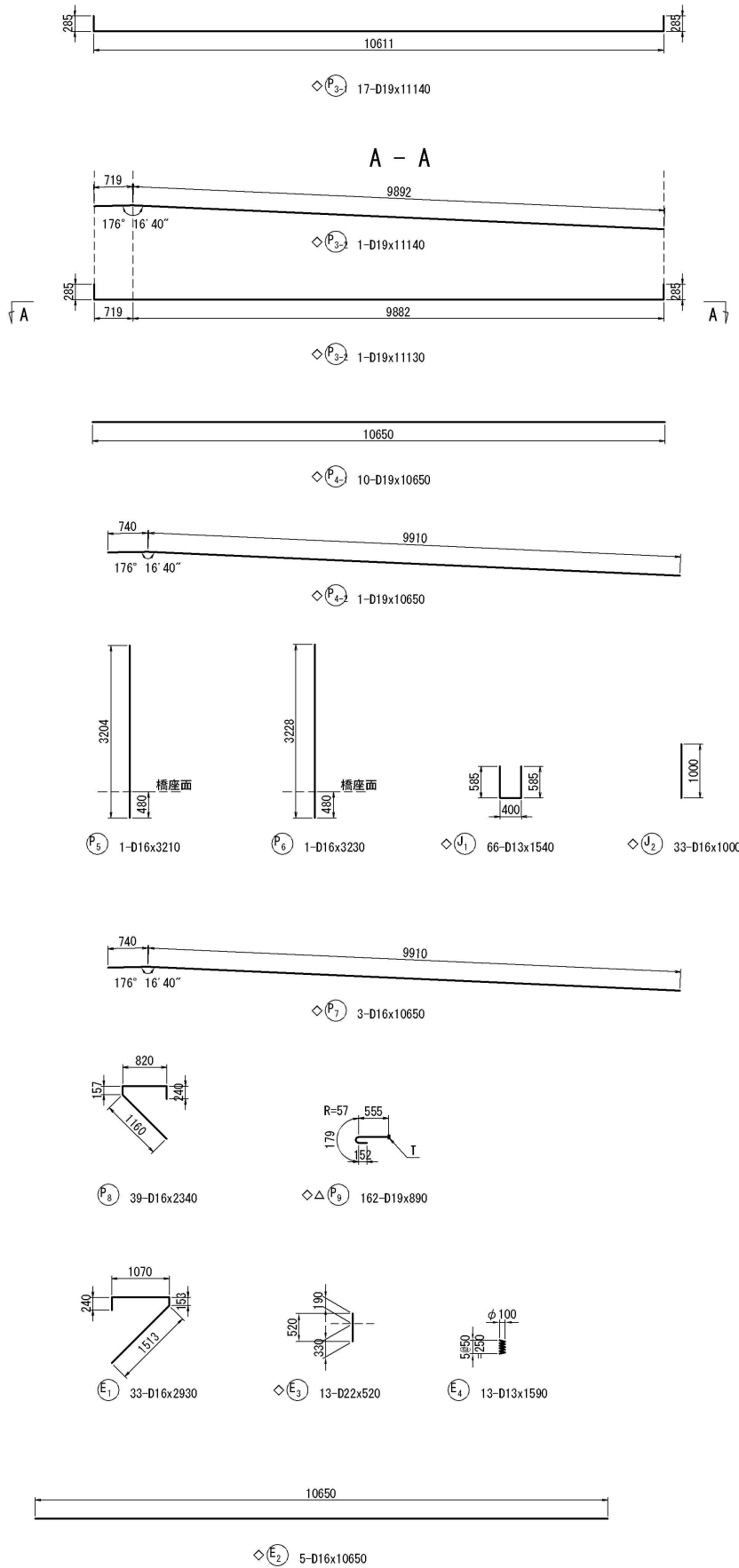


位置図



注1) △印表記は機械式鉄筋定着工法を示すものであり、下記の基準等を満足すること。
1. 道路橋示方書-同解説 (H29. 11 日本道路協会)
2. 機械式鉄筋定着工法の配筋設計ガイドライン (H28. 7 機械式定着工法技術検討委員会)
なお、定着体の設置方向は、施工条件に応じて定着体と半円形フックの設置方向を変更してもよい。
注2) 機械式定着鉄筋は、被拘束鉄筋に接触するように配置すること。
機械式定着鉄筋は、主鉄筋に可能な限り近づけること。
注3) T印は機械式鉄筋定着工法の定着体を表す。
注4) ◇鉄筋は防錆処理鉄筋を表す。
注5) ○鉄筋は上部工事施工鉄筋を表す。
注6) 鉄筋長は切り上げの10mm丸めとする。

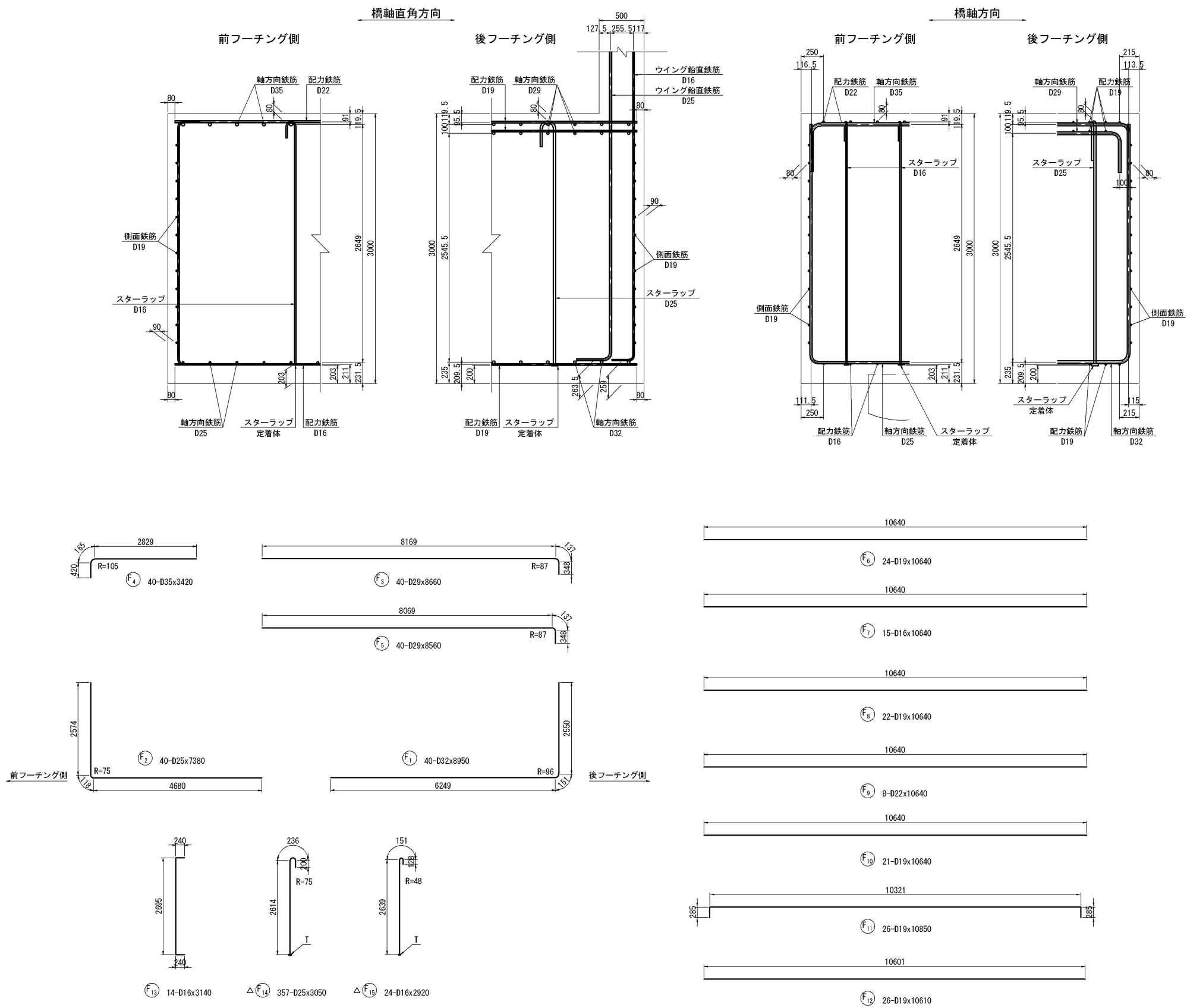
道東自動車道 占冠地区下部工工事			
図面の種類	シム川橋（上り線） A 2 橋台配筋図（その3）		
縮 尺	図 示	図面番号	-
設計会社名	株式会社 日本橋造橋梁研究所		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 北海道支社 帯広工事事務所		



注1) △印表記は機械式鉄筋定着工法を示すものであり、
下記の基準等を満足すること。
1. 道路橋示方書-同解説 (H29. 11 日本道路協会)
2. 機械式鉄筋定着工法の配筋設計ガイドライン
(H28. 7 機械式定着工法技術検討委員会)
なお、定着体の設置方向は、施工条件に応じて定着体と
半円形フックの設置方向を変更してもよい。
注2) 機械式定着鉄筋は、被拘束鉄筋に接触するように配置すること。
機械式定着鉄筋は、主鉄筋に可能な限り近づけること。
注3) T印は機械式鉄筋定着工法の定着体を表す。
注4) ◇鉄筋は防錆処理鉄筋を表す。
注5) ○鉄筋は上部工施工鉄筋を表す。
注6) 鉄筋長は切り上げの10mm丸めとする。

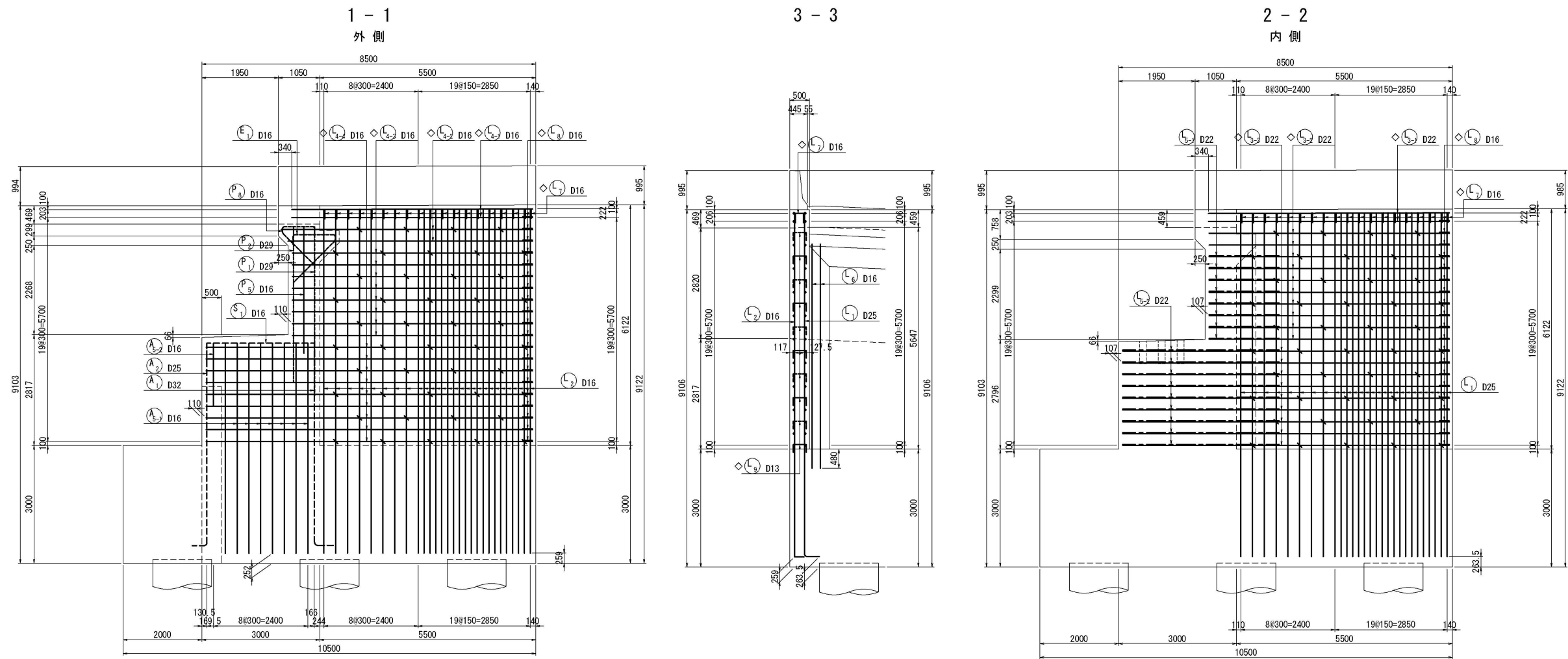
道東自動車道 占冠地区下部工工事			
図面の種類	シム川橋（上り線） A 2 橋台配筋図（その 4）		
縮 尺	図 示	図面番号	-
設計会社名	株式会社 日本構造橋梁研究所		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 北海道支社 帯広工事事務所		

フーチングかぶり詳細図 S=1:50

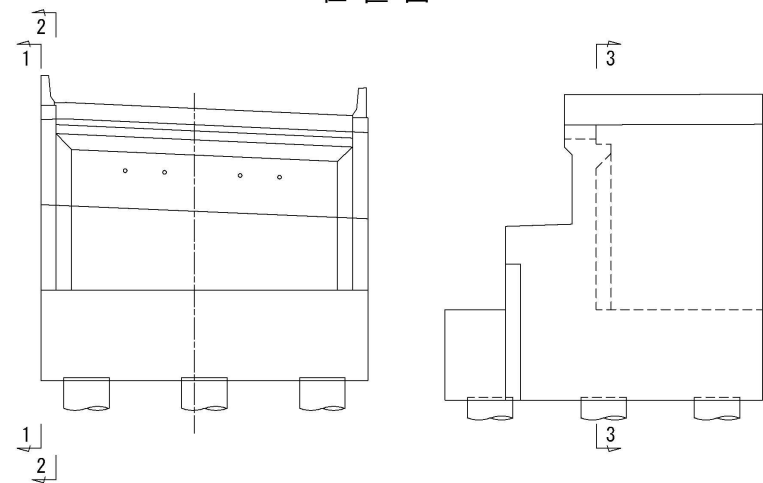


注1) △印表記は機械式鉄筋定着工法を示すものであり、下記の基準等を満足すること。
1. 道路橋示方書-同解説 (H29. 11 日本道路協会)
2. 機械式鉄筋定着工法の配筋設計ガイドライン (H28. 7 機械式定着工法技術検討委員会)
なお、定着体の設置方向は、施工条件に応じて定着体と半円形フックの設置方向を変更してもよい。
注2) 機械式定着鉄筋は、被拘束鉄筋に接触するように配置すること。
機械式定着鉄筋は、主鉄筋に可能な限り近づけること。
注3) T印は機械式鉄筋定着工法の定着体を表す。
注4) ◇鉄筋は防錆処理鉄筋を表す。
注5) ○鉄筋は上部工施工鉄筋を表す。
注6) 鉄筋長は切り上げの10mm丸めとする。

道東自動車道 占冠地区下部工工事			
図面の種類	シム川橋（上り線） A 2 橋台配筋図（その 6）		
縮 尺	図 示	図面番号	-
設計会社名	株式会社 日本構造橋梁研究所		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 北海道支社 帯広工事事務所		

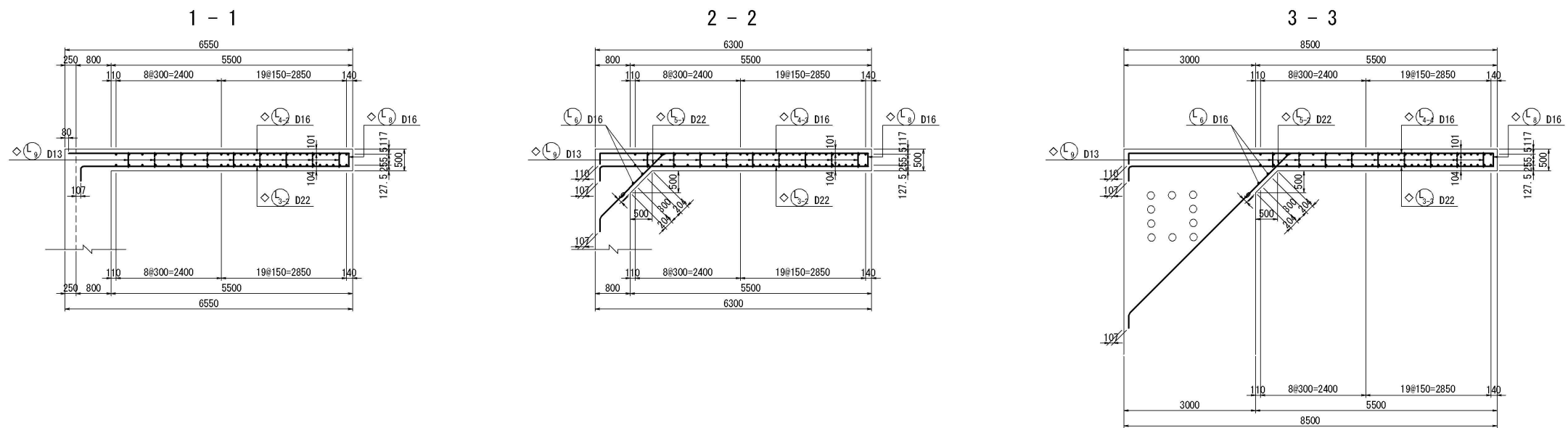


位置図



注1) △印表記は機械式鉄筋定着工法を示すものであり、下記の基準等を満足すること。
1. 道路橋示方書-同解説 (H29. 11 日本道路協会)
2. 機械式鉄筋定着工法の配筋設計ガイドライン (H28. 7 機械式定着工法技術検討委員会)
なお、定着体の設置方向は、施工条件に応じて定着体と半円形フックの設置方向を変更してもよい。
注2) 機械式定着鉄筋は、被拘束鉄筋に接触するように配置すること。機械式定着鉄筋は、主鉄筋に可能な限り近づけること。
注3) T印は機械式鉄筋定着工法の定着体を表す。
注4) ◇鉄筋は防錆処理鉄筋を表す。
注5) ○鉄筋は上部工施工鉄筋を表す。
注6) 鉄筋長は切り上げの10mm丸めとする。

道東自動車道 占冠地区下部工工事			
図面の種類	シム川橋（上り線） A 2 橋台配筋図（その 7）		
縮 尺	図 示	図面番号	-
設計会社名	株式会社 日本構造橋梁研究所		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 北海道支社 帯広工事事務所		

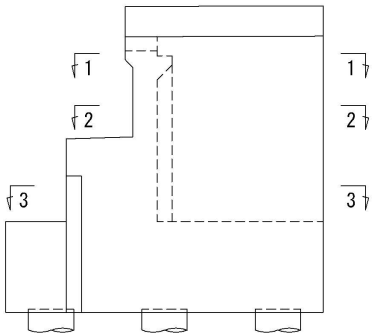


左側ウイング端部かぶり詳細図 S=1 : 50

左側ウイングかぶり詳細図 S=1 : 50

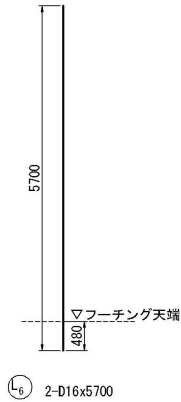
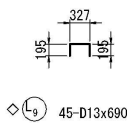
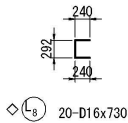
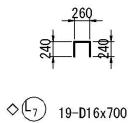
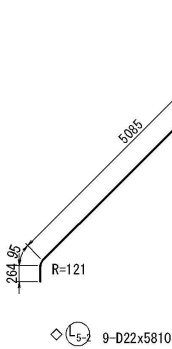
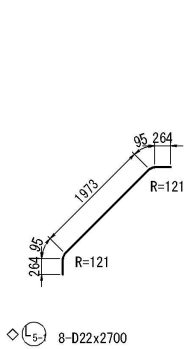
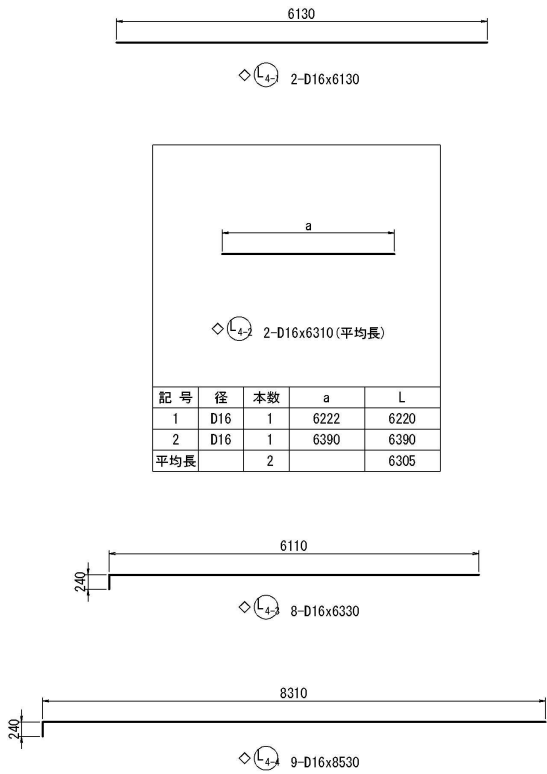
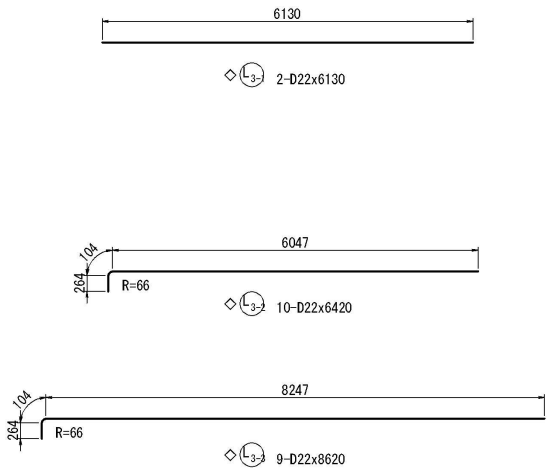
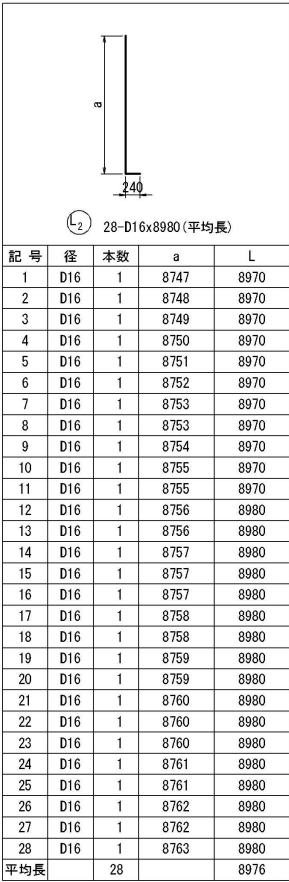
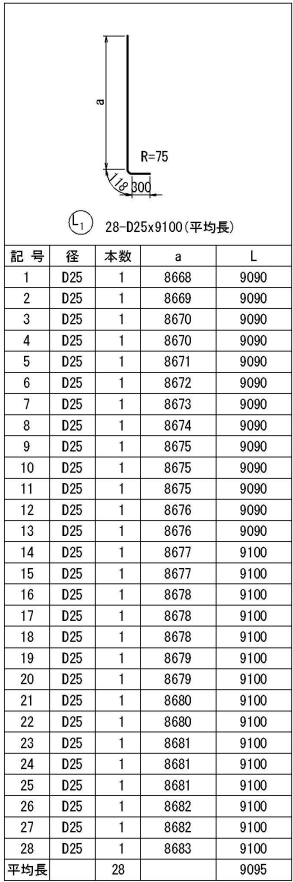


位置図



注1) △印表記は機械式鉄筋定着工法を示すものであり、下記の基準等を満足すること。
1. 道路橋示方書-同解説 (H29. 11 日本道路協会)
2. 機械式鉄筋定着工法の配筋設計ガイドライン (H28. 7 機械式定着工法技術検討委員会)
なお、定着体の設置方向は、施工条件に応じて定着体と半円形フックの設置方向を変更してもよい。
注2) 機械式定着鉄筋は、被拘束鉄筋に接触するように配置すること。
機械式定着鉄筋は、主鉄筋に可能な限り近づけること。
注3) T印は機械式鉄筋定着工法の定着体を表す。
注4) ◇鉄筋は防錆処理鉄筋を表す。
注5) ○鉄筋は上部工施工鉄筋を表す。
注6) 鉄筋長は切り上げの10mm丸めとする。

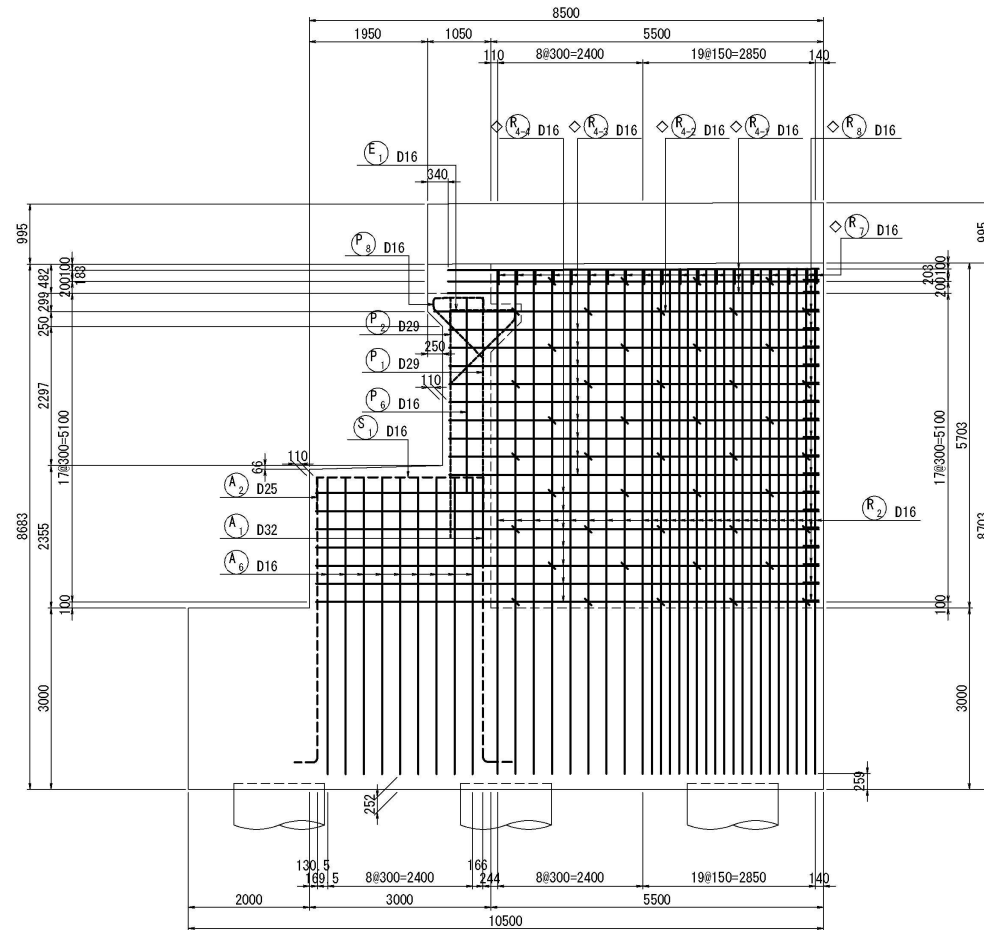
道東自動車道 占冠地区下部工工事			
図面の種類	シム川橋（上り線） A 2 橋台配筋図（その 8）		
縮 尺	図 示	図面番号	-
設計会社名	株式会社 日本構造橋梁研究所		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 北海道支社 帯広工事事務所		



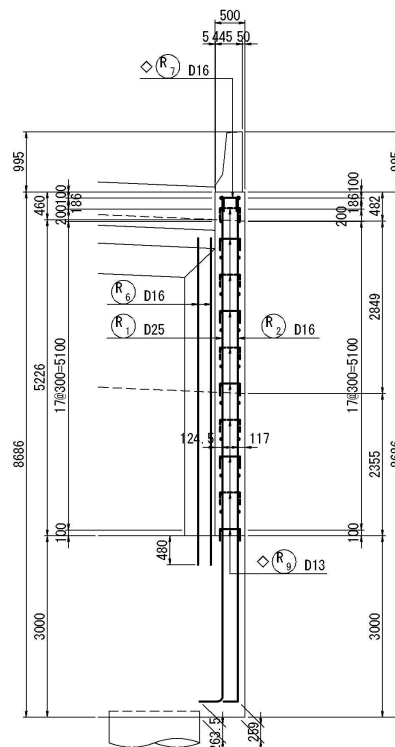
注1) △印表記は機械式鉄筋定着工法を示すものであり、下記の基準等を満足すること。
1. 道路橋示方書-同解説 (H29. 11 日本道路協会)
2. 機械式鉄筋定着工法の配筋設計ガイドライン (H28. 7 機械式定着工法技術検討委員会)
なお、定着体の設置方向は、施工条件に応じて定着体と半円形フックの設置方向を変更してもよい。
注2) 機械式定着鉄筋は、被拘束鉄筋に接触するように配置すること。
機械式定着鉄筋は、主鉄筋に可能な限り近づけること。
注3) T印は機械式鉄筋定着工法の定着体を表す。
注4) ◇鉄筋は防錆処理鉄筋を表す。
注5) ○鉄筋は上部工施工鉄筋を表す。
注6) 鉄筋長は切り上げの10mm丸めとする。

道東自動車道 占冠地区下部工工事			
図面の種類	シム川橋（上り線） A 2 橋台配筋図（その 9）		
縮 尺	図 示	図面番号	-
設計会社名	株式会社 日本構造橋梁研究所		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 北海道支社 帯広工事事務所		

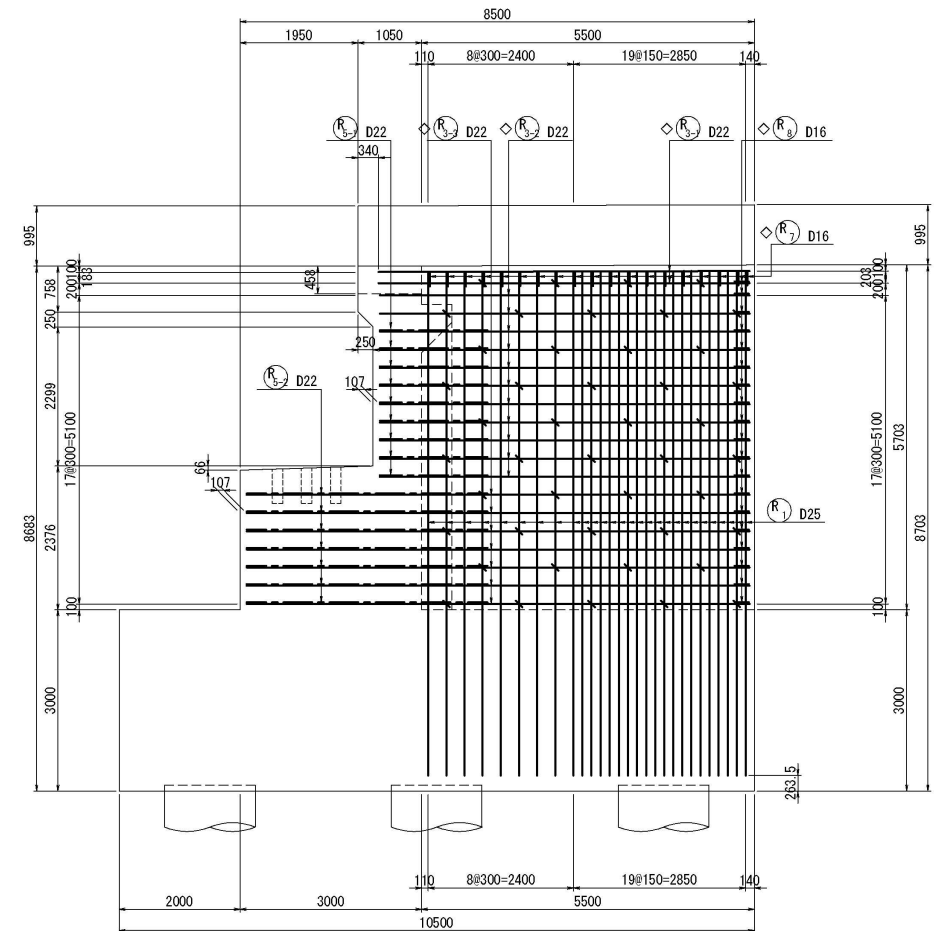
1 - 1
外側



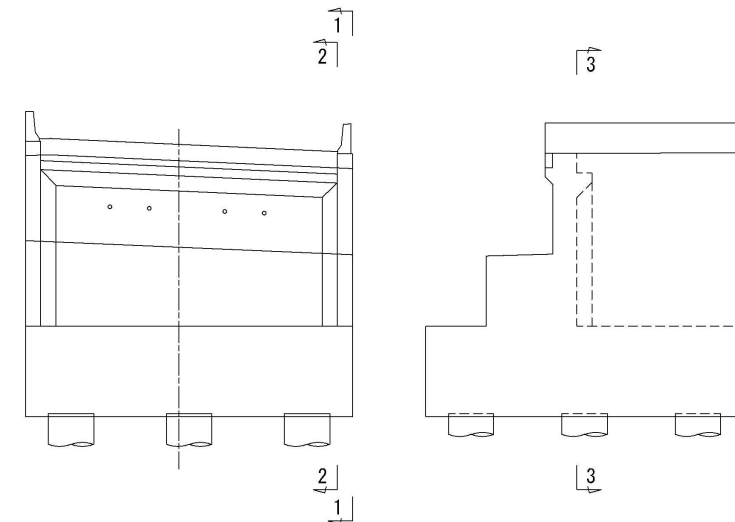
3 - 3



2 - 2
内 側



位置図



注1) △印表記は機械式鉄筋定着工法を示すものであり、下記の基準等を満足すること。

1. 道路標示方書-同解説(H29.11 日本道路協会)

2. 機械式鉄筋定着工法の配筋設計ガイドライン(H28.7 機械式定着工法技術検討委員会)

なお、定着体の設置方向は、施工条件に応じて定着体と半円形フックの設置方向を変更してもよい。

注2) 機械式定着鉄筋は、被拘束鉄筋に接触するように配置すること。

機械式定着鉄筋は、主鉄筋に可能な限り近づけること。

注3) ①印は機械式鉄筋定着工法の定着体を表す。

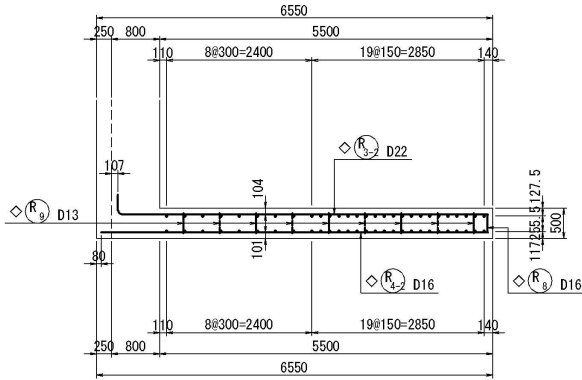
注4) ◇鉄筋は防錆処理鉄筋を表す。

注5) ○鉄筋は上部工施工鉄筋を表す。

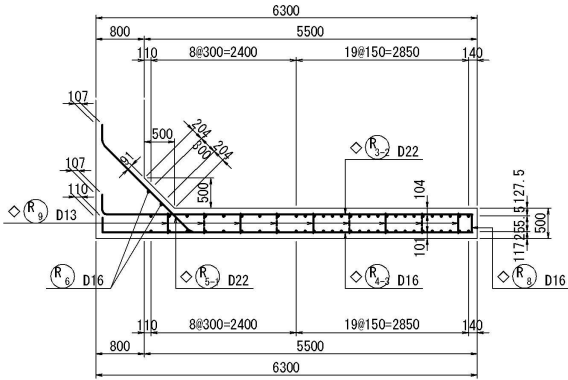
注6) 鉄筋長は切り上げの0.10mm刻とする。

道東自動車道 占冠地区下部工工事			
図面の種類	シム川橋（より線） A 2 橋台配筋図（その 1 〇）		
	縮 尺	図 示	図面番号
設計会社名	株式会社 日本構造橋梁研究所		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 北海道支社 帯広工事事務所		

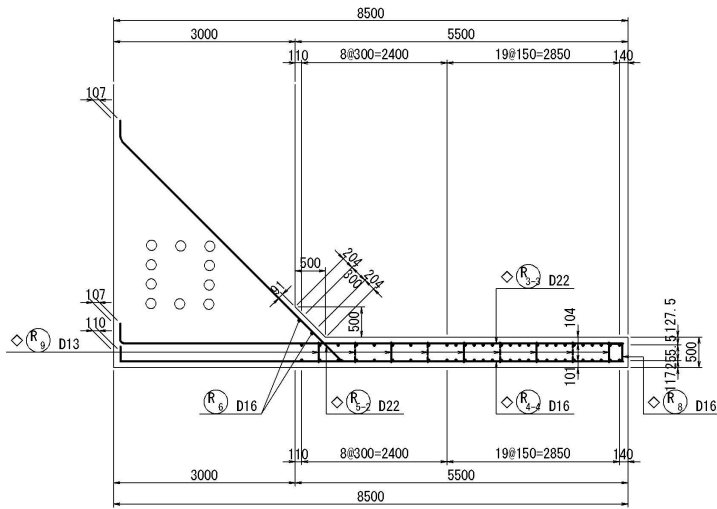
1 - 1



2 - 2

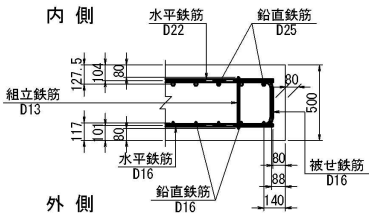


3 - 3

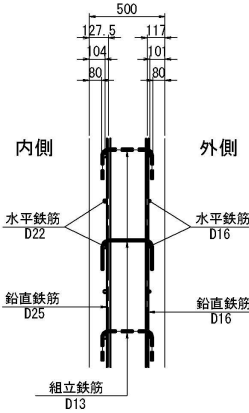


右側ウイング端部かぶり詳細図 S=1 : 50

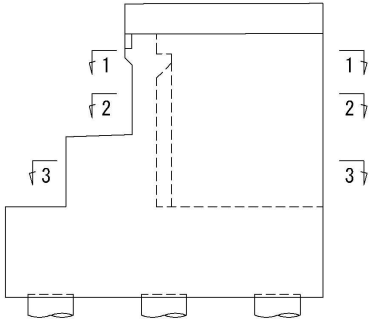
フルウイング端部



右側ウイングかぶり詳細図 S=1 : 50

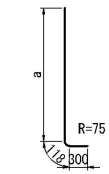


位置図




- 注1) △印表記は機械式鉄筋定着工法を示すものであり、下記の基準等を満足すること。
1. 道路橋示方書-同解説 (H29. 11 日本道路協会)
 2. 機械式鉄筋定着工法の配筋設計ガイドライン (H28. 7 機械式定着工法技術検討委員会)
- なお、定着体の設置方向は、施工条件に応じて定着体と半円形フックの設置方向を変更してもよい。
- 注2) 機械式定着鉄筋は、被拘束鉄筋に接触するように配置すること。
- 機械式定着鉄筋は、主鉄筋に可能な限り近づけること。
- 注3) T印は機械式鉄筋定着工法の定着体を表す。
- 注4) ◇鉄筋は防錆処理鉄筋を表す。
- 注5) ○鉄筋は上部工施工鉄筋を表す。
- 注6) 鉄筋長は切り上げの10mm丸めとする。

道東自動車道 占冠地区下部工工事			
図面の種類	シム川橋（上り線） A 2 橋台配筋図（その 1 1）		
縮 尺	図 示	図面番号	-
設計会社名	株式会社 日本構造橋梁研究所		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 北海道支社 帯広工事事務所		



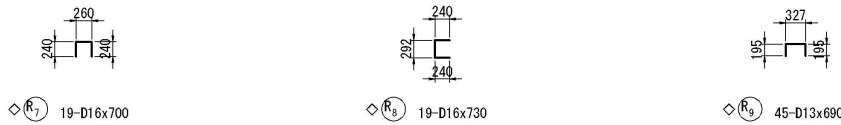
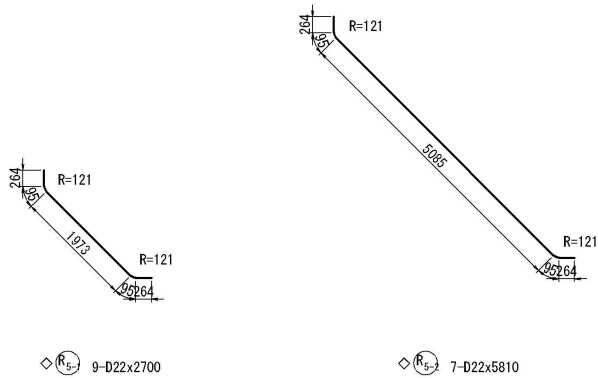
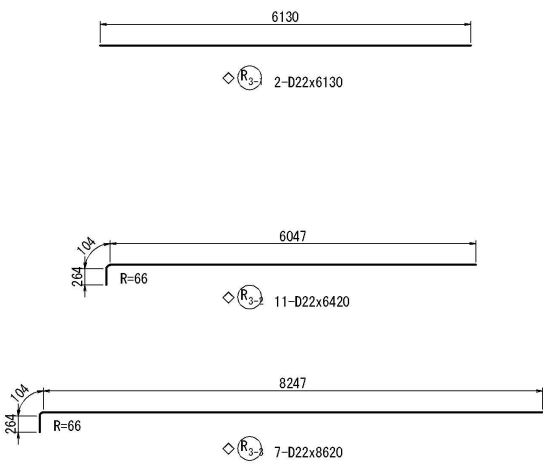
28-D25x8680 (平均長)

記号	径	本数	a	L
1	D25	1	8248	8670
2	D25	1	8249	8670
3	D25	1	8250	8670
4	D25	1	8251	8670
5	D25	1	8252	8670
6	D25	1	8253	8670
7	D25	1	8254	8670
8	D25	1	8254	8670
9	D25	1	8255	8670
10	D25	1	8256	8670
11	D25	1	8256	8670
12	D25	1	8257	8680
13	D25	1	8257	8680
14	D25	1	8258	8680
15	D25	1	8258	8680
16	D25	1	8259	8680
17	D25	1	8259	8680
18	D25	1	8259	8680
19	D25	1	8260	8680
20	D25	1	8260	8680
21	D25	1	8261	8680
22	D25	1	8261	8680
23	D25	1	8262	8680
24	D25	1	8262	8680
25	D25	1	8263	8680
26	D25	1	8263	8680
27	D25	1	8264	8680
28	D25	1	8264	8680
平均長		28		8676



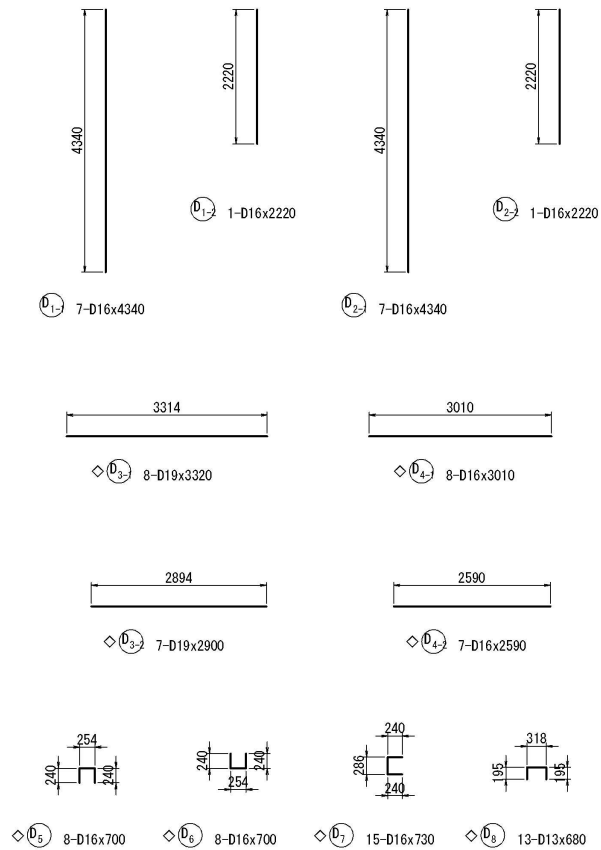
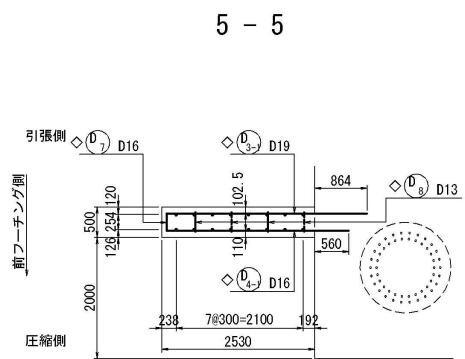
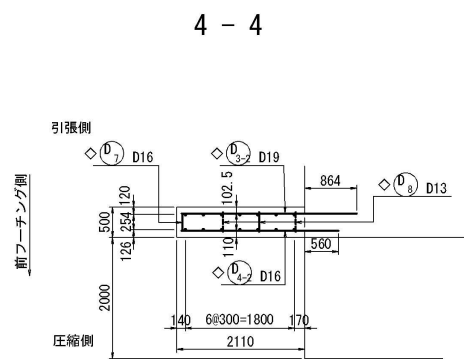
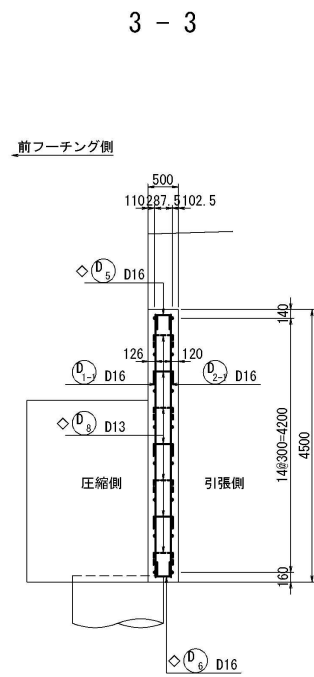
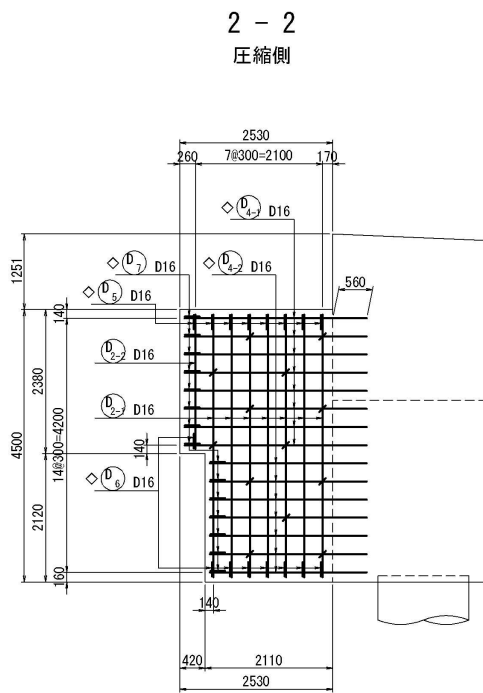
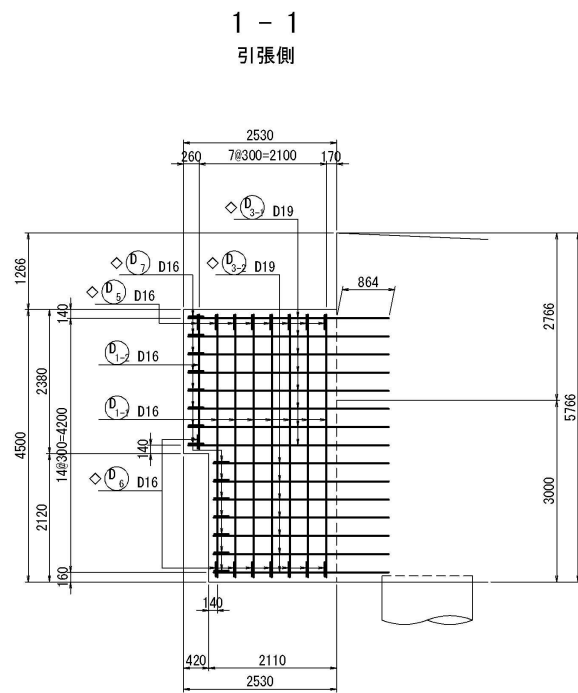
28-D16x8560 (平均長)

記号	径	本数	a	L
1	D16	1	8328	8550
2	D16	1	8329	8550
3	D16	1	8330	8550
4	D16	1	8331	8550
5	D16	1	8332	8550
6	D16	1	8333	8550
7	D16	1	8334	8550
8	D16	1	8334	8550
9	D16	1	8335	8550
10	D16	1	8336	8560
11	D16	1	8336	8560
12	D16	1	8337	8560
13	D16	1	8337	8560
14	D16	1	8338	8560
15	D16	1	8338	8560
16	D16	1	8339	8560
17	D16	1	8339	8560
18	D16	1	8339	8560
19	D16	1	8340	8560
20	D16	1	8340	8560
21	D16	1	8341	8560
22	D16	1	8341	8560
23	D16	1	8342	8560
24	D16	1	8342	8560
25	D16	1	8343	8560
26	D16	1	8343	8560
27	D16	1	8344	8560
28	D16	1	8344	8560
平均長		28		8557

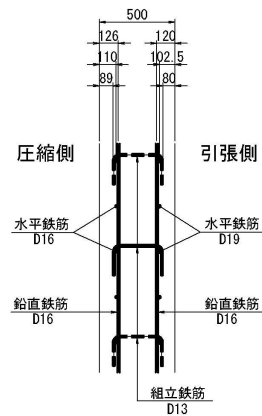


注1) △印表記は機械式鉄筋定着工法を示すものであり、下記の基準等を満足すること。
1. 道路橋示方書-同解説 (H29. 11 日本道路協会)
2. 機械式鉄筋定着工法の配筋設計ガイドライン (H28. 7 機械式定着工法技術検討委員会)
なお、定着体の設置方向は、施工条件に応じて定着体と半円形フックの設置方向を変更してもよい。
注2) 機械式定着鉄筋は、被拘束鉄筋に接触するように配置すること。
機械式定着鉄筋は、主鉄筋に可能な限り近づけること。
注3) T印は機械式鉄筋定着工法の定着体を表す。
注4) ◇鉄筋は防錆処理鉄筋を表す。
注5) ○鉄筋は上部工施工鉄筋を表す。
注6) 鉄筋長は切り上げの10mm丸めとする。

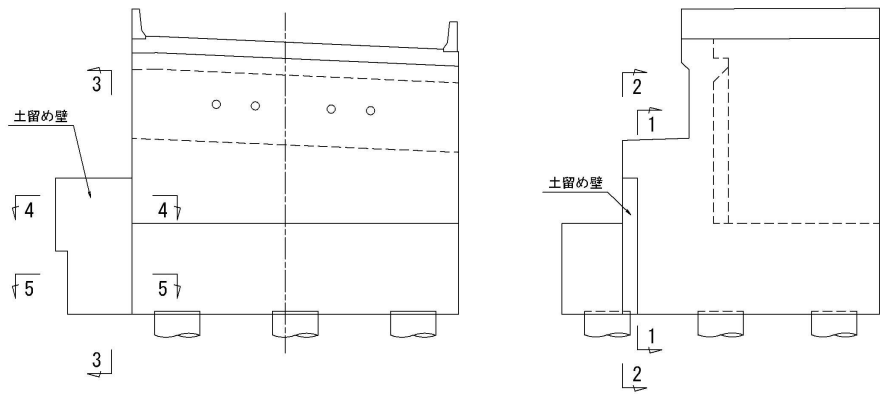
道東自動車道 占冠地区下部工工事			
図面の種類	シム川橋（上り線） A 2橋台配筋図（その１２）		
縮 尺	図 示	図面番号	-
設計会社名	株式会社 日本構造橋梁研究所		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 北海道支社 帯広工事事務所		



土留め壁かぶり詳細図 S=1: 50



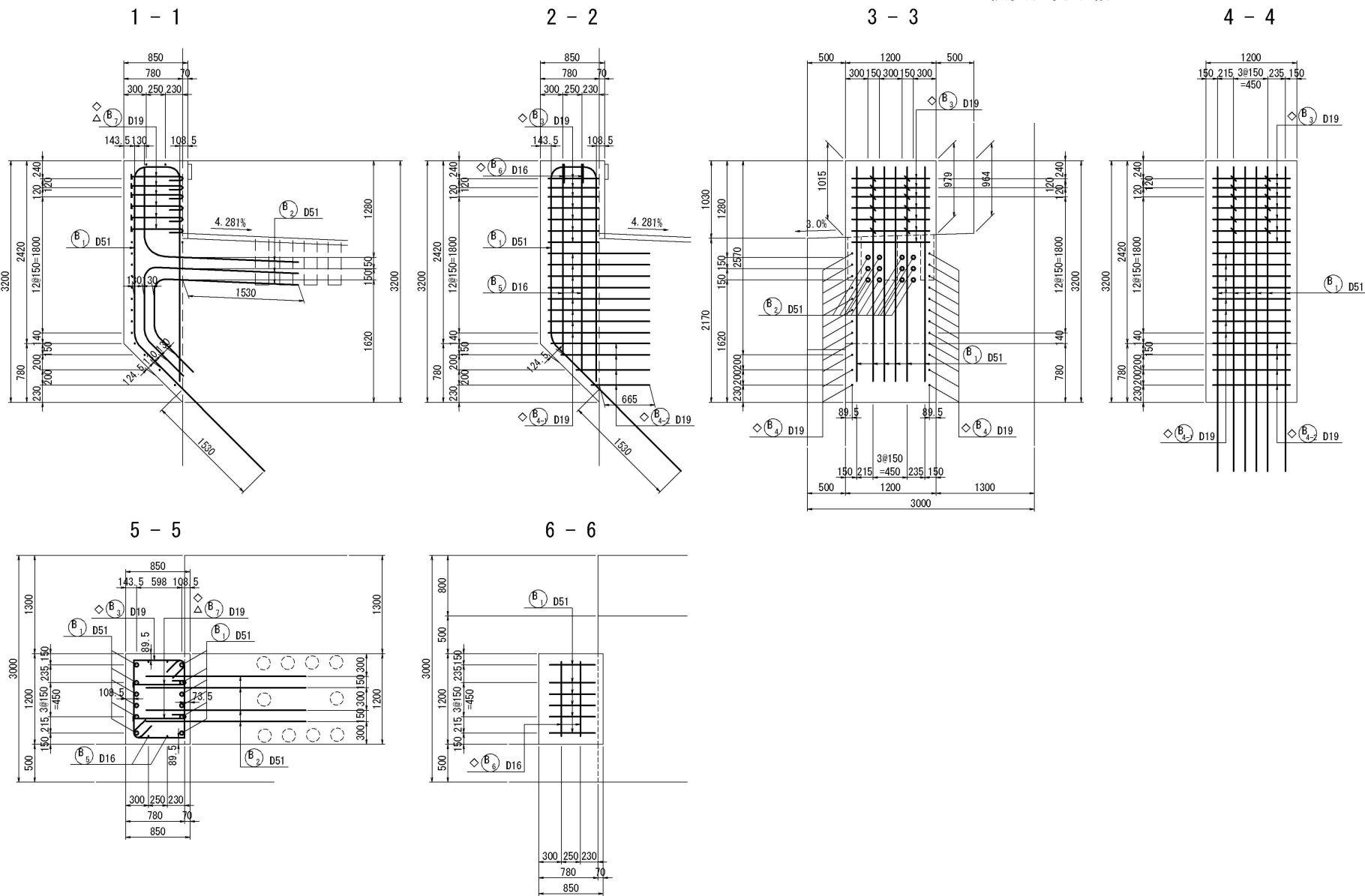
位置図



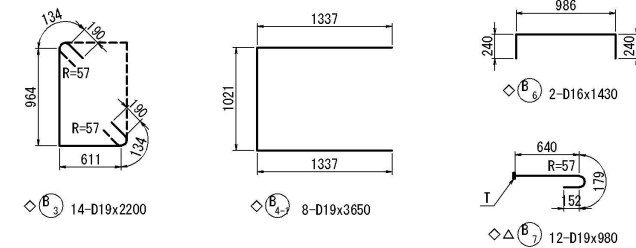
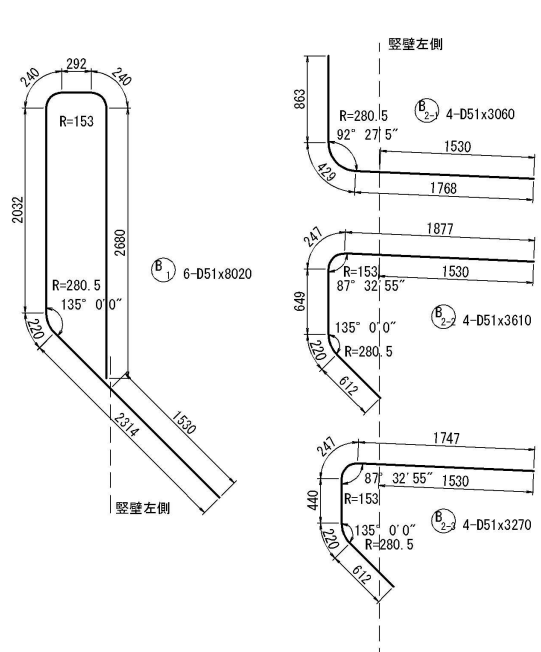
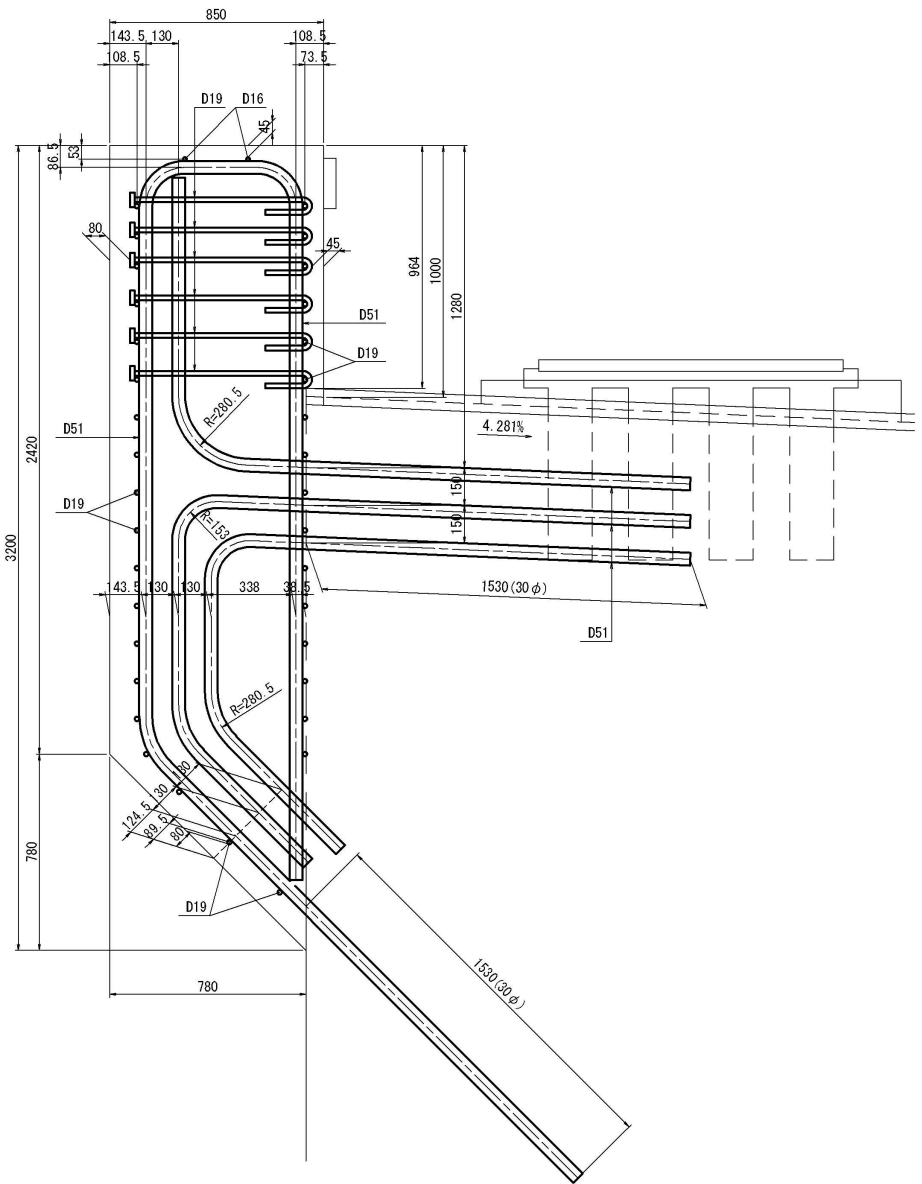
注1) △印表記は機械式鉄筋定着工法を示すものであり、下記の基準等を満足すること。
1. 道路橋示方書-同解説 (H29. 11 日本道路協会)
2. 機械式鉄筋定着工法の配筋設計ガイドライン (H28. 7 機械式定着工法技術検討委員会)
なお、定着体の設置方向は、施工条件に応じて定着体と半円形フックの設置方向を変更してもよい。
注2) 機械式定着鉄筋は、被拘束鉄筋に接触するように配置すること。機械式定着鉄筋は、主鉄筋に可能な限り近づけること。
注3) T印は機械式鉄筋定着工法の定着体を表す。
注4) ◇鉄筋は防錆処理鉄筋を表す。
注5) ○鉄筋は上部工施工鉄筋を表す。
注6) 鉄筋長は切り上げの10mm丸めとする。

道東自動車道 占冠地区下部工工事			
図面の種類	シム川橋（上り線） A 2 橋台配筋図（その 1 3）		
縮 尺	図 示	図面番号	-
設計会社名	株式会社 日本構造橋梁研究所		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 北海道支社 帯広工事事務所		

横変位拘束構造



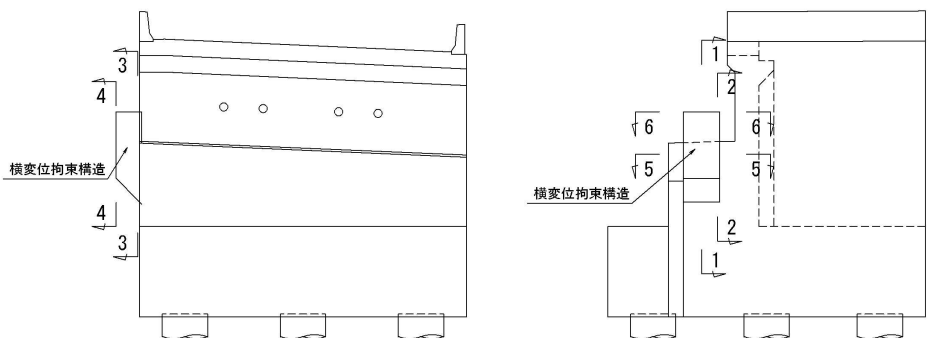
横変位拘束構造かぶり詳細図 S=1 : 30



4-D19x3080 (平均長)				
記号	径	本数	a	L
1	D19	1	768	2510
2	D19	1	968	2910
3	D19	1	1168	3310
4	D19	1	1299	3560
平均長		4		3073

4-D16x2620 (平均長)			
記号	径	本数	a
1	D16	2	2490
2	D16	2	2740
平均長		4	2615

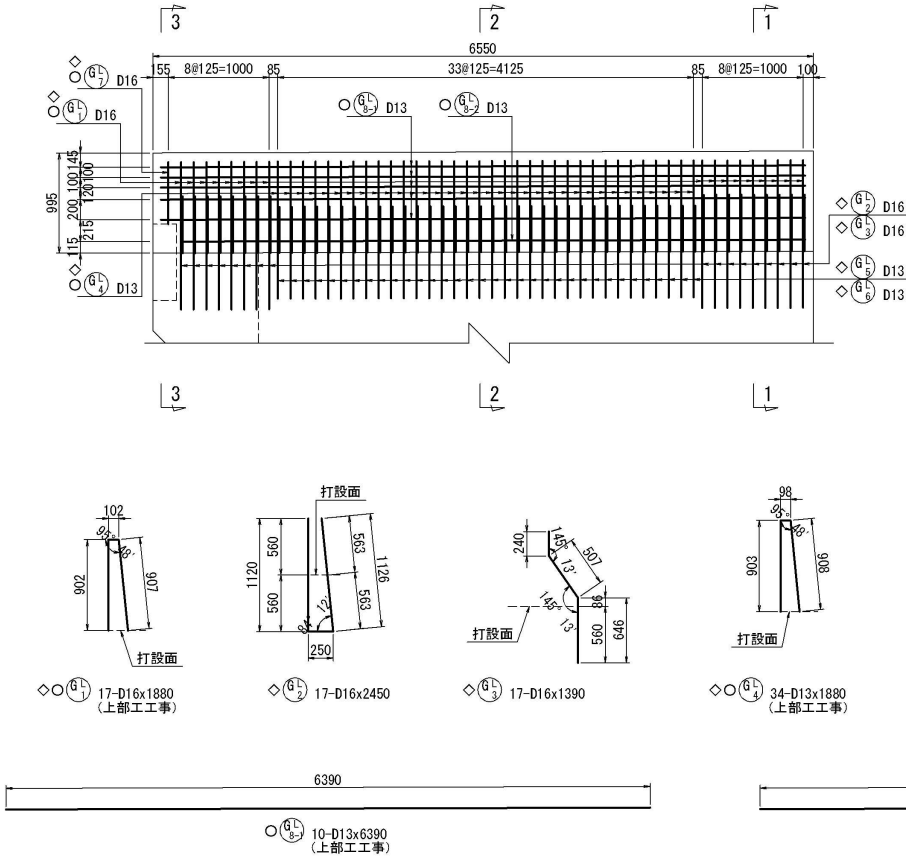
位置図



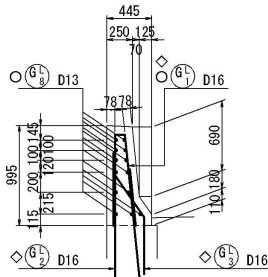
注1) △印表記は機械式鉄筋定着工法を示すものであり、下記の基準等を満足すること。
1. 道路橋示方書-同解説 (H29. 11 日本道路協会)
2. 機械式鉄筋定着工法の配筋設計ガイドライン (H28. 7 機械式定着工法技術検討委員会)
なお、定着体の設置方向は、施工条件に応じて定着体と半円形フックの設置方向を変更してもよい。
注2) 機械式定着鉄筋は、被拘束鉄筋に接触するように配置すること。機械式定着鉄筋は、主鉄筋に可能な限り近づけること。
注3) T印は機械式鉄筋定着工法の定着体を表す。
注4) ◇鉄筋は防錆処理鉄筋を表す。
注5) ○鉄筋は上部工施工鉄筋を表す。
注6) 鉄筋長は切り上げの10mm丸めとする。

道東自動車道 占冠地区下部工工事			
図面の種類	シム川橋（上り線） A 2 橋台配筋図（その 1 4）		
縮 尺	図 示	図面番号	-
設計会社名	株式会社 日本構造橋梁研究所		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 北海道支社 帯広工事事務所		

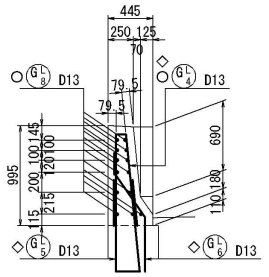
左壁欄側面展開図



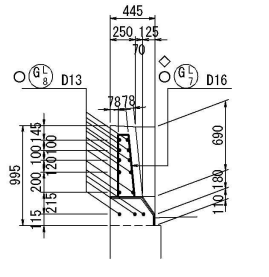
1 - 1



2 - 2

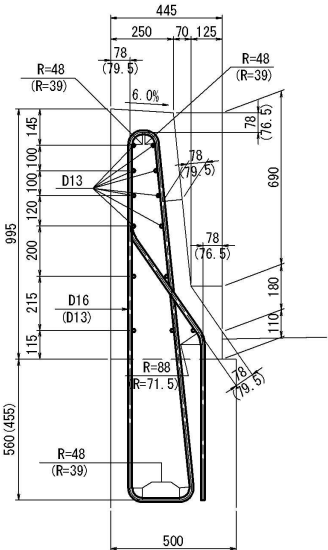


3 - 3

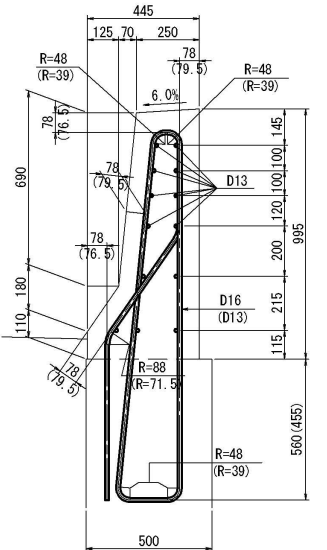


壁高欄かぶり詳細図 S=1:30

左壁欄



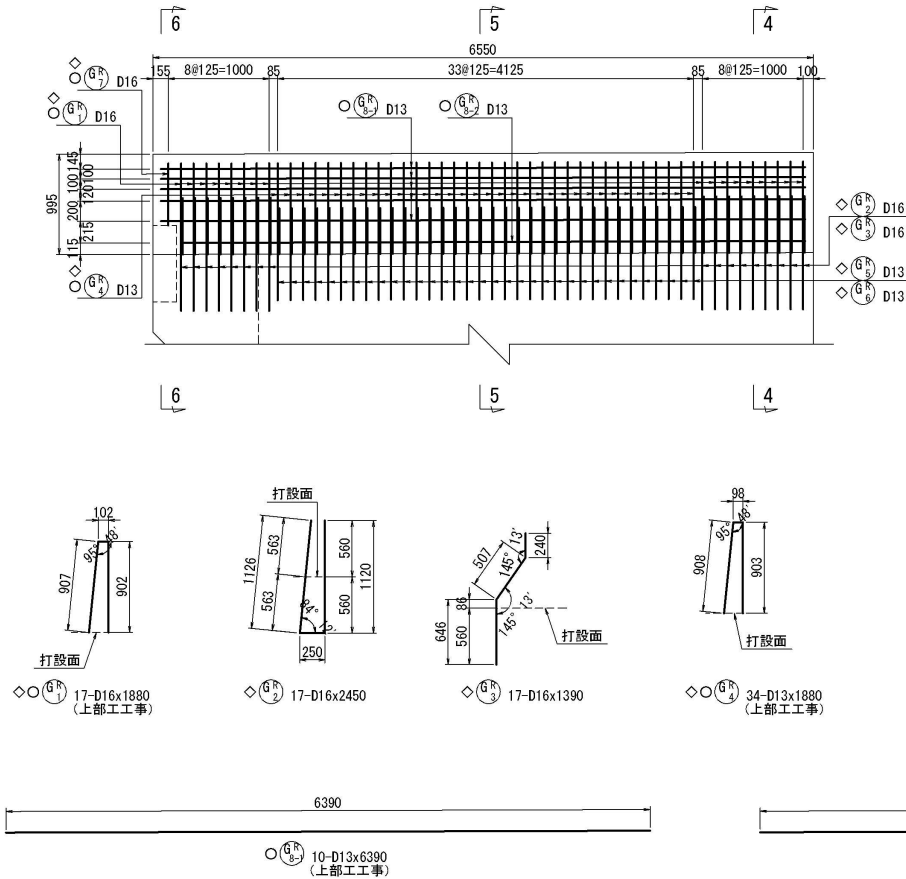
右壁欄



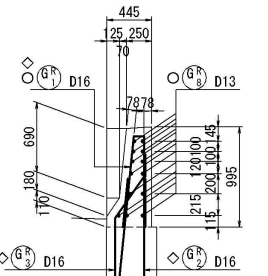
注) () 内はD13鉄筋の数値を表す。

注) () 内はD13鉄筋の数値を表す。

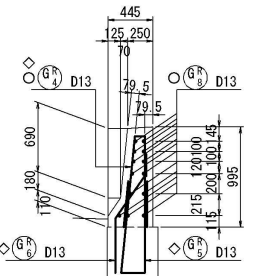
右側壁欄側面展開図



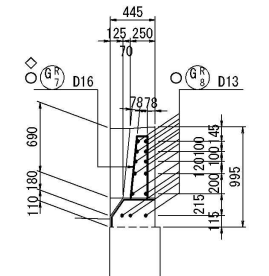
4 - 4



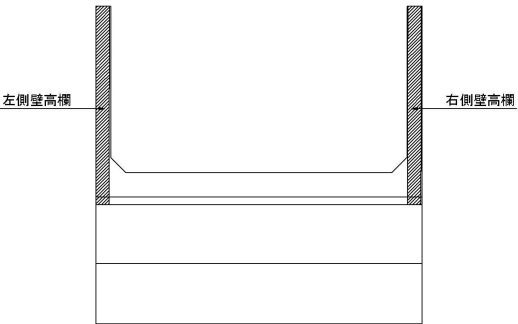
5 - 5



6 - 6



位置図
















- 注1) △印表記は機械式鉄筋定着工法を示すものであり、下記の基準等を満足すること。
1. 道路橋示方書-同解説 (H29. 11 日本道路協会)
 2. 機械式鉄筋定着工法の配筋設計ガイドライン (H28. 7 機械式定着工法技術検討委員会)
- なお、定着体の設置方向は、施工条件に応じて定着体と半円形フックの設置方向を変更してもよい。
- 注2) 機械式定着鉄筋は、被拘束鉄筋に接触するように配置すること。機械式定着鉄筋は、主鉄筋に可能な限り近づけること。
- 注3) T印は機械式鉄筋定着工法の定着体を表す。
- 注4) ◇鉄筋は防錆処理鉄筋を表す。
- 注5) ○鉄筋は上部施工鉄筋を表す。
- 注6) 鉄筋長は切り上げの10mm丸めとする。

道東自動車道 占冠地区下部工工事			
図面の種類	シム川橋（上り線） A 2 橋台配筋図（その 1 5）		
縮 尺	図 示	図面番号	-
設計会社名	株式会社 日本構造橋梁研究所		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 北海道支社 帯広工事事務所		

鉄筋表

	種別	径	長 さ (mm)	本数	単位質量 (kg/m)	1本当り質量 (kg)	質 量 (kg)	摘 要
	下部施工エポキシ樹脂塗装鉄筋 (SD345)							
◇	P3-1	D19	11140	17	2.25	25.1	427	└┐
◇	P3-2	D19	11140	1	2.25	25.1	25	└┐
◇	P4-1	D19	10650	10	2.25	24.0	240	└┐
◇	P4-2	D19	10650	1	2.25	24.0	24	└┐
◇	P7	D16	10650	3	1.56	16.6	50	└┐
◇ △	P9	D19	890	162	2.25	2.00	324	└┐ (162)
								1090 kg
◇	J1	D13	1540	66	0.995	1.53	101	└┐
◇	J2	D16	1000	33	1.56	1.56	51	└┐
								152 kg
◇	E2	D16	10650	5	1.56	16.6	83	└┐
◇	E3	D22	520	13	3.04	1.58	21	└┐
								104 kg
◇	Y1	D16	500	32	1.56	0.780	25	└┐
								25 kg
◇	A3-1	D19	11170	7	2.25	25.1	176	└┐
◇	A3-2	D19	11180	1	2.25	25.2	25	└┐
◇	A3-3	D19	9870	1	2.25	22.2	22	└┐
◇	A3-4	D19	5150	1	2.25	11.6	12	└┐
◇	A4-1	D19	11170	7	2.25	25.1	176	└┐
◇	A4-2	D19	11180	1	2.25	25.2	25	└┐
◇	A4-3	D19	5070	1	2.25	11.4	11	└┐
◇ △	A7	D19	3090	48	2.25	6.95	334	└┐ (48)
								781 kg
◇	S2	D16	11780	11	1.56	18.4	202	└┐
◇ △	S3	D16	3050	37	1.56	4.76	176	└┐ (37)
								378 kg
◇	H1	D16	2830	36	1.56	4.41	159	└┐
◇	H2	D16	2830	30	1.56	4.41	132	└┐
◇	H3	D16	3560	6	1.56	5.55	33	└┐
								324 kg
◇	D3-1	D19	3320	8	2.25	7.47	60	└┐
◇	D3-2	D19	2900	7	2.25	6.53	46	└┐
◇	D4-1	D16	3010	8	1.56	4.70	38	└┐
◇	D4-2	D16	2590	7	1.56	4.04	28	└┐
◇	D5	D16	700	8	1.56	1.09	9	└┐
◇	D6	D16	700	8	1.56	1.09	9	└┐
◇	D7	D16	730	15	1.56	1.14	17	└┐
◇	D8	D13	680	13	0.995	0.677	9	└┐
								216 kg
◇	L3-1	D22	6130	2	3.04	18.6	37	└┐
◇	L3-2	D22	6420	10	3.04	19.5	195	└┐
◇	L3-3	D22	8620	9	3.04	26.2	236	└┐
◇	L4-1	D16	6130	2	1.56	9.56	19	└┐
◇	L4-2	D16	6310	2	1.56	9.84	20	└┐ (平均長)
◇	L4-3	D16	6330	8	1.56	9.87	79	└┐
◇	L4-4	D16	8530	9	1.56	13.3	120	└┐
◇	L5-1	D22	2700	8	3.04	8.21	66	└┐
◇	L5-2	D22	5810	9	3.04	17.7	159	└┐
◇	L7	D16	700	19	1.56	1.09	21	└┐
◇	L8	D16	730	20	1.56	1.14	23	└┐
◇	L9	D13	690	45	0.995	0.687	31	└┐
								1006 kg
◇	R3-1	D22	6130	2	3.04	18.6	37	└┐
◇	R3-2	D22	6420	11	3.04	19.5	215	└┐
◇	R3-3	D22	8620	7	3.04	26.2	183	└┐
◇	R4-1	D16	6130	3	1.56	9.56	29	└┐
◇	R4-2	D16	6360	1	1.56	9.92	10	└┐
◇	R4-3	D16	6330	9	1.56	9.87	89	└┐
◇	R4-4	D16	8530	7	1.56	13.3	93	└┐
◇	R5-1	D22	2700	9	3.04	8.21	74	└┐
◇	R5-2	D22	5810	7	3.04	17.7	124	└┐
◇	R7	D16	700	19	1.56	1.09	21	└┐
◇	R8	D16	730	19	1.56	1.14	22	└┐
◇	R9	D13	690	45	0.995	0.687	31	└┐
								928 kg

	種別	径	長さ (mm)	本数	単位質量 (kg/m)	1本当り質量 (kg)	質 量 (kg)	摘 要
	下部施工エポキシ樹脂塗装鉄筋 (SD345)							
◇	B3	D19	2200	14	2.25	4.95	69	
◇	B4-1	D19	3650	8	2.25	8.21	66	
◇	B4-2	D19	3080	4	2.25	6.93	28	 (平均長)
◇	B6	D16	1430	2	1.56	2.23	4	
◇ △	B7	D19	980	12	2.25	2.21	27	 (12)
								194 kg
◇	GL2	D16	2450	17	1.56	3.82	65	
◇	GL3	D16	1390	17	1.56	2.17	37	
◇	GL5	D13	2030	34	0.995	2.02	69	
◇	GL6	D13	1240	34	0.995	1.23	42	
								213 kg
◇	GR2	D16	2450	17	1.56	3.82	65	
◇	GR3	D16	1390	17	1.56	2.17	37	
◇	GR5	D13	2030	34	0.995	2.02	69	
◇	GR6	D13	1240	34	0.995	1.23	42	
								213 kg
	下部施工エポキシ樹脂塗装鉄筋							
	鉄筋質量集計 (SD345)							
			鉄筋A	鉄筋B	鉄筋C	合計	(機械式定着)	
		D22	1347 kg	—	—	1347 kg		
		D19	1432 kg	—	685 kg	2117 kg	(222)	
		D16	1590 kg	—	176 kg	1766 kg	(37)	
		D13	394 kg	—	—	394 kg		
		合 計	4763 kg	—	861 kg	5624 kg	(259)	

	種別	径	長さ (mm)	本数	単位質量 (kg/m)	1本当り質量 (kg)	質量 (kg)	摘要
	下部施工鉄筋 (SD345)							
	P1	D29	4300	70	5.04	21.7	1519	└┐ (平均長)
	P2	D29	3970	39	5.04	20.0	780	└┐ (平均長)
	P5	D16	3210	1	1.56	5.01	5	└┐
	P6	D16	3230	1	1.56	5.04	5	└┐
	P8	D16	2340	39	1.56	3.65	142	└┐
								2451 kg
	E1	D16	2930	33	1.56	4.57	151	└┐
	E4	D13	1590	13	0.995	1.58	21	└┐
								172 kg
	A1	D32	5580	36	6.23	34.8	1253	└┐ (平均長)
	A2	D25	5490	36	3.98	21.9	788	└┐ (平均長)
	A5-1	D16	5570	8	1.56	8.69	70	└┐
	A5-2	D16	1580	1	1.56	2.46	2	└┐
	A6	D16	5120	9	1.56	7.99	72	└┐
								2185 kg
	S1	D16	3770	37	1.56	5.88	218	└┐
								218 kg
	F1	D32	8950	40	6.23	55.8	2232	└┐
	F2	D25	7380	40	3.98	29.4	1176	└┐
	F3	D29	8660	40	5.04	43.6	1744	└┐
	F4	D35	3420	40	7.51	25.7	1028	└┐
	F5	D29	8560	40	5.04	43.1	1724	└┐
	F6	D19	10640	24	2.25	23.9	574	└┐
	F7	D16	10640	15	1.56	16.6	249	└┐
	F8	D19	10640	22	2.25	23.9	526	└┐
	F9	D22	10640	8	3.04	32.3	258	└┐
	F10	D19	10640	21	2.25	23.9	502	└┐
	F11	D19	10850	26	2.25	24.4	634	└┐
	F12	D19	10610	26	2.25	23.9	621	└┐
	F13	D16	3140	14	1.56	4.90	69	└┐
△	F14	D25	3050	357	3.98	12.1	4320	└┐ (357)
△	F15	D16	2920	24	1.56	4.56	109	└┐ (24)
								15766 kg
	D1-1	D16	4340	7	1.56	6.77	47	└┐
	D1-2	D16	2220	1	1.56	3.46	3	└┐
	D2-1	D16	4340	7	1.56	6.77	47	└┐
	D2-2	D16	2220	1	1.56	3.46	3	└┐
								100 kg
	L1	D25	9100	28	3.98	36.2	1014	└┐ (平均長)
	L2	D16	8990	28	1.56	14.0	392	└┐ (平均長)
	L6	D16	5700	2	1.56	8.89	18	└┐
								1424 kg
	R1	D25	8680	28	3.98	34.5	966	└┐ (平均長)
	R2	D16	8560	28	1.56	13.4	375	└┐ (平均長)
	R6	D16	5400	2	1.56	8.42	17	└┐
								1358 kg
	B1	D51	8020	6	15.9	128	768	└┐
	B2-1	D51	3060	4	15.9	48.7	195	└┐
	B2-2	D51	3610	4	15.9	57.4	230	└┐
	B2-3	D51	3270	4	15.9	52.0	208	└┐
	B5	D16	2620	4	1.56	4.09	16	└┐ (平均長)
								1417 kg
	下部施工鉄筋							
	鉄筋質量集計 (SD345)							
		鉄筋A	鉄筋B	鉄筋C	合計	(機械式定着)		
	D51	1401 kg	-	-	1401 kg			
	D35	1028 kg	-	-	1028 kg			
	D32	3485 kg	-	-	3485 kg			
	D29	5767 kg	-	-	5767 kg			
	D25	3944 kg	-	4320 kg	8264 kg	(357)		
	D22	258 kg	-	-	258 kg			
	D19	2857 kg	-	-	2857 kg			
	D16	1901 kg	-	109 kg	2010 kg	(24)		
	D13	21 kg	-	-	21 kg			
	合 計	20662 kg	-	4429 kg	25091 kg	(381)		

鉄筋集計表

種別

鉄筋径

下部工施工

一般鉄筋

防錆処理鉄筋

A
(SD345)

D13

D13

21

394

D16～D25

D16

1901

1590

D19

2857

1432

D22

258

1347

D25

3944

小計

8960

4369

D29～D32

D29

5767

D32

3485

小計

9252

D35

1028

D38

D41

D51

1401

合計

20742

4763

B
(SD345)

D16～D25

D16

D19

D22

D25

小計

D29～D32

D29

D32

小計

D35

D38

D41

D51

合計

C
(SD345)

D13

D13

D16～D25

D16

109

176

D19

685

D22

D25

4320

小計

4429

861

D29～D32

D29

D32

小計

D35

D38

D41

D51

合計

4429

861

総合計

25091

5624

機械式鉄筋定着工法数量表（下部工施工）

鉄筋径	箇 所 数					
	0<=L≤1m	1m<=L≤2m	2m<=L≤3m	3m<=L≤4m	4m<=L≤5m	5m<=L≤6m
D13						
D16			24			
D25				357		
合計						381
D16 (防錆処理)				37		
D19 (防錆処理)	174			48		
合計 (防錆処理)						259

鉄筋加工寸法表 (SD345)

主筋

せん断補強筋

鋭角フック

半円形フック

直角フック

△L=2L-a

主筋	径	θ ≤ 90° R=3.0φ	θ > 90° R=5.5φ	θ = 45°		θ = 60°		θ = 90°		θ = 135°
				a	△L	a	△L	a	△L	a
	D13	39	71.5	92	96	82	53	61	17	56
	D16	48	88	113	119	100	66	75	21	69
	D19	57	104.5	134	141	119	78	89	25	82
	D22	66	121	155	164	138	91	104	28	95
	D25	75	137.5	177	185	157	103	118	32	108
	D29	87	159.5	205	215	182	119	137	37	125
	D32	96	176	226	237	201	132	151	41	138
	D35	105	192.5	247	260	220	144	165	45	151
	D38	114	209	269	281	239	156	179	49	164
	D41	123	225.5	290	304	258	168	193	53	177
D51	153	280.5	360	379	320	210	240	66	220	
せん断補強筋及び帯鉄筋	径	R=2.5φ		θ = 45°		θ = 60°		θ = 90°		———
				a	△L	a	△L	a	△L	———
	D13	32.5		77	80	68	45	51	14	———
	D16	40		94	99	84	55	63	17	———
	D19	47.5		112	117	99	66	75	20	———
	D22	55		130	136	115	76	86	24	———
	D25	62.5		147	155	131	86	98	27	———
	D29	72.5		171	179	152	99	114	31	———
	径	R=3.0φ		鋭角フック		半円形フック		直角フック		———
				a		a		a		△L
	D13	39		92		123		61		17
	D16	48		113		151		75		21
D19	57		134		179		89		25	
D22	66		156		207		104		28	
D25	75		177		236		118		32	
D29	87		205		273		137		37	

注1) △印表記は機械式鉄筋定着工法を示すものであり、下記の基準等を満足すること。
1. 道路橋示方書-同解説 (H29. 11 日本道路協会)
2. 機械式鉄筋定着工法の配筋設計ガイドライン (H28. 7 機械式定着工法技術検討委員会)
なお、定着体の設置方向は、施工条件に応じて定着体と半円形フックの設置方向を変更してもよい。
注2) 機械式定着鉄筋は、被拘束鉄筋に接触するように配置すること。
機械式定着鉄筋は、主鉄筋に可能な限り近づけること。
注3) T印は機械式鉄筋定着工法の定着体を表す。
注4) ◇鉄筋は防錆処理鉄筋を表す。
注5) ○鉄筋は上部工施工鉄筋を表す。
注6) 鉄筋長は切り上げの10mm丸めとする。

道東自動車道 占冠地区下部工工事			
図面の種類	シム川橋（上り線） A 2 橋台配筋図（その 1 7）		
縮 尺	図 示	図面番号	-
設計会社名	株式会社 日本構造橋梁研究所		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 北海道支社 帯広工事事務所		

鉄筋表

符号	径	長さ (mm)	本数	単位質量 (kg/m)	1本当り質量 (kg)	総質量 (kg)	摘要
Y鉄筋 (SD345)							
K 1-1	D29	11500	16	5.04	58.0	928	—
K 1-2	D25	3400	16	3.98	13.5	216	—
K 2	D29	9500	16	5.04	47.9	766	—
K 3-1	D19	5450	44	2.25	12.3	541	○
K 4	D19	5430	8	2.25	12.3	98	○
K 5	D13	1370	14	0.995	1.36	19	— (平均長)
K 6	D19	4220	4	2.25	9.50	38	○
K 7	D19	4240	1	2.25	9.54	10	○
						2616	kg
杭本体部合計							
1本当たり				1基当たり			
D29		1694	kg	× 6 =	10164	kg	
D25		216	kg	× 6 =	1296	kg	
D19		687	kg	× 6 =	4122	kg	
D13		19	kg	× 6 =	114	kg	
合 計		2616	kg	× 6 =	15696	kg	
A鉄筋 (SD345)							
※ K 3-2	D19	5450	9	2.25	12.25	110	○
						110	kg
杭頭部合計							
1本当たり				1基当たり			
D19		110	kg	× 6 =	660	kg	
合 計		110	kg	× 6 =	660	kg	

補強リング・固定金具

種 別	長 さ (mm)	本 数	単位質量 (kg/m)	1本当り質量 (kg)	質 量 (kg)	摘 要	
K8	FB-12x75	3594	4	7.06	25.37	101	補強リング (D29用)
Uボルト	—	112	—	—	—	—	主鉄筋と補強リングの固定 (D29用)
K9	FB-12x75	3607	1	7.06	25.47	25	補強リング (D25用)
Uボルト	—	16	—	—	—	—	主鉄筋と補強リングの固定 (D25用)

注: Uボルト規格
D29 (D25) 用、SS400、変形時荷重30kN以上
場所打ち杭コンクリート杭鉄筋かご無溶接工法 設計・施工に関するガイドラインに準拠

スペーサー・固定金具

種 別	長 さ (mm)	本 数	単位質量 (kg/m)	1本当り質量 (kg)	質 量 (kg)	摘 要
スペーサー-D13	300	16	0.995	0.298	5	SD345 (D29用)
スペーサー-D13	300	4	0.995	0.298	1	SD345 (D25用)
Uボルト	—	32	—	—	—	スペーサーと主鉄筋の固定 (D29用)
Uボルト	—	8	—	—	—	スペーサーと主鉄筋の固定 (D25用)
FD30x4	—	40	—	—	—	—

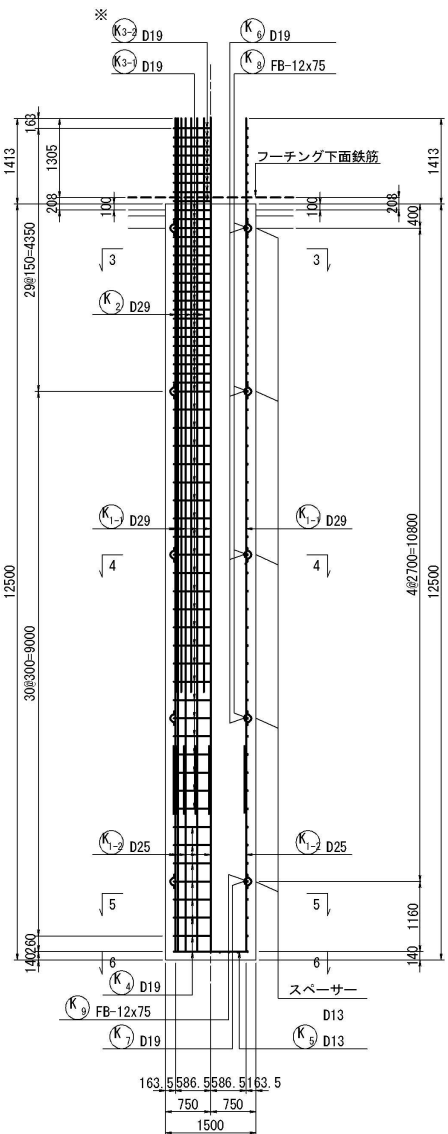
鉄筋加工寸法表 (SD345)

主 筋	径	主 筋		鋭角フック		中間帯鉄筋		直角フック	
		φ	R	φ	R	φ	R	φ	R
主 筋	D13	39	71.5	92	96	82	53	61	17
	D16	48	88	113	119	100	66	75	21
	D19	57	104.5	134	141	119	78	89	25
	D22	66	121	155	164	138	91	104	28
	D25	75	137.5	177	185	157	103	118	32
	D29	87	159.5	205	215	182	119	137	37
	D32	96	176	226	237	201	132	151	41
	D35	105	192.5	247	260	220	144	165	45
	D38	114	209	269	281	239	156	179	49
	D41	123	225.5	290	304	258	168	193	53
中 間 帯 鉄 筋	径	R=3.0φ		鋭角フック		半円フック		直 角 フ ッ ク	
		a	ΔL	a	ΔL	a	ΔL	a	ΔL
	D13	39	92	123	61	17			
	D16	48	113	151	75	21			
	D19	57	134	179	89	25			
	D22	66	156	207	104	28			
	D25	75	177	236	118	32			
	D29	87	205	273	137	37			

注) ※はA鉄筋を示し、他はY鉄筋を示す。
注) 鉄筋長は切り上げの10mm丸めとする。

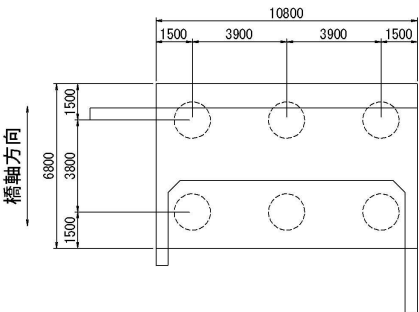
道東自動車道 占冠地区下部工工事			
図面の種類	シム川橋（上り線） A 1 橋台場所打ち杭配筋図		
縮 尺	図 示	図面番号	—
設計会社名	株式会社 日本構造橋梁研究所		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 北海道支社 帯広工事事務所		

1 - 1 2 - 2

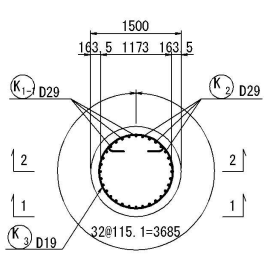


位置図

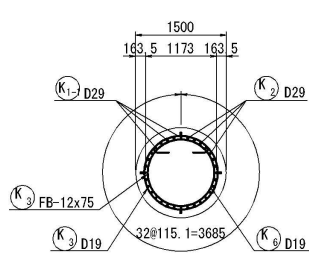
橋軸直角方向



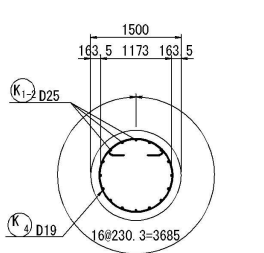
3 - 3



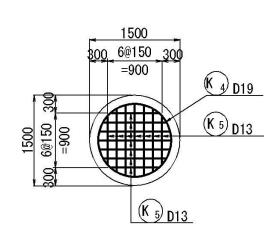
4 - 4



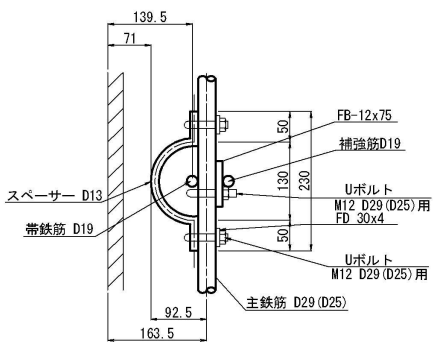
5 - 5



6 - 6

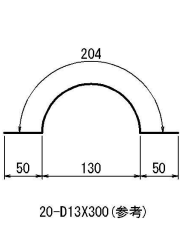


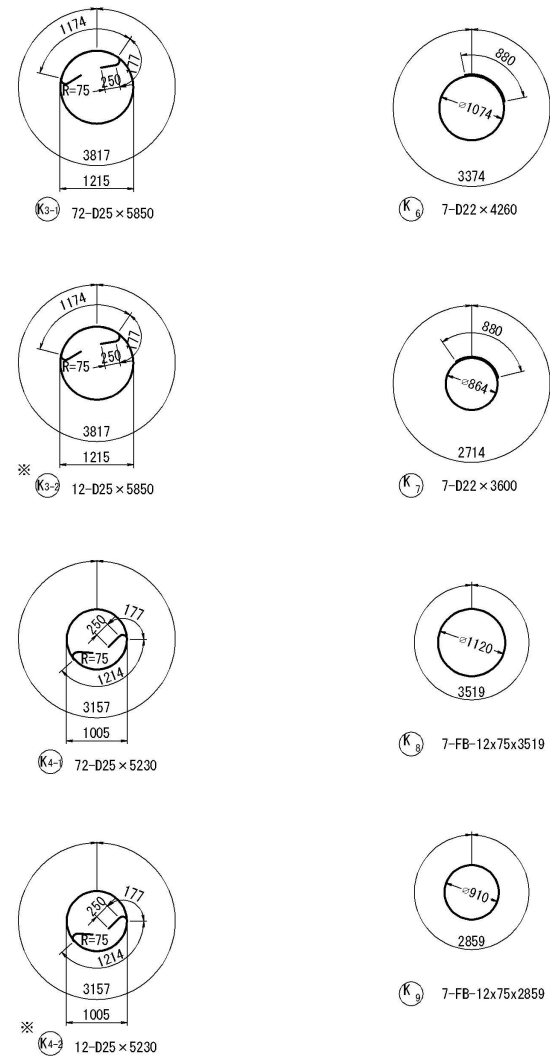
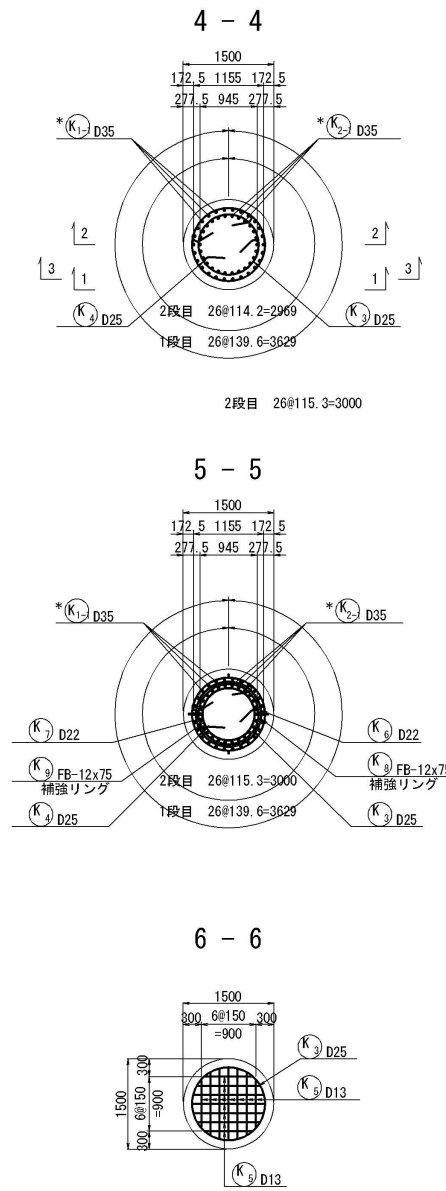
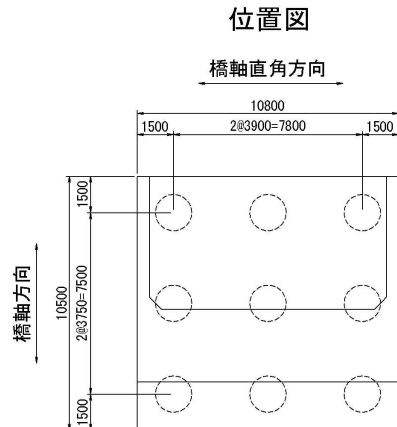
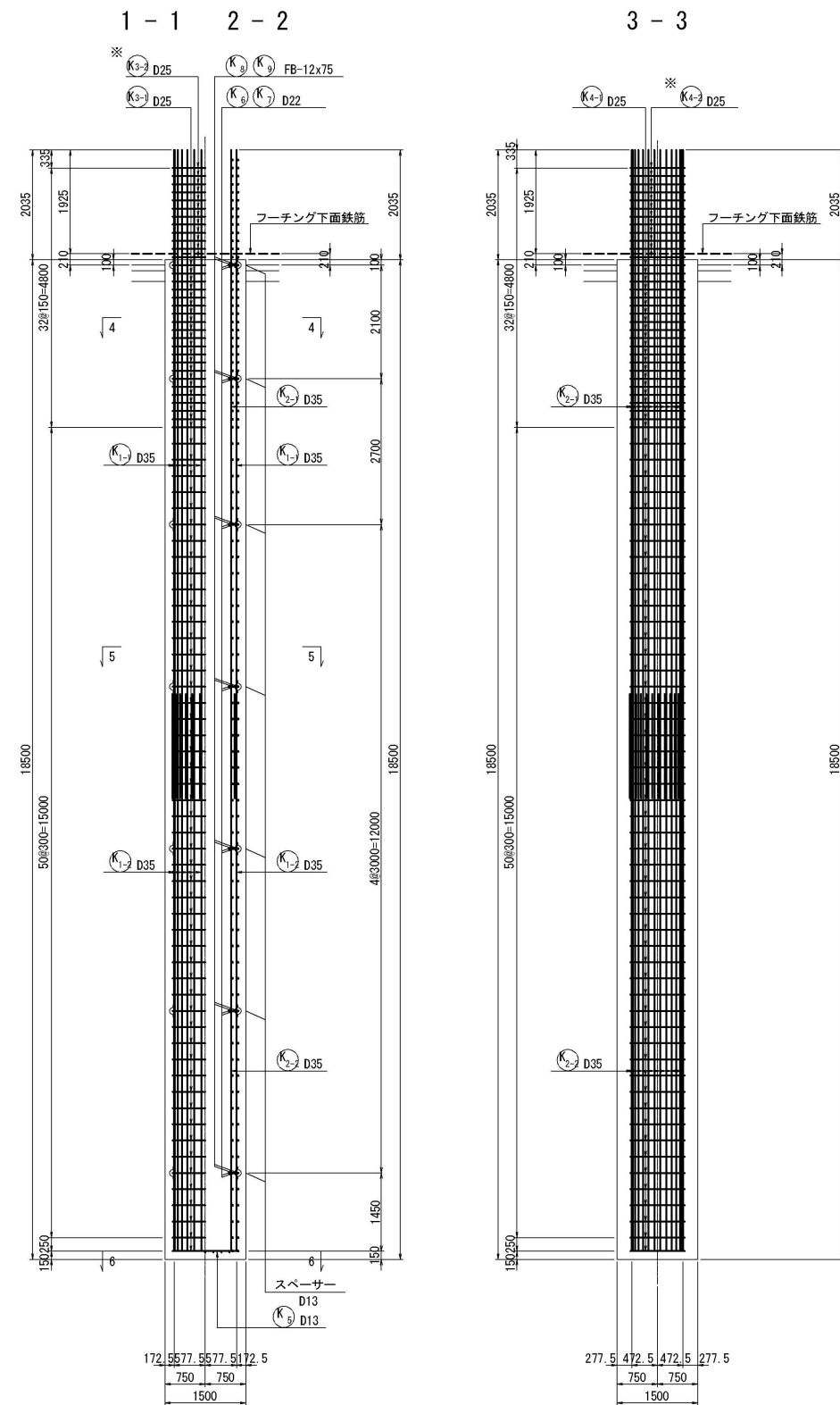
スペーサー詳細図 S=1:5



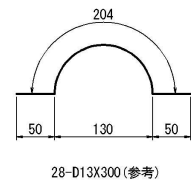
注記: スペーサーは1断面あたり4箇所を固定、
1交差箇所につき上下1箇所ずつ金具で固定。

スペーサー詳細図 S=1:10





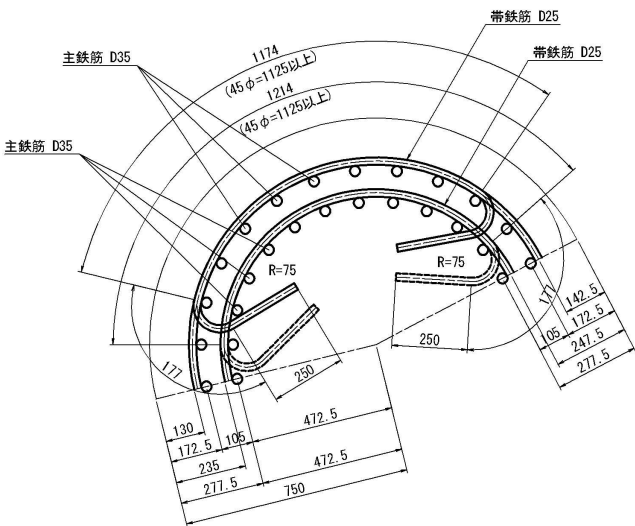
スパーサー詳細図 縮尺 1:10



注) ※はA鉄筋を示し、他はY鉄筋を示す。
注) 鉄筋長は切り上げの10mm丸めとする。
注) *印の鉄筋はSD490鉄筋を示す。

道東自動車道 占冠地区下部工工事			
図面の種類	シム川橋（上り線） A 2 橋台場所打ち杭配筋図（その 1）		
縮 尺	図 示	図面番号	-
設計会社名	株式会社 日本構造橋梁研究所		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 北海道支社 帯広工事事務所		

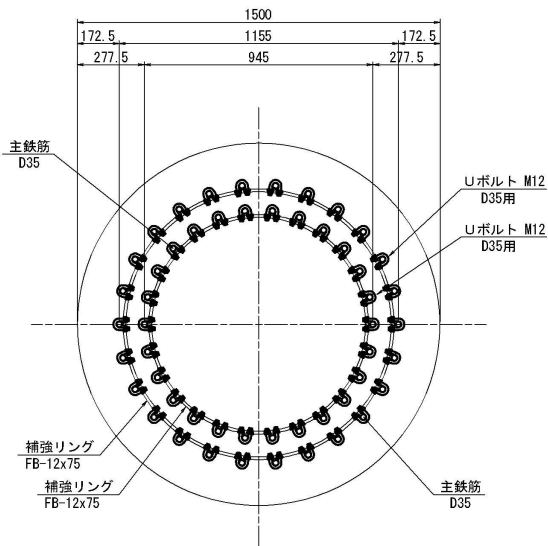
かぶり詳細図 S=1:25



注）帯鉄筋の重ね継手は一段毎に90°ずらして配置するものとする。

固定金具配置図 S=1:50

主鉄筋（D35-52本）
（n=7箇所）



鉄筋表

符号	径	長さ (mm)	本数	単位質量 (kg/m)	1本当り質量 (kg)	総質量 (kg)	摘要
Y鉄筋							
* K 1-1	D35	12000	26	7.51	90.1	2343	—
* K 1-2	D35	10310	26	7.51	77.4	2012	—
* K 2-1	D35	12000	26	7.51	90.1	2343	—
* K 2-2	D35	10310	26	7.51	77.4	2012	—
K 3-1	D25	5850	72	3.98	23.3	1678	⊙
K 4-1	D25	5230	72	3.98	20.8	1498	⊙
K 5	D13	1380	14	0.995	1.37	19	└ (平均長)
K 6	D22	4260	7	3.04	13.0	91	○
K 7	D22	3600	7	3.04	10.9	76	○
12072 kg							
杭本体部合計 (SD490)							
1本当たり					1基当たり		
D35		8710 kg	×	9 =	78390 kg		
合 計		8710 kg	×	9 =	78390 kg		
杭本体部合計 (SD345)							
D25		3176 kg	×	9 =	28584 kg		
D22		167 kg	×	9 =	1503 kg		
D13		19 kg	×	9 =	171 kg		
合 計		3361 kg	×	9 =	30258 kg		
A鉄筋 (SD345)							
※ K 3-2	D25	5850	12	3.98	23.3	280	⊙
※ K 4-2	D25	5230	12	3.98	20.8	250	⊙
530 kg							
杭頭部合計							
1本当たり					1基当たり		
D25		530 kg	×	9 =	4770 kg		
合 計		530 kg	×	9 =	4770 kg		

補強リング・固定金具

(杭1本当り)

種 別	長 さ (mm)	本 数	単位質量 (kg/m)	1本当り質量 (kg)	質 量 (kg)	摘 要
K8 FB-12x75	3519	7	7.06	24.84	174	補強リング (D35用)
Uボルト	—	182	—	—	—	主鉄筋と補強リングの固定 (D35用)
K9 FB-12x75	2859	7	7.06	20.18	141	補強リング (D35用)
Uボルト	—	182	—	—	—	主鉄筋と補強リングの固定 (D35用)

注：Uボルト規格

D35用、SS400、変形時荷重30kN以上

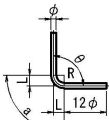

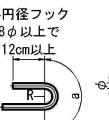

場所打ち杭コンクリート杭鉄筋かご無溶接工法 設計・施工に関するガイドラインに準拠

スペーサー・固定金具

(杭1本当り)

種 別	長 さ (mm)	本 数	単位質量 (kg/m)	1本当り質量 (kg)	質 量 (kg)	摘 要
スペーサーD13	300	28	0.995	0.298	8	SD345 (D35用)
Uボルト	—	56	—	—	—	スペーサーと主鉄筋の固定 (D35用)
FD30x4	—	56	—	—	—	

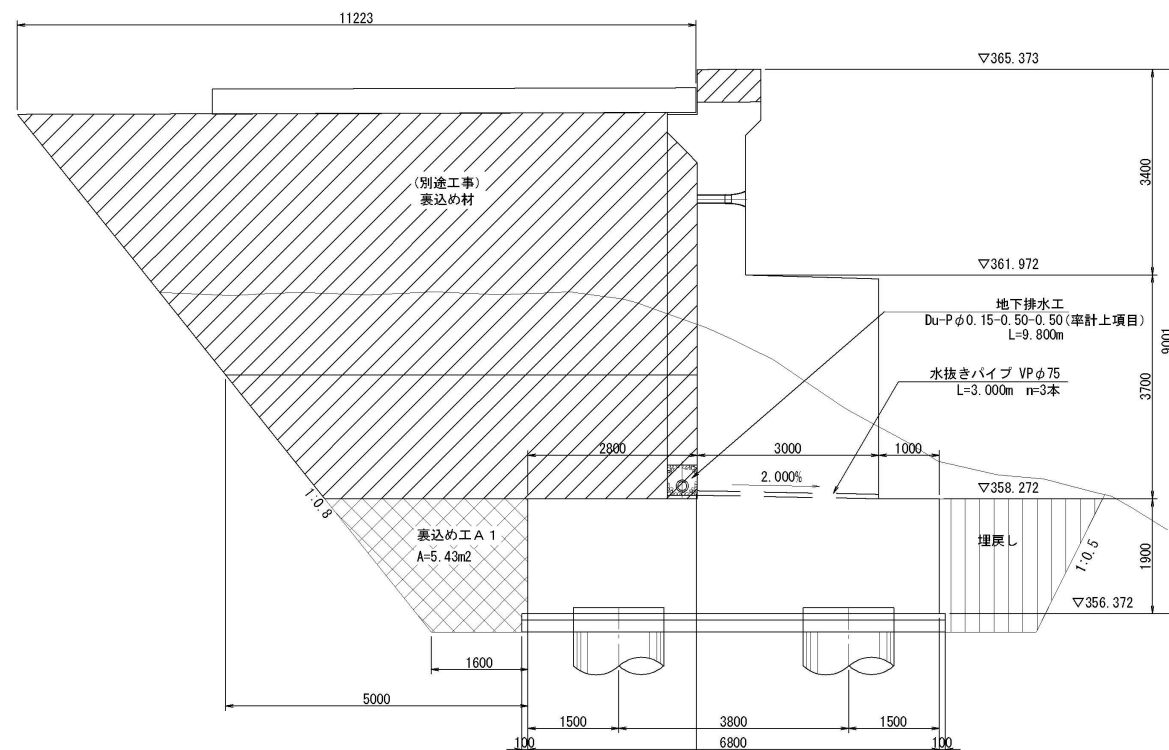
鉄筋加工寸法表 (SD345)

		主 筋		鋭角フック		中間帯鉄筋		直角フック			
											
主 筋	径	$\theta \leq 90^\circ$ $R=3.0\phi$	$\theta > 90^\circ$ $R=5.5\phi$	$\theta = 45^\circ$		$\theta = 60^\circ$		$\theta = 90^\circ$		$\theta = 135^\circ$	
				a	ΔL	a	ΔL	a	ΔL	a	ΔL
	D13	39	71.5	92	96	82	53	61	17	56	3
	D16	48	88	113	119	100	66	75	21	69	4
	D19	57	104.5	134	141	119	78	89	25	82	5
	D22	66	121	155	164	138	91	104	28	95	5
	D25	75	137.5	177	185	157	103	118	32	108	6
	D29	87	159.5	205	215	182	119	137	37	125	7
	D32	96	176	226	237	201	132	151	41	138	8
	D35	105	192.5	247	260	220	144	165	45	151	8
筋	D38	114	209	269	281	239	156	179	49	164	9
	D41	123	225.5	290	304	258	168	193	53	177	10
	径	$R=3.0\phi$		鋭角フック		半円フック		直 角 フ ッ ク			
				a		a		a	ΔL		
	D13	39		92		123		61		17	
	D16	48		113		151		75		21	
	D19	57		134		179		89		25	
	D22	66		156		207		104		28	
	D25	75		177		236		118		32	
	D29	87		205		273		137		37	

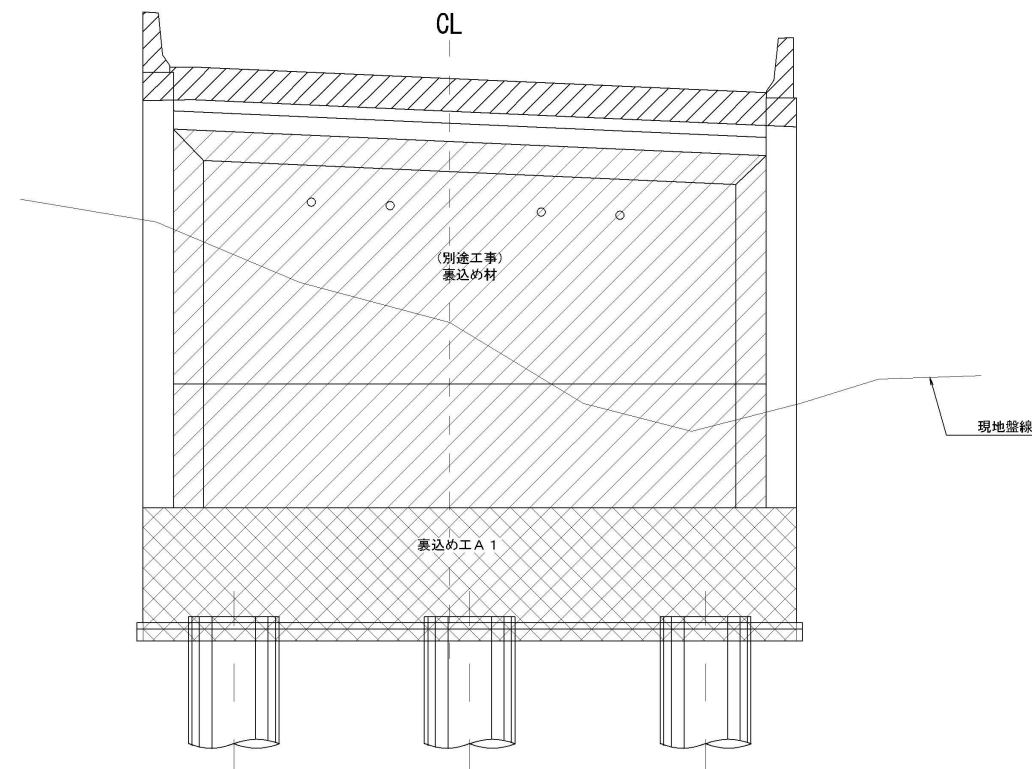
注）※はA鉄筋を示し、他はY鉄筋を示す。
注）鉄筋長は切り上げの10mm丸めとする。
注）*印の鉄筋はSD490鉄筋を示す。

道東自動車道 占冠地区下部工工事			
図面の種類	シム川橋（上り線） A 2 橋台場所打ち杭配筋図（その 2）		
縮 尺	図 示	図面番号	—
設計会社名	株式会社 日本構造橋梁研究所		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 北海道支社 帯広工事事務所		

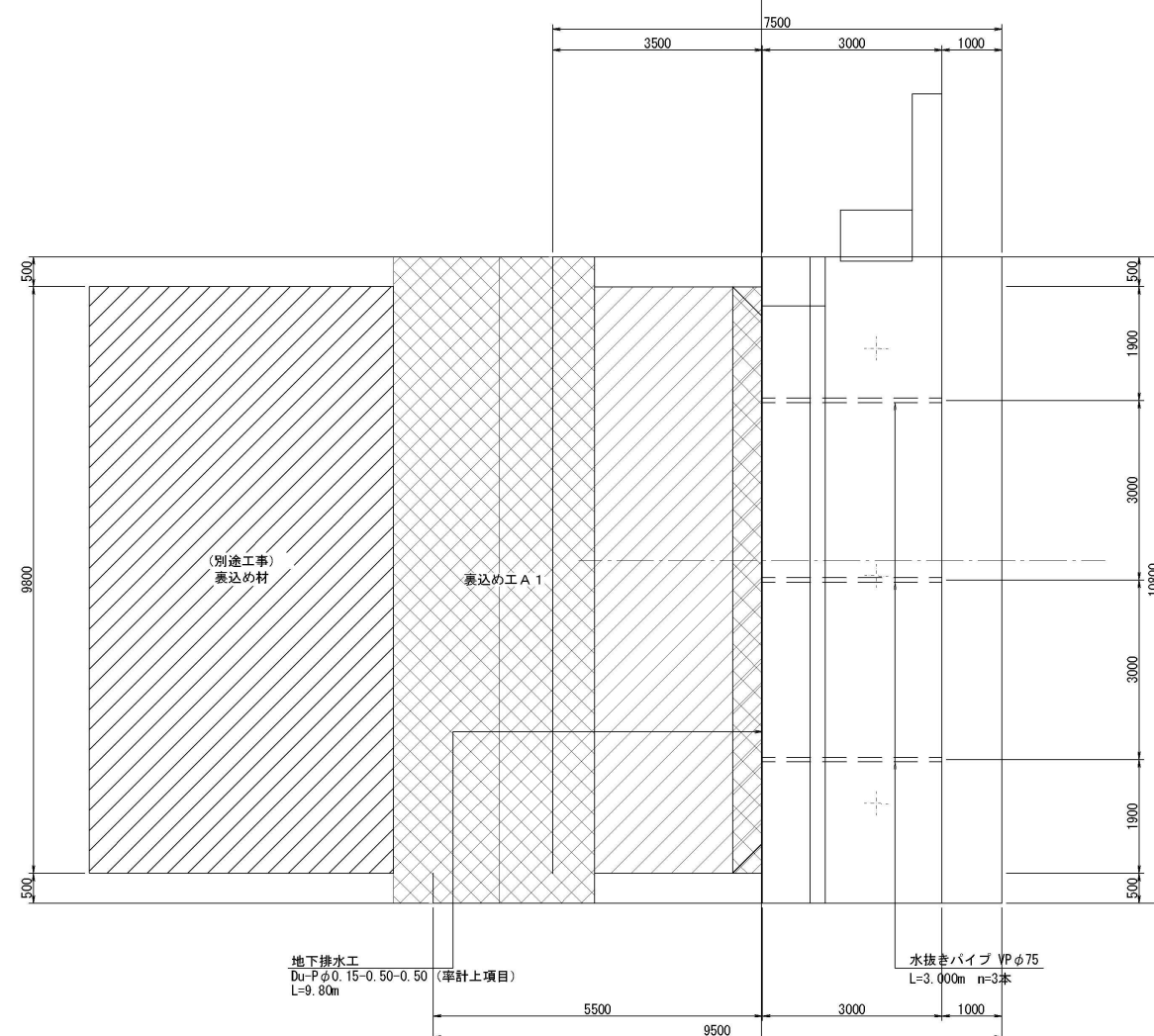
断面図



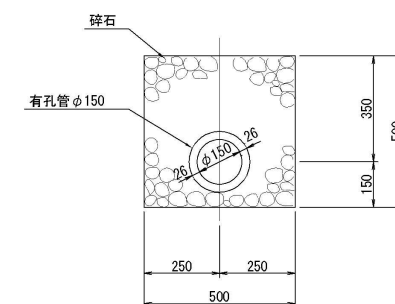
背面図
CL



平面图



地下排水工詳細図 S=1:125

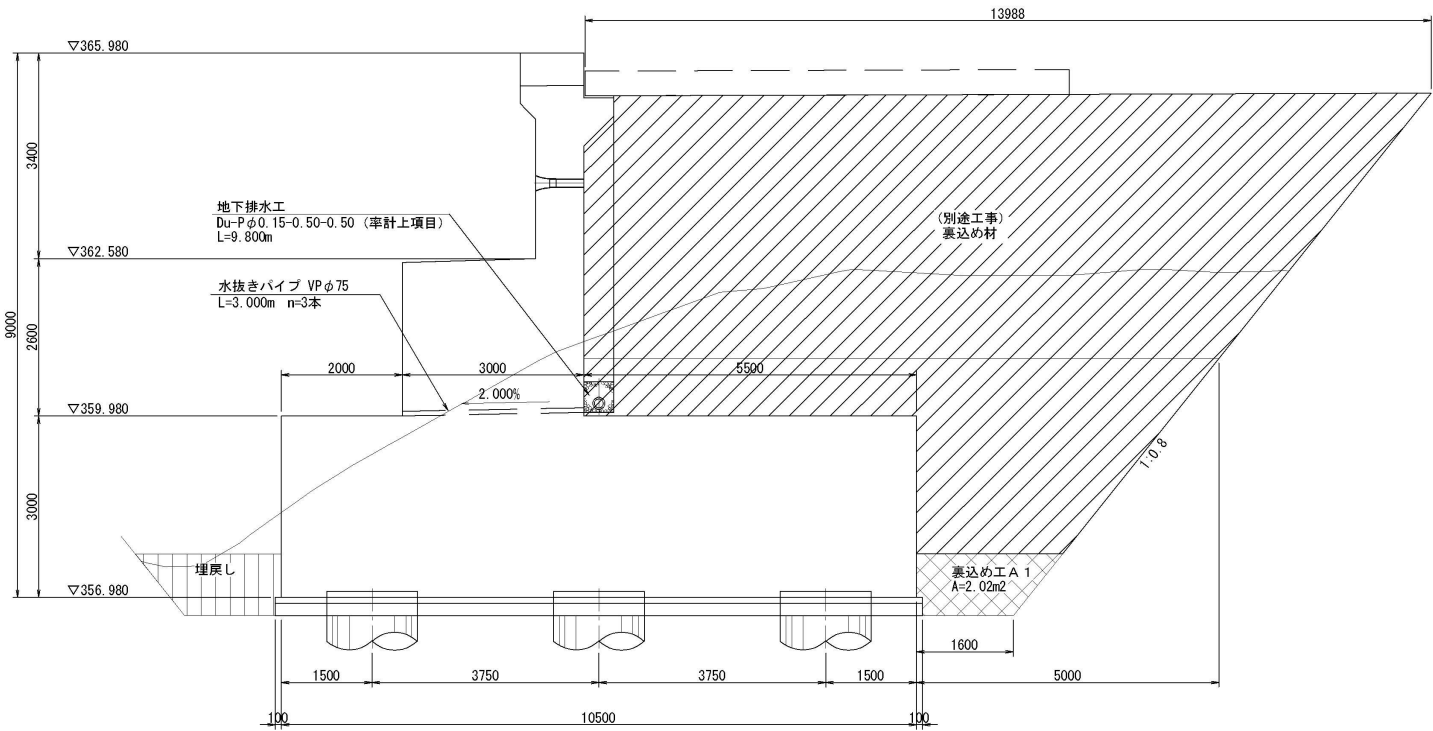


材料表

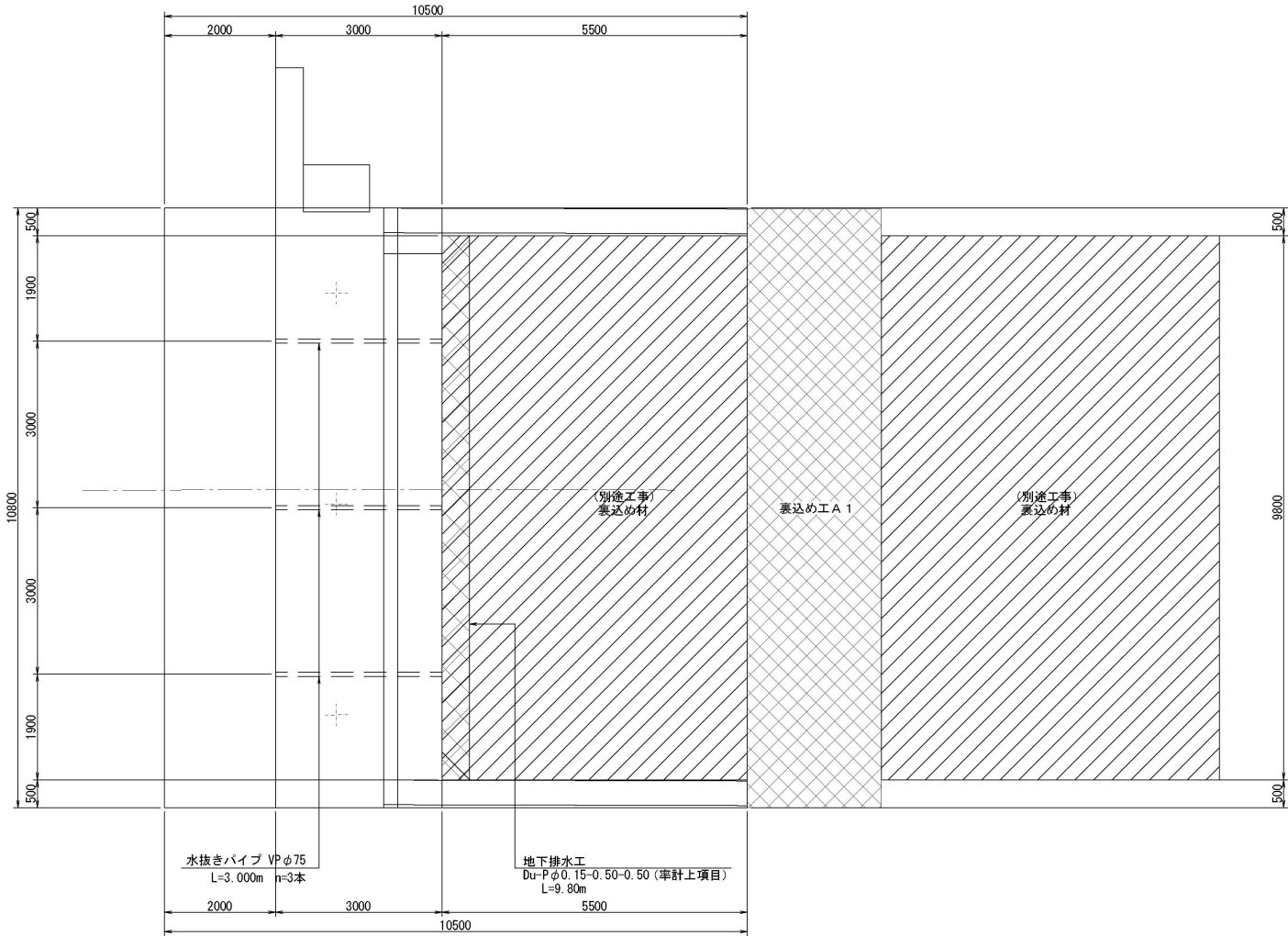
項 目	種 別	単 位	数 量	摘 要
構造物裏込め工	裏込め工 A 1	m ³	58.6	
地下排水工	Du-Pφ0.15-0.50-0.50	m	9.8	率計上項目
水抜きパイプ	VPφ75	m	9.0	

道東自動車道 占冠地区下部工工事				
図面の種類	シム川橋（上り線） A 1 橋台裏込め工図			
縮 尺	図 示	図面番号	-	
設計会社名	株式会社 日本橋造橋梁研究所			
施工会社名				
事務所名	東日本高速道路株式会社 北海道支社 帯広工務事務所			

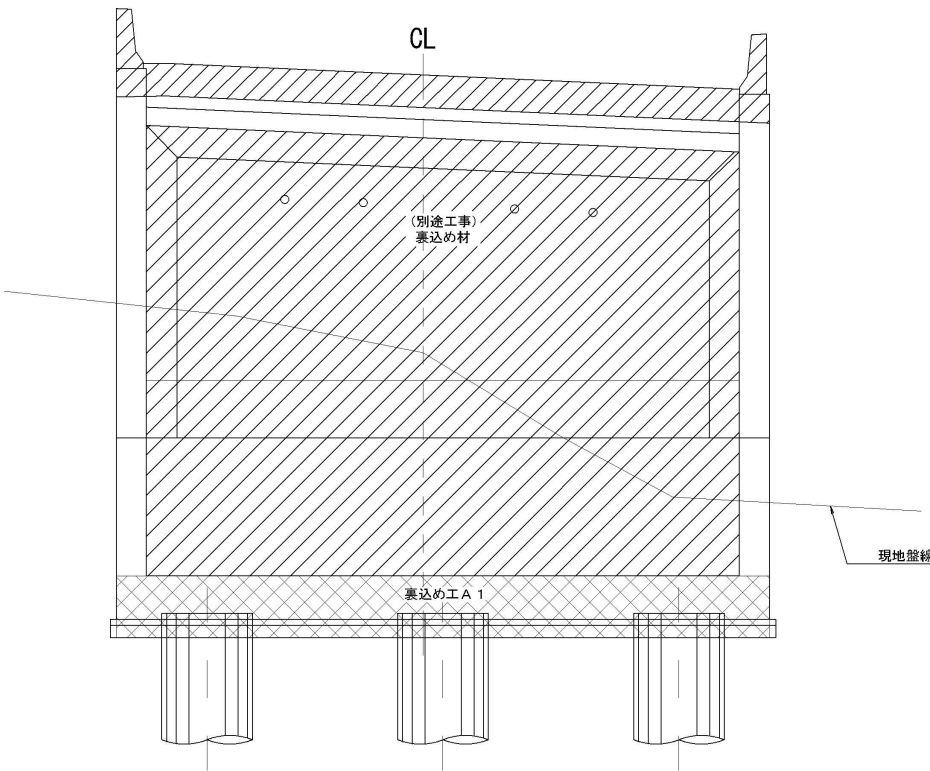
断面図



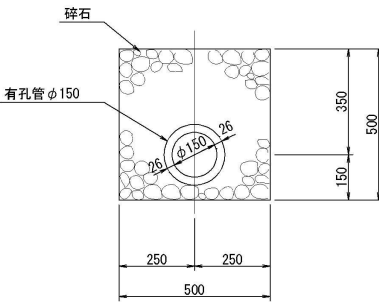
平面図



背面図



地下排水工詳細図 S=1:125



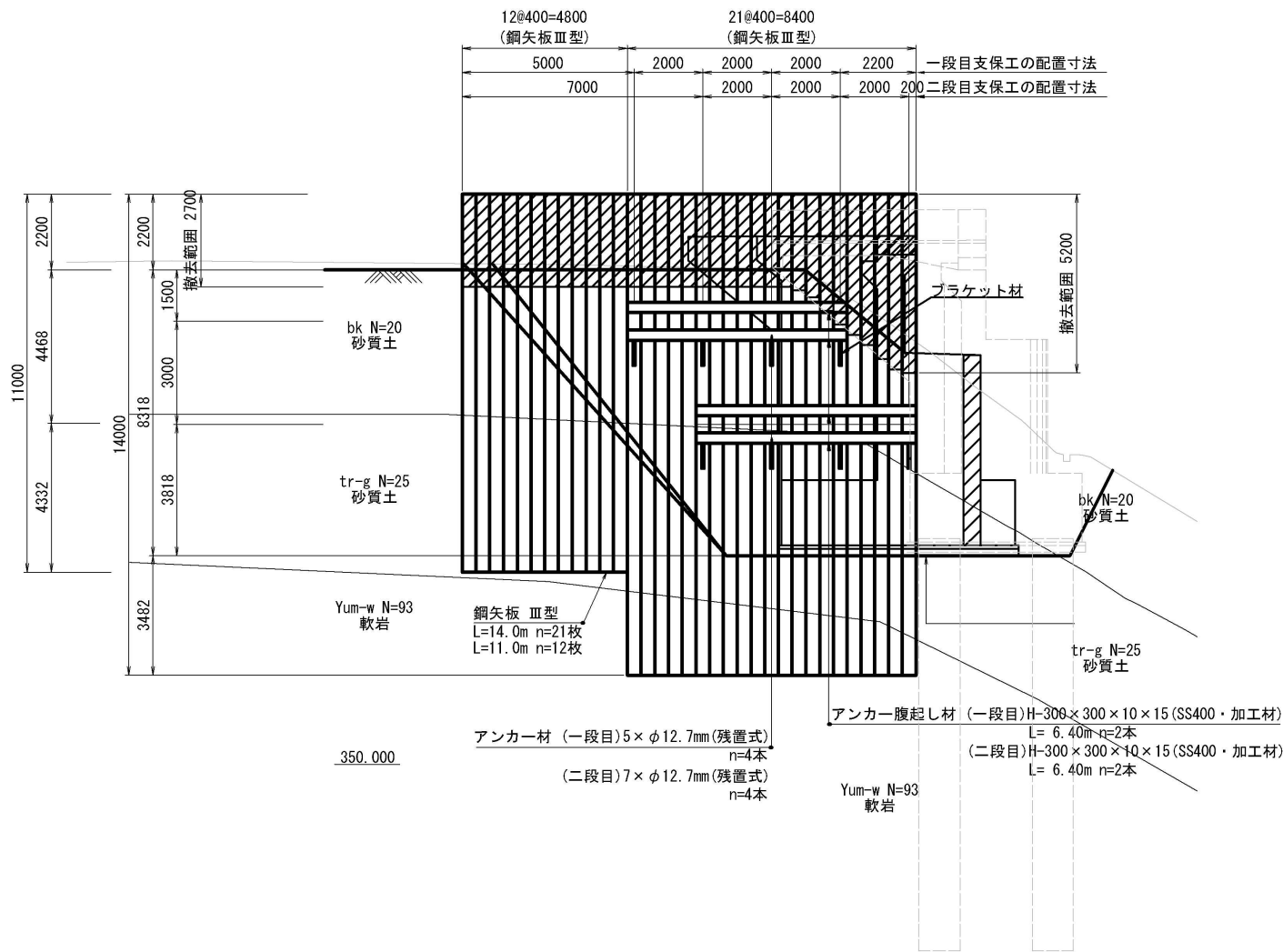
材料表

項目	種別	単位	数量	摘要
構造物裏込め工	裏込め工 A 1	m3	19.8	
地下排水工	Du-P φ0.15-0.50-0.50	m	9.8	率計上項目
水抜きパイプ	VP φ75	m	9.0	

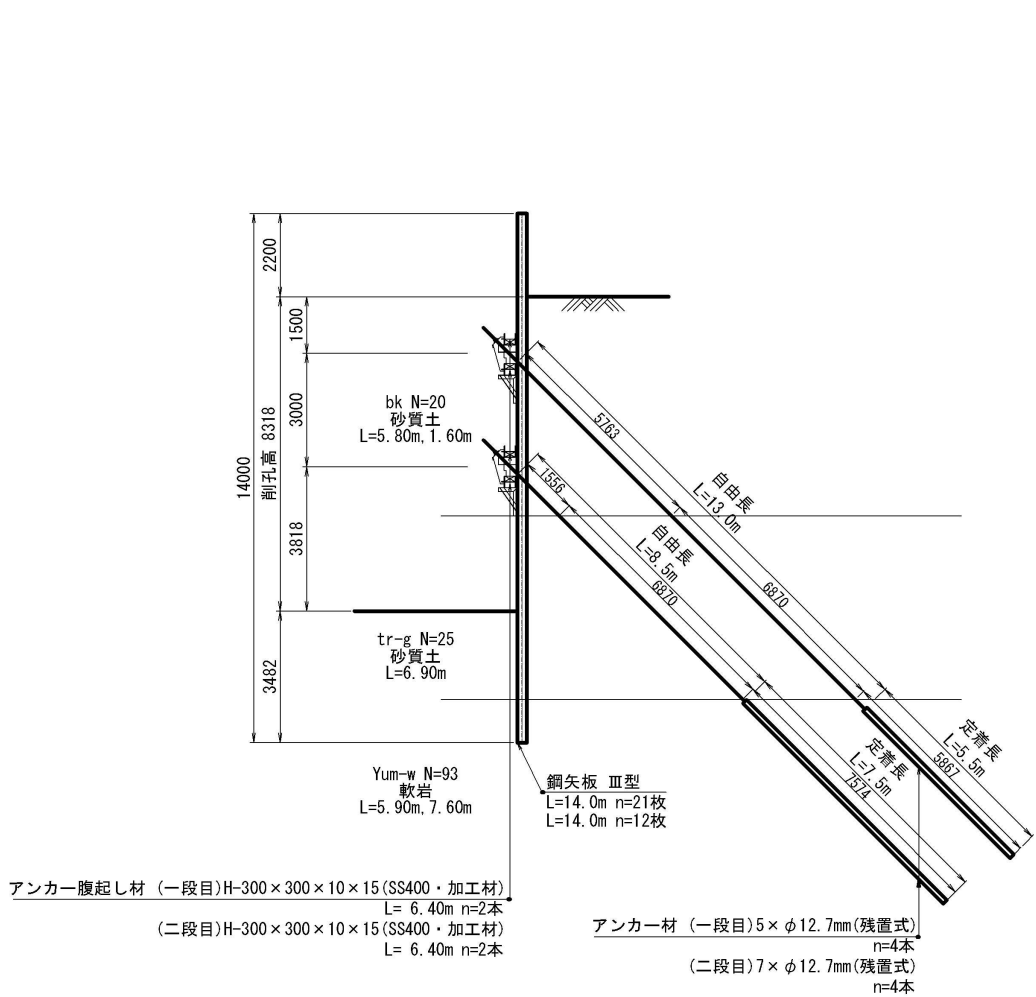
道東自動車道 占冠地区下部工工事			
図面の種類	シム川橋（上り線） A 2 橋台裏込め工図		
縮尺	図示	図面番号	-
設計会社名	株式会社 日本構造橋梁研究所		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 北海道支社 帯広工事事務所		

構造物掘削 特殊部 A 1

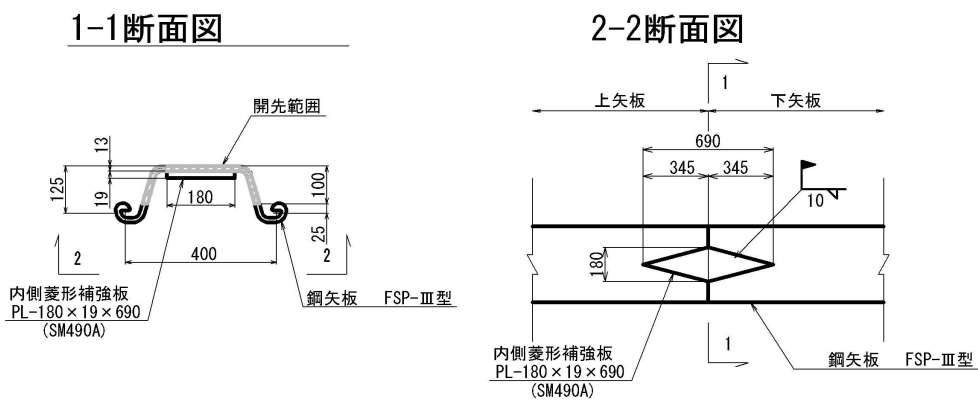
展開図



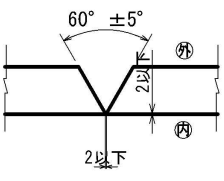
標準断面図



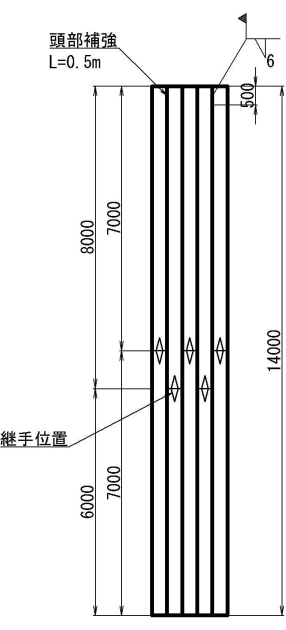
鋼矢板取付け詳細図



開先形状図

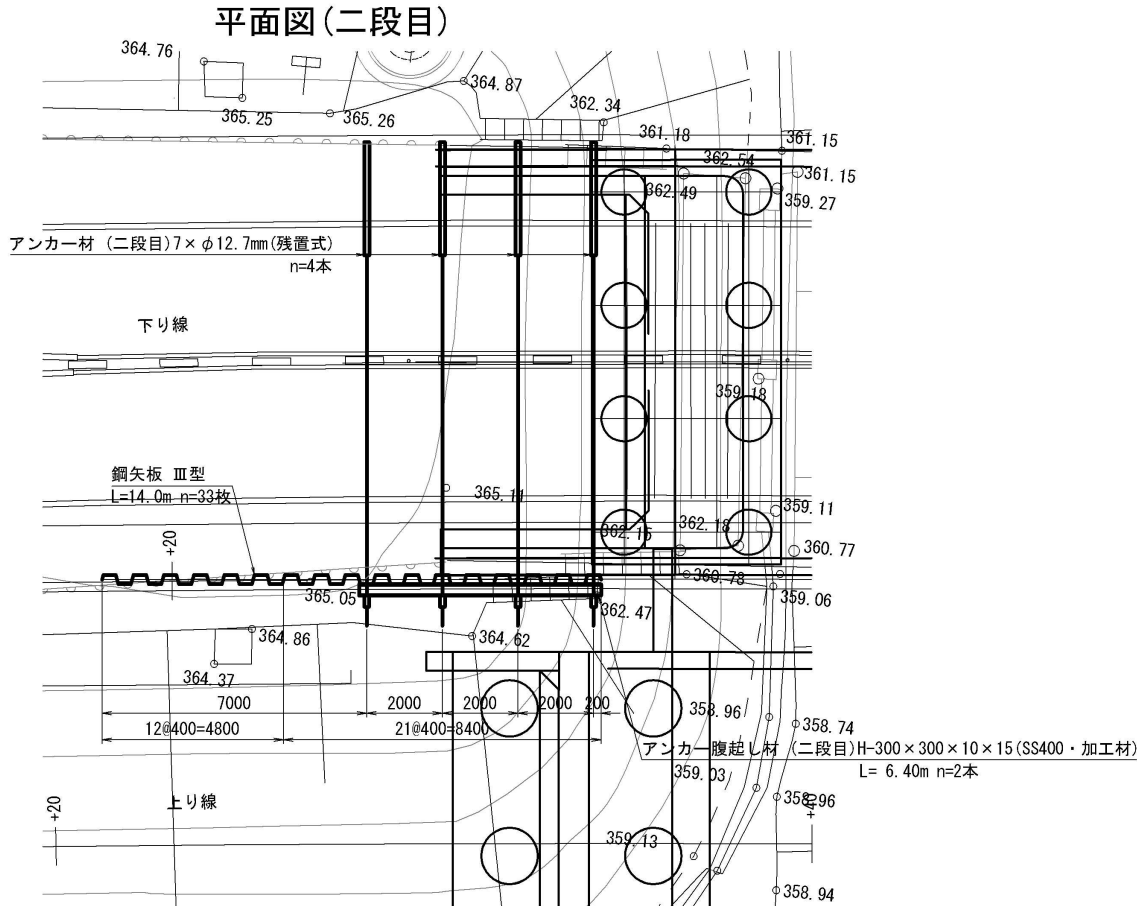
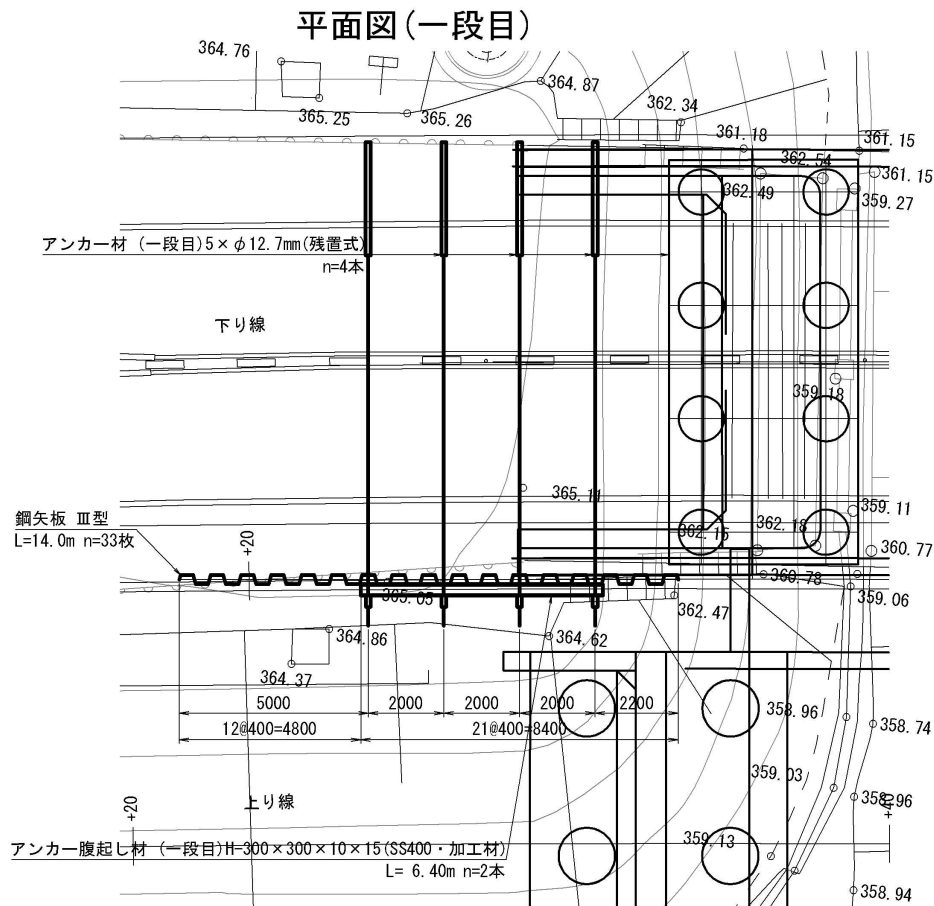


継手配置図 S=1:200



道東自動車道 占冠地区下部工工事			
図面の種類	シム川橋（上り線） A 1 橋台土留工計画図（その 1）		
縮 尺	図 示	図面番号	-
設計会社名	株式会社 日本構造橋梁研究所		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 北海道支社 帯広工事事務所		

構造物掘削 特殊部 A 1



工 種	項 目		単位	合計	摘要
鋼矢板Ⅲ型	最大地盤 N値	93	6.00m	枚	10
			7.00m	〃	22
			8.00m	〃	10
			11.00m	〃	12
	打込長		11.80m	枚	13
			11.40m	〃	1
			11.10m	〃	1
			10.80m	〃	1
			10.40m	〃	1
			10.10m	〃	1
			9.80m	〃	1
			9.40m	〃	2
	撤去長		8.80m	〃	12
			2.70m	枚	24
			2.80m	〃	1
			3.00m	〃	1
			3.40m	〃	1
			3.80m	〃	1
			4.10m	〃	1
			4.40m	〃	1
			4.80m	〃	1
			5.10m	〃	1
			5.20m	〃	1

A 1 橋台部 仮設土留工数量表

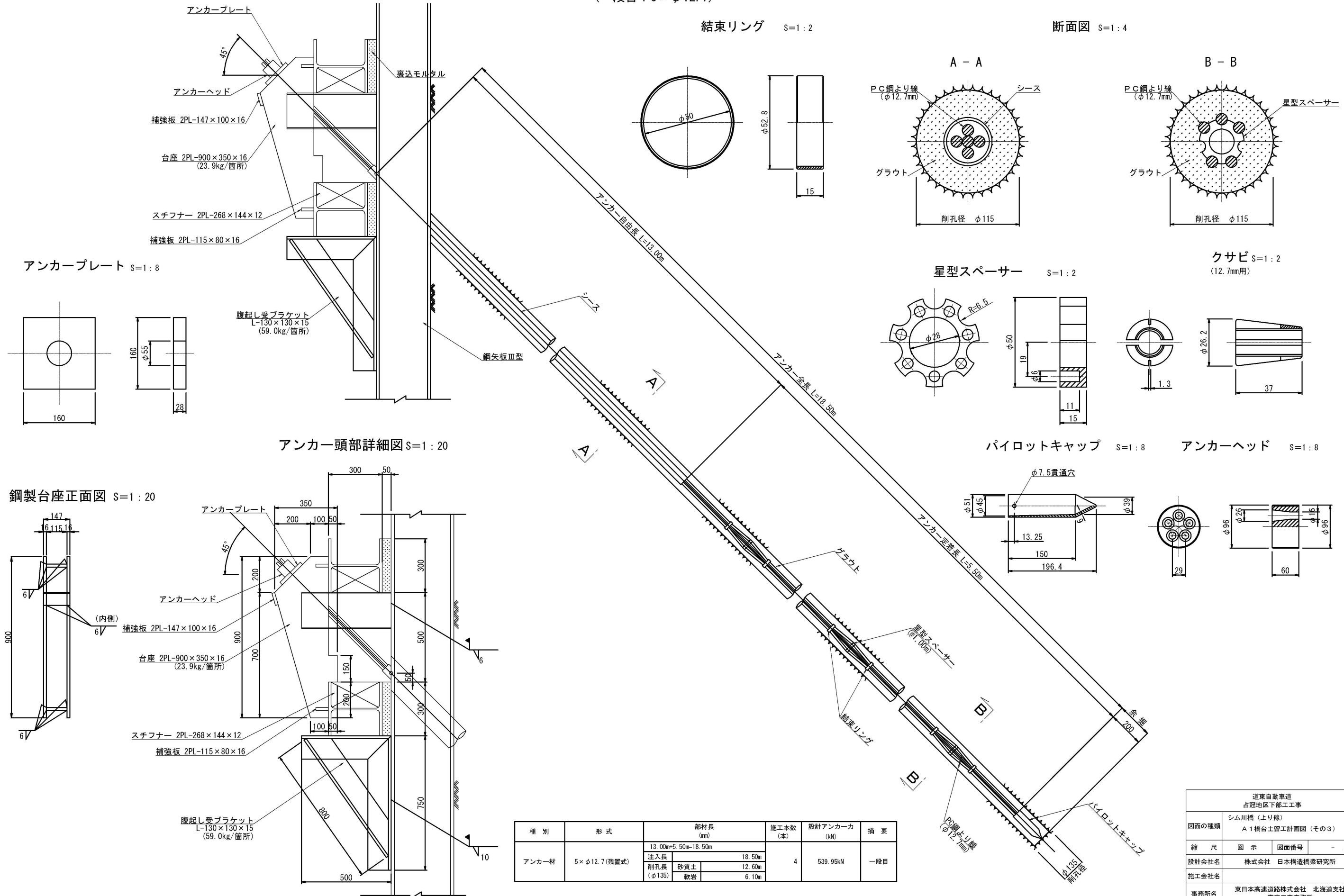
種 別	鋼 材 形 式	部材長 (mm)	本数 (本)	単位質量 (kg/m)	一本当り質量 (kg/本)	質 量 (kg)	材 質	摘 要
鋼矢板	Ⅲ型	14000	21	60.0	840.0	17640	SY295	
〃	〃	11000	12	60.0	660.0	7920	〃	
小計						25560 kg		
アンカー腹起し材	H-300×300×10×15	6400	2	100.0	640.0	1280	SS400 加工材	一段目
〃	〃	6400	2	100.0	640.0	1280	〃	二段目
小計						2560 kg		
ブラケット材	L-130×130×15	2050	8	28.8	59.0	472	SS400	
小計						472 kg		
内側菱形補強板	PL-180×19×690		21		18.5	389		
小計						389 kg		
鋼製台座	PL-900×350×16		16		23.9	382		
小計						382 kg		
アンカー材	5×φ12.7(残置式)	13.00m+5.50m=18.50m				4	539.95kN	一段目
		注入長	18.50m					
		削孔長 (φ135)	砂質土	12.60m				
			軟岩	5.90m				
〃	7×φ12.7(残置式)	8.50m+7.50m=16.00m				4	740.88kN	二段目
		注入長	16.00m					
		削孔長 (φ135)	砂質土	8.40m				
			軟岩	7.60m				
小計						8 本		

道東自動車道 占冠地区下部工工事			
図面の種類	シム川橋（上り線） A 1 橋台土留工計画図（その2）		
縮 尺	図 示	図面番号	-
設計会社名	株式会社 日本構造橋梁研究所		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 北海道支社 帯広工事事務所		

残置式アンカー詳細図 S=1:20
(一段目: 5×φ12.7)

結束リング S=1:2

断面図 S=1:4



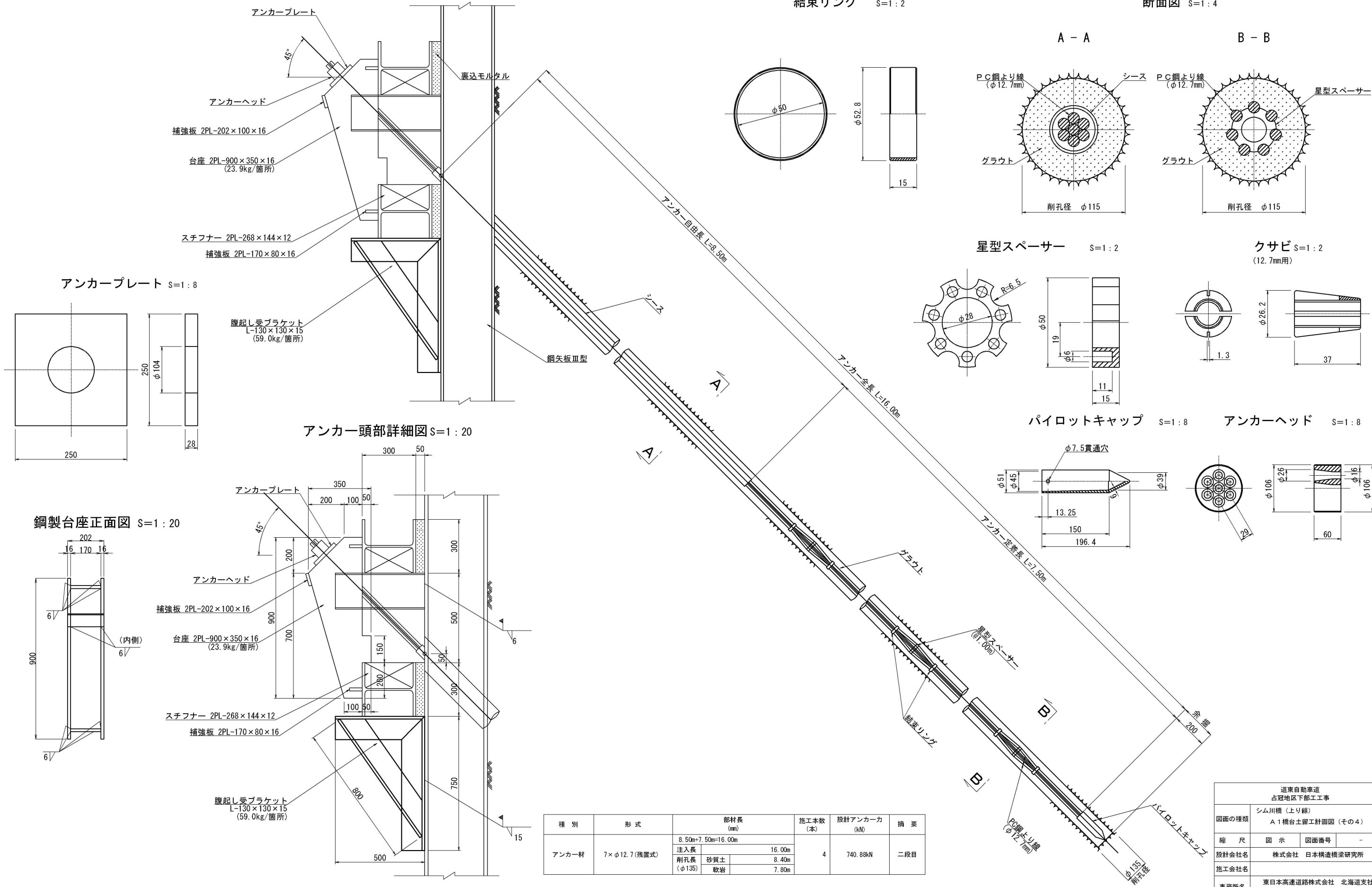
種 別	形 式	部材長 (mm)		施工本数 (本)	設計アンカー力 (kN)	摘 要
		注 入 長	削 孔 長			
アンカー材	5×φ12.7(残置式)	13.00m+5.50m=18.50m	砂質土	4	539.95kN	一段目
		18.50m	軟 岩			
		12.60m				

道東自動車道 占冠地区下部工工事			
図面の種類	シム川橋（上り線） A 1 橋台土留工計画図（その3）		
縮 尺	図 示	図面番号	-
設計会社名	株式会社 日本構造橋梁研究所		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 北海道支社 帯広工事事務所		

残置式アンカー詳細図 S=1:20
(二段目: 7×φ12.7)

結束リング S=1:2

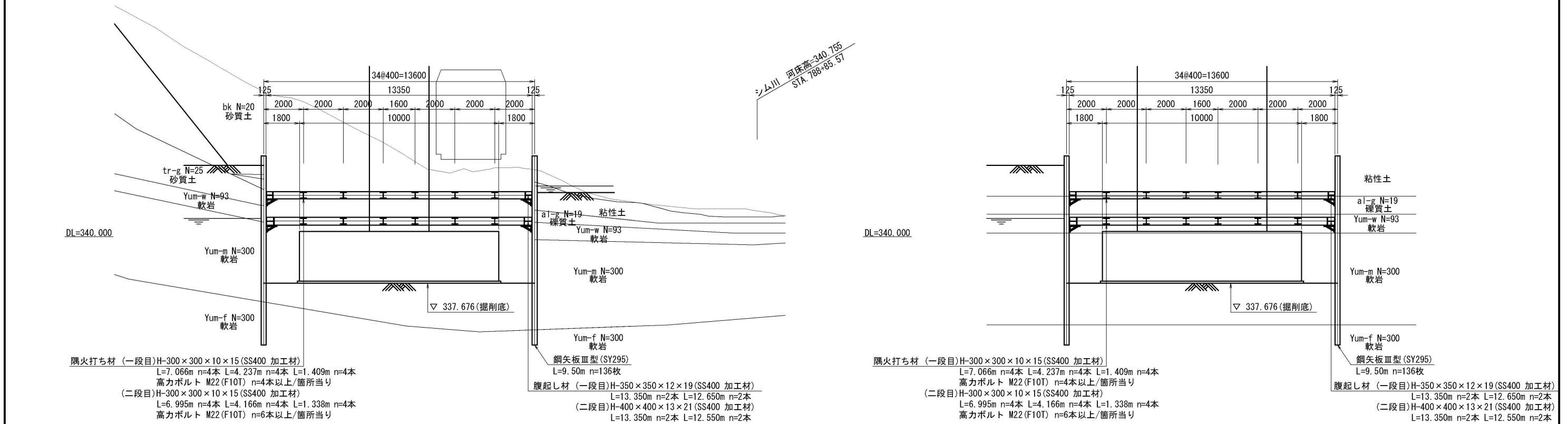
断面図 S=1:4



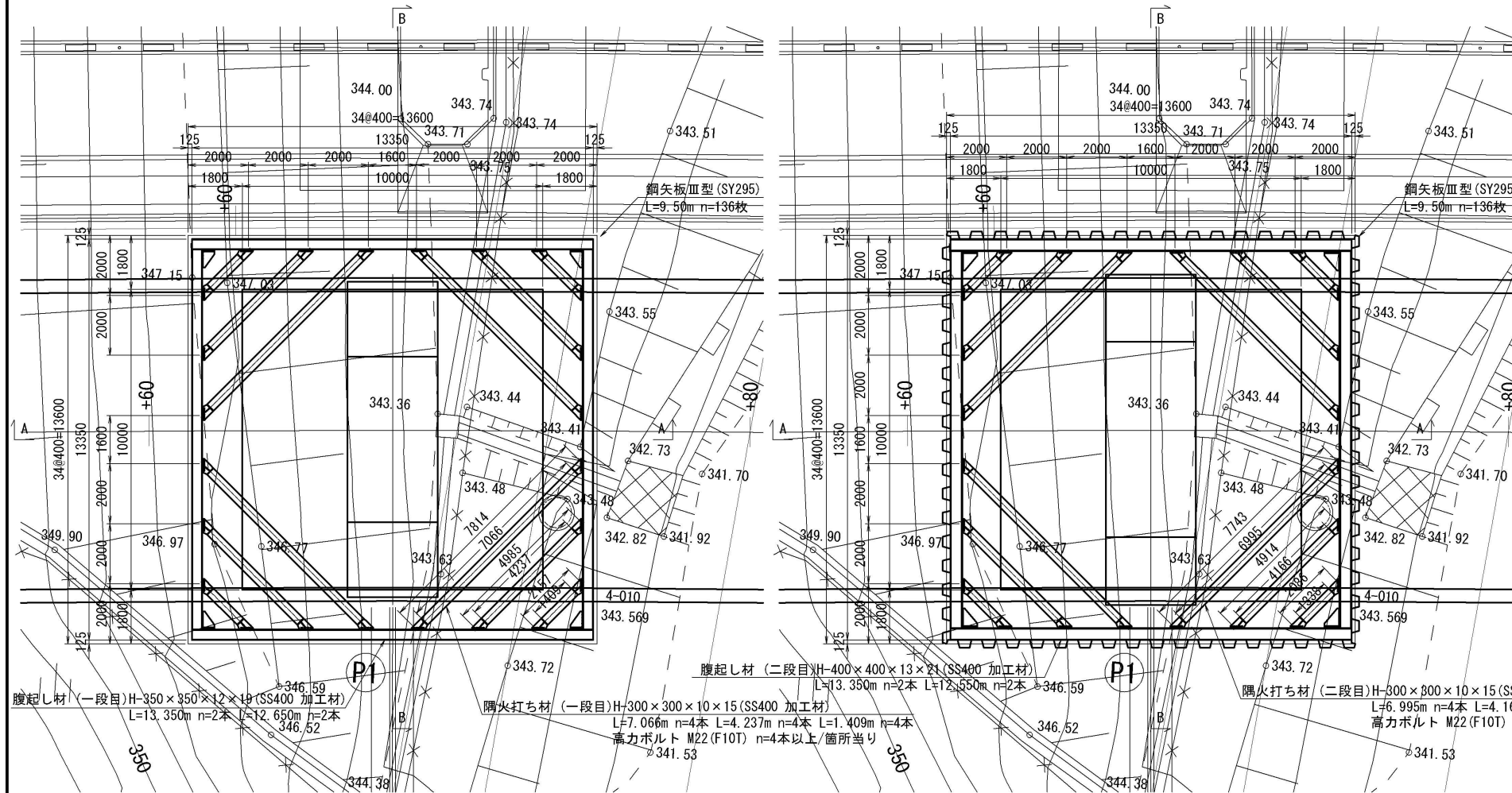
種 別	形 式	部材長 (mm)		施工本数 (本)	設計アンカー力 (kN)	摘 要
		注入長	削孔長			
アンカー材	7×φ12.7(残置式)	8.50m+7.50m=16.00m		4	740.88kN	二段目
			砂質土 (φ135)			
			軟岩			

道東自動車道 占冠地区下部工工事			
図面の種類	シム川橋（上り線） A 1 橋台土留工計画図（その4）		
縮 尺	図 示	図面番号	-
設計会社名	株式会社 日本構造橋梁研究所		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 北海道支社 帯広工事事務所		

B - B 断面図



平 面 図(二段目)



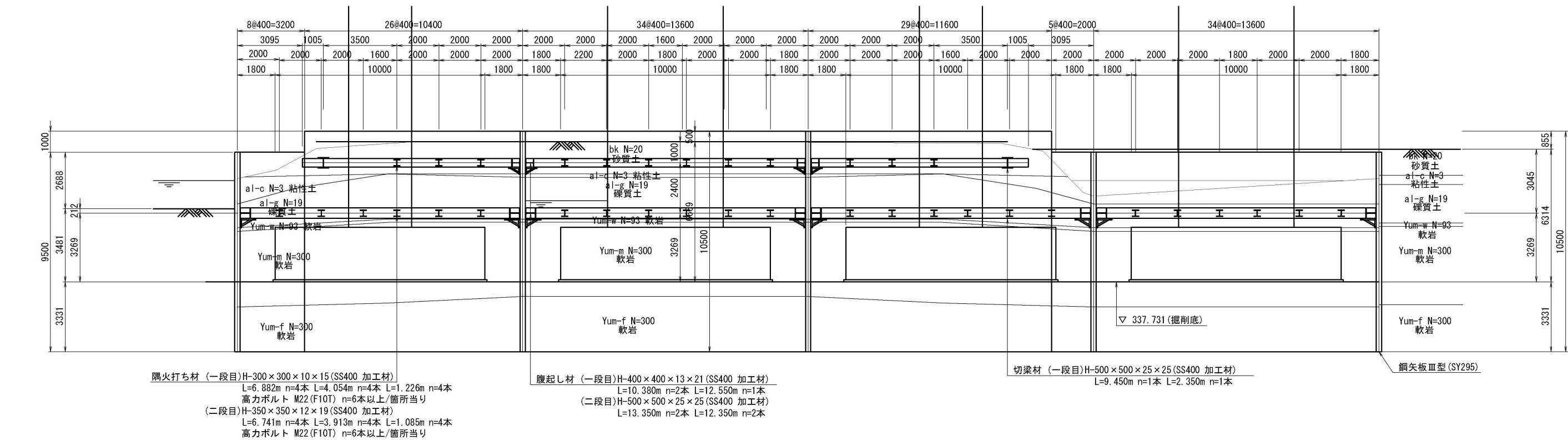
P 1 橋脚部 仮設土留工数量表

種 別	鋼 材 形 式	部材長 (mm)	本数 (本)	単位質量 (kg/m)	一本当り質量 (kg/本)	質 量 (kg)	材 質	摘 要
鋼矢板	Ⅲ型	9500	136	60.0	570.0	77520	SY295	
小計						77520 kg		
腹起し材	H-350×350×12×19	13350	2	150.0	2002.5	4005	SS400 加工材	一段目
〃	〃	12650	2	150.0	1897.5	3795	〃	〃
〃	H-400×400×13×21	13350	2	200.0	2670.0	5340	〃	二段目
〃	〃	12550	2	200.0	2510.0	5020	〃	〃
隅火打ち材	H-300×300×10×15	7066	4	100.0	706.6	2826	SS400 加工材	一段目
〃	〃	4237	4	100.0	423.7	1695	〃	〃
〃	〃	1409	4	100.0	140.9	561	〃	〃
〃	〃	6995	4	100.0	699.5	2798	〃	二段目
〃	〃	4166	4	100.0	416.6	1666	〃	〃
〃	〃	1338	4	100.0	133.8	535	〃	〃
隅部ピース	H-350		4		67.0	268		
〃	H-400		4		90.0	360		
火打受ピース	H-300		48		50.0	2400		
小計						31269 kg		
消耗材						1106 kg		
合計						109895 kg		

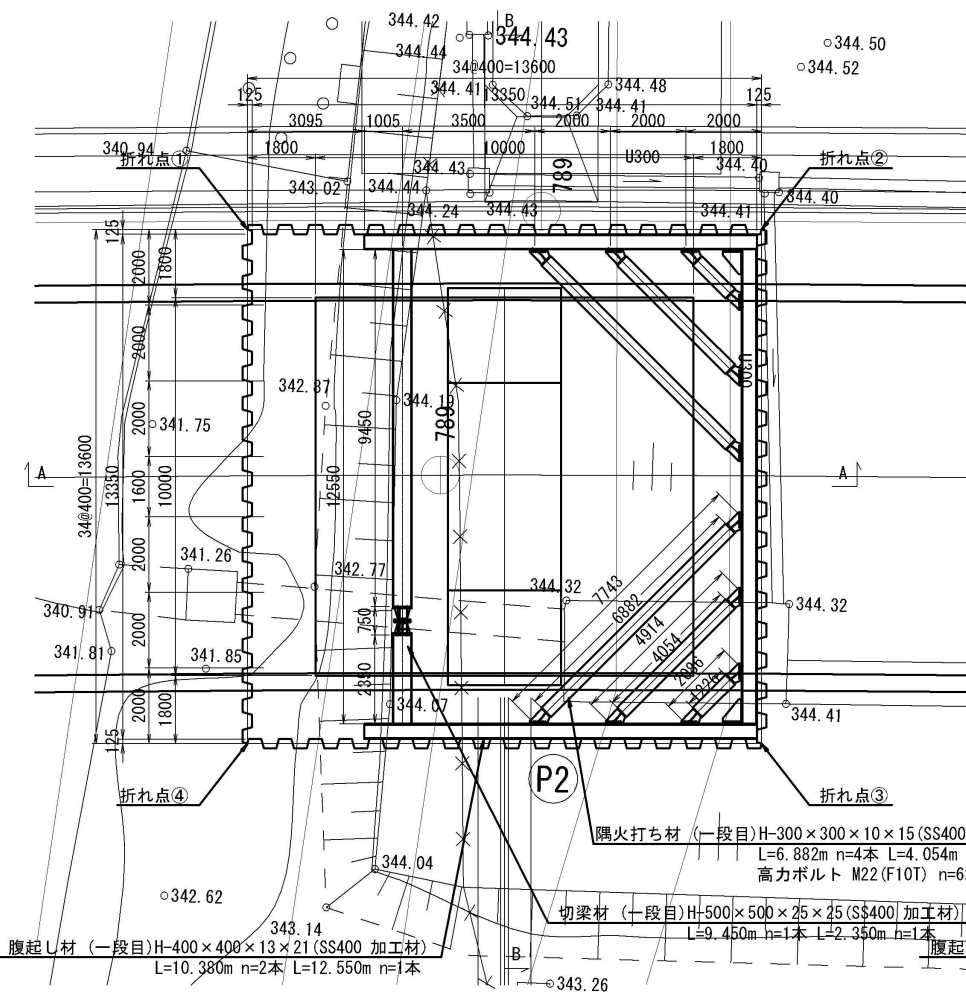
道東自動車道 苫田地区下部土工工事			
シム川橋（上り線） P 1 橋脚土留工計画図			
図面の種類			
縮 尺	図 示	図面番号	-
設計会社名	株式会社 日本橋構造梁研究所		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 北海道支社 帯広工事事務所		

構造物掘削 特殊部 A 3

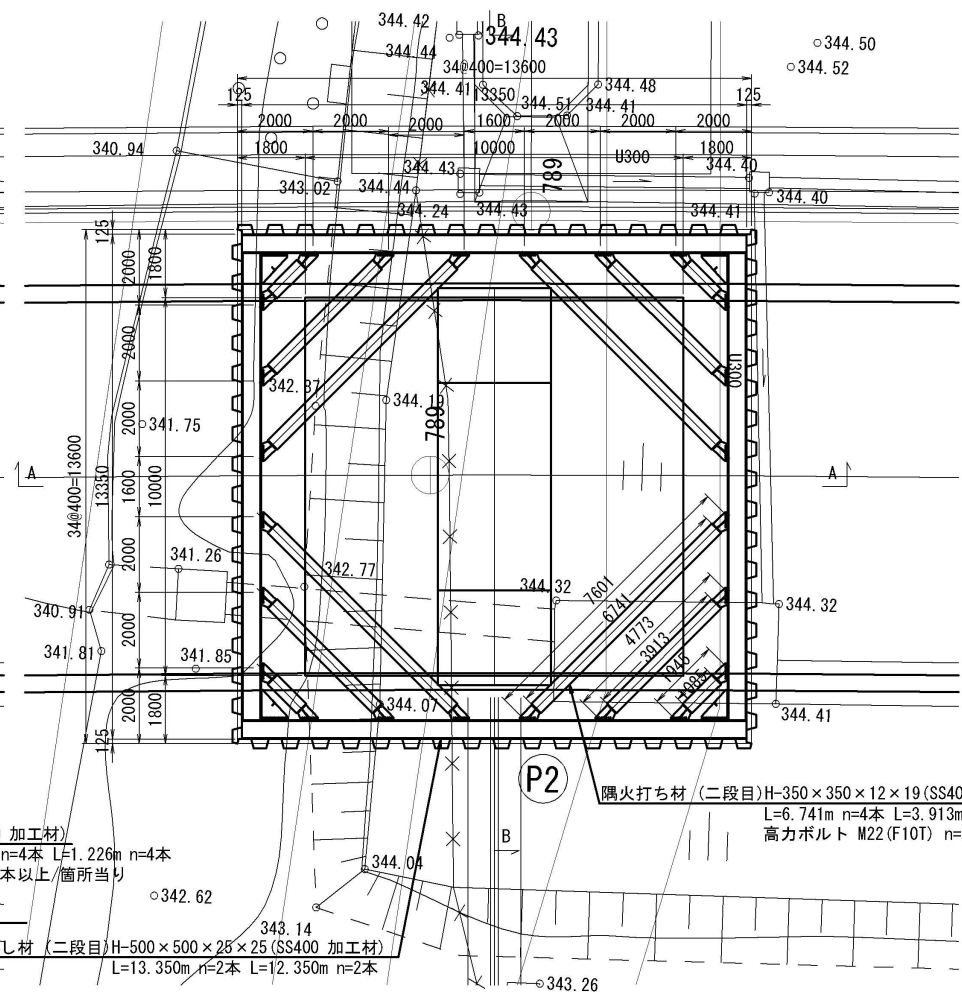
展開図



平面図(一段目)



平面図(二段目)



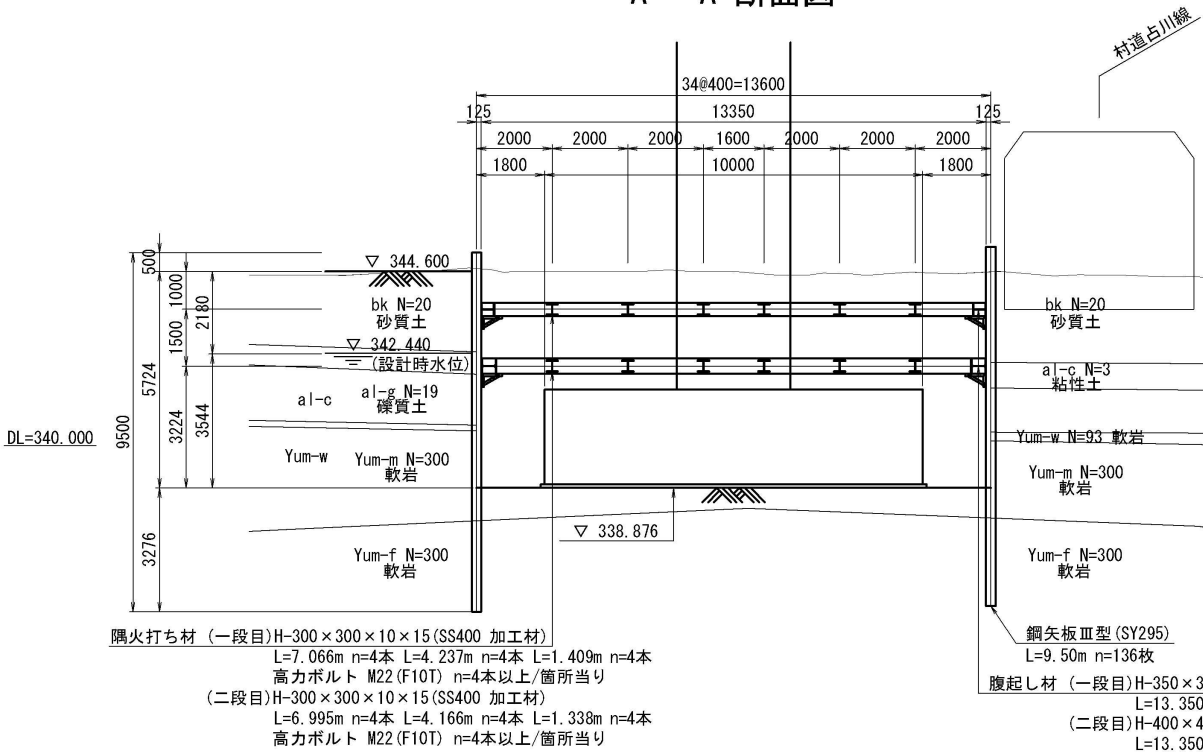
P 2 橋脚部 仮設土留工数量表

種 別	鋼 材 形 式	部材長 (mm)	本数 (本)	単位質量 (kg/m)	一本当り質量 (kg/本)	質 量 (kg)	材 質	摘 要
鋼矢板	Ⅲ型	10500	89	60.0	630.0	56070	SY295	
〃	〃	9500	47	60.0	570.0	26790	〃	
小計						82860 kg		
腹起し材	H-400 x 400 x 13 x 21	12550	1	200.0	2510.0	2510	SS400 加工材	一段目
〃	〃	10380	2	200.0	2076.0	4152	〃	〃
〃	H-500 x 500 x 25 x 25	13350	2	300.0	4005.0	8010	〃	二段目
〃	〃	12350	2	300.0	3705.0	7410	〃	〃
切梁材	H-500 x 500 x 25 x 25	9450	1	300.0	2835.0	2835	SS400 加工材	一段目
〃	〃	2350	1	300.0	705.0	705	〃	〃
隅火打ち材	H-300 x 300 x 10 x 15	6882	2	100.0	688.2	1376	SS400 加工材	一段目
〃	〃	4054	2	100.0	405.4	811	〃	〃
〃	〃	1226	2	100.0	122.6	245	〃	〃
〃	H-350 x 350 x 12 x 19	6741	4	150.0	1011.2	4045	〃	二段目
〃	〃	3913	4	150.0	587.0	2348	〃	〃
〃	〃	1085	4	150.0	162.8	651	〃	〃
隅部ピース	H-400		2		90.0	180		
〃	H-500		4		171.0	684		
火打受ピース	H-300		12		50.0	600		
〃	H-350		24		60.0	1440		
キリンジャッキ	H-500		1		680.0	680		
小計						38682 kg		
消耗材						1394 kg		
合計						122936 kg		

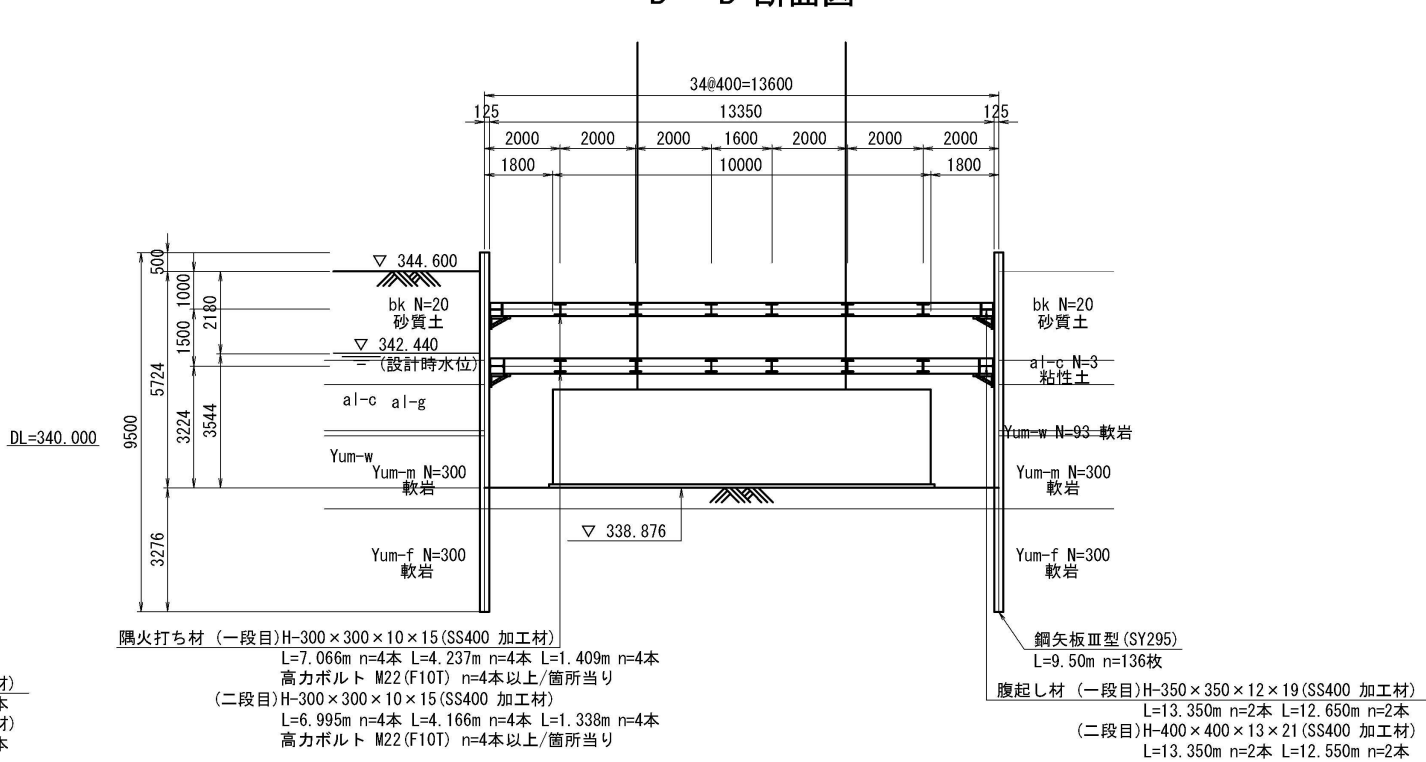
道東自動車道 占冠地区下部工工事			
図面の種類	シム川橋（上り線） P 2 橋脚土留工計画図		
縮 尺	図 示	図面番号	-
設計会社名	株式会社 日本構造橋梁研究所		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 北海道支社 帯広工事事務所		

構造物掘削 特殊部 A 4

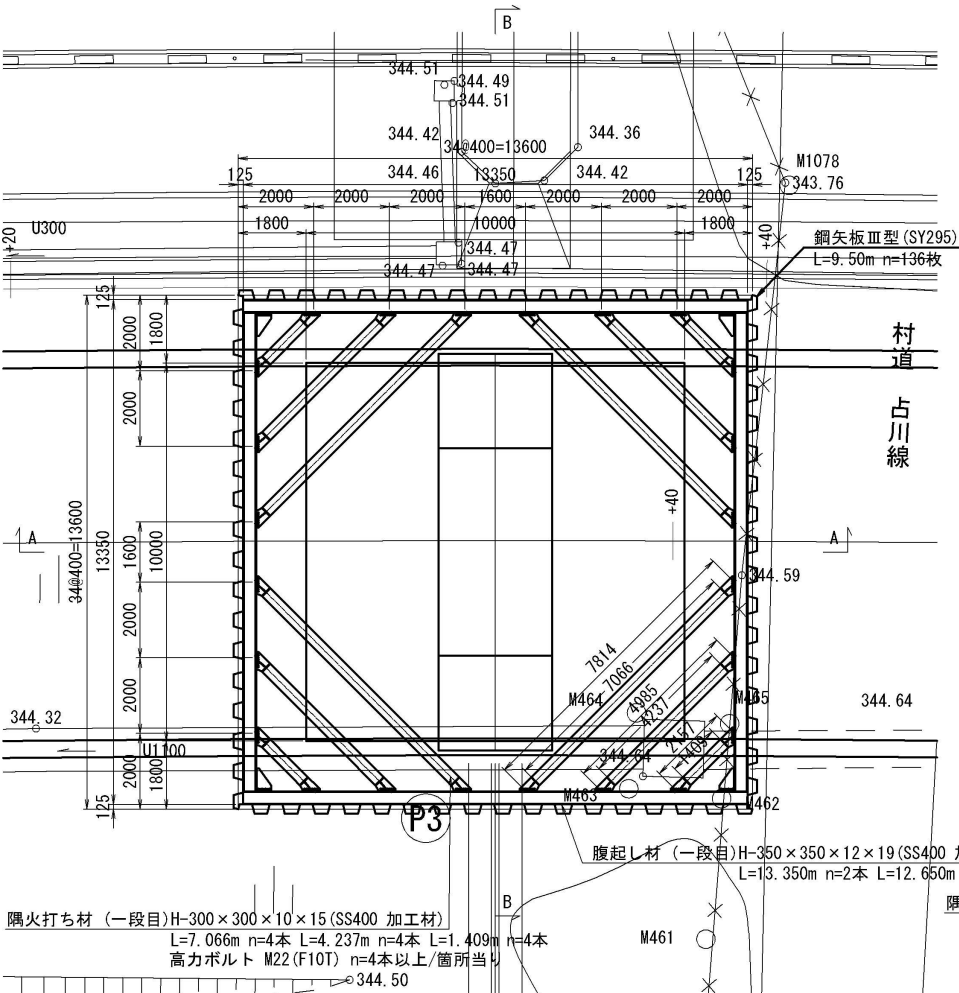
A - A 断面図



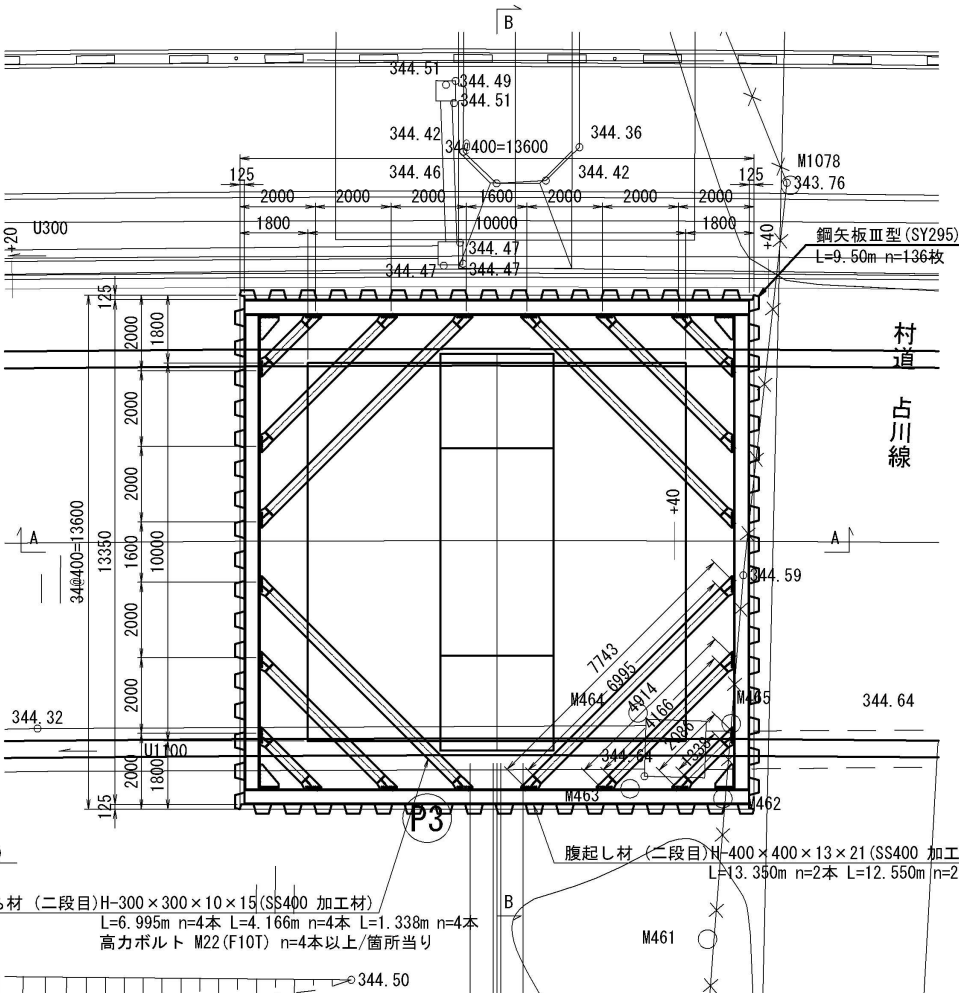
B - B 断面図



平面図(一段目)



平面図(二段目)



P 3 橋脚部 仮設土留工数量表

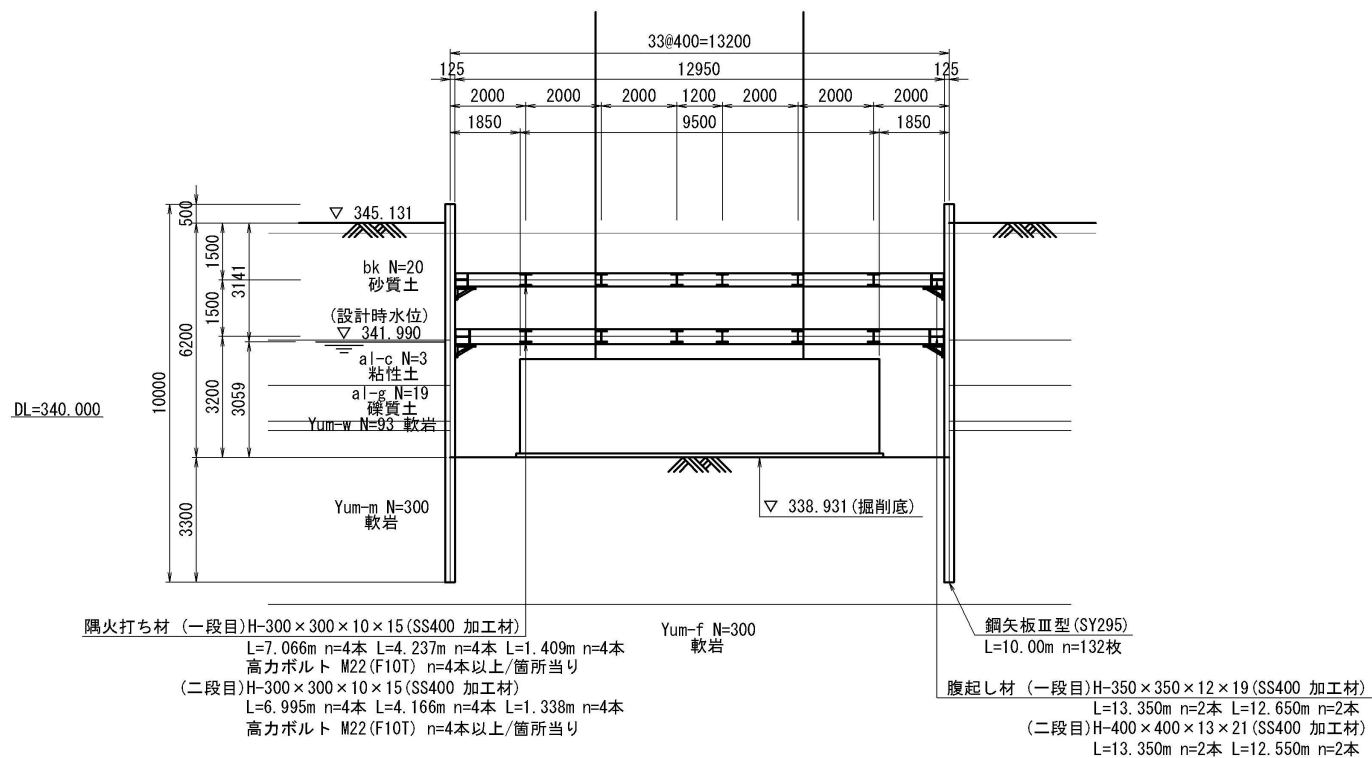
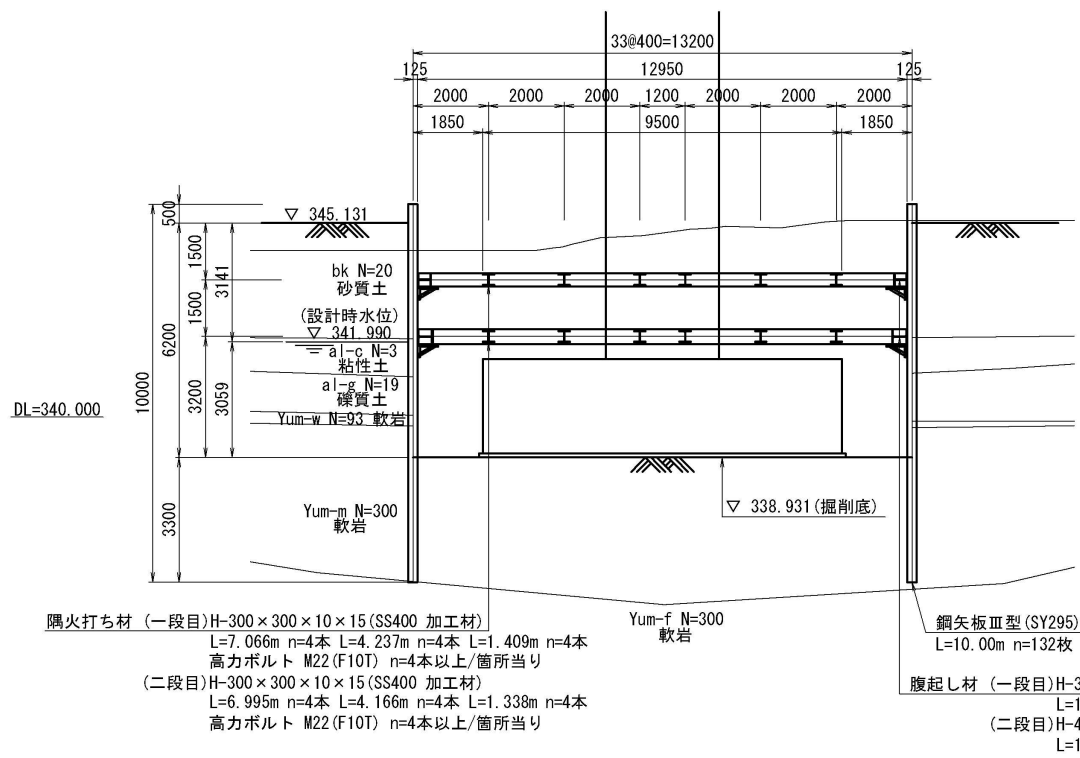
種 別	鋼 材 形 式	部材長 (mm)	本数 (本)	単位質量 (kg/m)	一本当り質量 (kg/本)	質 量 (kg)	材 質	摘 要
鋼矢板	Ⅲ型	9500	136	60.0	570.0	77520	SY295	
小計						77520 kg		
腹起し材	H-350×350×12×19	13350	2	150.0	2002.5	4005	SS400 加工材	一段目
"	"	12650	2	150.0	1897.5	3795	"	"
"	H-400×400×13×21	13350	2	200.0	2670.0	5340	"	二段目
"	"	12550	2	200.0	2510.0	5020	"	"
隅火打ち材	H-300×300×10×15	7066	4	100.0	706.6	2826	SS400 加工材	一段目
"	"	4237	4	100.0	423.7	1695	"	"
"	"	1409	4	100.0	140.9	561	"	"
"	"	6995	4	100.0	699.5	2798	"	二段目
"	"	4166	4	100.0	416.6	1666	"	"
"	"	1338	4	100.0	133.8	535	"	"
隅部ピース	H-350		4		67.0	268		
"	H-400		4		90.0	360		
火打受ピース	H-300		48		50.0	2400		
小計						31269 kg		
消耗材						1106 kg		
合計						109895 kg		

道東自動車道 占冠地区下部工工事			
図面の種類	シム川橋（上り線） P 3 橋脚土留工計画図		
縮 尺	図 示	図面番号	-
設計会社名	株式会社 日本構造橋梁研究所		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 北海道支社 帯広工事事務所		

A - A 断面図

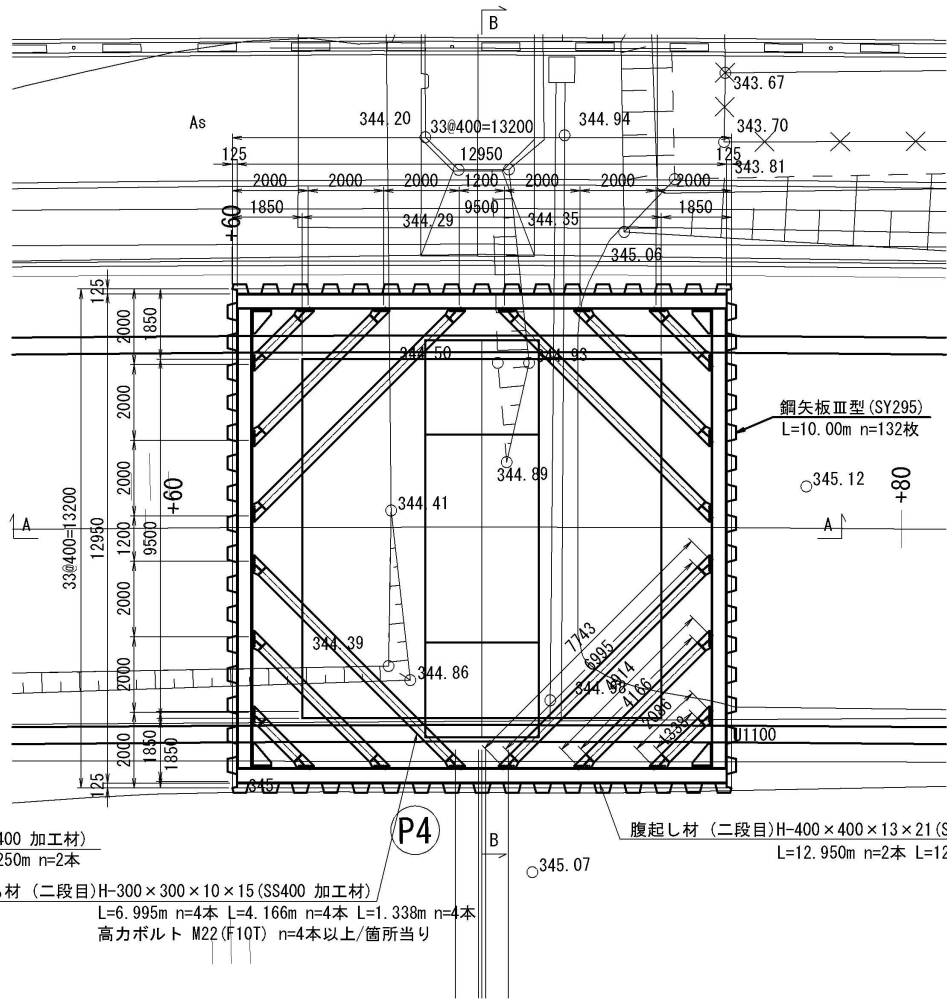
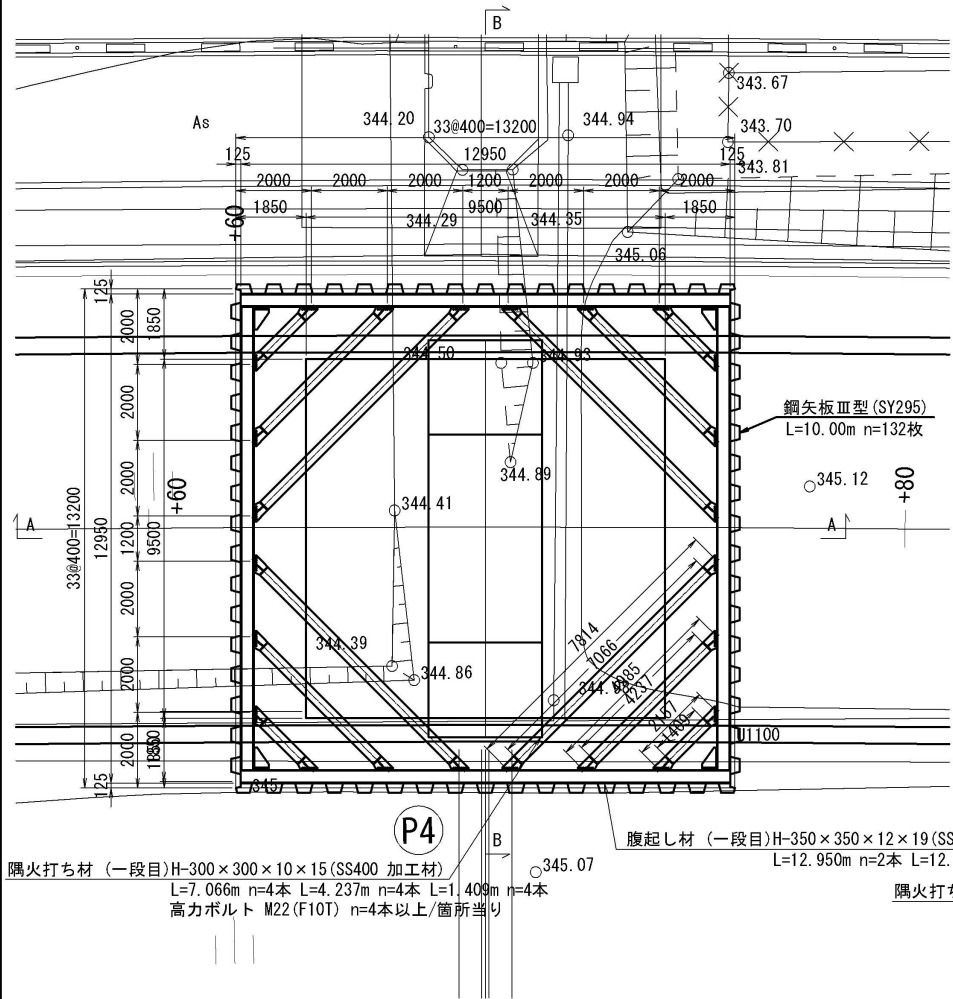
構造物掘削 特殊部 A 5

B - B 断面図



平面図(一段目)

平面図(二段目)

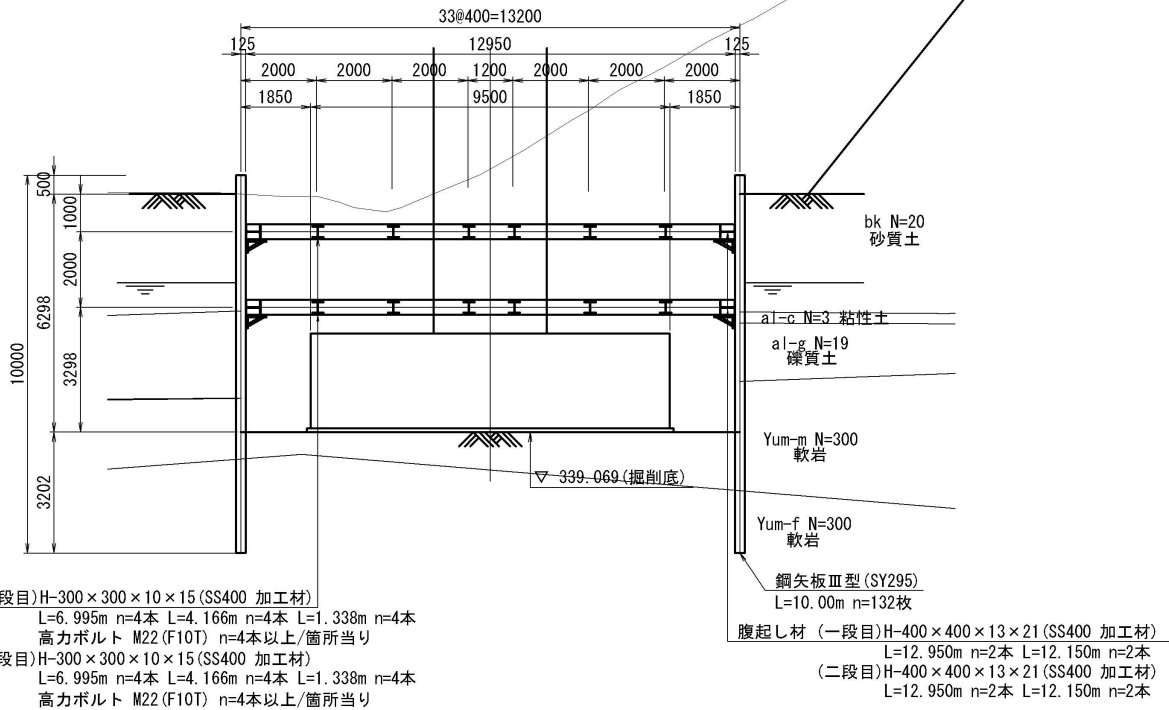


P 4 橋脚部 仮設土留工数量表

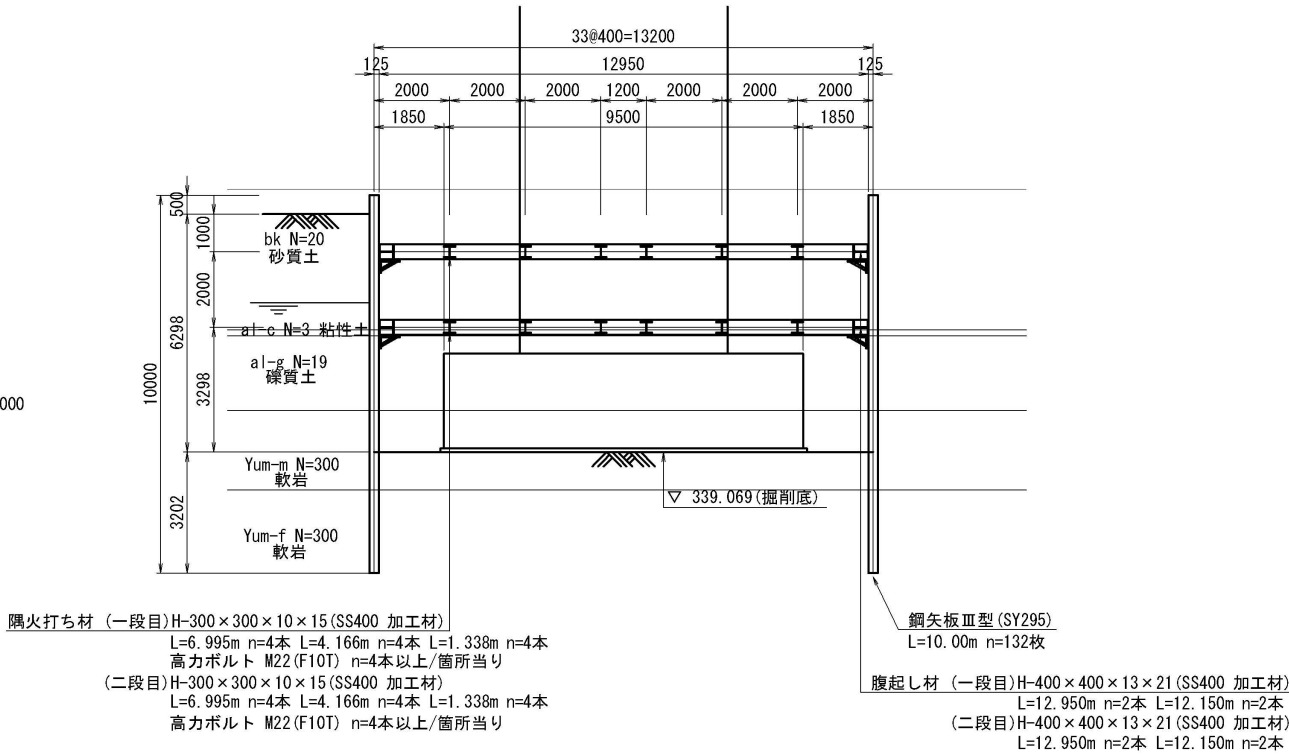
種 別	鋼 材 形 式	部材長 (mm)	本数 (本)	単位質量 (kg/m)	一本当り質量 (kg/本)	質 量 (kg)	材 質	摘 要
鋼矢板	Ⅲ型	10000	132	60.0	600.0	79200	SY295	
小計						79200 kg		
腹起し材	H-350×350×12×19	12950	2	150.0	1942.5	3885	SS400 加工材	一段目
"	"	12250	2	150.0	1837.5	3675	"	"
"	H-400×400×13×21	12950	2	200.0	2590.0	5180	"	二段目
"	"	12150	2	200.0	2430.0	4860	"	"
隅火打ち材	H-300×300×10×15	7066	4	100.0	706.6	2826	SS400 加工材	一段目
"	"	4237	4	100.0	423.7	1695	"	"
"	"	1409	4	100.0	140.9	561	"	"
"	"	6995	4	100.0	699.5	2798	"	二段目
"	"	4166	4	100.0	416.6	1666	"	"
"	"	1338	4	100.0	133.8	535	"	"
隅部ピース	H-350		4		67.0	268		
"	H-400		4		90.0	360		
火打受ピース	H-300		48		50.0	2400		
小計						30709 kg		
消耗材						1083 kg		
合計						110992 kg		

道東自動車道 占冠地区下部工工事			
図面の種類	シム川橋（上り線） P 4 橋脚土留工計画図		
縮 尺	図 示	図面番号	-
設計会社名	株式会社 日本構造橋梁研究所		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 北海道支社 帯広工事事務所		

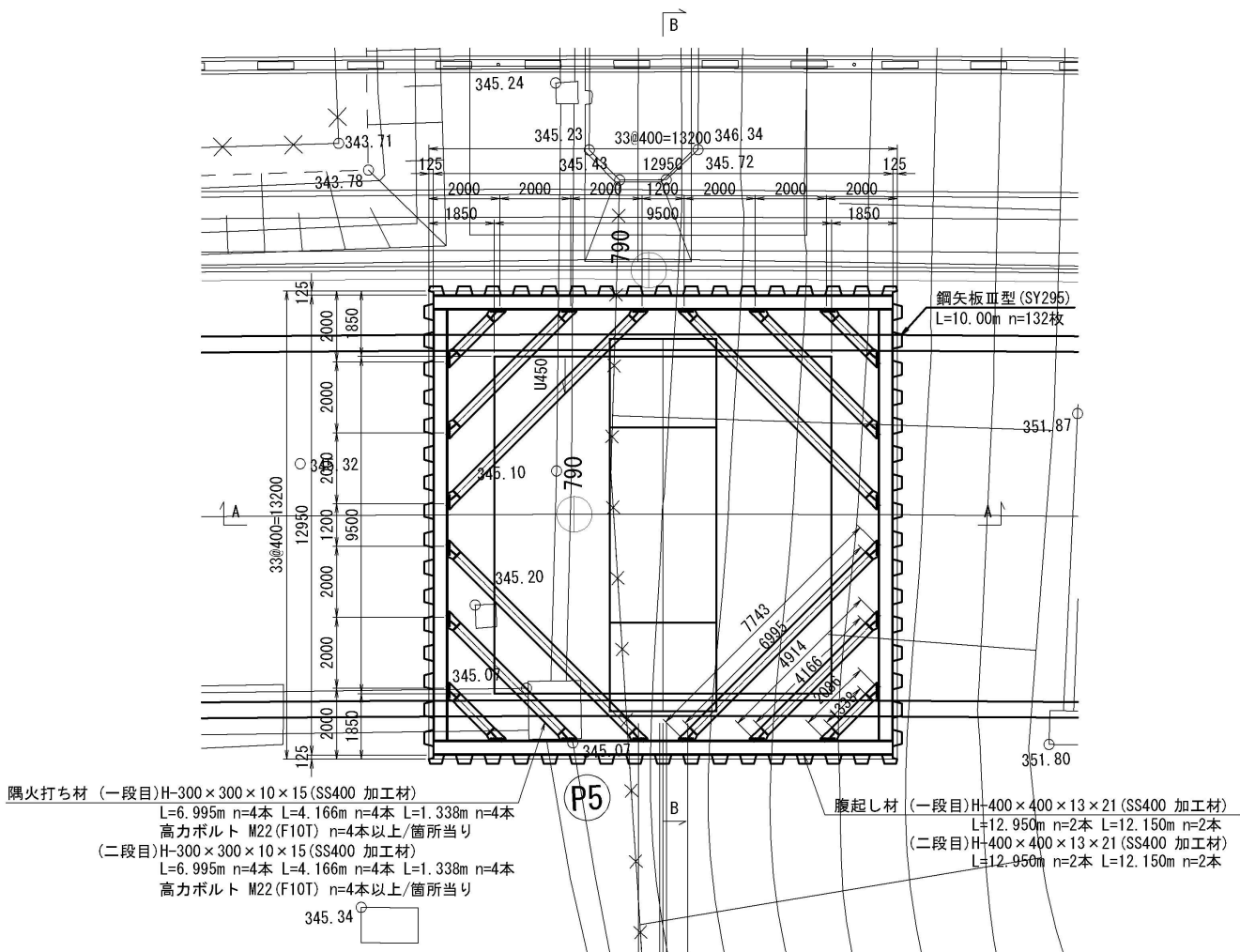
A - A 断面図



B - B 断面図



平面図 (一・二段目)

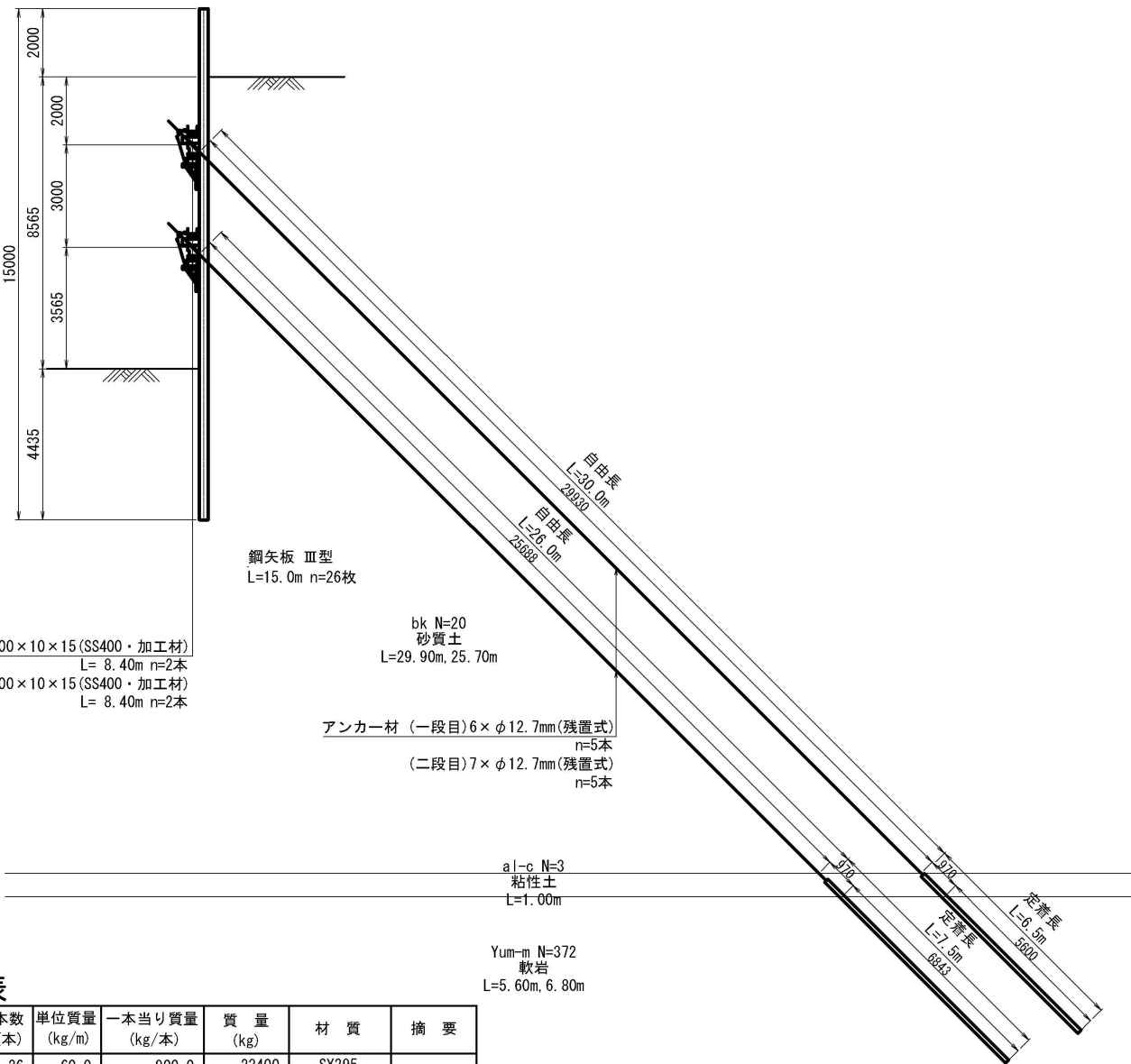
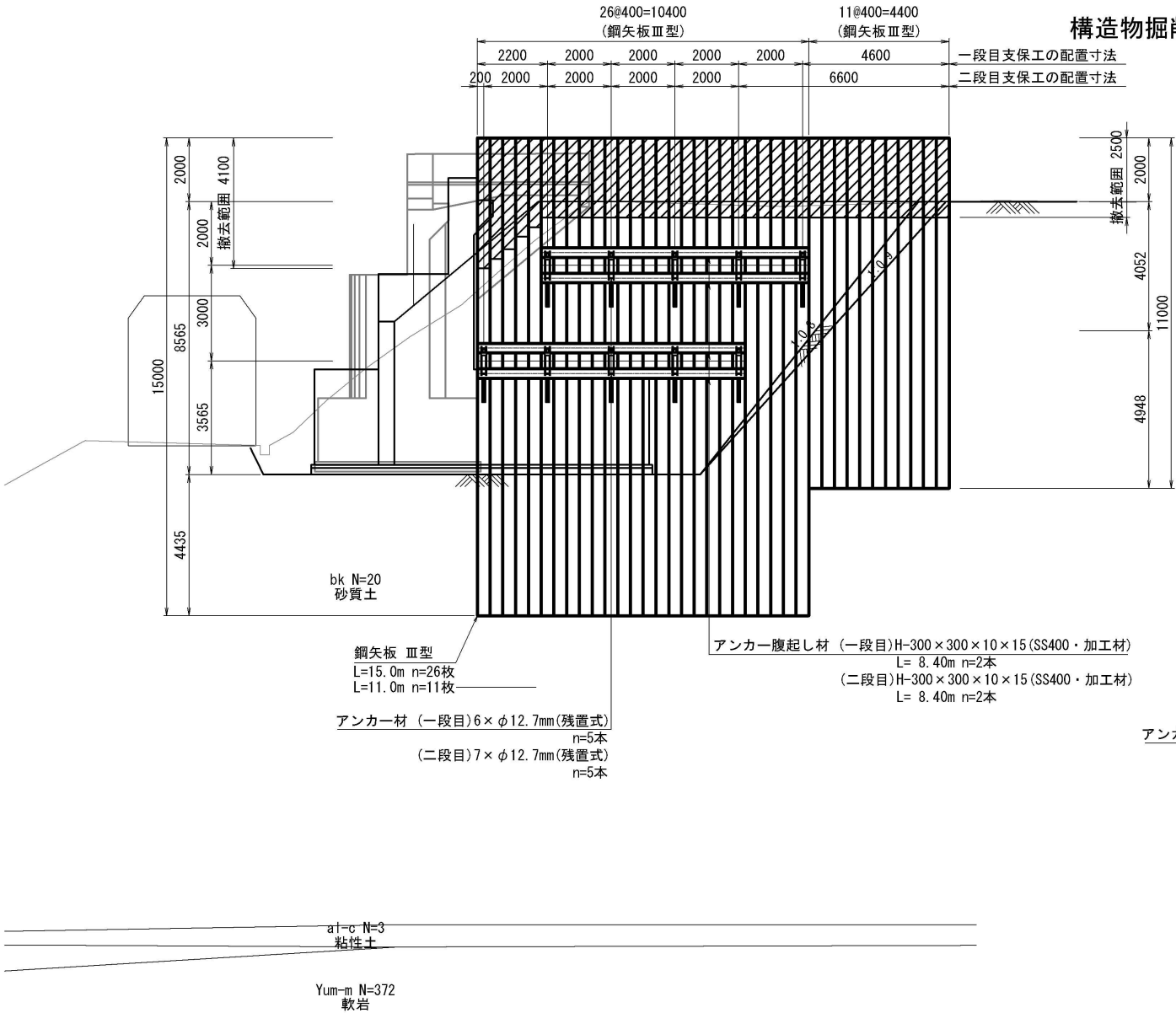


P 5 橋脚部 仮設土留工数量表

種 別	鋼 材 形 式	部材長 (mm)	本数 (本)	単位質量 (kg/m)	一本当り質量 (kg/本)	質 量 (kg)	材 質	摘 要
鋼矢板	Ⅲ型	10000	132	60.0	600.0	79200	SY295	
小計						79200 kg		
腹起し材	H-400×400×13×21	12950	4	200.0	2590.0	10360	SS400 加工材	一・二段目
〃	〃	12150	4	200.0	2430.0	9720	〃	〃
隅火打ち材	H-300×300×10×15	6995	8	100.0	699.5	5596	SS400 加工材	一・二段目
〃	〃	4166	8	100.0	416.6	3333	〃	〃
〃	〃	1338	8	100.0	133.8	1070	〃	〃
隅部ピース	H-400		8		90.0	720		
火打受ピース	H-300		24		50.0	1200		
小計						31999 kg		
消耗材						991 kg		
合計						112190 kg		

道東自動車道 占冠地区下部工工事			
図面の種類	シム川橋（上り線） P 5 橋脚土留工計画図		
縮 尺	図 示	図面番号	-
設計会社名	株式会社 日本構造橋梁研究所		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 北海道支社 帯広工事事務所		

構造物掘削 特殊部 A 7



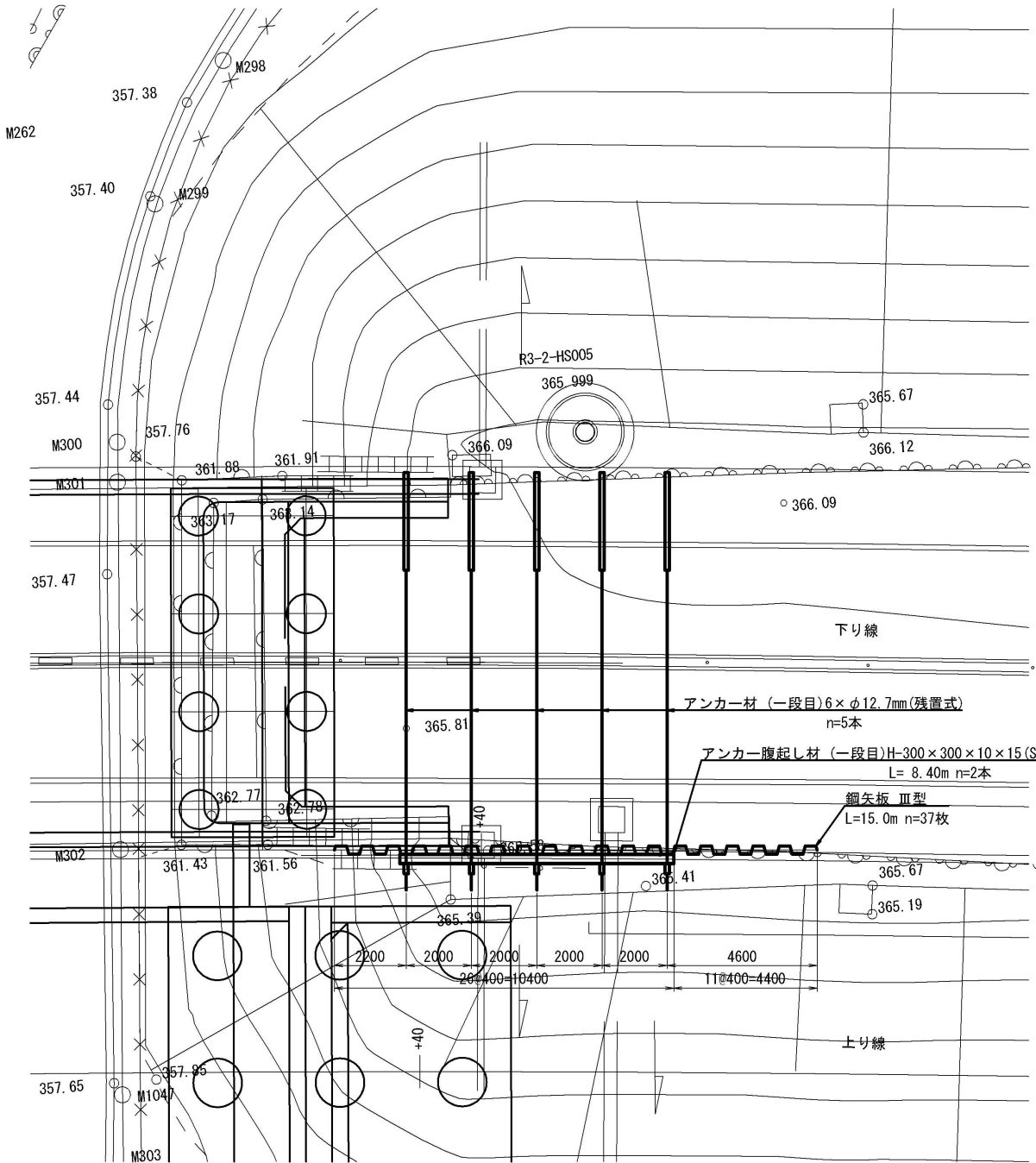
A 2 橋台部 仮設土留工数量表

工 種	項 目			単位	合計	摘要
鋼矢板Ⅲ型	最大地盤 N値	20	7.00m	枚	26	
			8.00m	〃	26	
			11.00m	〃	11	
	打込長		13.00m	枚	21	
			12.80m	〃	1	
			12.40m	〃	1	
			12.10m	〃	1	
			11.70m	〃	1	
			11.40m	〃	1	
			9.00m	〃	11	
	撤去長		2.50m	枚	32	
			2.80m	〃	1	
			3.10m	〃	1	
			3.50m	〃	1	
			3.80m	〃	1	
			4.10m	〃	1	

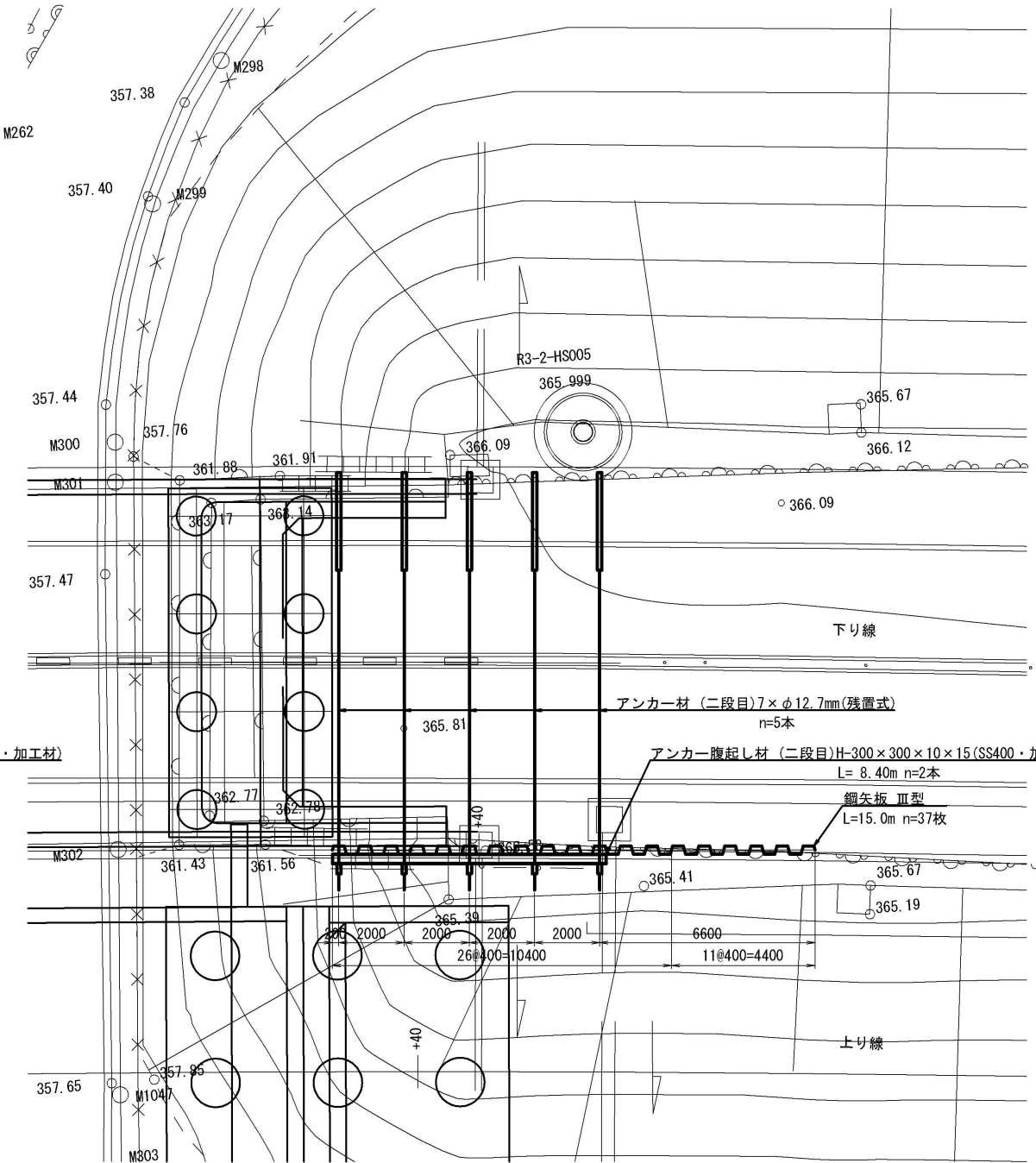
種 別	鋼 材 形 式	部材長 (mm)	本数 (本)	単位質量 (kg/m)	一本当り質量 (kg/本)	質 量 (kg)	材 質	摘 要
鋼矢板	Ⅲ型	15000	26	60.0	900.0	23400	SY295	
〃	〃	11000	11	60.0	660.0	7260	〃	
小計						30660 kg		
アンカー腹起し材	H-300×300×10×15	8400	2	100.0	840.0	1680	SS400 加工材	一段目
〃	〃	8400	2	100.0	840.0	1680	〃	二段目
小計						3360 kg		
ブラケット材	L-130×130×15	2050	10	28.8	59.0	590	SS400	
小計						590 kg		
内側菱形補強板	PL-180×19×690		26		18.5	481		
小計						481 kg		
鋼製台座	PL-900×350×16		20		23.9	478		
小計						478 kg		
アンカー材	5×φ12.7(残置式)	30.00m+6.50m=36.50m				5	622.25kN	一段目
		注入長		36.50m				
		削孔長 (φ135)	砂質土	29.90m				
			粘性土	1.00m				
			軟岩	5.80m				
〃	7×φ12.7(残置式)	26.00m+7.50m=33.50m				5	729.51kN	二段目
		注入長		33.50m				
		削孔長 (φ135)	砂質土	25.70m				
			粘性土	1.00m				
			軟岩	7.00m				
小計						10 本		

道東自動車道 占冠地区下部工工事			
図面の種類	シム川橋（上り線） A 2 橋台土留工計画図（その 1）		
縮 尺	図 示	図面番号	-
設計会社名	株式会社 日本構造橋梁研究所		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 北海道支社 帯広工事事務所		

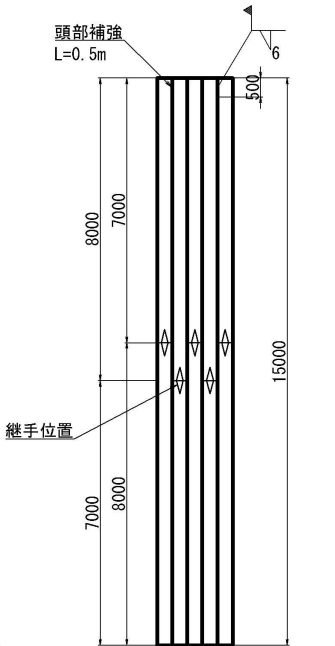
平面図（一段目）



平面図（二段目）

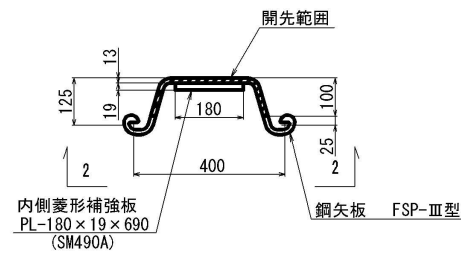


継手配置図 S=1:200

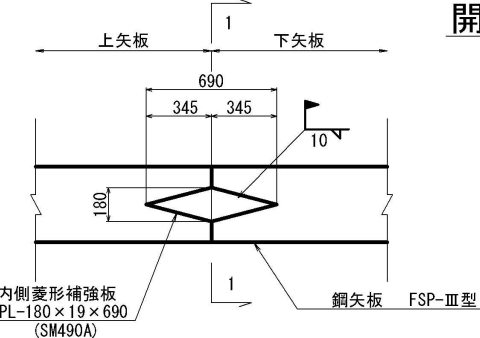


鋼矢板取付け詳細図

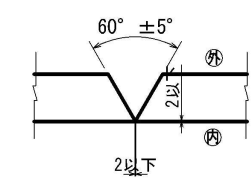
1-1断面図



2-2断面図



開先形状図

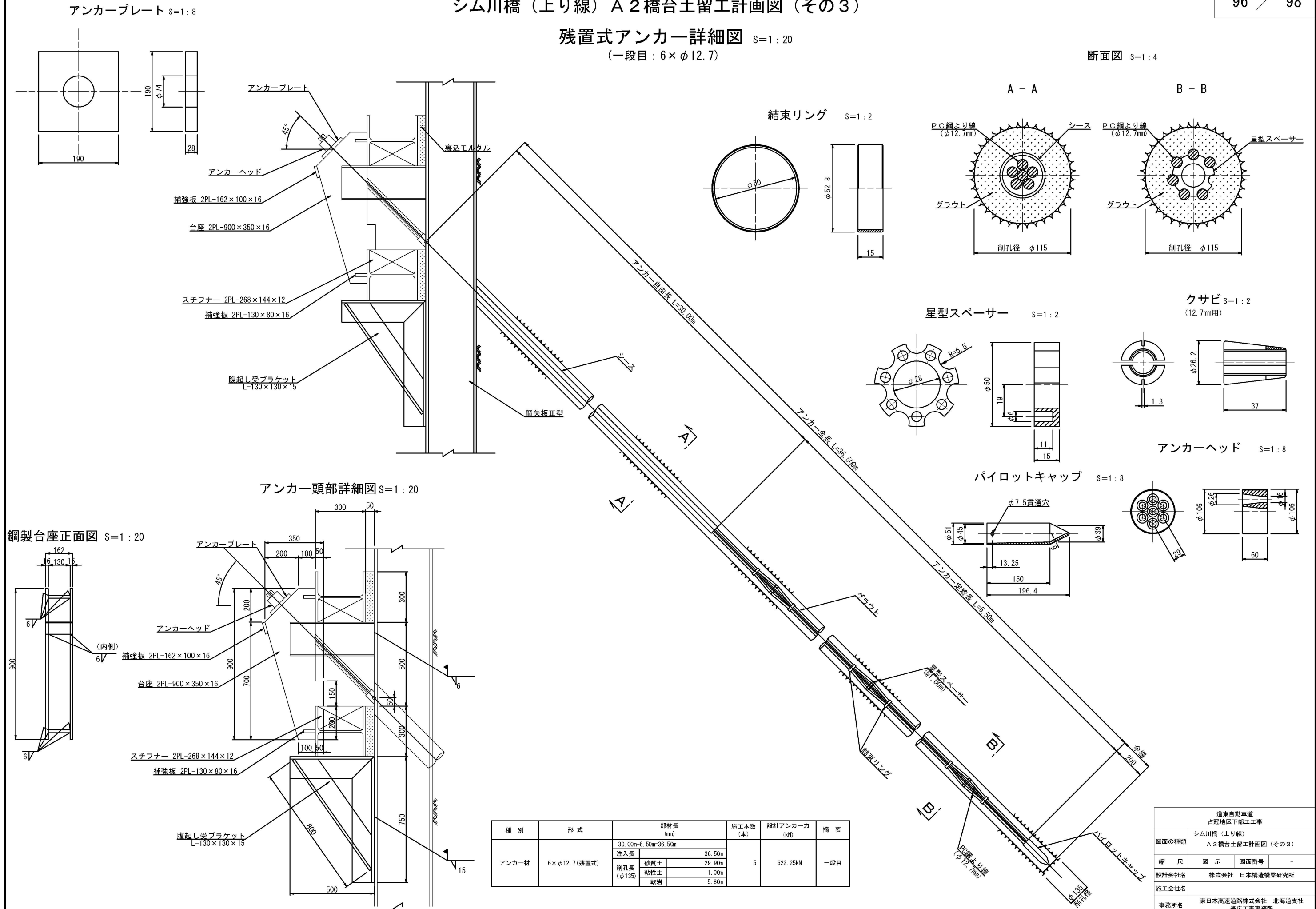


道東自動車道 占冠地区下部工工事			
図面の種類	シム川橋（上り線） A 2橋台土留工計画図（その2）		
縮 尺	図 示	図面番号	-
設計会社名	株式会社 日本構造橋梁研究所		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 北海道支社 帯広工事事務所		

シム川橋（上り線）A2橋台土留工計画図（その3）

残置式アンカー詳細図 S=1:20
(一段目: 6×φ12.7)

断面図 S=1:4



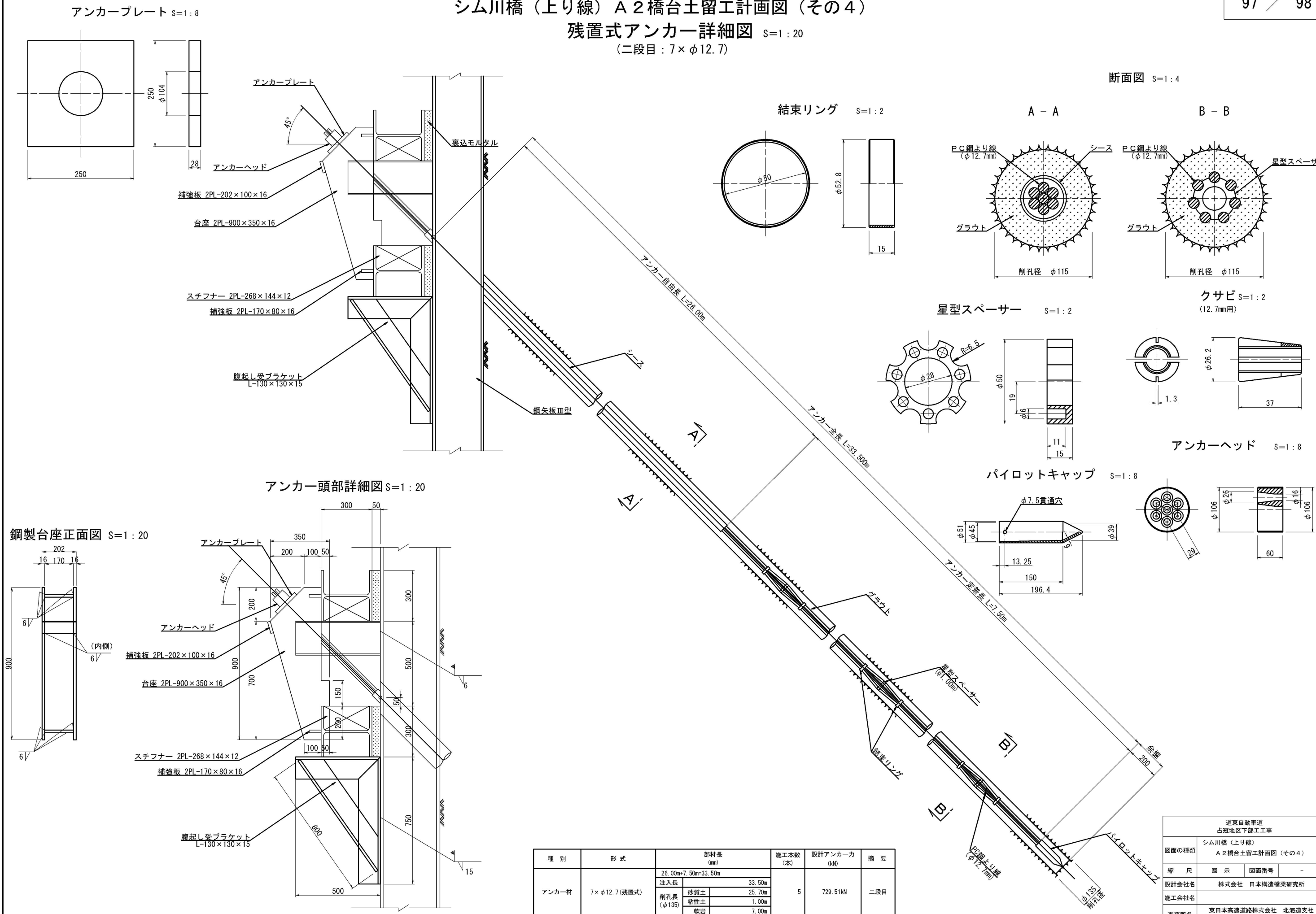
種 別	形 式	部材長 (mm)		施工本数 (本)	設計アンカー力 (kN)	摘 要
アンカー材	6 × φ12.7 (残置式)	30.00m+6.50m=36.50m		5	622.25kN	一段目
		注入長	36.50m			
		砂質土	29.90m			
		粘性土	1.00m			
		軟岩	5.80m			
		削孔長 (φ135)				

道東自動車道 占冠地区下部工工事			
図面の種類	シム川橋（上り線） A 2 橋台土留工計画図（その3）		
縮 尺	図 示	図面番号	-
設計会社名	株式会社 日本橋構造梁研究所		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 北海道支社 帯広工事事務所		

シム川橋（上り線）A2橋台土留工計画図（その4）

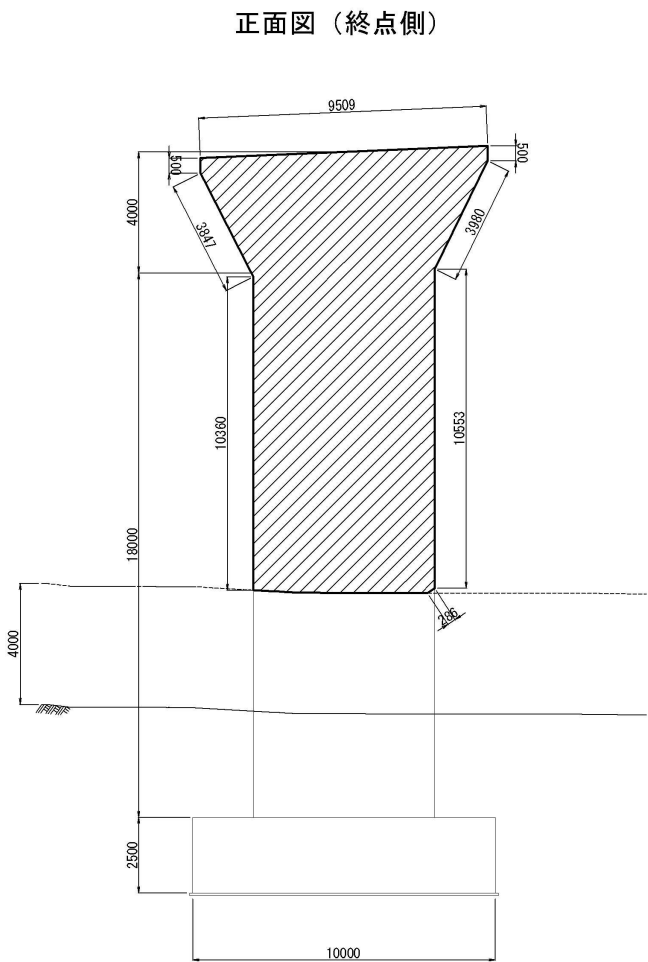
残置式アンカー詳細図 S=1 : 20

(二段目: $7 \times \phi 12.7$)



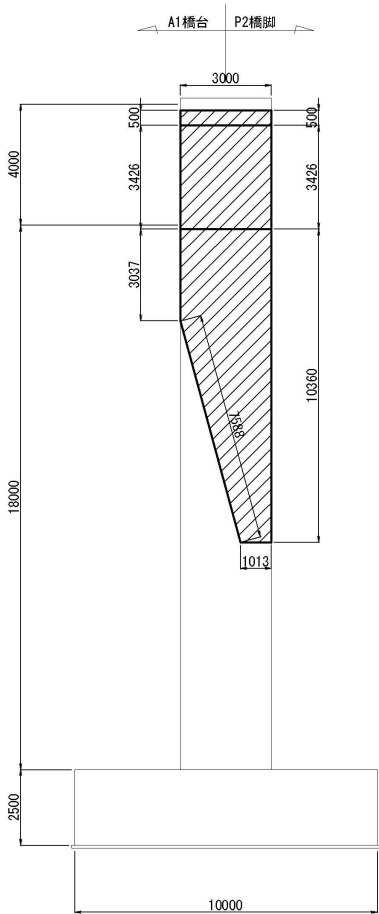
種 別	形 式	部材長 (mm)	施工本数 (本)	設計アンカー力 (kN)	摘 要
アンカー材	7×φ12.7(残置式)	26.00m+7.50m=33.50m	5	729.51kN	二段目
		注入長			
		砂質土			
		粘土層			
		軟岩			

P1



数 量 表

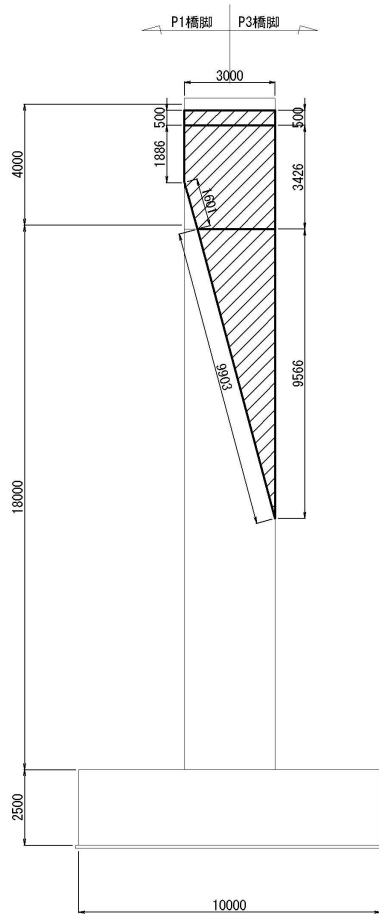
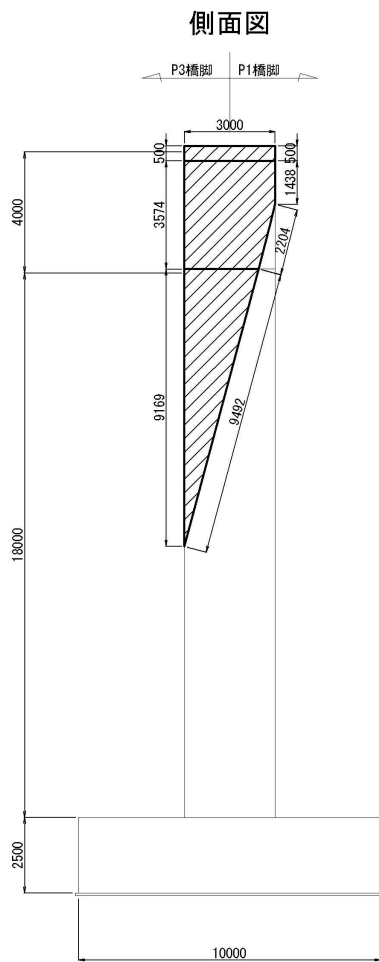
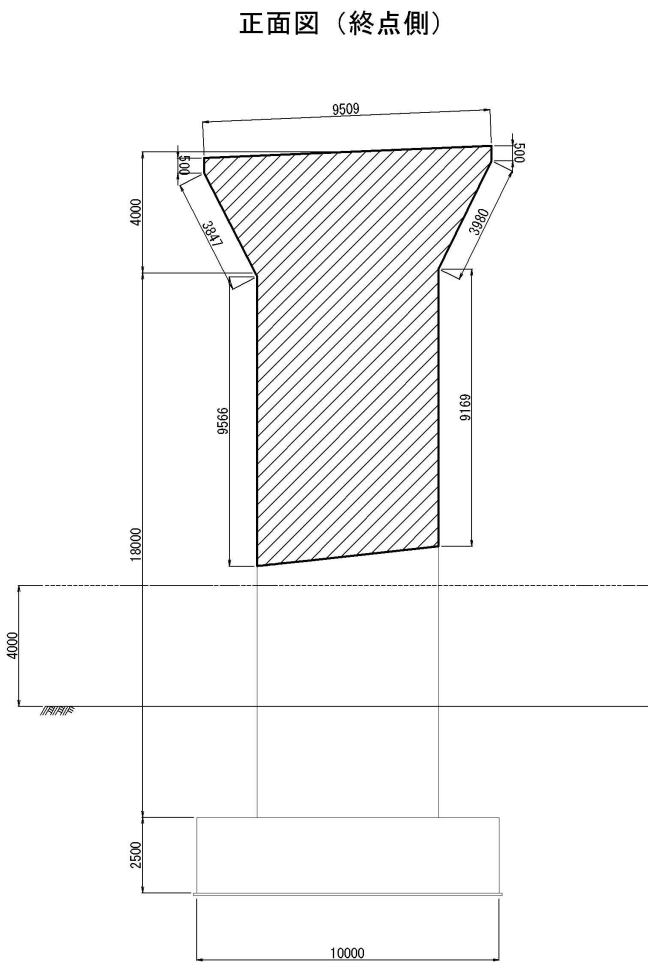
種 別	単位	柱部	梁部
はく落防止対策工 A	m2	102.3	55.8



数 量 表

種 別	単位	柱部	梁部
はく落防止対策工 A	m2	79.7	55.0

P2



道東自動車道 占冠地区下部工工事			
図面の種類	シム川橋（上り線） はく落防止対策工詳細図		
縮 尺	図 示	図面番号	-
設計会社名	株式会社 日本橋造橋梁研究所		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 北海道支社 帯広工事事務所		